

システム管理リファレンス

# **Novell® ZENworks® 10 Configuration Management SP2**

**10.2**

2009 年 5 月 27 日

[www.novell.com](http://www.novell.com)



## 保証と著作権

米国 Novell, Inc., およびノベル株式会社は、この文書の内容または使用について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また文書の商品性、および特定の目的への適合性については、明示と黙示を問わず一切保証しないものとします。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容を改訂または変更する権利を常に留保します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、このような改訂または変更を個人または事業体に通知する義務を負いません。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。またノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性については、明示と黙示を問わず一切保証しないものとします。米国 Novell, Inc., およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本契約の締結に基づいて提供されるすべての製品または技術情報には、米国の輸出管理規定およびその他の国の貿易関連法規が適用されます。お客様は、すべての輸出規制を遵守して、製品の輸出、再輸出、または輸入に必要なすべての許可または等級を取得するものとします。お客様は、現在の米国の輸出除外リストに掲載されている企業、および米国の輸出管理規定で指定された輸出禁止国またはテロリスト国に本製品を輸出または再輸出しないものとします。お客様は、取引対象製品を、禁止されている核兵器、ミサイル、または生物化学兵器を最終目的として使用しないものとします。ノベル製ソフトウェアの輸出については、[Novell International Trade Services \(http://www.novell.com/info/exports/\)](http://www.novell.com/info/exports/) の Web ページをご参照ください。弊社は、お客様が必要な輸出承認を取得しなかったことに対し如何なる責任も負わないものとします。

Copyright © 2007-2009 Novell, Inc. All rights reserved. 本書の一部または全体を、書面による同意なく、複製、写真複写、検索システムへの登録、送信することは、その形態を問わず禁止します。

米国 Novell, Inc., およびノベル株式会社は、本文書に記載されている製品に実装されている技術に関する知的所有権を保有します。これらの知的所有権は、[Novell Legal Patents \(http://www.novell.com/company/legal/patents/\)](http://www.novell.com/company/legal/patents/) の Web ページに記載されている 1 つ以上の米国特許、および米国ならびにその他の国における 1 つ以上の特許または出願中の特許を含む場合があります。

Novell, Inc.  
404 Wyman Street, Suite 500  
Waltham, MA 02451  
U.S.A.  
[www.novell.com](http://www.novell.com)

オンラインマニュアル: 本製品とその他の Novell 製品の最新のオンラインマニュアルにアクセスするには、[Novell のマニュアルの Web ページ \(http://www.novell.com/documentation\)](http://www.novell.com/documentation) を参照してください。

## **Novell の商標**

Novell の商標一覧については、「[商標とサービスの一覧 \(http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html\)](http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html)」を参照してください。

## **サードパーティ資料**

サードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。



# 目次

このガイドについて	13
パート I ZENworks コントロールセンター	15
1 ZENworks コントロールセンター	17
1.1 ZENworks コントロールセンターへのアクセス	17
1.2 Novell iManager を使用した ZENworks コントロールセンターへのアクセス	18
1.3 ZENworks コントロールセンターの操作	19
1.4 デフォルトのログインを無効にする値の変更	20
1.5 ZENworks コントロールセンターのタイムアウト値の変更	20
1.6 Config.xml ファイルを使用した ZENworks コントロールセンターの設定変更	21
1.7 ZENworks コントロールセンターの場所のブックマーク	22
2 管理者	25
2.1 管理者アカウントの管理	25
2.1.1 管理者の作成	26
2.1.2 管理者の削除	27
2.1.3 管理者の名前変更	27
2.1.4 管理者のパスワードの変更	27
2.2 管理者権限の管理	28
2.2.1 スーパー管理者の権限の割り当て	28
2.2.2 追加の権限の割り当て	28
2.2.3 割り当てられた権限の変更	29
2.2.4 割り当てられた権限の削除	29
2.3 権限の説明	29
2.3.1 管理者権限	30
2.3.2 バンドル権限	31
2.3.3 契約管理権限	31
2.3.4 アカウント情報権限	32
2.3.5 展開権限	32
2.3.6 デバイス権限	33
2.3.7 検出権限	33
2.3.8 ドキュメント権限	34
2.3.9 LDAP インポート権利	34
2.3.10 インベントリデバイス権限	34
2.3.11 ライセンス管理権限	35
2.3.12 パッチ管理権限	35
2.3.13 ポリシー権限	36
2.3.14 クイックタスク権限	37
2.3.15 リモート管理権限	38
2.3.16 レポーティング権	38
2.3.17 ユーザ権限	38
2.3.18 ZENworks ユーザグループ権限	39
2.3.19 ゾーンの権限	40
2.4 管理者の役割の管理	41
2.4.1 管理者の役割について	41
2.4.2 役割の作成	43
2.4.3 役割の割り当て	45

2.4.4	役割の編集	50
2.4.5	役割の名前変更	52
2.4.6	役割の削除	52
<b>3</b>	<b>ZENworks ニュース</b>	<b>53</b>
3.1	ZENworks ニュースアラートの管理	53
3.1.1	ニュースアラートの削除	53
3.1.2	ニュースアラートの更新	54
3.1.3	選択したカテゴリに基づくニュースアラートの表示	54
3.1.4	ニュースの表示	54
3.1.5	ニュースアラートのソート	54
3.2	ZENworks ニュースの設定	54
3.2.1	ニュース専用サーバ	55
3.2.2	スケジュールタイプ	56
<b>4</b>	<b>システム変数</b>	<b>59</b>
4.1	システム変数について	59
4.2	システム変数の追加	60
4.3	システム変数の削除	61
4.4	システム変数の編集	61
4.5	システム変数の使用	61
<b>5</b>	<b>資格情報ポータル</b>	<b>63</b>
5.1	アカウント情報の追加	63
5.2	アカウント情報用のフォルダの作成	64
5.3	アカウント情報権限の割り当て	65
5.4	アカウント情報の編集	66
5.5	アカウント情報の名前変更	66
5.6	別のフォルダへのアカウント情報の移動	66
5.7	アカウント情報の削除	66
<b>パート II</b>	<b>ZENworks サーバと ZENworks Adaptive Agent</b>	<b>67</b>
<b>6</b>	<b>ZENworks サーバ</b>	<b>69</b>
6.1	Windows サーバ上の ZENworks サービス	69
6.1.1	ZENworks サービスのステータスの確認	70
6.1.2	ZENworks サービスの開始	70
6.1.3	ZENworks サービスの停止	71
6.2	Linux サーバ上の ZENworks サービス	71
6.2.1	ZENworks サービスのステータスの確認	72
6.2.2	ZENworks サービスの開始	72
6.2.3	ZENworks サービスの停止	73
6.2.4	ZENworks サービスの再起動	73
6.3	ZENworks サーバへの追加のアクセスの設定	73
6.3.1	検出不可能な IP アドレスの条件のアドレス指定	73
6.3.2	検出不可能な DNS 名の条件のアドレス指定	74
6.4	サーバにインストールされている ZENworks ソフトウェアバージョンの確認	74
6.5	ZENworks サーバのアンインストール	75
6.6	ZENworks プライマリサーバの削除	75
6.7	ZENworks サーバレポート	75

<b>7</b>	<b>サテライト</b>	<b>77</b>
7.1	サテライトの役割について	77
7.1.1	イメージング役割の理解	78
7.1.2	コレクション役割の理解	78
7.1.3	コンテンツ役割の理解	79
7.2	サーバ階層へのサテライトの追加	79
7.3	サーバ階層からのサテライトの削除	82
7.4	サーバ階層からのサテライトの設定	83
7.5	デバイスビューからのサテライトの設定	86
7.6	ホストするコンテンツの指定	89
7.7	1つのプライマリサーバから別なプライマリサーバへのサテライトの移動	90
7.8	コンテンツ役割のサテライトへの別なリポジトリの指定 (Windows のみ)	90
7.9	ZENworks サーバの削除	92
7.10	サテライトの更新	92
7.11	サテライトのトラブルシューティング	92
<b>8</b>	<b>サーバの階層</b>	<b>95</b>
8.1	プライマリサーバ: ピア対親 / 子関係	95
8.2	サテライト役割の関係	95
8.2.1	コンテンツ役割サーバの関係	96
8.2.2	コレクション役割サーバの関係	96
8.2.3	イメージングの役割サーバの関係	96
8.3	プライマリサーバの親子関係の変更	96
8.3.1	プライマリサーバを子にする	96
8.3.2	プライマリサーバをピアにする	97
<b>9</b>	<b>ZENworks Adaptive Agent</b>	<b>99</b>
9.1	デバイス上の Adaptive Agent ソフトウェアとモジュールのバージョン表示	99
9.2	特定のバージョンの Adaptive Agent がインストールされたデバイスの検索	100
9.3	展開後の Adaptive Agent の設定	100
9.3.1	管理ゾーンレベルでのエージェントの設定	101
9.3.2	デバイスフォルダレベルでのエージェントの設定	102
9.3.3	デバイスレベルでのエージェントの設定	102
9.3.4	ZENworks エージェントの設定	103
9.4	ZENworks Explorer の設定	107
9.4.1	管理ゾーンレベルでの ZENworks Explorer の設定	107
9.4.2	デバイスフォルダレベルでの ZENworks Explorer の設定	108
9.4.3	デバイスレベルでの ZENworks Explorer の設定	109
9.4.4	ZENworks Explorer の一般設定	110
9.5	Adaptive Agent のトラブルシューティング	110
<b>10</b>	<b>ZENworks サーバおよび認証局のバックアップと復元</b>	<b>113</b>
10.1	ZENworks サーバのバックアップ	113
10.2	ZENworks サーバの復元	114
10.3	認証局のバックアップ	115
10.4	認証局の復元	116
<b>11</b>	<b>障害復旧</b>	<b>117</b>
11.1	最初のプライマリサーバから 2 番目のプライマリサーバへの入れ替え	117
11.2	既存のプライマリサーバから新しいプライマリサーバへの入れ替え	121

11.3	プライマリサーバでの内部証明書から外部証明書への変更	122
11.4	プライマリサーバの DNS 名変更後に実行するタスク	123
<b>パート III ZENworks のシステム更新</b>		<b>127</b>
<b>12 ZENworks システム更新の概要</b>		<b>129</b>
<b>13 更新の設定</b>		<b>131</b>
13.1	システム更新の設定	131
13.1.1	更新スケジュールのチェック	131
13.1.2	ダウンロードスケジュール	133
13.1.3	電子メール通知	135
13.1.4	プロキシサーバの設定	137
13.1.5	専用サーバの設定	137
13.1.6	ステージタイムアウトの設定	139
13.1.7	再起動の動作	139
13.2	展開ステージの作成	140
13.2.1	ステージについて	141
13.2.2	展開ステージの作成	143
13.2.3	ステージのタイムアウトの変更	144
13.2.4	ステージング動作の変更	145
13.2.5	再起動の動作の変更	146
13.2.6	展開ステージのメンバーシップの変更	146
13.2.7	展開ステージの名前変更	147
13.2.8	展開ステージの削除	147
13.2.9	ステージが開始する順序の変更	148
<b>14 更新のダウンロードの管理</b>		<b>149</b>
14.1	入手可能な更新について	149
14.2	割り当てられた権限	150
14.2.1	更新のダウンロードのスケジューリング	150
14.2.2	手動による更新の確認	151
14.2.3	手動による更新のダウンロード	151
14.2.4	インターネット接続を持たないサーバへの手動による更新のインポート	152
14.3	PRU のダウンロードとインストール	152
<b>15 更新の展開</b>		<b>155</b>
15.1	更新の展開について	155
15.2	更新の展開	158
15.3	保留中のステージの開始	164
15.4	展開の再スケジュール	165
15.4.1	すべてのステージのステータスに対する展開の再スケジュール	165
15.4.2	その他のステータスに対する展開の再スケジュール	165
15.5	ステージングのバイパス	166
15.6	展開のキャンセル	166
15.7	展開の再試行のエラーのクリア	166
15.8	デバイスごとのステータスの表示	166
15.8.1	デバイスのステータスの理解	167
15.8.2	デバイスのプロパティの表示	168
15.8.3	デバイスのステータスに関する情報の表示	168
15.8.4	無視されたデバイスの切り替え	168
15.8.5	デバイスへの更新の再展開	169



15.8.6	デバイスへの更新の再スケジュール	169
15.8.7	デバイスの更新	170
<b>16</b>	<b>更新の削除</b>	<b>171</b>
<b>17</b>	<b>更新のコンテンツの確認</b>	<b>173</b>
17.1	リリース詳細ページの表示	173
17.2	リリース詳細の更新	173
17.3	展開履歴	174
17.3.1	展開履歴の詳細について	175
17.3.2	展開履歴タスクの実行	175
<b>18</b>	<b>ステータスの更新</b>	<b>177</b>
<b>パート IV</b>	<b>内容</b>	<b>179</b>
<b>19</b>	<b>コンテンツリポジトリ</b>	<b>181</b>
19.1	Windows サーバ上の [コンテンツリポジトリ] の場所の変更	181
19.2	Linux サーバでの、コンテンツリポジトリの場所の変更	183
19.2.1	共用のマウント	183
19.2.2	共用のマウント解除	183
19.2.3	永続的なマウントの作成	184
19.2.4	新規リポジトリへの既存のコンテンツの移動	184
<b>20</b>	<b>コンテンツ複製</b>	<b>185</b>
20.1	コンテンツを新しいコンテンツサーバに複製	185
20.2	コンテンツのインクルードまたは除外	186
20.2.1	複数のコンテンツサーバ上での 1 コンテンツの管理	186
20.2.2	1 つのコンテンツサーバ上での複数コンテンツの管理	187
20.2.3	複数のコンテンツサーバ上での複数コンテンツの管理	187
20.3	複製スケジュールの変更	188
20.4	コンテンツ複製のスロットリング率	189
<b>21</b>	<b>コンテンツ配信</b>	<b>191</b>
21.1	最近接サーバルールの設定	191
21.1.1	最近接サーバルールの理解	191
21.1.2	最近接サーバのデフォルトルールの設定	193
21.1.3	最近接サーバルールの作成	198
21.2	配信停止スケジュール	204
21.3	デバイスの更新スケジュールの設定	206
<b>パート V</b>	<b>ユーザ</b>	<b>209</b>
<b>22</b>	<b>ユーザソース</b>	<b>211</b>
22.1	前提条件	211
22.2	ユーザソースの追加	212
22.3	ユーザソースの削除	215
22.4	ユーザソースからのコンテナの追加	215

22.5	LDAP 負荷分散および耐障害性の提供	215
<b>23</b>	<b>ユーザの認証</b>	<b>219</b>
23.1	ユーザソースの認証	219
23.2	アカウント情報のストレージ	219
23.3	ZENworks ユーザ認証の無効化	220
23.4	ユーザ認証のトラブルシューティング	220
<b>パート VI</b>	<b>ZENworks 製品のライセンス登録</b>	<b>225</b>
<b>24</b>	<b>ZENworks 製品のライセンス登録</b>	<b>227</b>
24.1	製品の評価	227
24.2	製品の有効期限の延長	228
24.3	製品のアクティブ化	228
24.4	製品の非アクティブ化	228
24.5	変更可能なライセンス状態	229
24.6	事前定義されたレポートの表示	230
<b>パート VII</b>	<b>データベース管理</b>	<b>231</b>
<b>25</b>	<b>組み込みデータベースの保守</b>	<b>233</b>
25.1	組み込み Sybase SQL Anywhere データベースの資格情報の取得と保存	233
25.2	組み込み Sybase SQL Anywhere データベースによって使用されるポートの変更	234
25.3	組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースのバックアップ	235
25.3.1	Windows サーバまたは Linux サーバ上にある、組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースをバックアップする	235
25.3.2	Windows サーバ上で実行されている組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースを、Windows マシン上のネットワークロケーションリモートにバックアップする	237
25.3.3	Linux サーバ上で実行されている組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースを、リモート Linux マシン上のネットワークロケーションにバックアップする	239
25.4	組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースの復元	241
25.4.1	Windows サーバでの組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースの復元	241
25.4.2	Linux サーバ上の組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースの復元	242
25.5	組み込み Sybase データベースから外部 Sybase データベースへのデータの移動	242
25.5.1	データの移動の準備	242
25.5.2	内部の Sybase から外部の Sybase へのデータの移動	243
25.6	外部 O E M Sybase データベースから組み込み Sybase データベースへのデータの移動	244
25.6.1	データの移動の準備	244
25.6.2	外部 Sybase から組み込み Sybase へのデータの移動	245
25.7	組み込み Sybase SQL Anywhere から外部 Oracle データベースへのデータのマイグレート	246
25.7.1	データの移動の準備	247
25.7.2	Sybase SQL Anywhere データベースから Oracle データベースへのデータのマイグレート	249
25.7.3	マイグレーション後のタスク	250
25.7.4	データベースのマイグレーションのトラブルシューティング	251
25.7.5	Sybase データベースへ戻す	254

<b>26 外部データベースの保守</b>	<b>255</b>
26.1 ある外部 Sybase データベースから別の外部 Sybase データベースへデータを移動する	255
26.1.1 データの移動の準備	255
26.1.2 ある外部の Sybase から別の外部の Sybase へのデータの移動	255
26.2 別の MS SQL データベースから移動されたデータが含まれている新しい MS SQL データベースを指すように、ZENworks サーバを設定する	257
26.2.1 データの移動の準備	257
26.2.2 新しい MS SQL データベースを指すように ZENworks サーバを設定する	257
26.3 別の Oracle データベースから移動されたデータが含まれている新しい Oracle データベースを指すように、ZENworks サーバを設定する	258
26.3.1 データの移動の準備	258
26.3.2 新しい Oracle データベースを指すように ZENworks サーバを設定する	259
 <b>パート VIII ゾーン管理</b>	 <b>261</b>
<b>27 管理ゾーンの環境設定の変更</b>	<b>263</b>
27.1 環境設定のアクセス	263
27.1.1 ゾーンでの環境設定の変更	263
27.1.2 フォルダの環境設定の変更	264
27.1.3 デバイスでの環境設定の変更	265
27.2 コンテンツ設定	266
27.3 デバイス管理の設定	267
27.4 検出と展開の設定	268
27.5 イベントとメッセージング設定	268
27.6 インフラ管理設定	269
27.7 インベントリ設定	269
27.8 レポートサービスの設定	270
27.9 Asset Management 設定	271
27.10 パッチ管理サービス設定	271
 <b>パート IX メッセージログ</b>	 <b>273</b>
<b>28 概要</b>	<b>275</b>
28.1 Message Logger の機能	275
28.2 メッセージ重大度	275
28.3 メッセージ形式	276
 <b>29 Message Logger の設定</b>	 <b>277</b>
29.1 ゾーンレベルでの Message Logger の設定	277
29.1.1 ローカルデバイスのログ	277
29.1.2 集中型のメッセージログ	278
29.2 フォルダレベルでの Message Logger の設定	281
29.3 デバイスレベルでの Message Logger の設定	281
29.4 デバッグメッセージの有効化	282
 <b>30 メッセージの管理</b>	 <b>283</b>
30.1 メッセージ形式の理解	283
30.1.1 ローカルログファイル形式	283
30.1.2 電子メール形式	284

30.1.3	SNMP メッセージ形式 . . . . .	284
30.1.4	UDP ペイロード形式 . . . . .	285
30.2	メッセージステータスの表示 . . . . .	286
30.2.1	メッセージ概要 . . . . .	286
30.2.2	デバイスホットリスト . . . . .	287
30.3	メッセージの表示 . . . . .	287
30.3.1	メッセージログ . . . . .	287
30.3.2	システムメッセージログ . . . . .	288
30.4	メッセージの承認 . . . . .	289
30.4.1	メッセージの承認 . . . . .	289
30.4.2	複数メッセージの承認 . . . . .	290
30.4.3	指定の時刻にログされたメッセージの承認 . . . . .	290
30.5	メッセージの削除 . . . . .	291
30.5.1	メッセージの削除 . . . . .	291
30.5.2	複数メッセージの削除 . . . . .	291
30.5.3	指定の時刻にログされたメッセージの削除 . . . . .	292
30.6	事前定義されたレポートの表示 . . . . .	293

## A ZENworks コントロールセンターの命名規則

295

# このガイドについて

この『システム管理リファレンス』では、Novell® ZENworks® Configuration Management SP2 (10.2) システムを管理するために必要な一般的な管理タスクに関する情報について説明します。このガイドの情報は、次のように構成されます。

- 15 ページのパート I 「ZENworks コントロールセンター」
- 67 ページのパート II 「ZENworks サーバと ZENworks Adaptive Agent」
- 127 ページのパート III 「ZENworks のシステム更新」
- 179 ページのパート IV 「内容」
- 209 ページのパート V 「ユーザ」
- 225 ページのパート VI 「ZENworks 製品のライセンス登録」
- 231 ページのパート VII 「データベース管理」
- 261 ページのパート VIII 「ゾーン管理」
- 273 ページのパート IX 「メッセージログ」
- 295 ページの付録 A 「ZENworks コントロールセンターの命名規則」

## 対象読者

このガイドは、ZENworks 管理者を対象としています。

## フィードバック

本マニュアルおよびこの製品に含まれているその他のマニュアルについて、皆様のご意見やご要望をお寄せください。オンラインマニュアルの各ページの下部にあるユーザコメント機能を使用するか、または [Novell Documentation Feedback サイト \(http://www.novell.com/documentation/feedback.html\)](http://www.novell.com/documentation/feedback.html) にアクセスして、ご意見をお寄せください。

## 追加のマニュアル

ZENworks 10 Configuration Management には、製品について学習したり、製品を実装したりするために使用できるその他のマニュアル (PDF 形式および HTML 形式の両方) も用意されています。追加のマニュアルについては、『ZENworks 10 Configuration Management マニュアル (<http://www.novell.com/documentation/beta/zcm10/index.html>)』を参照してください。

## マニュアルの表記規則

Novell のマニュアルでは、「より大きい」記号 (>) を使用して手順内の操作と相互参照パス内の項目の順序を示します。

商標記号 (®、™ など) は、Novell の商標を示します。アスタリスク (\*) は、サードパーティの商標を示します。

パス名の表記に円記号 (\) を使用するプラットフォームとスラッシュ (/) を使用するプラットフォームがありますが、このマニュアルでは円記号を使用します。**Linux**<sup>\*</sup> など、スラッシュを使用するプラットフォームの場合は、必要に応じて円記号をスラッシュに置き換えてください。

# ZENworks コントロールセンター

このセクションでは、ZCC(ZENworks® Control Center:ZENworks® コントロールセンター)の使用により、システム設定を行い、管理ゾーンで管理タスクを実行する方法について説明します。

- ◆ 17 ページの第 1 章「ZENworks コントロールセンター」
- ◆ 25 ページの第 2 章「管理者」
- ◆ 53 ページの第 3 章「ZENworks ニュース」
- ◆ 59 ページの第 4 章「システム変数」
- ◆ 63 ページの第 5 章「資格情報ポータル」





# ZENworks コントロールセンター

# 1

管理ゾーンでシステム設定を設定したり、管理タスクを実行したりするには、ZENworks® コントロールセンターを使用します。

ZENworks コントロールセンターは、管理ゾーンのすべての ZENworks サーバにインストールされます。どの ZENworks サーバでも、すべての管理タスクを実行できます。

- ◆ 17 ページのセクション 1.1 「ZENworks コントロールセンターへのアクセス」
- ◆ 18 ページのセクション 1.2 「Novell iManager を使用した ZENworks コントロールセンターへのアクセス」
- ◆ 19 ページのセクション 1.3 「ZENworks コントロールセンターの操作」
- ◆ 20 ページのセクション 1.4 「デフォルトのログインを無効にする値の変更」
- ◆ 20 ページのセクション 1.5 「ZENworks コントロールセンターのタイムアウト値の変更」
- ◆ 21 ページのセクション 1.6 「Config.xml ファイルを使用した ZENworks コントロールセンターの設定変更」
- ◆ 22 ページのセクション 1.7 「ZENworks コントロールセンターの場所のブックマーク」

## 1.1 ZENworks コントロールセンターへのアクセス

- 1 『ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド』の「管理ブラウザの要件」に記載されている要件を満たす Web ブラウザを使用して、次の URL を入力します。

`https://ZENworks_Server_Address:port`

*ZENworks Server Address* は、ZENworks サーバの IP アドレスまたは DNS 名に置き換えてください。デフォルトポート (80 または 443) を使用していない場合は、*port* の指定が必要です。ZENworks コントロールセンターには HTTPS 接続が必要です。HTTP 要求は、HTTPS にリダイレクトされます。

[ログイン] ダイアログボックスが表示されます。

Novell® ZENworks® ログイン ヘルプ

管理ゾーン: DOC\_20070601B

ユーザ名:

パスワード:

使用言語: 日本語

- 2 [ユーザ名] フィールドで、「Administrator (デフォルト)」と入力するか、ZENworks コントロールセンターで以前作成した管理者の名前を入力します。

3 [パスワード] フィールドで、次のいずれかを行います。

- デフォルトの管理者アカウントでログインしている場合は、インストール時に作成した管理者用のパスワードを指定します。
- ZENworks コントロールセンターで作成した管理者名に対するパスワードを指定します。

認可されていないユーザが ZENworks コントロールセンターにアクセスできないようにするために、ログインの試行で 3 回失敗した場合、管理者アカウントが無効化されます。また、ログインを再度試行するまでに、60 秒のタイムアウトが実施されます。これらのデフォルト値を変更するには、**20 ページのセクション 1.4 「デフォルトのログインを無効にする値の変更」** を参照してください。

4 [ログイン] をクリックして ZENworks コントロールセンターを表示します。

別の管理者として再ログインするには、ZENworks コントロールセンターウィンドウの右上隅にある [ログアウト] オプションをクリックし、ログインダイアログボックスが表示されたら、別の管理者としてログインします。

[ログアウト] オプションには、その一部として、ログインしている管理者の名前が含まれます。たとえば、[Logout John (John をログアウト)] などです。

## 1.2 Novell iManager を使用した ZENworks コントロールセンターへのアクセス

ZENworks 10 Configuration Management には、Novell® プラグインモジュール (.npm) が含まれています。このモジュールを使用して、多くの Novell 製品によって使用される管理コンソール Novell iManager から ZENworks コントロールセンターにアクセスすることができます。

ZENworks コントロールセンタープラグインは、iManager 2.7 のみをサポートしています。iManager 2.6 または 2.5 はサポートされていません。これらのバージョンもインストールされますが、動作しません。

iManager 用に ZENworks コントロールセンタープラグインをインストールするには、次の手順に従います。

1 iManager があるサーバ (または iManager サーバにアクセスできるデバイス) で、Web ブラウザの ZENworks ダウンロードページを開きます。

`https://server/zenworks-setup`

`server` は ZENworks サーバの DNS 名または IP アドレスです。

2 左側のナビゲーションペインで、[管理ツール] をクリックします。

3 [zcc.npm] をクリックし、iManager サーバ上の場所にファイルを保存します。

4 『Novell iManager 2.7 管理者ガイド ([http://www.novell.com/documentation/imanager27/imanager\\_admin\\_27/data/b8qrsq0.html](http://www.novell.com/documentation/imanager27/imanager_admin_27/data/b8qrsq0.html))』の説明に従って、プラグインモジュールをインストールして設定します。

5 iManager にログインします。

6 ページ上位の [ZENworks] アイコンをクリックします。

7 ZENworks コントロールセンターの URL を入力します。

`https://ZENworks_Server_Address:port`

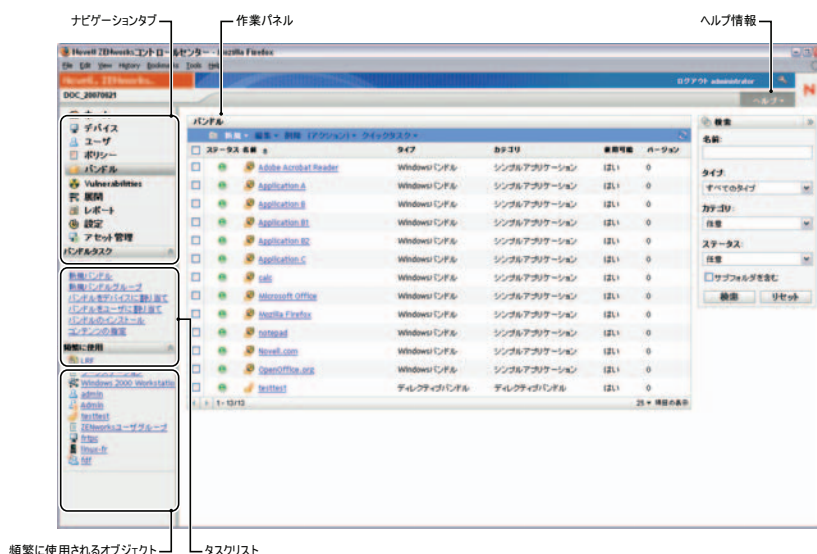
ZENworks\_Server\_Address は、ZENworks サーバの IP アドレスまたは DNS 名に置き換えてください。デフォルトポート (80 または 443) を使用していない場合は、*port* の指定が必要です。

- 8 [ZENworks] アイコンをクリックし、ZENworks コントロールセンターを起動します。

## 1.3 ZENworks コントロールセンターの操作

次のサーバのページは、ZENworks コントロールセンターの標準的な画面です。

図 1-1 ZENworks コントロールセンター



**ナビゲーションタブ:** 左側のウィンドウのタブを使用すると、ZENworks の機能領域を移動できます。たとえば、このサーバページでは、サーバに関連付けられたタスクを管理できます。

**タスクリスト:** 左側のウィンドウのタスクリストからは、現在のページで最も頻繁に実行するタスクにすばやくアクセスできます。タスクリストはページごとに異なります。たとえば、[バンドル] ページのタスクリストにはバンドル関連のタスクが、[デバイス] ページのタスクリストにはデバイス関連のタスクがそれぞれ表示されます。

**頻繁に使用されるオブジェクト:** 左側のウィンドウの「頻繁に使用」リストには、最も使用頻度の高い順から低い順に、アクセスした上位 10 のオブジェクトが表示されます。オブジェクトをクリックすると、直接そのオブジェクトの詳細ページに移動します。

**作業パネル:** 作業パネルでは、ZENworks システムの管理および監視を行います。パネルは、現在のページによって異なります。上の例では、[デバイス] と [検索] という 2 つの作業パネルがあります。[デバイス] パネルには、作成されたサーバ、フォルダ、サーバグループ、およびダイナミックサーバグループのリストが表示され、このパネルを使用してサーバを管理できます。[検索] パネルでは、デバイスの名前、オペレーティングシステム、ステータスなどの条件で、[デバイス] パネルをフィルタできます。

**ヘルプ情報:** [ヘルプ] ボタンをクリックすると、現在のページに関する情報のヘルプトピックが表示されます。[ヘルプ] ボタンのリンクは、現在のページによって異なります。

## 1.4 デフォルトのログインを無効にする値の変更

デフォルトで、管理者のアカウントは、ログインの試行に 3 回失敗すると、60 秒間、無効になります。このログインの試行回数とタイムアウトの長さは、環境設定ファイルを編集して変更できます。変更は、設定ファイルを開いたり変更したりするサーバから実行される、ZENworks コントロールセンターのインスタンスにのみ適用されます。変更内容をすべての ZENworks プライマリサーバに適用するには、各サーバにあるこのファイルのコピーに同じ変更を行う必要があります。

---

**重要：**管理者アカウントごとのログインの試行回数は、ZENworks データベースに保持されています。ZENworks データベースは、管理ゾーンにつき 1 つあります。したがって、管理者が 1 つのプライマリサーバへのログインに失敗すると、その管理者は、管理ゾーン内のすべてのプライマリサーバからロックアウトされます。ロックアウト期間は、ログインの試行が失敗したサーバの環境設定によって決まります。

---

ログインの試行およびタイムアウト値を変更するには、次の手順に従います。

- 1 テキストエディタで、次のファイルを開きます。

**Windows:** `installation_location\novell\zenworks\conf\datamodel\zdm.xml`

**Linux:** `/etc/opt/novell/zenworks/datamodel/zdm.xml`

- 2 ファイルに次の行を追加します。

```
<entry key="allowedLoginAttempts">5</entry>
```

```
<entry key="lockedOutTime">300</entry>
```

この例の「5」は、ログインできなくなるまでの再試行回数を表しています。「300」は、秒数を表しています ( デフォルトは 60 秒、つまり 1 分 )。

設定済みの失敗の回数 (5 回など ) の後に、再ログインを許可するまでの遅延が長くなればなるほど、ZENworks コントロールセンターにアクセスするために待機する時間が長くなります。

---

**重要：**ログインの試行の値として「0」を入力すると、ロックアウト機能が無効になり、ログインの無制限の試行が可能になります。

---

- 3 ファイルを保存し、プライマリサーバの zenloader サービスおよび zenserver サービスを再起動して変更を有効にします。

サービスの再起動の詳細については、[73 ページのセクション 6.2.4 「ZENworks サービスの再起動」](#)を参照してください。

## 1.5 ZENworks コントロールセンターのタイムアウト値の変更

デフォルトでは、ZENworks コントロールセンターには 30 分のタイムアウト値があります。したがって、コンピュータ上の ZENworks コントロールセンターを 30 分を超える期間アイドル状態にしておくと、続行するには再度ログインするよう求められます。

タイムアウトの目的は、メモリのリソースをクリアすることです。タイムアウト値を大きくすると、ZENworks コントロールセンターがメモリのリソースを保持する期間が長くなり、ZENworks コントロールセンターを起動したデバイスの長期的なパフォーマンスに悪影響を与える可能性があります。また、ZENworks サーバをローカルで実行している場合は、ZENworks サーバにも影響する場合があります。

タイムアウト値を増加させたり減少させたりするには、ZENworks サーバの 2 つの XML ファイルを変更します。そのサーバの ZENworks コントロールセンターにのみ、変更が適用されます。したがって、そのサーバから ZENworks コントロールセンターを起動するデバイスは、同じタイムアウト値になります。

管理ゾーンの各 ZENworks サーバで、異なる ZENworks コントロールセンターのタイムアウト値を設定できます。

ZENworks サーバで ZENworks コントロールセンターのタイムアウト値を変更するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks サーバで、テキストエディタを使用して config.xml ファイルを開きます。
  - ◆ **Windows:** \Novell\ZENworks\share\tomcat\webapps\zenworks\WEB-INF\config.xml
  - ◆ **Linux:** /opt/novell/zenworks/share/tomcat/webapps/zenworks/WEB-INF/config.xml
- 2 <setting id="timeout"> エントリを見つけます。
- 3 必要に応じて、タイムアウト値を調整します。  
タイムアウト値を分で指定します。
- 4 config.xml ファイルを保存します。
- 5 custom-config.xml ファイルをテキストエディタで開きます。  
このファイルに含まれた情報が config.xml ファイル内の対応する情報を上書きするので、このファイルを使用すると、ZENworks コントロールセンターのカスタマイズの内容を保持することができます。したがって、ソフトウェアの更新やアップグレード時に config.xml ファイルが上書きされても、このファイルで行われた変更が失われることはありません。  
custom-config.xml ファイルは、config.xml ファイルと同じディレクトリにあります。
  - ◆ **Windows:** \Novell\ZENworks\share\tomcat\webapps\zenworks\WEB-INF\custom-config.xml
  - ◆ **Linux:** /opt/novell/zenworks/share/tomcat/webapps/zenworks/WEB-INF/custom-config.xml
- 6 <setting id="timeout"> エントリを見つけます。
- 7 タイムアウト値を、config.xml ファイルに入力したものと同じ数に設定します。
- 8 <setting id="timeout"> エントリを囲むコメントを削除します (<!-- および -->)。
- 9 custom-config.xml ファイルを保存します。
- 10 zen-server サービスを再起動して、ZENworks サーバを再起動します。  
手順については、69 ページの第 6 章「ZENworks サーバ」を参照してください。

## 1.6 Config.xml ファイルを使用した ZENworks コントロールセンターの設定変更

config.xml ファイルを使用すると、ZENworks コントロールセンターのタイムアウト値を設定できることに加え (20 ページのセクション 1.5「ZENworks コントロールセンターのタイムアウト値の変更」を参照)、いくつかの追加の環境設定を制御できます。ただし、タイムアウト値を除いて、config.xml 設定を変更する必要はありません。

- 1 ZENworks サーバで、テキストエディタを使用して config.xml ファイルを開きます。
  - ◆ **Windows** サーバのパス : \Novell\ZENworks\share\tomcat\webapps\zenworks\WEB-INF\config.xml

- ◆ **Linux サーバのパス** : opt/novell/zenworks/share/tomcat/webapps/zenworks/WEB-INF/config.xml

2 目的の設定を変更します。すべての設定は、<setting id= で始まります。

**タイムアウト**: タイムアウト値を分で指定します。タイムアウト値を大きくすると、ZENworks コントロールセンターがメモリのリソースを保持する期間が長くなり、ZENworks コントロールセンターを起動したデバイスの長期的なパフォーマンスに悪影響を与える可能性があります。この値を変更した場合、custom-config.xml ファイル内のタイムアウトエントリも変更する必要があります。**20 ページのセクション 1.5 「ZENworks コントロールセンターのタイムアウト値の変更」**を参照してください)。

**debug.enabled**: ZENworks コントロールセンターのログファイルにメッセージが書き込まれないようにするには、値を *false* に変更します。デフォルトの値である *true* の場合、ログファイルにメッセージが書き込まれます。

**debug.tags**: これらの設定により、デバッグ情報が制御されます。Novell サポートの指示がない限り、変更しないでください。

**debug.log.viewstate**: この設定は、デバッグ情報を制御します。Novell サポートの指示がない限り、変更しないでください。

**hideGettingStarted**: [はじめに] ページを表示しません。この設定は、現時点では機能していません。ページが表示されないように手動で設定するには、ZENworks コントロールセンターを開いて [はじめに] ページを表示し、[これを再表示しない] を選択します。

**noQuickTaskAutoRefresh**: この設定により、[クイックタスクステータス] ダイアログボックスの自動更新が無効になります。これは、クイックタスクステータスの更新の問題を検出するために使用されます。Novell サポートの指示がない限り、この設定を変更しないでください。

3 config.xml ファイルを保存します。

4 zen-server サービスを再起動して、ZENworks サーバを再起動します。ステップについては、**69 ページの第 6 章 「ZENworks サーバ」**を参照してください。


## 1.7 ZENworks コントロールセンターの場所のブックマーク

ブックマーク機能によって、通常のナビゲーションのようにクリックしなくても、Web ブラウザを使用して ZENworks コントロールセンター () のさまざまな場所に直接アクセスできます。この機能を使用すると、見つけにくい場所もブックマークできます。

Web ブラウザで、ZENworks コントロールセンターの次のセクション内の場所へのブックマークを作成できます。

- ◆ [デバイス] タブの [管理対象] タブ
- ◆ [ポリシー] タブ
- ◆ [バンドル] タブ
- ◆ [環境設定] タブの [管理ゾーンの設定]

ブックマークできる場所には、リストなどのアイテム、オブジェクトの詳細、構成設定があります。


[リンク] アイコン ( ▼) が表示されるところであればどこでもブックマークを作成できます。アイコンは、ページの右上にあります。アイコンが表示されない場合は、その場所にはブックマークを作成できません。



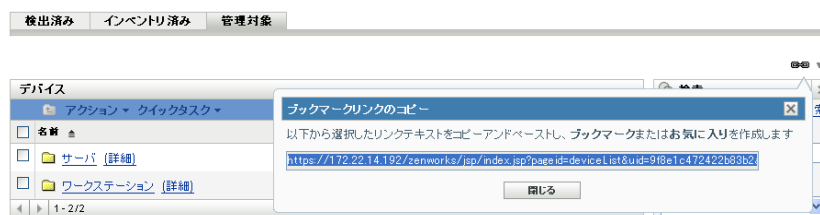
ブックマークをクリックしたとき、ZCC にログインしていた場合は、その場所が即座に表示されます。

ブックマークをクリックしたときに ZCC にログインしていなかった場合、[ログイン] ダイアログボックスが表示されます。有効な資格情報を入力すると、その場所がすぐに表示されます。

ブックマークを作成するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、ブックマークを作成したい場所に移動します。
- 2  をクリックします。

次のようなダイアログボックスが開き、現在の場所の URL がハイライトされています。



- 3 Ctrl+C を押して URL をコピーし、[OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
- 4 URL を Web ブラウザの新規ブックマークとして貼り付けます。





インストール時に、デフォルトの ZENworks 管理者アカウント (Administrator) が作成されます。このアカウントはスーパー管理者アカウントと呼ばれ、管理ゾーンに対するフル管理権を提供します。

通常、管理タスクを実行する各ユーザに対して管理者アカウントを作成します。これらのアカウントは、スーパー管理者アカウントとして定義したり、制限された権限を持つ管理者アカウントとして定義できます。たとえば、管理ゾーン内のデバイスの検出と登録のみを許可する管理者アカウントをユーザに付与できます。また、このアカウントでは、ユーザにデバイスへのバンドルの割り当てのみを許可したり、ユーザに、契約、ライセンス、ドキュメントの管理などのアセット管理タスクのみに使用を制限することも可能です。

---

**重要:** デフォルトの管理者アカウントのほかに、少なくとももう 1 つのスーパー管理者アカウントが必要です。これは、管理者アカウントのパスワードが忘れられたり、失われた場合に冗長性を提供します。スーパー管理者アカウントの作成方法については、[28 ページのセクション 2.2.1 「スーパー管理者の権限の割り当て」](#) を参照してください。さらにヘルプが必要な場合は、[Novell サポート \(http://www.novell.com/support\)](http://www.novell.com/support) にご連絡ください。

---

場合によっては、複数の管理者アカウントに同じ管理権が必要になることがあります。各アカウントに個別に権限を割り当てるのではなく、管理者の役割を作成して、役割に管理権を割り当て、アカウントを役割に追加できます。たとえば、数人の管理者が必要とする管理権を提供するヘルプデスク役割を作成します。

ZENworks コントロールセンター (ZCC) または zman コマンドラインユーティリティを使用して、管理者アカウントを作成および変更したり、役割を割り当てることができます。次の手順では、ZCC を使用してこれらのタスクを実行する方法について説明します。zman コマンドラインユーティリティを使用する場合は、『[ZENworks Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス](#)』の「[管理者コマンド](#)」を参照してください。

- ◆ [25 ページのセクション 2.1 「管理者アカウントの管理」](#)
- ◆ [28 ページのセクション 2.2 「管理者権限の管理」](#)
- ◆ [29 ページのセクション 2.3 「権限の説明」](#)
- ◆ [41 ページのセクション 2.4 「管理者の役割の管理」](#)

## 2.1 管理者アカウントの管理

次のセクションでは、管理者アカウントの作成および管理について説明します。

- ◆ [26 ページのセクション 2.1.1 「管理者の作成」](#)
- ◆ [27 ページのセクション 2.1.2 「管理者の削除」](#)
- ◆ [27 ページのセクション 2.1.3 「管理者の名前変更」](#)
- ◆ [27 ページのセクション 2.1.4 「管理者のパスワードの変更」](#)

## 2.1.1 管理者の作成

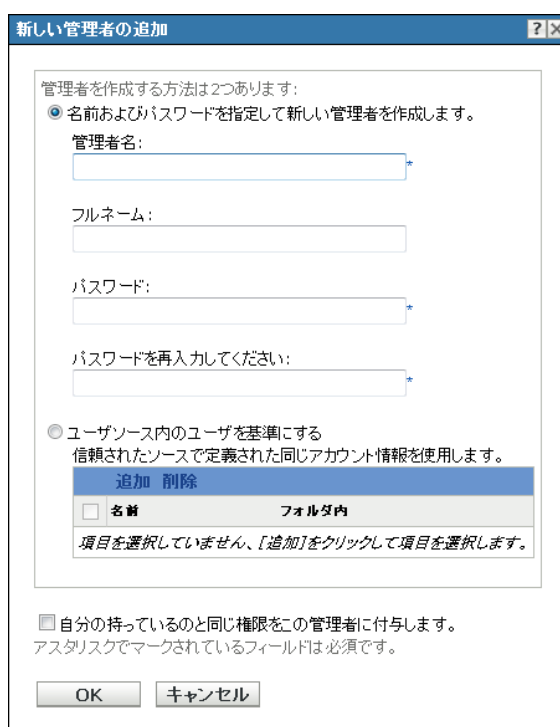
管理者アカウントを作成するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。



The screenshot shows the 'Environment Settings' (環境設定) tab in the ZENworks Control Center. The 'Administrators' (管理者) section is expanded, showing options to 'New' (新規), 'Edit' (編集), or 'Delete' (削除). Below this, there are checkboxes for 'Name' (名前) and 'Full Name' (フルネーム), and a text field for 'User Name in User Source' (ユーザソース内のユーザ名). A message states: 'Useable items are not present.' (使用できる項目がありません。). Below this, there are sections for 'Roles' (役割), 'User Sources' (ユーザソース), 'Licenses' (ライセンス), and 'Account Information Portal' (アカウント情報ポータル).

- 2 [管理者] パネルで、[新規] をクリックして [新しい管理者の追加] ダイアログボックスを表示します。



The screenshot shows the 'New Administrator Addition' (新しい管理者の追加) dialog box. It contains two radio buttons for creating a new administrator: 'By Name and Password' (名前およびパスワードを指定して新しい管理者を作成します。) and 'Based on User Source' (ユーザソース内のユーザを基準にする). The first option is selected. Below it are text fields for 'Administrator Name' (管理者名), 'Full Name' (フルネーム), 'Password' (パスワード), and 'Re-enter Password' (パスワードを再入力してください:). The second option is also available, with a message: 'Trust the source to define the same account information.' (信頼されたソースで定義された同じアカウント情報を使用します。). Below this is a table with 'Add' (追加) and 'Delete' (削除) buttons, and a checkbox for 'Name' (名前). A message states: 'Item is not selected, click [Add] to select item.' (項目を選択していません、[追加]をクリックして項目を選択します。). At the bottom, there is a checkbox for 'Grant the same permissions as the user who created this administrator.' (自分の持っているのと同じ権限をこの管理者に付与します。). A message states: 'Fields marked with an asterisk are required.' (アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。). At the bottom are 'OK' and 'Cancel' buttons.

[新しい管理者の追加] ダイアログボックスでは、名前またはパスワードを提供して新しい管理者アカウントを作成できます。またはユーザソースの既存のユーザに基づいて新しい管理者を作成できます。オプションで、ログインしている管理者同じ権限を新しい管理者に付与できます。

- 3 次のフィールドに入力します：

**名前とパスワードを提供して新しい管理者を作成する：** このオプションは、手動で名前およびパスワードを指定して新しい管理者アカウントを作成する場合にのみ選択してください。

Unicode\* 文字を使用した管理者のログイン名では大文字と小文字が区別されます。ログイン名に Unicode 文字を含む場合は、文字ごとに大文字と小文字を正しく使用しているかを確認してください。

新規管理者は、ZENworks コントロールセンターの右上隅の [ログアウト] リンクの隣にあるキーアイコンをクリックすることで、最初のログイン時にパスワードを変更できます。

**ユーザソースのユーザに基づく：**ユーザソースの情報に基づいて新規管理者のアカウントを作成する場合、このオプションを選択します。これを行うには、[追加] をクリックして、目的のユーザを参照して選択します。

新しく作成された管理者アカウントには、管理ゾーンのすべてのオブジェクトに対する表示権限が付与されます。追加の権限を付与したり、または管理者の権限を特定のフォルダのみに制限したりするには、**権限を修正**する必要があります。

**自分の持っているのと同じ権限をこの管理者に付与します：**現在ログイン中の管理者と同じ権限を新規管理者に割り当てる場合、このオプションを選択します。

4 フィールドへの入力が終了したら、[OK] をクリックして新規管理者を追加します。

また、zman の admin-create コマンドを使用して、管理者アカウントを作成することもできます。詳細については、「**管理者コマンド**」(『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』)を参照してください。

## 2.1.2 管理者の削除

1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。

2 [管理者] パネルで、管理者の名前の隣にあるチェックボックスをオンにし、[削除] をクリックします。

また、zman の admin-delete コマンドを使用して、管理者アカウントを削除することもできます。詳細については、「**管理者コマンド**」(『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』)を参照してください。

## 2.1.3 管理者の名前変更

1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。

2 [管理者] パネルで、管理者の名前の隣にあるチェックボックスをオンにし、[編集] をクリックし、次に [名前変更] をクリックします。

3 新しい名前を指定し、[OK] をクリックします。

また、zman の admin-rename コマンドを使用して、管理者アカウントを名前変更することもできます。詳細については、「**管理者コマンド**」(『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』)を参照してください。


## 2.1.4 管理者のパスワードの変更

デフォルト以外の管理者アカウントのパスワードを変更するには、次の手順に従います。


1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。

- 2 [管理者] パネルで、管理者の隣にあるチェックボックスをオンにし、[編集] をクリックします。次に、[パスワードの設定] をクリックして、[管理者パスワードの変更] ダイアログボックスを表示します。
- 3 フィールドに入力し、[OK] をクリックします。

現在ログインしている管理者のパスワードを変更するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、右上隅の [ログアウト管理者] オプションの横にある  をクリックします。  
[管理者パスワードの変更] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 フィールドに入力し、[OK] をクリックします。

デフォルト管理者アカウントのパスワードを変更するには、次の手順に従います。:

- 1 デフォルト管理者アカウントを使用してログインします。
- 2 右上隅の [ログアウト管理者] オプションの横にある  アイコンをクリックします。  
[管理者パスワードの変更] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 フィールドに入力し、[OK] をクリックします。

## 2.2 管理者権限の管理

次のセクションでは、既存の管理者アカウントおよび割り当てられた権限の管理について説明します。

- 28 ページのセクション 2.2.1 「スーパー管理者の権限の割り当て」
- 28 ページのセクション 2.2.2 「追加の権限の割り当て」
- 29 ページのセクション 2.2.3 「割り当てられた権限の変更」
- 29 ページのセクション 2.2.4 「割り当てられた権限の削除」

### 2.2.1 スーパー管理者の権限の割り当て

スーパー管理者は、ZENworks コントロールセンターですべてのアクションを実行するためのすべての権限を持っています。スーパー管理者のすべての権限の詳細については、29 ページのセクション 2.3 「権限の説明」を参照してください。管理者にスーパー管理者の権限を与える場合、許可、拒否、または設定されなかったすべての割り当てられた権限は優先しません。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理者] パネルで、管理者の名前をクリックします。
- 3 [スーパー管理者] チェックボックスをオンにします。
- 4 [適用] をクリックします。

### 2.2.2 追加の権限の割り当て

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理者] パネルの [名前] カラムで、管理者をクリックします。

- 3 [割り当て済みの役割] パネルで、[追加] をクリックし、割り当てる権利を選択します。
- 4 次のフィールドに情報を入力します。  
詳細については、[29 ページのセクション 2.3 「権限の説明」](#) を参照してください。
- 5 [OK] をクリックします。

また、zman の admin-rights-set コマンドを使用して、管理者アカウントの追加の権限を割り当てることもできます。詳細については、「[管理者コマンド](#)」(『[ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス](#)』) を参照してください。

### 2.2.3 割り当てられた権限の変更

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理者] パネルの [名前] カラムで、管理者をクリックします。
- 3 [割り当てられた権利] パネルで、割り当てる権利の横のチェックボックスを選択します。
- 4 [編集] をクリックして、設定を修正します。  
詳細については、[29 ページのセクション 2.3 「権限の説明」](#) を参照してください。
- 5 [OK] をクリックします。

### 2.2.4 割り当てられた権限の削除

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理者] ペインの [名前] 列で管理者をクリックします。
- 3 割り当てられた権限の隣にあるチェックボックスをオンにします。
- 4 [削除] をクリックします。

また、zman の admin-rights-delete コマンドを使用して、管理者アカウント用に割り当てられた権限を削除することもできます。詳細については、「[管理者コマンド](#)」(『[ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス](#)』) を参照してください。

## 2.3 権限の説明

追加管理者のアカウントを作成するとき、管理者のゾーンに対するフルアクセスを提供したり、権限が制限されたアカウントを作成したりできます。たとえば、管理者がデバイスにバンドルを割り当てることはできるが、バンドルを作成することはできない管理者アカウントを作成できます。または管理ゾーン的环境設定(ユーザソース、登録、構成の設定など)に関するタスク以外のすべての管理タスクにアクセス可能な管理者アカウントを作成することができます。追加管理者の作成の詳細については、[26 ページの「管理者の作成」](#) を参照してください。

[管理者の役割](#)のみの場合、権限オプションの 3 番目のカラムが各権限の割り当てのダイアログボックスに追加されます。[設定解除] により、ZENworks のほかの場所で設定された権限をその役割で使用できます。

ZENworks でもっとも制限の厳しい権限セットが適用されます。したがって、[拒否] オプションを選択すると、管理者が ZENworks のすべての場所でその権限が許可されていても、その役割が割り当てられているすべての管理者の権限は拒否されます。

[許可] オプションを選択し、ZENworks のどこかで役割が許可されていない限り、その管理者は役割の権限が許可されません。

[設定解除] オプションを選択すると、管理者は ZENworks のどこかで役割が許可されていない限り、その管理者は役割の権限が許可されません。

また、既存の管理者に割り当てられた権限を追加、編集、または削除することもできます。詳細については、[28 ページのセクション 2.2.2「追加の権限の割り当て」](#)、[29 ページのセクション 2.2.3「割り当てられた権限の変更」](#)、または [29 ページのセクション 2.2.4「割り当てられた権限の削除」](#) を参照してください。

次のセクションでは、割り当てることができるさまざまな権限に関する追加詳細について説明します。

- ◆ [30 ページのセクション 2.3.1「管理者権限」](#)
- ◆ [31 ページのセクション 2.3.2「バンドル権限」](#)
- ◆ [31 ページのセクション 2.3.3「契約管理権限」](#)
- ◆ [32 ページのセクション 2.3.4「アカウント情報権限」](#)
- ◆ [32 ページのセクション 2.3.5「展開権限」](#)
- ◆ [33 ページのセクション 2.3.6「デバイス権限」](#)
- ◆ [33 ページのセクション 2.3.7「検出権限」](#)
- ◆ [34 ページのセクション 2.3.8「ドキュメント権限」](#)
- ◆ [34 ページのセクション 2.3.9「LDAP インポート権利」](#)
- ◆ [34 ページのセクション 2.3.10「インベントリデバイス権限」](#)
- ◆ [35 ページのセクション 2.3.11「ライセンス管理権限」](#)
- ◆ [35 ページのセクション 2.3.12「パッチ管理権限」](#)
- ◆ [36 ページのセクション 2.3.13「ポリシー権限」](#)
- ◆ [37 ページのセクション 2.3.14「クイックタスク権限」](#)
- ◆ [38 ページのセクション 2.3.15「リモート管理権限」](#)
- ◆ [38 ページのセクション 2.3.16「レポートイング権」](#)
- ◆ [38 ページのセクション 2.3.17「ユーザ権限」](#)
- ◆ [39 ページのセクション 2.3.18「ZENworks ユーザグループ権限」](#)
- ◆ [40 ページのセクション 2.3.19「ゾーンの権限」](#)

## 2.3.1 管理者権限

[管理者権限] ダイアログボックスでは、選択した管理者が他の管理者に権限を与えたり、管理ゾーンの管理者アカウントを作成または削除したりできるようにします。

使用できる権限は次のとおりです。

- ◆ **権利の付与** : 他の管理者に権限を付与するために必要な権限を管理者に許可または拒否します。

- ◆ **作成 / 削除** : 管理者アカウントの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

## 2.3.2 バンドル権限

[バンドル権限] ダイアログボックスでは、バンドルを含むフォルダを選択して、それらのフォルダに関連付けられている権限を修正できます。

- ◆ 31 ページの「コンテキスト」
- ◆ 31 ページの「特権」

### コンテキスト

権限を割り当てるバンドルが含まれているフォルダを選択するには、[追加] をクリックして [コンテキスト] ダイアログボックスを表示します。次に、権限を割り当てるフォルダを参照して選択します。

### 特権

[特権] セクションでは、バンドルを作成または修正、グループを作成または修正、およびフォルダを作成または修正する権限を、選択した管理者に付与できます。

使用できる権限は次のとおりです。

- ◆ **変更** : 既存のバンドルの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **作成 / 削除** : バンドルの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **グループ変更** : 既存のグループの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **グループ作成 / 削除** : グループの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **グループメンバーシップの変更** : バンドルグループに含まれているバンドルのリストの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **変更** : フォルダの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **フォルダの作成 / 削除** : フォルダの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

## 2.3.3 契約管理権限

[契約管理権限] ダイアログボックスでは、契約を含むフォルダを選択して、契約およびフォルダに関連付けられている権限を修正できます。

- ◆ 31 ページの「コンテキスト」
- ◆ 32 ページの「特権」

### コンテキスト

権限を割り当てる契約が含まれているフォルダを選択するには、[追加] をクリックして [コンテキスト] ダイアログボックスを表示します。次に、権限を割り当てるフォルダを参照して選択します。



## 特権

- ◆ **変更**：既存の契約の変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **作成 / 削除**：契約の作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **変更**：フォルダの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **フォルダの作成 / 削除**：フォルダの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

### 2.3.4 アカウント情報権限

[アカウント情報権限] ダイアログボックスでは、アカウント情報を含むフォルダを選択して、それらのフォルダに関連付けられている権限を修正できます。

- ◆ 32 ページの「コンテキスト」
- ◆ 32 ページの「特権」

## コンテキスト

[追加] をクリックして、権利を割り当てるアカウント情報を含むフォルダを選択します。

## 特権

[特権] セクションでは、アカウント情報を作成または修正、グループを作成または修正、およびフォルダを作成または修正する権限を、選択した管理者に付与できます。

使用できる権限は次のとおりです。

- ◆ **変更**：既存のアカウント情報の変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **作成 / 削除**：アカウント情報の作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **フォルダの変更**：フォルダの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **フォルダの作成 / 削除**：フォルダの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

アカウント情報で実行できるタスクの詳細については、63 ページの第 5 章「資格情報ポータル」を参照してください。

### 2.3.5 展開権限

[展開権限] ダイアログボックスでは、展開操作に必要な管理者権限を許可または拒否できます。

[展開] では、ネットワークデバイスを検出し、ZENworks Adaptive Agent を検出されたデバイスに展開することができ、それらのデバイスは管理ゾーン内の管理対象デバイスになります。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management 検出、展開、およびリタイアリファレンス』の「ZENworks Adaptive Agent の展開」を参照してください。



## 2.3.6 デバイス権限

[デバイス権限] ダイアログボックスでは、デバイスを含むフォルダを選択して、それらのフォルダに関連付けられている権限を修正できます。

- ◆ 33 ページの「コンテキスト」
- ◆ 33 ページの「特権」

### コンテキスト

権限を割り当てるデバイスが含まれているフォルダを選択するには、[追加] をクリックして [コンテキスト] ダイアログボックスを表示します。次に、権限を割り当てるフォルダを参照して選択します。

### 特権

[特権] セクションでは、デバイスグループおよびフォルダを含む、デバイスを使用できる権限を、選択した管理者に付与できます。これにより、管理者は、ポリシーおよびバンドルをデバイスに割り当てることができます。

使用できる権限は次のとおりです。

- ◆ **変更**：既存のデバイスオブジェクトの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **作成 / 削除**：デバイスオブジェクトの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **グループ変更**：既存のグループの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **グループ作成 / 削除**：グループの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **グループメンバーシップの変更**：デバイスグループに含まれているデバイスのリストの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **変更**：フォルダの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **フォルダの作成 / 削除**：フォルダの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **設定の変更**：デバイス設定の変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **ポリシー割り当て**：ポリシーをデバイスに割り当てるときに必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **バンドル割り当て**：バンドルをデバイスに割り当てるときに必要な権限を管理者に許可または拒否します。

## 2.3.7 検出権限

[検出権限] ダイアログボックスでは、検出操作に必要な管理者権限を許可または拒否できます。

使用できる権限は次のとおりです。

- ◆ **調査**：検出の実行に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

- ◆ **検出済みデバイスの編集** 検出デバイスの編集に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

### 2.3.8 ドキュメント権限

[ドキュメント権限] ダイアログボックスでは、ドキュメントを含むフォルダを選択して、ドキュメントおよびフォルダに関連付けられている権限を修正できます。

- ◆ 34 ページの「コンテキスト」
- ◆ 34 ページの「特権」

#### コンテキスト

権限を割り当てるドキュメントが含まれているフォルダを選択するには、[追加] をクリックして [コンテキスト] ダイアログボックスを表示します。次に、権限を割り当てるフォルダを参照して選択します。

#### 特権

- ◆ **変更**：既存のドキュメントの再割り当てに必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **作成 / 削除**：ドキュメントのインポートまたは削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **変更**：フォルダの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **フォルダの作成 / 削除**：フォルダの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

### 2.3.9 LDAP インポート権利

[LDAP インポート権利] ダイアログボックスでは、LDAP 情報のインポートを許可または拒否できます。

### 2.3.10 インベントリデバイス権限

[インベントリデバイス権限] ダイアログボックスでは、デバイスを含むフォルダを選択して、それらのフォルダに関連付けられている権限を修正できます。

- ◆ 34 ページの「コンテキスト」
- ◆ 34 ページの「特権」

#### コンテキスト

権限を割り当てるインベントリデバイスが含まれているフォルダを選択するには、[追加] をクリックして [コンテキスト] ダイアログボックスを表示します。次に、権限を割り当てるフォルダを参照して選択します。

#### 特権

[特権] セクションでは、デバイスグループおよびフォルダを含む、インベントリデバイスを使用できる権限を、選択した管理者に付与できます。

使用できる権限は次のとおりです。

- ◆ **変更**：インベントリデバイスオブジェクトの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **作成 / 削除**：インベントリデバイスオブジェクトの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **グループ変更**：既存のグループの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **グループ作成 / 削除**：グループの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **グループメンバーシップの変更**：デバイスグループに含まれているデバイスのリストの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **変更**：フォルダの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **フォルダの作成 / 削除**：フォルダの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **設定の変更**：インベントリデバイス設定の変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

## 2.3.11 ライセンス管理権限

[ライセンス管理権限] ダイアログボックスでは、ライセンスを含むフォルダを選択して、ライセンスおよびフォルダに関連付けられている権限を修正できます。

- ◆ [35 ページの「コンテキスト」](#)
- ◆ [35 ページの「特権」](#)

### コンテキスト

権限を割り当てるライセンスが含まれているフォルダを選択するには、[追加] をクリックして [コンテキスト] ダイアログボックスを表示します。次に、権限を割り当てるフォルダを参照して選択します。

### 特権

- ◆ **変更**：既存のライセンスの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **作成 / 削除**：ライセンスの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **変更**：フォルダの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **フォルダの作成 / 削除**：フォルダの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

## 2.3.12 パッチ管理権限

[パッチ管理権限] ダイアログボックスでは、管理者が所有できるパッチ管理機能を決定できます。

使用できる権限は次のとおりです：

- ◆ **パッチの展開**：パッチの展開に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

- ◆ **パッチを有効にする** パッチを有効にするために必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **パッチを無効にする** パッチを無効にするために必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **パッチを更新する** パッチのキャッシュに必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **ベースラインに割り当て** : パッチをベースラインに割り当てるのに必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **ベースラインから削除** : ベースラインに割り当てられたパッチを削除するのに必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **View Patch Details(パッチ詳細の表示)** : パッチ詳細の表示に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **パッチのエクスポート** : パッチのエクスポートに必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **今すぐスキャン** : スキャンの開始に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **パッチの削除** : パッチを削除するために必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **ベースラインの再計算** : ベースラインの再計算に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **設定** : パッチの設定に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

### 2.3.13 ポリシー権限

[ポリシー権限] ダイアログボックスでは、ポリシーを含むフォルダを選択して、それらのフォルダに関連付けられている権限を修正できます。

- ◆ 36 ページの「コンテキスト」
- ◆ 36 ページの「特権」

#### コンテキスト

権限を割り当てるポリシーが含まれているフォルダを選択するには、[追加] をクリックして [コンテキスト] ダイアログボックスを表示します。次に、権限を割り当てるフォルダを参照して選択します。

#### 特権

[特権] セクションでは、デバイスグループおよびフォルダを含め、ポリシーで作業を行うための権限を選択した管理者に与えることができます。

使用できる権限は次のとおりです。

- ◆ **変更** : 既存のポリシーの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **作成 / 削除** : 既存のポリシーの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **グループ変更** : 既存のグループの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

- ◆ **グループ作成 / 削除** : グループの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **グループメンバーシップの変更** : ポリシーグループに含まれているポリシーのリストの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **フォルダの変更** : フォルダの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **フォルダの作成 / 削除** : フォルダの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

### 2.3.14 クイックタスク権限

[クイックタスク権限] ダイアログボックスでは、デバイスを含むフォルダを選択して、それらのフォルダに関連付けられているクイックタスク権限を修正できます。

クイックタスクとは、ZENworks コントロールセンターのタスクリストに表示されるタスクです (たとえば、サーバタスク、ワークステーションタスク、バンドルタスクなど)。タスクをクリックすると、ウィザードが起動されてタスクを通じて次のタスクに進むか、またはタスクを完了するために情報を入力するダイアログボックスが表示されます。

[クイックタスク権限] ダイアログボックスでは、クイックタスクを使用した特定タスクの実行権限を、選択した管理者に許可または拒否できます。

- ◆ 37 ページの「コンテキスト」
- ◆ 37 ページの「特権」

#### コンテキスト

権限を割り当てるデバイスが含まれているフォルダを選択するには、[追加] をクリックして [コンテキスト] ダイアログボックスを表示します。次に、権限を割り当てるフォルダを参照して選択します。

#### 特権

使用できる権限は次のとおりです。

- ◆ **デバイスのシャットダウン / 再起動 / 起動** : リストで選択したフォルダのデバイスを、管理者がシャットダウン、再起動、または起動できるかどうかを指定します。
- ◆ **プロセスの実行** : デバイスのプロセスの実行に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **ZENworks Adaptive エージェントの更新** : デバイスの ZENworks Adaptive Agent のリフレッシュに必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **バンドルのインストール / 起動** : バンドルのインストールまたは起動に必要な権限を管理者に許可または拒否します。管理者はまた、[クイックタスク] オプションを使用してバンドルをインストールあるいは起動するために、デバイスに対して [バンドル割り当て] 権限を持っている必要があります。
- ◆ **イメージの適用** : イメージをデバイスに適用するときに必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **イメージの取得** : デバイスのイメージの取得に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

- ◆ **インベントリ** : デバイスのインベントリに必要な権限を管理者に許可または拒否します。

### 2.3.15 リモート管理権限

[リモート管理権限] ダイアログボックスでは、デバイスおよびユーザを含むフォルダを選択して、これらのフォルダに関連付けられているリモート管理権限を変更できます。リモート実行権限を付与すると、管理者は、システム領域でプロセスを実行できます。

- ◆ 38 ページの「コンテキスト」
- ◆ 38 ページの「特権」

#### コンテキスト

権限を割り当てるデバイスおよびユーザが含まれているフォルダを選択するには、[追加] をクリックして [コンテキスト] ダイアログボックスを表示します。次に、権限を割り当てるフォルダを参照して選択します。

#### 特権

使用できる権限は次のとおりです。

- ◆ **リモートビュー** : デバイスのリモート表示に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **リモート診断** : デバイスのプロシージャのリモート診断実行に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **リモート実行** : デバイスのプロセスのリモート実行に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **ファイルの転送** : ファイルのデバイスとの送受信に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **リモートコントロール** : デバイスのリモート管理に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

### 2.3.16 レポーティング権

[レポーティング権] ダイアログボックスでは、レポートを作成、削除、実行、または発行する権限を管理者に許可または拒否します。

### 2.3.17 ユーザ権限

[ユーザ権限] ダイアログボックスでは、ユーザを含むフォルダを選択して、それらのフォルダに関連付けられている権限を修正できます。

- ◆ 39 ページの「コンテキスト」
- ◆ 39 ページの「特権」

## コンテキスト

権限を割り当てるユーザが含まれているフォルダを選択するには、[追加] をクリックして [コンテキスト] ダイアログボックスを表示します。次に、権限を割り当てるフォルダを参照して選択します。

## 特権

[特権] セクションでは、デバイスグループおよびフォルダを含む、デバイスを使用できる権限を、選択した管理者に付与できます。これにより、管理者は、ポリシーおよびバンドルをデバイスに割り当てることができます。

使用できる権限は次のとおりです。

- ◆ **ZENworks グループメンバーシップの変更** : ZENworks グループメンバーシップの変更に必要な権限を許可または拒否します。このオプションを選択した場合、[ZENworks ユーザグループ権限] の下で [ZENworks グループメンバーシップの変更] の権限も許可しておく必要があります。
- ◆ **ポリシー割り当て** : ポリシーをユーザに割り当てるときに必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **バンドル割り当て** : バンドルをユーザに割り当てるときに必要な権限を管理者に許可または拒否します。

## 2.3.18 ZENworks ユーザグループ権限

[ZENworks ユーザグループ権限] ダイアログボックスでは、グループを作成、削除、変更、およびグループメンバーシップを変更する権限を管理者に許可または拒否できます。

使用できる権限は次のとおりです。

- ◆ **グループ変更** : 既存のグループの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **グループ作成 / 削除** : グループの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **ZENworks グループメンバーシップの変更** : ZENworks グループメンバーシップの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。このオプションを選択した場合、[ユーザ権限] の下で [ZENworks グループメンバーシップの変更] の権限も許可しておく必要があります。
- ◆ **ポリシー割り当て** : ポリシーグループに含まれているポリシーのリストの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **バンドル割り当て** : ポリシーグループに含まれているバンドルのリストの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。



## 2.3.19 ゾーンの権限

[ゾーンの権限] ダイアログボックスでは、ZENworks 管理ゾーンの設定を管理する管理者の権限を変更できます。

使用できる権限は次のとおりです。

- ◆ **ユーザソースの変更**：ユーザソースの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

ユーザソースは、ZENworks 管理ゾーンで参照したいユーザを含む LDAP ディレクトリです。ユーザソースを定義する場合は、ユーザおよびユーザグループの読み込み元のソースコンテナも定義します。

ユーザソースの変更は、ユーザソースの追加、削除、名前変更、およびユーザ祖巢へのポリシーまたはバンドルの割り当てです。

- ◆ **ユーザソースの作成 / 削除**：ユーザソースの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

- ◆ **設定の変更**：管理ゾーン設定の変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

[管理ゾーンの設定] では、管理ゾーンに関するグローバル構成の設定を管理できます。これらのグローバル構成の設定は、管理ゾーンの中の他のオブジェクト (デバイス、ユーザ、およびフォルダ) に継承され、それらのオブジェクトによって上書きされない限り効力を有します。

- ◆ **ゾーンインフラストラクチャの変更**：ゾーンインフラストラクチャの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。この権限には、[環境設定] タブの [サーバ階層] セクションで次のアクションを実行する権限が含まれます。

- ◆ デバイスにコンテンツを指定する
- ◆ デバイスを階層内で移動する
- ◆ サテライトを設定する
- ◆ サテライトを追加する
- ◆ サテライトを削除する

その他のアクションは [サーバ階層] セクションで実行できます。ただし、これらのアクションの権限を個別に指定する必要があります。これは「ゾーンインフラストラクチャの変更」権限に自動的に含まれます。次のようなイベントがあります。

- ◆ **ZENworks サーバの削除**
- ◆ **デバイスのリフレッシュ**

- ◆ **登録の設定**：デバイス登録の設定に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

[登録] では、管理ゾーン内の管理対象デバイスとしてデバイスを登録するためのさまざまな構成設定を管理できます。これを使用すると、登録キーまたは登録ルールを作成して、デバイスを登録に役立てることもできます。登録キーを使用すると、登録時に、グループおよびフォルダ割り当てをデバイスに適用できます。登録ルールを使用すると、デバイスがルールの条件を満たしている場合に、グループおよびフォルダの割り当てをフォルダに適用できます。

- ◆ **ニュースアラートの削除**：ニュースアラートの削除に必要な権利を管理者に許可、または拒否します。
- ◆ **ニュースアラートの更新**：ニュースアラートの更新に必要な権利を管理者に許可、または拒否します。



## 2.4 管理者の役割の管理

管理ゾーンで管理者の役割を管理するには、次のタスクを実行します。

- ◆ 41 ページのセクション 2.4.1 「管理者の役割について」
- ◆ 43 ページのセクション 2.4.2 「役割の作成」
- ◆ 45 ページのセクション 2.4.3 「役割の割り当て」
- ◆ 50 ページのセクション 2.4.4 「役割の編集」
- ◆ 52 ページのセクション 2.4.5 「役割の名前変更」
- ◆ 52 ページのセクション 2.4.6 「役割の削除」

### 2.4.1 管理者の役割について

役割機能を使用すると、ZENworks 管理者の役割として割り当てることができる権限を指定することができます。特殊な役割を作成し、その役割に管理者を割り当てて、その役割に指定した ZENworks コントロールセンターの権限を許可または拒否することができます。たとえば、ZENworks コントロールセンター権限を持つヘルプデスクの役割を作成して、ヘルプデスクの操作を行わせる場合などです。

次のセクションでは、役割を管理できる、ZENworks コントロールセンターの異なる場所について説明します。

- ◆ 41 ページの「[役割] パネル」
- ◆ 42 ページの「[役割の設定] ページ」
- ◆ 43 ページの「[管理者の設定] ページ」

#### [役割] パネル

[役割] パネルには、次の情報が表示されます。

図 2-1 [役割] パネル

役割			
新規 編集 ▼ 削除			
<input type="checkbox"/> 名前	タイプ	許可	拒否
<input type="checkbox"/> <a href="#">Bundles Role</a>	バンドル権限 管理者権限	M CD MG CDG MGM mf CDF MS GR CD	
<input type="checkbox"/> <a href="#">Devices Role</a>	デバイス権限	M CD MG CDG MGM mf CDF MS AP AB	
1 - 2/2		5 ▼ 項目の表示	

- ◆ **名前**：役割を作成したときに、これを指定しました。役割の名前をここで変更できます。また、役割名をクリックして、その権限の設定を編集することもできます。
- ◆ **種類**：役割が設定されている各 ZENworks コントロールセンター権限の種類ごとに一覧表示されます。
- ◆ **許可**：一覧表示された各種類ごとに、その役割に対して許可されている権限を示す省略形が表示されます。
- ◆ **拒否**：一覧表示された各種類ごとに、その役割に対して拒否される権限を示す省略形が表示されます。

権限が [設定解除] として設定されている場合、省略形は [許可] または [拒否] カラムのどちらにも表示されません。

[役割] パネルで、役割の追加、割り当て、編集、名前変更、および削除を行うことができます。

## 【役割の設定】 ページ

[役割] パネルの [名前] カラムで役割をクリックすると、[役割の設定] ページに次の情報が表示されます。

図 2-2 【役割の設定】 ページ

環境設定 > Bundles Role

全般

オブジェクトタイプ: 役割

GUID: 4637ff3d38c6de7d0c399af6d357c7d6

説明:

権限

追加 編集 削除

<input type="checkbox"/> タイプ	許可	拒否
<input type="checkbox"/> バンドル権限	M CD MG CDG MGM mf CDF MS	
<input type="checkbox"/> 管理者権限	GR CD	

1 - 2 / 2 5 項目の表示

割り当て済みの管理者

追加 編集 削除

<input type="checkbox"/> 管理者	タイプ	コンテキスト
<input type="checkbox"/> Admin1	バンドル権限 管理者権限	/バンドル ゾーン

1 - 1 / 1 5 項目の表示

適用

リセット

- ◆ [全般] パネル: ZENworks コントロールセンターのオブジェクトタイプ (役割)、その GUID、および説明が表示されます。説明は、ここで編集することができます。
- ◆ [権限] パネル: この役割用に設定された ZENworks コントロールセンターの権限が表示されます。このパネルで権限を追加、編集、および削除できます。
- ◆ [割り当て済みの管理者] パネル: この役割に割り当てられている管理者を一覧表示します。このパネルで管理者を追加、編集、または削除できます。

## [管理者の設定] ページ

[役割の設定] ページの [管理者] カラムで管理者をクリックすると、[管理者の設定] ページに次の情報が表示されます。

図 2-3 [管理者の設定] ページ

環境設定 > Admin1

全般

管理者のフルネーム:

☐ スーパー管理者

メモ: [スーパー管理者] チェックボックスがオンになっている場合は、この管理者はすべての権限があるスーパー管理者です。これにより、(許可される、拒否される、または設定されない) 割り当て済みのすべての権限が上書きされます。

割り当てられた権利

追加 編集 削除

☐ タイプ      コンテキスト      許可      拒否

使用できる項目がありません。

メモ: 各管理者には表示権限が与えられ、それらは削除できません。

割り当て済みの役割

追加 編集 削除

<input type="checkbox"/> 役割	タイプ	コンテキスト
<input type="checkbox"/> Bundles Role	バンドル権限 管理者権限	バンドル ゾーン

1 - 1/1

5 ▼ 項目の表示

適用

リセット

- ◆ **[全般] パネル**: 管理者のフルネームが表示され、管理者をスーパー管理者に指定するオプションが表示されます。これにより、その役割に対して何が設定されたにかかわらず、すべての ZENworks コントロールセンターの権限がその管理者に与えられます。
- ◆ **[権限] パネル**: 管理者に割り当てられた役割によって付与または拒否された権限とは関係なく、管理者に割り当てられている権限を一覧表示します。このパネルに一覧表示されている権限は、役割によって割り当てられた権限よりも優先します。このパネルで権限を追加、編集、および削除できます。
- ◆ **[割り当て済みの役割] パネル**: この管理者に割り当てられている役割を一覧表示します。このパネルで役割を追加、編集、および削除できます。

## 2.4.2 役割の作成

役割には、1 つ以上の権限タイプを含めることができます。必要な数だけ役割を設定できます。役割機能を設定するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターの左側のペインで [環境設定] をクリックし、[環境設定] タブをクリックします。次に、[役割] パネルで [新規] をクリックし、[新しい役割を追加] ダイアログボックスを開きます。

**新しい役割を追加** [?] [X]

名前:

説明:

**権限**

追加 ▼ 編集 削除

<input type="checkbox"/>	タイプ	許可	拒否
使用できる項目がありません。			

アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

OK キャンセル

- 2 役割の名前と説明を指定します。
- 3 役割の権限を設定するには、[追加] をクリックし、ドロップダウンリストから権限のタイプを選択します。

**権限**

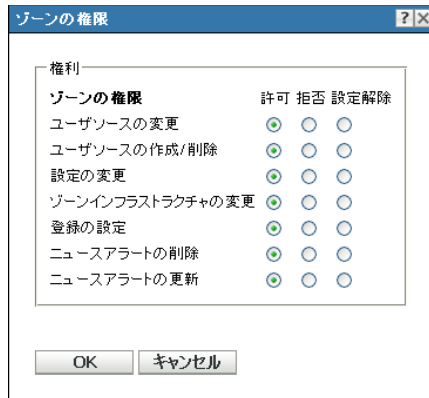
追加 ▼ 編集 削除

<input type="checkbox"/>	タイプ	許可	拒否
<input type="checkbox"/>	LDAPインポート権限		
<input type="checkbox"/>	ZENworksユーザグループ権限		
<input type="checkbox"/>	アカウント情報権限		
<input type="checkbox"/>	イベントリ読みデバイスの権利		
<input type="checkbox"/>	クイックタスク権限		
<input type="checkbox"/>	ゾーンの権限		
<input type="checkbox"/>	デバイス権限		
<input type="checkbox"/>	ドキュメント権限		
<input type="checkbox"/>	バンドル権限		
<input type="checkbox"/>	パッチ管理権限		
<input type="checkbox"/>	ポリシー権限		
<input type="checkbox"/>	ユーザ権限		
<input type="checkbox"/>	ライセンス管理権限		
<input type="checkbox"/>	リモート管理権		
<input type="checkbox"/>	レポート権		
<input type="checkbox"/>	契約管理権限		
<input type="checkbox"/>	展開権限		
<input type="checkbox"/>	検出権限		
<input type="checkbox"/>	管理者権限		

アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

ライセンス状態  
アクティブ

- 4 次のダイアログボックスで、各特権を許可するのか、拒否するのか、または設定しないのかを選択します。



ZENworks で最も制限の厳しい権限セットが適用されます。[拒否] オプションを選択した場合、ZENworks のすべての場所で管理者に対してその権限が許可されていても、その役割が割り当てられているすべての管理者の権限は拒否されます。

[許可] オプションを選択し、ZENworks のどこかで権限が拒否されていない場合、管理者はその役割の権限があります。

[設定解除] オプションを選択すると、管理者は ZENworks のどこかで役割が許可されていない限り、その管理者は役割の権限が許可されません。

- 5 続行するには、[OK] をクリックします。
  - 6 役割に別の権限タイプを追加するには、**ステップ 3** から**ステップ 5** を繰り返します。
  - 7 [OK] をクリックし、[新しい役割を追加] ダイアログボックスを閉じます。
- [役割] パネルに役割が表示されます。これを管理者に割り当てるには、**45 ページのセクション 2.4.3 「役割の割り当て」** を参照してください。

## 2.4.3 役割の割り当て

管理者に役割を割り当てたり、役割に管理者を割り当てたりすることができます。

- ♦ **45 ページの「管理者への役割の割り当て」**
- ♦ **47 ページの「役割への管理者の割り当て」**

### 管理者への役割の割り当て

管理者を含む権限は、ZENworks コントロールセンターの複数の場所で設定できます。管理者を複数の役割に割り当てることができます。

ZENworks コントロールセンターの特定の権限について異なる条件が設定されているために、管理者の権限が競合している場合、[拒否] オプションが管理者に対して設定されていればこれが使用されます。つまり、権限が競合している場合、[拒否] は、[許可] よりも常に優先します。

管理者に役割を割り当てるには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターの左側のペインで [環境設定] をクリックし、[環境設定] タブをクリックします。次に、[管理者] パネルで [名前] カラムの管理者名をクリックし、管理者の設定ページを開きます。

**全般**

管理者のフルネーム:

☐ スーパー管理者

メモ: [スーパー管理者] チェックボックスがオンになっている場合は、この管理者はすべての権限があるスーパー管理者です。これにより、(許可される、拒否される、または設定されない) 割り当て済みのすべての権限が上書きされます。

---

**割り当てられた権利**

追加 編集 削除

<input type="checkbox"/> タイプ	コンテキスト	許可	拒否
使用できる項目がありません。			

メモ: 各管理者には表示権限が与えられ、それらは削除できません。

---

**割り当て済みの役割**

追加 編集 削除

<input type="checkbox"/> 役割	タイプ	コンテキスト
<input type="checkbox"/> <a href="#">Bundles Role</a>	バンドル権限 管理者権限	バンドル ゾーン

1 - 1/1 5 項目の表示

適用 リセット

- 2 [割り当て済みの役割] パネルで、[追加] をクリックして [役割の選択] ダイアログボックスを表示します。

**役割の選択**

役割を選択します

検索対象:

名前フィルタ:  項目のタイプ:

名前	タイプ
<a href="#">Bundles Role</a>	役割
<a href="#">Devices Role</a>	役割

1 - 2/2 25 項目の表示

OK キャンセル

- 3 管理者の役割を参照および選択し、[OK] をクリックして [役割の割り当ての追加] ダイアログボックスを表示します。



[役割の割り当ての追加] ダイアログボックスが表示され、役割に含まれた役割タイプのコンテキストを定義できます。コンテキストを使用すると、与えられた権限を使用できる場所を制限することができます。たとえば、管理者のクイックタスク権限の役割を ZENworks コントロールセンターの [デバイス] フォルダに限定するよう指定できます。

コンテキストは必要ありません。ただし、コンテキストを指定しない場合は、権限を適用できる場所について情報がないので、権限は与えられません。

グローバルな権限は自動的にコンテキストとして Zone を表示します。

- 4 必要な場合は、次の手順に従って、コンテキストのない役割タイプにコンテキストを割り当てます。
- 4a [タイプ] カラムで、役割タイプをクリックします。  
ゾーンコンテキストに指定されている役割は、全般的に使用可能であるためクリックすることはできません。
  - 4b 後続の [コンテキストの選択] ダイアログボックスで、[追加] をクリックして ZENworks コントロールセンターコンテキストを参照します。  
参照する際、[参照] ダイアログボックスでは複数のコンテキストを選択できます。
  - 4c 特定の役割にコンテキストの選択を完了したら、[OK] をクリックして [コンテキストの選択] ダイアログボックスを閉じます。
  - 4d 必要に応じて、**ステップ 4a** から **ステップ 4c** までを繰り返して、役割にコンテキストを割り当てます。
  - 4e 完了したら、[OK] をクリックして [役割の割り当ての追加] ダイアログボックスを閉じます。
- 5 別の管理者を追加するには、**ステップ 2** から **ステップ 4** を繰り返します。
- 6 [適用] をクリックして変更を保存します。

## 役割への管理者の割り当て

権限は、ZENworks コントロールセンターの複数の箇所で設定できます。管理者を複数の役割に割り当てることができます。

ZENworks コントロールセンターの特定の権限について異なる条件が設定されているために、管理者の権限が競合している場合、[拒否] オプションが管理者に対して設定されていればこれが使用されます。つまり、権限が競合している場合、[拒否] は、[許可] よりも常に優先します。

- 1 ZENworks コントロールセンターの左側のペインで [環境設定] をクリックし、[環境設定] タブをクリックします。次に、[役割] パネルで [名前] カラムの役割名をクリックし、役割の設定ページを開きます。

環境設定 > Bundles Role

全般

オブジェクトタイプ: 役割

GUID: 4637ff3d38c6de7d0c399af6d357c7d6

説明:

権限

追加 編集 削除

タイプ	許可	拒否
<input type="checkbox"/> バンドル権限	M CD MG CDG MGM mf CDF MS	
<input type="checkbox"/> 管理者権限	GR CD	

1 - 2/2 5 項目の表示

割り当て済みの管理者

追加 編集 削除

管理者	タイプ	コンテキスト
<input type="checkbox"/> Admin1	バンドル権限 管理者権限	//バンドル ゾーン

1 - 1/1 5 項目の表示

適用 リセット

- 2 [割り当て済みの管理者] パネルで、[追加] をクリックして [管理者の選択] ダイアログボックスを表示します。

管理者の選択

管理者を選択する

検索対象: /管理者

名前フィルタ: 項目のタイプ: すべてのタイプ

名前	タイプ
admin1	管理者
admin2	管理者

1 - 2/2 25 項目の表示

OK キャンセル



- 3 役割に割り当てる管理者を参照および選択し、[OK] をクリックして [役割の割り当ての追加] を表示します。



[役割の割り当ての追加] ダイアログボックスが表示され、役割に含まれた役割タイプのコンテキストを定義できます。コンテキストを使用すると、与えられた権限を使用できる場所を制限することができます。たとえば、管理者のクイックタスク権限の役割を ZENworks コントロールセンターの [デバイス] フォルダに限定するよう指定できます。

コンテキストは必要ありません。ただし、コンテキストを指定しない場合は、権限を適用できる場所について情報がないので、権限は与えられません。

グローバルな権限は自動的にコンテキストとして Zone を表示します。

- 4 必要な場合は、次の手順に従って、コンテキストのない役割タイプにコンテキストを割り当てます。

- 4a [タイプ] カラムで、役割タイプをクリックします。

ゾーンコンテキストに指定されている役割は、全般的に使用可能であるためクリックすることはできません。

- 4b 後続の [コンテキストの選択] ダイアログボックスで、[追加] をクリックして ZENworks コントロールセンターコンテキストを参照します。

参照する際、[参照] ダイアログボックスでは複数のコンテキストを選択できます。

- 4c 特定の役割にコンテキストの選択を完了したら、[OK] をクリックして [コンテキストの選択] ダイアログボックスを閉じます。

- 4d 必要に応じて、ステップ 4a からステップ 4c までを繰り返して、役割にコンテキストを割り当てます。

- 4e 完了したら、[OK] をクリックして [役割の割り当ての追加] ダイアログボックスを閉じます。

- 5 別の役割を追加するには、ステップ 2 からステップ 4 を繰り返します。

- 6 [適用] をクリックして変更を保存します。

## 2.4.4 役割の編集

役割の設定はいつでも編集できます。編集された役割を適用したら、すべての割り当て済みの管理者に対してその変更が有効になります。

- 1 ZENworks コントロールセンターの左側のペインで [環境設定] をクリックし、[環境設定] タブをクリックします。次に、[役割] パネルで [編集] をクリックし、[役割を編集] ダイアログボックスを開きます。

名前: Bundles Role

説明:

**権限**

タイプ	許可	拒否
バンドル権限	M CD MG CDG MGM mf CDF MS	
管理者権限	GR CD	

1 - 2/2 20 項目の表示

アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

OK キャンセル

- 2 説明を編集するには、[説明] フィールドを直接変更します。
- 3 既存の権限を編集するには、次の操作を行います。
  - 3a [権限] パネルで、権限タイプのチェックボックスをオンにし、[編集] をクリックして、次のダイアログボックスを開きます。

**ゾーンの権限**

権利	許可	拒否	設定解除
ユーザソースの変更	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ユーザソースの作成/削除	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
設定の変更	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ゾーンインフラストラクチャの変更	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
登録の設定	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ニュースアラートの削除	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ニュースアラートの更新	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

OK キャンセル

- 3b 各特権に対して、許可するのか、拒否するのか、または設定しないのかを選択します。

ZENworks でもっとも制限の厳しい権限セットが適用されます。[拒否] オプションを選択した場合、ZENworks のすべての場所で管理者に対してその権限が許可されていても、その役割が割り当てられているすべての管理者の権限は拒否されます。

[許可] オプションを選択し、ZENworks のどこかで権限が拒否されていない場合、管理者はその役割の権限があります。

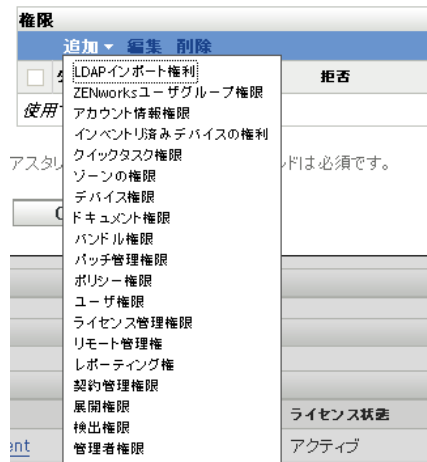
[設定解除] オプションを選択すると、管理者は ZENworks のどこかで役割が許可されていない限り、その管理者は役割の権限が許可されません。

**3c** 続行するには、[OK] をクリックします。

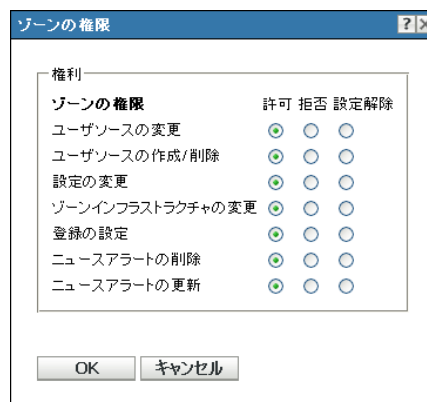
**3d** 別の既存の役割を編集するには、**ステップ 3a** から**ステップ 3c** を繰り返します。

**4 (オプション)** 新しい権限を追加するには、次の手順に従います。

**4a** [権限] パネルで、[追加] をクリックし、ドロップダウンリストから権限タイプの 1 つを選択します。



**4b** [権限] ダイアログボックスで、各特権を許可するのか、拒否するのか、または設定しないのかを選択します。



ZENworks でもっとも制限の厳しい権限セットが適用されます。[拒否] オプションを選択した場合、ZENworks のすべての場所で管理者に対してその権限が許可されていても、その役割が割り当てられているすべての管理者の権限は拒否されます。

[許可] オプションを選択し、ZENworks のどこかで権限が拒否されていない場合、管理者はその役割の権限があります。

[設定解除] オプションを選択すると、管理者は ZENworks のどこかで役割が許可されていない限り、その管理者は役割の権限が許可されません。

**4c** 続行するには、[OK] をクリックします。

**4d** 役割に別の権限タイプを追加するには、**ステップ 4a** から **ステップ 4c** を繰り返します。

**5** ダイアログボックスを閉じ、役割に変更を保存するには、[OK] をクリックします。

## 2.4.5 役割の名前変更

役割名はいつでも変更できます。変更された役割名は、ZENworks コントロールセンターで表示される際に自動的に複製されます。

- 1 ZENworks コントロールセンターの左側のペインで [環境設定] をクリックし、[環境設定] タブをクリックします。次に、[役割] パネルで名前変更される役割のチェックボックスをオンにします。

名前	タイプ	許可	拒否
<input type="checkbox"/> <a href="#">Bundles Role</a>	バンドル 権限 管理者 権限	M CD MG CDG MGM mf CDF MS GR CD	
<input type="checkbox"/> <a href="#">Devices Role</a>	デバイス 権限	M CD MG CDG MGM mf CDF MS AP AB	

- 2 [役割の名前変更] ダイアログボックスを開くには、[編集] > [名前変更] の順にクリックします。
- 3 新しい役割名を指定し、[OK] をクリックします。

## 2.4.6 役割の削除

役割を削除すると、その権限の設定も、その役割が割り当てられたすべての管理者に対して適用されなくなります。

削除した役割は復元できません。再作成する必要があります。

- 1 ZENworks コントロールセンターの左側のペインで [環境設定] をクリックし、[環境設定] タブをクリックします。次に、[役割] パネルで、削除される役割のチェックボックスをオンにします。

名前	タイプ	許可	拒否
<input type="checkbox"/> <a href="#">Bundles Role</a>	バンドル 権限 管理者 権限	M CD MG CDG MGM mf CDF MS GR CD	
<input type="checkbox"/> <a href="#">Devices Role</a>	デバイス 権限	M CD MG CDG MGM mf CDF MS AP AB	

- 2 [削除] をクリックし、役割の削除を確認します。

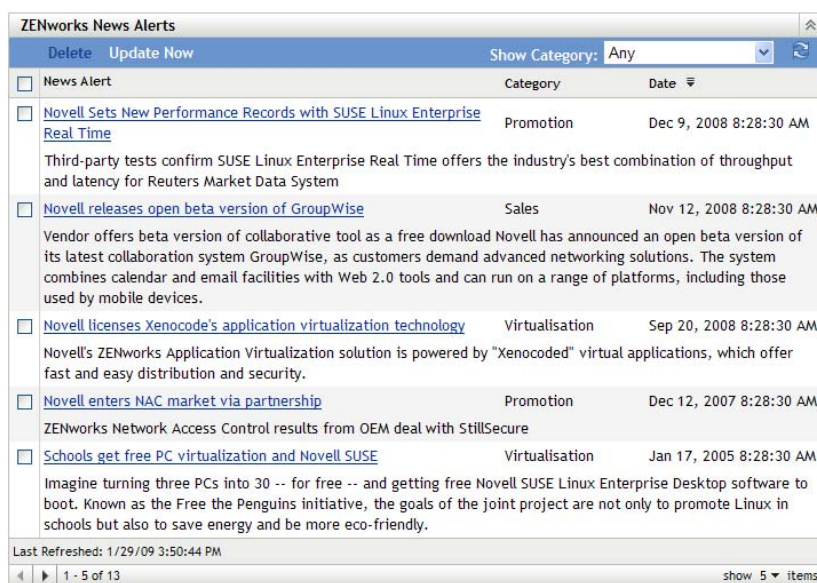
Novell® ZENworks® 10 Configuration Management は、現在の最重要課題、最新ニュース、プロモーションなど、Novell からの情報を ZENworks コントロールセンターのホームページに表示します。

次のセクションでは、ニュースアラートの削除、更新、ソートと、ニュースの表示に関する情報を提供します。サーバでニュースのダウンロードスケジュールを設定しておくこともできます。

- ◆ 53 ページのセクション 3.1 「ZENworks ニュースアラートの管理」
- ◆ 54 ページのセクション 3.2 「ZENworks ニュースの設定」

## 3.1 ZENworks ニュースアラートの管理

図 3-1 ZENworks ニュースアラート



ZENworks News Alerts		
Delete Update Now		Show Category: Any
<input type="checkbox"/> News Alert	Category	Date
<input type="checkbox"/> <a href="#">Novell Sets New Performance Records with SUSE Linux Enterprise Real Time</a> Third-party tests confirm SUSE Linux Enterprise Real Time offers the industry's best combination of throughput and latency for Reuters Market Data System	Promotion	Dec 9, 2008 8:28:30 AM
<input type="checkbox"/> <a href="#">Novell releases open beta version of GroupWise</a> Vendor offers beta version of collaborative tool as a free download Novell has announced an open beta version of its latest collaboration system GroupWise, as customers demand advanced networking solutions. The system combines calendar and email facilities with Web 2.0 tools and can run on a range of platforms, including those used by mobile devices.	Sales	Nov 12, 2008 8:28:30 AM
<input type="checkbox"/> <a href="#">Novell licenses Xenocode's application virtualization technology</a> Novell's ZENworks Application Virtualization solution is powered by "Xenocoded" virtual applications, which offer fast and easy distribution and security.	Virtualisation	Sep 20, 2008 8:28:30 AM
<input type="checkbox"/> <a href="#">Novell enters NAC market via partnership</a> ZENworks Network Access Control results from OEM deal with StillSecure	Promotion	Dec 12, 2007 8:28:30 AM
<input type="checkbox"/> <a href="#">Schools get free PC virtualization and Novell SUSE</a> Imagine turning three PCs into 30 -- for free -- and getting free Novell SUSE Linux Enterprise Desktop software to boot. Known as the Free the Penguins initiative, the goals of the joint project are not only to promote Linux in schools but also to save energy and be more eco-friendly.	Virtualisation	Jan 17, 2005 8:28:30 AM

Last Refreshed: 1/29/09 3:50:44 PM

1 - 5 of 13 show 5 items

ZENworks ニュースアラートを管理するには、次のセクションを参照してください。

- ◆ 53 ページのセクション 3.1.1 「ニュースアラートの削除」
- ◆ 54 ページのセクション 3.1.2 「ニュースアラートの更新」
- ◆ 54 ページのセクション 3.1.3 「選択したカテゴリに基づくニュースアラートの表示」
- ◆ 54 ページのセクション 3.1.4 「ニュースの表示」
- ◆ 54 ページのセクション 3.1.5 「ニュースアラートのソート」

### 3.1.1 ニュースアラートの削除

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[ホーム] をクリックします。

- 2 [ZENworks ニュースアラート] パネルで、削除するニュースアラートの隣にあるチェックボックスをオンにします。
- 3 [削除] をクリックします。

### 3.1.2 ニュースアラートの更新

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[ホーム] をクリックします。
- 2 [ZENworks ニュースアラート] パネルで、[今すぐ更新] をクリックします。  
プライマリサーバがダウンロードした最新の ZENworks ニュース更新が、[ZENworks ニュースアラート] パネルに表示されます。これには少し時間がかかることがあります。

### 3.1.3 選択したカテゴリに基づくニュースアラートの表示

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[ホーム] をクリックします。
- 2 [ZENworks ニュースアラート] パネルで、[Show Category (カテゴリの表示)] の隣のドロップダウンリストからカテゴリを選択すると、そのカテゴリのすべてのニュースアラートが表示されます。

### 3.1.4 ニュースの表示

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[ホーム] をクリックします。
- 2 [ZENworks ニュースアラート] パネルで、新しいブラウザウィンドウに表示するニュースアラートをクリックします。

### 3.1.5 ニュースアラートのソート

デフォルトでは、ニュースアラートは発行日付順にソートされています。タイトルまたはカテゴリごとにアルファベット順でニュースアラートをソートすることもできます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[ホーム] をクリックします。
- 2 [ZENworks ニュースアラート] パネルで、[ニュースアラート] をクリックすると、ニュースアラートがアルファベット順にソートされます。  
または  
[カテゴリ] をクリックして、ニュースアラートをカテゴリ別にソートします。  
または  
[日付] をクリックして、ニュースアラートを日付順にソートします。

## 3.2 ZENworks ニュースの設定

[ZENworks ニュースの設定] ページでは、専用のニュースサーバと ZENworks ニュースをダウンロードするスケジュールを設定できます。デフォルトでは、ニュースは、管理ゾーンのプライマリサーバによって真夜中にダウンロードされます。

図 3-2 ニュースのダウンロードスケジュール

ニュースのダウンロードを設定するには、次のセクションを参照してください。

- ◆ 55 ページのセクション 3.2.1 「ニュース専用サーバ」
- ◆ 56 ページのセクション 3.2.2 「スケジュールタイプ」

### 3.2.1 ニュース専用サーバ

デフォルトでは、管理ゾーン内の利用可能なサーバを使用してニュース更新をダウンロードすることができます。ただし、ニュースのダウンロードを専用で処理するために、1つの ZENworks サーバを指定できます。選択したサーバは、直接、またはプロキシサーバ経由でインターネットにアクセスする必要があります。

詳細情報については、次を参照してください。

- ◆ 55 ページの「ニュース専用サーバの指定」
- ◆ 56 ページの「ニュース専用サーバのクリア」

#### ニュース専用サーバの指定

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの「環境設定」をクリックします。
- 2 「環境設定」タブで、(必要に応じて)「管理ゾーンの設定」セクションを展開し、「インフラ管理」をクリックします。次に、「ZENworks ニュース設定」をクリックし、「ニュースのダウンロードスケジュール」パネルを表示します。
- 3 「ニュース専用サーバ」フィールドで、サーバを参照して選択し、「OK」をクリックします。

サーバの ID は、「ニュース専用サーバ」フィールドに表示されます。

- 4 (条件付き) 最後に保存した専用サーバの設定に戻す必要がある場合は、「リセット」をクリックします。

これにより、たとえば最後に「適用」または「OK」をクリックした場合などの最終的な保存設定に専用サーバがリセットされます。

- 5 「適用」をクリックして、変更を有効にします。

- 6 [OK] をクリックしてページを閉じるか、引き続き **スケジュールタイプ** の設定に進みます。

まだ [適用] をクリックして変更を有効にしていない場合は、[OK] をクリックすると変更が有効になります。[キャンセル] をクリックするとページが閉じますが、まだ適用されていない変更が失われます。

## ニュース専用サーバのクリア

ニュース専用サーバをクリアすると、ニュース更新は管理ゾーンのサーバからランダムに再試行されます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックします。
- 2 [環境設定] タブで、(必要に応じて) [管理ゾーンの設定] セクションを展開し、[インフラ管理] をクリックします。次に、[ZENworks ニュース設定] をクリックし、[ニュースのダウンロードスケジュール] パネルを表示します。
- 3 **X** をクリックして、[ニュース専 サーバ] フィールドから専用サーバを削除します。
- 4 (条件付き) 最後に保存した専用サーバの設定に戻す場合は、[リセット] をクリックします。

これにより、たとえば最後に [適用] または [OK] をクリックした場合などの最終的な保存設定に専用サーバがリセットされます。

- 5 [適用] をクリックして、変更を有効にします。

## 3.2.2 スケジュールタイプ

ニュースのダウンロードスケジュールを設定できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターの左側のペインで [環境設定] をクリックし、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] をクリックしてオプションを展開し、[インフラ管理] をクリックしてオプションを展開し、次に、[ZENworks ニュースの設定] を選択します。
- 3 (条件付き) ニュース更新をスケジュールに従って確認しないようにするには、[スケジュールタイプ] フィールドの下矢印をクリックし、[スケジュールなし] を選択します。次に、[適用] をクリックしてスケジュールの変更を保存し、**ステップ 6** に進んでください。

このオプションを選択した場合、ニュース更新を手動でダウンロードする必要があります。詳細については、**54 ページの「ニュースアラートの更新」**を参照してください。

- 4 (条件付き) ニュース更新を繰り返し確認するスケジュールを設定するには、[スケジュールタイプ] フィールドの下矢印をクリックし、[繰り返し] を選択します。
- 5 次のフィールドに入力します。
  - 5a ニュース更新を確認する曜日のチェックボックスを 1 つ以上オンにします。
  - 5b [開始時刻] ボックスで、確認する時刻を指定します。



**5c** (オプション) [詳細オプション] をクリックし、必要に応じて、次に示すオプションを選択します。

- ◆ **デバイスがスケジュールどおりに実行できない場合はすぐに処理する** : スケジュールに従って確認が行われない場合、可能な限り速やかに最新ニュースを確認します。たとえば、スケジュールされた時間にサーバが停止している場合、サーバがオンラインに戻った直後にニュース更新の確認が発生します。
- ◆ **協定世界時 (UTC) の使用** : 指定するスケジュール時刻がローカルタイムの代わりに UTC で解釈されます。
- ◆ **開始時刻と終了時刻の間でランダムに開始** : ここで指定した時間と **ステップ 5b** で指定した時間との間で、ランダムにニュース更新が確認されます。[終了時刻] フィールドに入力します。
- ◆ **スケジュール実行を次の日付範囲に限定** : 他のオプションに加えて、最新ニュースの確認を行う日付範囲を指定できます。

**5d** (条件付き) 最後に保存したスケジュールに戻す場合は、ページの最下部にある [リセット] をクリックします。

これにより、たとえば最後に [適用] または [OK] をクリックした場合などの最終的な保存状態にすべてのデータがリセットされます。

**5e** 繰り返しスケジュールの設定を終えたら、[適用] をクリックして、スケジュールの変更を保存します。

**6** このページを終了するには、スケジュールの設定を終了したら、[OK] をクリックします。

まだ [適用] をクリックして変更を有効にしていない場合は、[OK] をクリックすると変更が有効になります。[キャンセル] をクリックするとページが閉じますが、まだ適用されていない変更は失われます。



# システム変数

システム変数を使用すると、ZENworks® コントロールセンターに情報を入力するときに、パスや名前などを置き換えるために使用できる変数を定義できます。

システム変数は次の 3 つのレベルで定義できます。

- ◆ **管理ゾーン**：システム変数は、すべてのデバイスフォルダ、デバイス、およびバンドルによって継承されます。
- ◆ **デバイスフォルダ**：システム変数はフォルダまたはそのサブフォルダ内に含まれるすべてのデバイスによって継承されます。
- ◆ **デバイスまたはバンドル**：システム変数は、それが設定されたデバイスまたはバンドルのみに適用されます。

詳細情報については、次を参照してください。

- ◆ 59 ページのセクション 4.1 「システム変数について」
- ◆ 60 ページのセクション 4.2 「システム変数の追加」
- ◆ 61 ページのセクション 4.3 「システム変数の削除」
- ◆ 61 ページのセクション 4.4 「システム変数の編集」
- ◆ 61 ページのセクション 4.5 「システム変数の使用」

## 4.1 システム変数について

次の例では、システム変数の使用について説明します。

- ◆ **アクション内でパスおよびファイル名を指定**：たとえば、INI ファイルの編集アクションを作成する場合、.ini ファイルを指定し、そのファイルに対して実行される変更を設定します。作成プロセスでは、ファイルへのフルパス（たとえば、C:\Program Files\OpenOffice.org 2.0\program\setup.ini）を指定できます。

パスとファイル名全体を指定する代わりに、システム変数を作成できます。たとえば、変数の名前が OpenOffice INI で、値がファイルへのフルパスである場合などです。そうすると、アクションを作成するときにフルパスとファイル名を指定する代わりに、[ファイル名] フィールドに「\${OpenOffice INI}」と入力できます。

フルパスとファイル名を入力するのではなく、システム変数を使用することにより、多くの異なるタイプのアクションでこの特定の .ini ファイルを指定できるという利点があります。たとえば、.ini ファイルの場所が変更されたとします。各アクションでパスを編集する代わりに、システム変数でパスを編集できます。すると、すべてのアクションが正しいパスを指すようになります。

C:\program files の値を持つ ProgramFiles という名前のシステム変数を作成することにより、パスをより一般化できます。今後、パスを指定するときに、「\${ProgramFiles}」と入力し、残りのパスを特定のファイルに指定することができます。たとえば、\${ProgramFiles}\OpenOffice 2.0\program\setup.ini などです。さらに説明すると、C:\program files ディレクトリへのパスが後から変更された場合、パス内のその場所を使用しているバンドルのそれぞれでパスを変更しなくとも、システム変数の中のパスを変更するだけで済みます。

- ◆ **継承した設定を上書き**：フォルダ、デバイス、またはバンドルに対してシステム変数を設定する場合、新規の変数を同じ名前でも、値の違うものを指定して定義することで、継承された変数を上書きできます。たとえば、管理ゾーンで ProgramFiles=C:\ が定義されている場合、デバイスフォルダレベルまたはデバイスまたはバンドルで ProgramFiles=D:\ を定義することにより、それを上書きできます。

バンドルの作成時には、システム変数を使用できます。フォルダの階層のターゲットデバイスオブジェクトの場所によって、値は異なります。

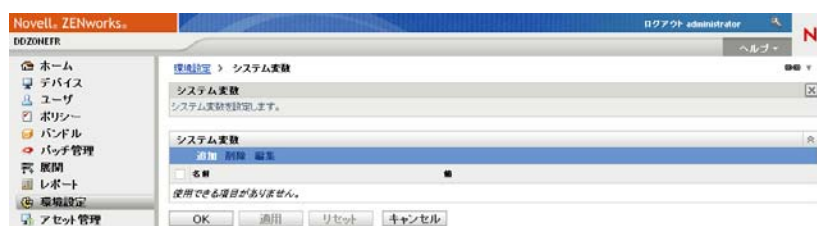
たとえば、経理部が使用する特定のアプリケーションが D:\program files にインストールされている以外、その他すべてのアプリケーションが C:\program files にインストールされているとします。C:\program files を指すように、管理ゾーンレベルで ProgramFiles 変数を定義します。アカウント管理アプリケーション用に、経理課のデバイスが含まれている Accounting Department というデバイスフォルダを作成します。ProgramFiles 変数の値を、経理課のデバイスフォルダレベルの D:\program files に設定できます。デバイスに同じバンドルが適用されると、経理課のデバイスフォルダに含まれているデバイスを除く、すべてのターゲットデバイスで、プログラムファイルディレクトリへのパスは、C:\ ドライブ上になります。これらのデバイスでは、プログラムファイルディレクトリは D:\ ドライブを指します。

## 4.2 システム変数の追加

- 1 ZENworks コントロールセンターで、**[環境設定]** タブをクリックします。



- 2 **[管理ゾーンの設定]** リストで、**[デバイス管理]** をクリックします。
- 3 **[システム変数]** をクリックします。



- 4 **[追加]** をクリックし、変数の名前と値を入力し、**[OK]** をクリックします。

フォルダ、デバイス、またはバンドルに対してシステム変数を設定する場合、新規の変数を同じ名前で、値の違うものを指定して定義することで、継承された変数を上書きできます。たとえば、Var1=c:\ が継承される場合、Var1=d:\ を定義して上書きできます。

変数名に空白を含めることはできません。定義されるレベルにおいて一意である必要があります。たとえば、デバイスレベルで定義された Var1 という名前の変数を 2 つ持つことはできません (1 つが継承されていない限り。この場合、デバイスレベルの変数は継承した変数を上書きします)。

- 5 [適用] をクリックします。

## 4.3 システム変数の削除

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] リストで、[デバイス管理] をクリックします。
- 3 [システム変数] をクリックします。
- 4 変数の隣にあるチェックボックスをオンにします。
- 5 [削除] をクリックします。
- 6 [適用] をクリックします。

## 4.4 システム変数の編集

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] リストで、[デバイス管理] をクリックします。
- 3 [システム変数] をクリックします。
- 4 変数の隣にあるチェックボックスをオンにし、[編集] をクリックします。
- 5 [名前] フィールドおよび [値] フィールドを必要に応じて変更し、[OK] をクリックします。
- 6 [適用] をクリックします。

## 4.5 システム変数の使用

- 1 使用する構文は次のとおりです。  
`${VAR_NAME}`  
`VAR_NAME` を変数名で置き換えます。



# 資格情報ポータル

[アカウント情報ポータル] により、Novell® ZENworks® 10 Configuration Management のアクションや、特定のリソースにアクセスするための認証を必要とするタスクによって使用されるアカウント情報が保存されます。

たとえば、認証が必要な共有ネットワークのイメージングリポジトリに保存されているイメージファイルを使用してサードパーティイメージングバンドルを作成する場合は、リポジトリ用のログイン名とパスワードを含むアカウント情報をアカウント情報ポータルに追加できます。サードパーティイメージングバンドルの作成時に、アカウント情報名を指定してリポジトリにアクセスできます。

ZENworks コントロールセンターまたは zman コマンドラインユーティリティを使用して、アカウント情報を管理できます。このセクションでは、ZENworks コントロールセンターを使用してアカウント情報を管理する方法について説明します。zman コマンドラインユーティリティを使用する場合は、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「アカウント情報のコマンド」を参照してください。

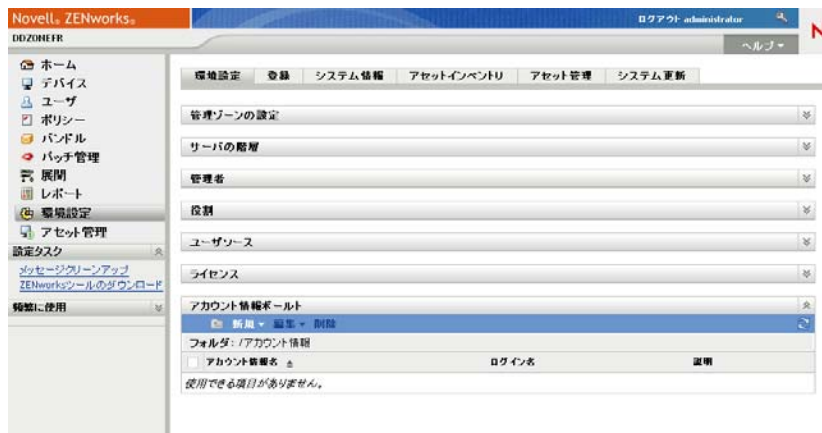
現在、サードパーティのイメージングではアカウント情報ポータルに保存されているアカウント情報を使用します。

次のセクションには、アカウント情報を管理するために役立つ情報が含まれています。

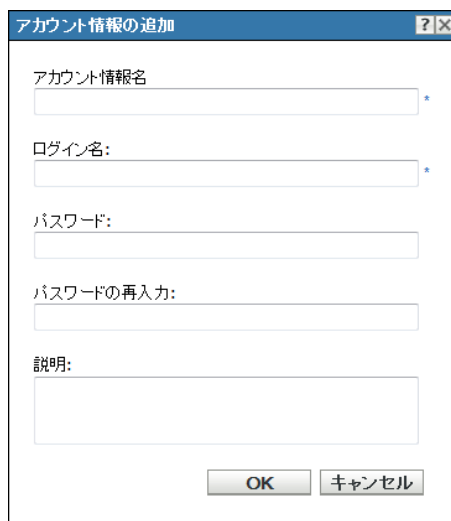
- ◆ 63 ページのセクション 5.1 「アカウント情報の追加」
- ◆ 64 ページのセクション 5.2 「アカウント情報用のフォルダの作成」
- ◆ 65 ページのセクション 5.3 「アカウント情報権限の割り当て」
- ◆ 66 ページのセクション 5.4 「アカウント情報の編集」
- ◆ 66 ページのセクション 5.5 「アカウント情報の名前変更」
- ◆ 66 ページのセクション 5.6 「別のフォルダへのアカウント情報の移動」
- ◆ 66 ページのセクション 5.7 「アカウント情報の削除」

## 5.1 アカウント情報の追加

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。



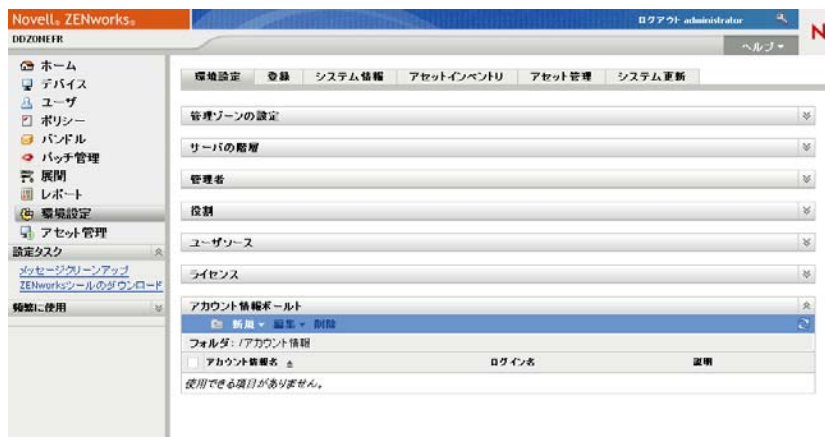
- 2 [アカウント情報ポータル] パネルで、[新規] > [アカウント情報] の順にクリックし、[アカウント情報の追加] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 次のフィールドに情報を入力します。  
ヘルプを表示する場合、[ヘルプ] ボタンをクリックします。

## 5.2 アカウント情報用のフォルダの作成

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。



- 2 [アカウント情報ポータル] パネルで、[新規] > [フォルダ] の順にクリックし、[新規フォルダ] ダイアログボックスを表示します。



新規フォルダ

名前: \*

フォルダ: \*

説明:

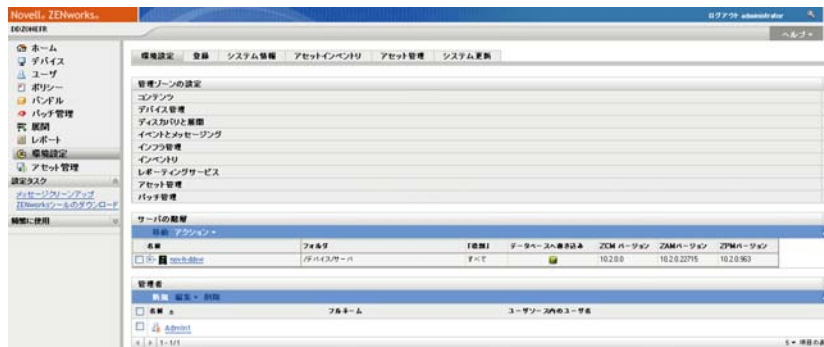
\* アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

OK キャンセル

- 3 [名前] フィールドに、フォルダの一意の名前を指定します。  
フォルダは、それを作成しているフォルダの中に既に存在する既存のフォルダや資格情報と同じ名前にすることはできません。
- 4 [フォルダ] フィールドで、 をクリックして、新しいフォルダの作成先となるフォルダを参照して選択します。
- 5 必要に応じて、新しいフォルダの説明を入力します。
- 6 [OK] をクリックしてフォルダを作成します。

## 5.3 アカウント情報権限の割り当て

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。



- 2 [管理者] セクションで、権限を変更する管理者の下線付きのリンクをクリックします。
- 3 [割り当てられた権利] セクションで、[追加] > [アカウント情報権限] の順にクリックします。
- 4 [追加] をクリックしてアカウント情報を含むフォルダを選択し、次に、それらのフォルダに関連付けられている権限を変更します。  
ヘルプを表示する場合、[ヘルプ] ボタンをクリックします。


## 5.4 アカウント情報の編集

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [アカウント情報ボールド] パネルで、アカウント情報の隣にあるチェックボックスをオンにします。
- 3 [編集] をクリックします。
- 4 フィールドを編集します。  
ヘルプを表示する場合、[ヘルプ] ボタンをクリックします。
- 5 [OK] をクリックします。

## 5.5 アカウント情報の名前変更

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [アカウント情報ボールド] パネルで、アカウント情報の隣にあるチェックボックスをオンにします。
- 3 [編集] > [名前変更] の順にクリックします。
- 4 資格情報の新しい名前を入力します。
- 5 [OK] をクリックします。

## 5.6 別のフォルダへのアカウント情報の移動

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [アカウント情報ボールド] パネルで、アカウント情報の隣にあるチェックボックスをオンにします。
- 3 [編集] > [移動] の順にクリックします。
- 4 [フォルダ] フィールドで、 をクリックして、資格情報の移動先となるフォルダを参照して選択します。
- 5 [OK] をクリックします。

## 5.7 アカウント情報の削除

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [アカウント情報ボールド] パネルで、アカウント情報の隣にあるチェックボックスをオンにします。
- 3 [削除] をクリックします。

# ZENworks サーバと ZENworks Adaptive Agent



このセクションでは、ZENworks<sup>®</sup> サーバおよび ZENworks Adaptive Agent の設定に関する情報を提供します。

- ◆ 69 ページの第 6 章「ZENworks サーバ」
- ◆ 77 ページの第 7 章「サテライト」
- ◆ 95 ページの第 8 章「サーバの階層」
- ◆ 99 ページの第 9 章「ZENworks Adaptive Agent」
- ◆ 113 ページの第 10 章「ZENworks サーバおよび認証局のバックアップと復元」
- ◆ 117 ページの第 11 章「障害復旧」



ZENworks® サーバは、ZENworks システムのバックボーンです。ZENworks サーバは、管理対象デバイス上の ZENworks Adaptive Agent との通信によって、管理タスクを実行します。デバイスに提供されるコンテンツおよびイメージングデバイスで使用されるイメージが保存されます。ZENworks サーバは、他の ZENworks サーバおよび ZENworks サテライトとの通信により、管理ゾーン全体に渡って、コンテンツ、ソフトウェア / ハードウェアインベントリ、およびメッセージの複製や受信を行います。

次のセクションでは、ZENworks サーバに関する追加詳細について説明します。

- ◆ 69 ページのセクション 6.1 「Windows サーバ上の ZENworks サービス」
- ◆ 71 ページのセクション 6.2 「Linux サーバ上の ZENworks サービス」
- ◆ 73 ページのセクション 6.3 「ZENworks サーバへの追加のアクセスの設定」
- ◆ 74 ページのセクション 6.4 「サーバにインストールされている ZENworks ソフトウェアバージョンの確認」
- ◆ 75 ページのセクション 6.5 「ZENworks サーバのアンインストール」
- ◆ 75 ページのセクション 6.6 「ZENworks プライマリサーバの削除」
- ◆ 75 ページのセクション 6.7 「ZENworks サーバレポート」

## 6.1 Windows サーバ上の ZENworks サービス

Windows\* サーバで実行される ZENworks サーバには、次の表に示すサービスが含まれています。サービスはすべて、ZENworks 10 製品 (Configuration Management、Asset Management、および Patch Management) のライセンスリングやアクティベーションの状況に関わらず、常にインストールされます。使用する製品に必要なないサービスは、無効化されます。

表 6-1 Windows 上の ZENworks サービス

サービス	サービス名	説明
プロキシ DHCP サービス	novell-proxydhcp	標準 DHCP サーバとともに使用して、Novell® TFTP サーバの IP アドレスを、PXE が有効なデバイスに通知します。
TFTP サービス	novell-tftp	イメージングタスクの実行に必要なファイルを要求するために、PXE が有効なデバイスによって使用されます。
ZENworks エージェントサービス	zenworkswindowsservice novell-zmd	管理対象デバイスとしてサーバを有効にするために使用します。
ZENworks データストア	dbsrv10	ZENworks オブジェクトおよびリソースの保存に使用される、組み込みデータベースです。

サービス	サービス名	説明
ZENworks ローダ	ZENLoader	ZENworks サーバタスクを実行する Java* サービスをロードおよび制御するために使用されます。
ZENworks Preboot ポリシーサービス	novell-zmgprebootpolicy	割り当てられた Preboot ポリシーおよびプレブートワークを確認するために、PXE が有効なデバイスによって使用されます。
ZENworks Preboot サービス	novell-pbserv	イメージングサービスをデバイスに提供するために使用されます。これには、イメージファイルの送受信、割り当てられたプレブートバンドルの検出、マルチキャストイメージングのセッションマスタとしての機能などがあります。
ZENworks Remote Management(ZENworks リモート管理)	nzrwinvc	サーバのリモート管理を有効にするために使用されます。
ZENworks サーバ	zenserver	ZENworks エージェントと通信するために使用されます。
ZENworks Services Monitor	zenwatch	ZENworks サービスのステータスを監視するために使用されます。
ZENworks Imaging Agent	ziswin	(管理対象デバイスとして) サーバにイメージセーフデータを保存および復元するために使用されます。ZENworks エージェントによって起動された場合のみ実行されます。

ZENworks サーバの \novell\zenworks\bin ディレクトリにあるサービスです。ZENworks サービスの制御の詳細については、次のセクションを参照してください。

- ♦ 70 ページのセクション 6.1.1 「ZENworks サービスのステータスの確認」
- ♦ 70 ページのセクション 6.1.2 「ZENworks サービスの開始」
- ♦ 71 ページのセクション 6.1.3 「ZENworks サービスの停止」

## 6.1.1 ZENworks サービスのステータスの確認

- 1 サーバで [スタート] をクリックし、[管理ツール] > [サービス] の順に選択します。次に、「69 ページの 図表 6-1」に一覧表示されているサービスのステータスを確認します。

## 6.1.2 ZENworks サービスの開始

- 1 サーバで [スタート] をクリックし、[管理ツール] > [サービス] の順に選択します。

- 2 開始するサービスを選択し (69 ページの 図表 6-1 を参照)、[サービスの開始] をクリックします。

ZENworks サービスは ZENworks サーバの起動時に開始するので、通常は再起動する必要はありません。サービスを頻繁に再起動する必要がある場合は、サーバのハードウェアが ZENworks の最小要件を満たしていることを確認してください。サーバの RAM が不足すると、ZENworks サービスの実行を続行できない場合があります。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド』の「**プライマリサーバ要件**」を参照してください。

### 6.1.3 ZENworks サービスの停止

- 1 サーバ上で、[開始] をクリックし、次に、[管理ツール] > [サービス] の順にクリックします。
- 2 中止するサービスを選択し (69 ページの 図表 6-1 を参照)、[サービスの中止] をクリックします。

## 6.2 Linux サーバ上の ZENworks サービス

Linux サーバで実行される ZENworks サーバには、次の表に示すサービスが含まれています。サービスはすべて、ZENworks 10 製品 (Configuration Management、Asset Management、および Patch Management) のライセンスリングやアクティベーションの状況に関わらず、常にインストールされます。使用する製品に必要なのないサービスは、無効化されます。

表 6-2 Linux 上の ZENworks サービス

サービス	サービス名	説明
プロキシ DHCP サービス	novell-proxydhcp	標準 DHCP サーバとともに使用して、Novell TFTP サーバの IP アドレスを、PXE が有効なデバイスに通知します。
TFTP サービス	novell-tftp	イメージングタスクの実行に必要なファイルを要求するために、PXE が有効なデバイスによって使用されます。
ZENworks エージェントサービス	novell-zmd	管理対象デバイスとしてサーバを有効にするために使用します。
ZENworks データストア	sybase-asa	組み込みの SQL Anywhere* データベースを実行するために使用されます。
ZENworks ローダ	novell-zenloader	ZENworks サーバタスクを実行する Java サービスのロードおよび制御に使用されます。
ZENworks Preboot ポリシーサービス	novell-zmgprebootpolicy	割り当てられた Preboot ポリシーおよびプレブートワークを確認するために、PXE が有効なデバイスによって使用されます。

サービス	サービス名	説明
ZENworks Preboot サービス	novell-pbserv	イメージングサービスをデバイスに提供するために使用されます。これには、イメージファイルの送受信、割り当てられたプレブートバンドルの検出、マルチキャストイメージングのセッションマスタとしての機能などがあります。
ZENworks サーバ	novell-zenserver	ZENworks エージェントと通信するために使用されます。
ZENworks Services Monitor	novell-zenmnt	ZENworks サービスのステータスを監視するために使用されます。
ZENworks Imaging Agent	novell-zenagent	(管理対象デバイスとして)サーバにイメージセーフデータを保存および復元するために使用されます。ZENworks エージェントによって起動された場合のみ実行されます。

/etc/init.d ディレクトリにあるサービスです。ZENworks サービスの制御の詳細については、次のセクションを参照してください。

- 72 ページのセクション 6.2.1 「ZENworks サービスのステータスの確認」
- 72 ページのセクション 6.2.2 「ZENworks サービスの開始」
- 73 ページのセクション 6.2.3 「ZENworks サービスの停止」
- 73 ページのセクション 6.2.4 「ZENworks サービスの再起動」

## 6.2.1 ZENworks サービスのステータスの確認

- 1 サーバのコマンドプロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
/etc/init.d/servicename status
```

*servicename* を、「71 ページの 図表 6-2」に一覧表示されているサービスの名前に置換します。

## 6.2.2 ZENworks サービスの開始

- 1 サーバのコマンドプロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
/etc/init.d/servicename start
```

*servicename* を、「71 ページの 図表 6-2」に一覧表示されているサービスの名前に置換します。

- 2 すべてのサービスを開始するには、次のコマンドを使用します。

```
/opt/novell/zenworks/bin/novell-zenworks-configure Start
```

ZENworks サービスは ZENworks サーバの起動時に開始するので、通常は再起動する必要はありません。サービスを頻繁に再起動する必要がある場合は、サーバのハードウェアが ZENworks の最小要件を満たしていることを確認してください。サーバの RAM が不足すると、ZENworks サービスの実行を続行できない場合があります。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド』の「**ブライマリサーバ要件**」を参照してください。



### 6.2.3 ZENworks サービスの停止

サービスを中止するには、次のコマンドを使用します。

```
/etc/init.d/servicename stop
```

*servicename* を、「71 ページの 図表 6-2」に一覧表示されているサービスの名前に置換します。

### 6.2.4 ZENworks サービスの再起動

すでに実行されているサービスを再起動するには、次のコマンド'を使用します。

```
/etc/init.d/servicename restart
```

*servicename* を、「71 ページの 図表 6-2」に一覧表示されているサービスの名前に置換します。

## 6.3 ZENworks サーバへの追加のアクセスの設定

ファイアウォールの外側にあるデバイス、またはプロキシサーバを使用しているデバイスなど、ZENworks サーバの IP アドレスまたは DNS 名に対して認証できない管理対象デバイスがある場合、サーバにアクセスするためのデバイスが使用できる ZENworks サーバ用に、追加の IP アドレスまたは DNS 名を指定できます。

- 73 ページのセクション 6.3.1 「検出不可能な IP アドレスの条件のアドレス指定」
- 74 ページのセクション 6.3.2 「検出不可能な DNS 名の条件のアドレス指定」

### 6.3.1 検出不可能な IP アドレスの条件のアドレス指定

[検出不可能 IP アドレス] パネルでは、ZENworks サーバの ID アドレスをデバイスが検出できない場合にサーバにアクセスするのに使用できるアドレスを指定できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [デバイス] をクリックし、[デバイス] パネルで [サーバ] を選択し、サーバオブジェクトを選択し、[設定] タブをクリックします。次に、[インフラ管理] をクリックし、[検出不可能 IP アドレス] を選択します。
- 2 次のフィールドに情報を入力します。  
**IP アドレス:** 標準のドット付き 10 進数表記法です。たとえば、「123.45.167.100」と入力します。
- 3 [追加] をクリックしてアドレスをリストに追加します。
- 4 IP アドレスを追加するには、**ステップ 1** から **ステップ 3** を繰り返します。
- 5 必要に応じて、[上へ移動] および [下へ移動] ボタンを使用して、リストを並べ替えます。  
IP アドレスは、リストの順番に従って上から下に使用されます。
- 6 アドレスの追加が終了したら、[適用] または [OK] をクリックしてアドレスを保存します。

### 6.3.2 検出不可能な DNS 名の条件のアドレス指定

[追加の DNS 名] パネルでは、サーバの DNS 名がデバイスによって検出されない場合に、ZENworks サーバにアクセスするために使用される追加の名前を指定できます。

このパネルで追加された DNS 名は、すべての管理対象デバイスに配布され、デバイスがサーバに接続するのに使用されます。

DNS 名を追加するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [デバイス] をクリックし、[デバイス] パネルで [サーバ] を選択し、サーバオブジェクトを選択し、[設定] タブをクリックします。次に、[インフラ管理] をクリックし、[追加の DNS 名] を選択します。
- 2 [サーバ DNS 名のリスト] フィールドには、デバイスがアクセスできるサーバ (プロキシサーバなど) の IP アドレスに対する DNS 名を指定します。
- 3 [追加] をクリックして DNS 名をリストに追加します。
- 4 必要に応じて、[上へ移動] および [下へ移動] ボタンを使用して、リストを並べ替えます。

DNS 名は、リストの順番に従って上から下に使用されます。

- 5 アドレスの追加が終了したら、[適用] または [OK] をクリックしてアドレスを保存します。

## 6.4 サーバにインストールされている ZENworks ソフトウェアバージョンの確認

アップグレードとトラブルシューティングのために、ZENworks コントロールセンターを使用して管理ゾーンの ZENworks プライマリサーバ上で稼働している ZENworks Configuration Management (ZCM)、ZENworks Asset Management (ZAM)、および ZENworks Patch Management (ZPM) のバージョンを確認します。

管理ゾーン内の特定のプライマリサーバの ZENworks バージョン情報を表示するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 [サーバ] をクリックし、該当するプライマリサーバをクリックします。
- 3 *ZENworks Configuration Management* バージョン、*ZENworks Asset Management* バージョン、および *ZENworks Patch Management* バージョン行のバージョン番号を確認します。
- 4 (オプション) *ZENworks Configuration Management* バージョンの横の下線付きのバージョン番号をクリックして、インストール済みパッケージのリストを確認します。

管理ゾーン内のすべてのプライマリサーバの ZENworks バージョン情報を表示するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [サーバの階層] パネルで、各サーバの [ZCM バージョン]、[ZAM バージョン]、および [ZPM バージョン] の各カラムにあるバージョン情報を確認します。

## 6.5 ZENworks サーバのアンインストール

ZENworks サーバのアンインストールの手順については、『*ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド*』の「*ZENworks 10 Configuration Management SP2 のアンインストール*」を参照してください。

## 6.6 ZENworks プライマリサーバの削除

アンインストールプログラムの実行で ZENworks プライマリサーバをアンインストールできない場合は、[サーバの階層] パネルから ZENworks プライマリサーバを削除できます。

---

**警告:** ZENworks プライマリサーバを ZENworks システムから削除する場合は、最大限の注意が必要です。

ZENworks プライマリサーバを削除すると元に戻せません。プライマリサーバを廃止する場合は、サーバからアンインストールプログラムを実行する方法が推奨されます。プライマリサーバの削除は、アンインストールプログラムを実行できない場合 (たとえば、プライマリサーバのハードドライブに障害が発生した場合など) に限定されます。アンインストールプログラムの実行の詳細については、『*ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド*』の「*ZENworks 10 Configuration Management SP2 のアンインストール*」を参照してください。

内部 ZENworks Sybase データベースをホストするプライマリサーバを削除すると、ZENworks 管理ゾーン全体が操作不能になります。

ZENworks サーバを削除すると、その ZENworks サーバは管理ゾーンから完全に削除されます。回復はできません。

---

管理対象のサーバ/ワークステーションデバイスは、[デバイス] タブのオプションを使用して削除できます (『*ZENworks 10 Configuration Management 検出、展開、リタイアリファレンス*』の「*ZENworks システムからのデバイスの削除*」参照)

ZENworks プライマリサーバを管理ゾーンから削除するには、次の手順に従います。

- 1 ZCC では、[設定] タブをクリックします。
- 2 [サーバの階層] セクションで、[プライマリサーバ] の横のチェックボックスを選択します (複数デバイスの選択が可能)。
- 3 [アクション] > [ZENworks サーバの削除] の順にクリックします。

## 6.7 ZENworks サーバレポート

事前定義されたレポートを見るには、ZENworks レポーティングサーバをインストールしておく必要があります。ZENworks レポーティングサーバのインストール方法については、『*ZENworks 10 Configuration Management レポーティングサーバインストールガイド*』を参照してください。

ZENworks サーバの事前定義レポートを表示するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[レポート] タブをクリックします。

- 2 [ZENworks Server Reporting(ZENworks サーバレポートリング)] パネルで、  
[ZENworks レポートリングサーバ InfoView] をクリックして ZENworks レポート  
リングサーバ InfoView を起動します。
- 3 [Novell ZENworks Reports] フォルダ > [Predefined Reports] > [ZENworks System]  
フォルダの順にナビゲートします。

ZENworks サーバに関して、次の事前定義レポートがあります。

**ZENworks サーバ統計情報：**データベース、ディスク容量、CPU 使用率、接続のさまざま  
な詳細 (1 日あたりの総接続数および 1 日あたりの平均接続数を含む) などのサーバ統計  
情報を表示します。

レポートの作成と管理の詳細は、『ZENworks 10 Configuration Management システムレポ  
ーティングリファレンス』を参照してください。

# サテライト

サテライトは、ZENworks® プライマリサーバが通常実行する特定の役割を実行できる管理対象デバイスです。サテライトは任意の管理対象 Windows デバイス (サーバまたはワークステーション) として使用できますが、プライマリサーバとしては使用できません。サテライトは、ZENworks Agent for Linux がインストールされている管理されていない Linux デバイス (サーバまたはワークステーション) として使用することもできます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド』の「サテライト要件」および『ZENworks 10 Configuration Management 検出、展開、およびリタイアリファレンス』の「エージェントの Linux サテライトへの展開」を参照してください。

サテライトを設定する際には、サテライトが実行する役割を指定します (イメージング、コレクション、またはコンテンツ) (コレクションまたはコンテンツ)。サテライトは、ZENworks 10 Configuration Management フレームワークのスナップインとなるサードパーティ製品によって追加される役割を実行することもできます。

たとえば、低速 WAN リンクのロケーションでサテライトを作成し、プライマリサーバから新しく作成されたサテライトに 1 つまたは複数の役割をオフロードする最近接サーバルールを作成して、ZENworks システムのパフォーマンスを向上させることができます。

---

**注:** ZENworks Adaptive Agent を使用しているエンドユーザの観点から見たサテライトの詳細については、『Novell ZENworks 10 Configuration Management Adaptive Agent ガイド』の「サテライト役割」を参照してください。

---

詳細情報については、次を参照してください。

- ◆ 77 ページのセクション 7.1 「サテライトの役割について」
- ◆ 79 ページのセクション 7.2 「サーバ階層へのサテライトの追加」
- ◆ 82 ページのセクション 7.3 「サーバ階層からのサテライトの削除」
- ◆ 83 ページのセクション 7.4 「サーバ階層からのサテライトの設定」
- ◆ 86 ページのセクション 7.5 「デバイスビューからのサテライトの設定」
- ◆ 89 ページのセクション 7.6 「ホストするコンテンツの指定」
- ◆ 90 ページのセクション 7.7 「1 つのプライマリサーバから別なプライマリサーバへのサテライトの移動」
- ◆ 90 ページのセクション 7.8 「コンテンツ役割のサテライトへの別なリポジトリの指定 (Windows のみ)」
- ◆ 92 ページのセクション 7.9 「ZENworks サーバの削除」
- ◆ 92 ページのセクション 7.10 「サテライトの更新」
- ◆ 92 ページのセクション 7.11 「サテライトのトラブルシューティング」

## 7.1 サテライトの役割について

- ◆ 78 ページのセクション 7.1.1 「イメージング役割の理解」
- ◆ 78 ページのセクション 7.1.2 「コレクション役割の理解」
- ◆ 79 ページのセクション 7.1.3 「コンテンツ役割の理解」

### 7.1.1 イメージング役割の理解

イメージングの役割は、イメージングサービスをインストールし、そのイメージングの役割をデバイスに追加します。この役割により、イメージングサーバとしてデバイスを使用して、ユニキャストイメージングまたはマルチキャストイメージングを使用したサブネット内でのイメージの取得およびイメージの適用などのすべてのイメージング操作を実行できます。

イメージングの役割は、プライマリサーバの負荷分散を行ったり、クロスサブネットイメージングをサポートするために使用できます。サテライトは、イメージング操作のために ZENworks コントロールセンターを介して自動モードでプライマリサーバと通信します。

管理対象デバイス上では、イメージングモジュールは、管理対象デバイスがイメージングの役割を持つサテライトに昇格されるか、イメージングの役割が既存のサテライトに追加されるまで無効です。これにより、デバイス上のイメージングサービスが有効になり、自動モードおよび保守モードでイメージング操作を実行できるようになります。デバイスにインストールされたイメージングサービスには、TFTP、Preboot ポリシー、pbserv、およびプロキシ DHCP が含まれます。プロキシ DHCP を除くすべてのサービスが、自動的に開始されます。ZENworks コントロールセンターから、プロキシ DHCP サービスを手動で開始または中止できます。

### 7.1.2 コレクション役割の理解

ZENworks データベースをホストしている ZENworks プライマリサーバへのトラフィックを最小化して、デバイスのグループの情報のロールアップアクセスを向上させるには、デバイスのコレクション役割を有効にします。たとえば、ネットワークセグメントの外側にあるプライマリサーバに情報をロールアップしているデバイスがある場合、そのセグメント内の他のデバイスからの情報を受諾して、ネットワークセグメント内のデバイスのコレクション役割を有効にすることにより、ネットワークトラフィックを最小化できます。そのコレクション役割デバイスは、情報をロールアップするそのセグメントからプライマリサーバへの、唯一のデバイスになります。

管理対象デバイスのコレクション役割を有効にできます。コレクション役割は、ZENworks Adaptive Agent とともにインストールされるコレクション役割モジュールのみを必要とします。管理対象デバイスでコレクション役割を有効にするまでは、モジュールは停止しています。

デバイスでコレクション役割を有効にすると、任意の ZENworks プライマリサーバをその親サーバに割り当てることができます。コレクション役割デバイスは、その親プライマリサーバにのみ情報をアップロードします。親プライマリサーバが別のプライマリサーバの子でない場合、データベースに情報が直接書き込まれます。親プライマリサーバが別のプライマリサーバの子である場合、その親プライマリサーバに情報が渡され、データベースに情報が書き込まれます。

ロールアップされる情報には、デバイスインベントリ情報、メッセージ(エラー、警告、情報など)、およびポリシーとバンドルのステータスが含まれます。編集可能なロールアップスケジュールがあります。

### 7.1.3 コンテンツ役割の理解

コンテンツは、バンドル、ポリシー、システム更新 (ZENworks サーバおよび Adaptive Agent)、およびパッチで構成されます。

別のプライマリサーバを作成することなく一組のデバイスに対してコンテンツアクセスを向上させるには、デバイスに対してコンテンツ役割を作成できます。たとえば、ネットワークセグメントの外側にあるプライマリサーバにアクセスするデバイスがある場合、これらのデバイスにサービスを提供するネットワークセグメント内のデバイスでコンテンツ役割を作成できます。

コンテンツ役割は、プライマリサーバと同じコンテンツ配信サービスを提供しますが、ZENworks Adaptive Agent とともにインストールされるコンテンツ役割のモジュールのみが必要です。管理対象デバイスでそれを有効にするまでは、モジュールは停止しています。

デバイスのコンテンツ役割を有効にするとき、プライマリサーバをその親コンテンツサーバに割り当てます。コンテンツ役割のサテライトは、その親プライマリサーバからのみコンテンツをダウンロードします。したがって、コンテンツ役割サテライト上でホストされるコンテンツは、すべて、その親プライマリサーバでもホストされる必要があります。

## 7.2 サーバ階層へのサテライトの追加

次の手順を完了すると、[サーバの階層] リストにデバイスを追加し、それらのデバイスにサテライト役割を設定できます。

**注:** Linux サテライトを作成する前に、デバイスに ZENworks Agent をインストールし、サーバの階層リストに追加してサテライト役割を設定しておく必要があります。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management 検出、展開、およびリタイアリファレンス』の「エージェントの Linux サテライトへの展開」を参照してください。Linux デバイスに ZENworks Agent をインストールした後、このセクションに記載の手順を実行します。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [サーバの階層] パネルで、目的のプライマリサーバの隣にあるチェックボックスをオンにします。

リストに表示されているプライマリサーバの下に、任意のネスティングの深さにサテライトを追加できます。別のサテライトの子にするためにサテライトを追加することはできません。プライマリサーバのみがサテライトの親となることができます。



- 3 [アクション] > [サテライトサーバの追加] の順にクリックします。

サテライトサーバの追加

親プライマリサーバ: \*

/デバイス/サーバ/nov-fr-ddsvr

推進するデバイス: \*

サテライトサーバの役割

☐ イメージング [設定](#)

☐ コレクション [設定](#)

☐ コンテンツ

コンテンツ複製スケジュール

0 日 0 時間 5 分

コンテンツまたはコレクションHTTP要求(あるいはその両方)のポート: \*

80

OK キャンセル

4 [推進するデバイス] フィールドで、サテライトとなるデバイス (サーバまたはワークステーション) を参照して、選択します。

5 [サテライトサーバの役割] セクションで、目的の役割を設定します。

すべての役割に対して [設定] リンクが無効になっている場合、その役割はこのデバイスで無効になります。たとえば、サテライトの親プライマリサーバがコレクション役割を持っていない場合、サテライトのコレクション役割は無効化し、設定できません。管理対象デバイスが実行する設定不可能な役割もダイアログボックスに一覧表示されますが、編集はできません。

**5a** (オプション) [イメージング] の隣にあるチェックボックスをオンにし、[設定] をクリックします。

このオプションを選択すると、イメージング サービスがインストールされ、イメージングの役割がデバイスに追加されます。この役割によって、デバイスを、イメージの取得、イメージの適用、およびイメージのマルチキャストなどのすべてのイメージング操作を実行するイメージングサーバとして使用できます。

次のフィールドに入力します：

**PXE サービスの有効化：**このオプションは、イメージングサーバの役割が割り当てられているデバイスでプロキシ DHCP サービスを自動的に開始します。

デバイスでプロキシ DHCP サービスが開始されているかどうか確認するには、デバイスのメッセージログをレビューします ([デバイス] タブ、[ワークステーション] フォルダを選択し、ワークステーションの [概要]、[メッセージログ] パネルをクリックします)。

**イメージング役割が削除されると、サーバからイメージファイルを削除します：**

このオプションは、イメージング役割が削除された場合、デバイスに保存されている ZENworks イメージファイルを削除します。

ローカルファイルの重大度レベルおよびシステムログが [ローカルデバイスのログ] ページで [情報とそれ以上] に設定されている場合、メッセージは [ローカルデバイスのログ] ページにログされます。 ([環境設定] タブ、[デバイス管理]、[ローカルデバイスのログ] )。

このオプションは、イメージングサーバの役割をデバイスから削除する場合のみ使用可能です。



- 5b (オプション) [コレクション]** の隣にあるチェックボックスをオンにし、[設定] をクリックします。

この役割によって、デバイスは、インベントリ情報、メッセージ(エラー、警告、情報など)、およびポリシー/バンドルステータスを収集し、その情報を親のプライマリサーバにロールアップします。親プライマリサーバは、その情報をデータベースに直接書き込むか、またはさらにその親のプライマリサーバに情報を渡し、渡された親サーバが情報をデータベースに書き込みます。

コレクションのロールアップスケジュールで、収集されたインベントリ情報が親のプライマリサーバにロールアップされて ZENworks データベースに含まれる頻度が決まります。情報がデータベース内にある場合は、ZENworks コントロールセンターで表示できます。

収集ロールアップ役割を使用するデバイスを指定するには、[設定] ページの [管理ゾーン] 設定にある [最密サーバルール] 設定を設定します。

次のフィールドに情報を入力します。

**収集ロールアップのスケジュール:** 収集されたインベントリデータをコレクションサーバとして使用するデバイスからロールアップする頻度を、日、時間、および分で指定します。

- 5c (オプション) [コンテンツ]** の横にあるチェックボックスを選択し、[コンテンツ複製スケジュール] を入力します。

この役割によって、管理対象デバイスは、コンテンツ(バンドル、ポリシー、システム更新、パッチ)を他のデバイスに配布できます。

コンテンツの役割を持って機能するようにデバイスを設定する場合、プライマリサーバをその親として指定する必要があります。コンテンツ役割を持つデバイスは、親プライマリサーバからすべてのコンテンツを受信します。コンテンツ役割を持つサテライトでホストされるコンテンツは、すべて、親プライマリサーバでもホストされる必要があります。コンテンツが新しいプライマリサーバでホストされていない場合は、追加されます。

このサテライトからのコンテンツが必要なデバイスを指定するには、[環境設定] ページの [管理ゾーン] 設定にある [最近接サーバルール] 設定を設定します。

次のフィールドに情報を入力します。

**コンテンツレプリケーションスケジュール:** 親プライマリサーバからサテライトのコンテンツを更新する頻度を、日数、時間、および分で指定します。

- 6 (オプション) [コンテンツまたはコレクション HTTP 要求(あるいはその両方)のポート]** フィールドで、ポート番号を指定します。

デフォルトポートは 80 です。コンテンツ およびコレクションサーバは同じ Web サーバおよび同じポートを共用します。指定されたポートが使用中でないことを確認してください。

- 7 [OK]** をクリックします。

- 8 (条件付き) イメージングの役割を設定すると、役割は直ちにデバイスに追加されます。役割がすぐに追加されない場合、次のデバイスの更新スケジュール中に追加されます。ただし、デバイスにすぐに役割を追加したい場合は、次のいずれかの方法で手動でデバイスを更新する必要があります。**

- [環境設定] タブ > [サーバの階層] で、更新するデバイスの隣にあるチェックボックスをオンにし、[アクション] > [デバイスの更新] の順にクリックします。

- Windows 管理対象デバイスで、**Z** を右クリックし、次に [更新] をクリックします。
- 管理対象外の Linux デバイスで、ターミナルを開き、現在の作業ディレクトリを /opt/novell/zenworks/bin/ に変更し、/zac ref コマンドを実行します。

プロキシ DHCP サービスがデバイスで起動されているかどうか確認するには、デバイスのメッセージログを確認します ( [デバイス] タブ > [Workstations] フォルダの順に選択し、ワークステーションをクリックして [概要] > [メッセージログ] パネルを選択、または [デバイス] タブ > [サーバ] フォルダの順に選択し、サーバをクリックして [概要] > [メッセージログ] パネルを選択 )。

ローカルファイルの重大度レベルおよびシステムログが [ローカルデバイスのログ] ページで [情報とそれ以上] に設定されている場合にのみ、メッセージは [ローカルデバイスのログ] ページにログされます。 ( [環境設定] タブ、[デバイス管理]、[ローカルデバイスのログ] )。

- 9 (条件付き) Linux サテライトサーバにイメージング役割が設定されている場合、イメージング処理を実行する前にデバイスのファイアウォールをオフにする必要があります。

## 7.3 サーバ階層からのサテライトの削除

サテライトは、サテライト機能の実行に必要でなくなったとき、[サーバの階層] リストから削除できます。デバイスのオブジェクトは ZENworks から削除されません。サーバの階層リストから削除されるだけです。ただし、階層リストからサテライトを削除すると、コンテンツ、イメージング、またはコレクションのロールアップ情報もデバイスから削除されます。

サテライトを削除する場合、コンテンツおよびコレクションの目的のため、これを使用していた管理対象デバイスは他のサーバを使用するよう再設定する必要があります。詳細については、[191 ページのセクション 21.1「最近接サーバルールの設定」](#)を参照してください。

このオプションを使用してリストからプライマリサーバを削除することはできません。

サテライトを削除するには、次の手順に従います。


- 1 削除するサテライトで、コンテンツおよびコレクション情報のロールアップ用に使用しているすべてのデバイスのメモを取ります。
- 2 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 3 [サーバの階層] パネルで、ゾーンから削除するサテライトの隣にあるチェックボックスをオンにします。
- 4 [アクション] > [サテライトサーバの削除] の順にクリックします。



- 5 削除を確定するには、[OK] をクリックします。
- 6 コンテンツおよびロールアップコレクションの情報の受信を続行できるようにするために、必要に応じて、サテライトを使用する管理対象デバイスを再設定します。

詳細については、191 ページのセクション 21.1「最近接サーバルールの設定」を参照してください。

- 7 (条件付き) イメージングの役割は、デバイスから直ちに削除されます。役割がすぐに削除されない場合、次のデバイスの更新スケジュール中に削除されます。ただし、デバイスからすぐに役割を削除したい場合は、次のいずれかの方法で手動でデバイスを更新する必要があります。

- [環境設定] タブ > [サーバの階層] で、更新するデバイスの隣にあるチェックボックスをオンにし、次に [アクション] > [デバイスの更新] の順にクリックします。
- Windows 管理対象デバイスで、 を右クリックし、次に [更新] をクリックします。
- 管理対象外の Linux デバイスで、ターミナルを開き、現在の作業ディレクトリを /opt/novell/zenworks/bin/ に変更し、/zac ref コマンドを実行します。

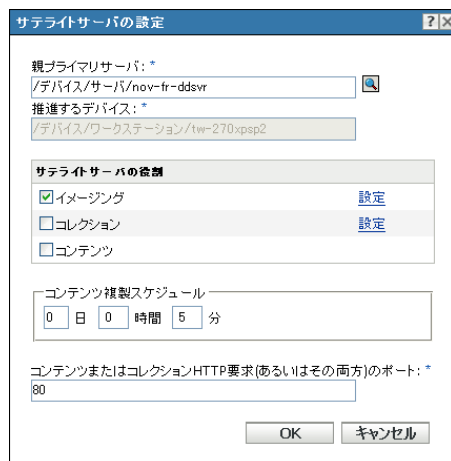
## 7.4 サーバ階層からのサテライトの設定

コンテンツ、イメージング、およびコレクションの役割を使用してサテライトを設定したり、そのデフォルトポートを変更したり、役割のスケジュールを調整したりできます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [サーバの階層] パネルで、設定するデバイスの隣にあるチェックボックスをオンにします。

一度に設定できるのは1つのサテライトのみです。

- 3 [アクション] > [サテライトサーバの設定] の順にクリックします。



- 4 [サテライトサーバの役割] セクションで、目的の役割を設定します。

すべての役割に対して [設定] リンクが無効になっている場合、その役割はこのデバイスで無効になります。たとえば、サテライトの親プライマリサーバがコレクション役割を持っていない場合、サテライトのコレクション役割は無効化し、設定できません。管理対象デバイスが実行する設定不可能な役割もダイアログボックスに一覧表示されますが、編集はできません。

- 4a (オプション) [イメージング] の隣にあるチェックボックスをオンにし、[設定] をクリックします。

このオプションを選択すると、イメージング サービスがインストールされ、イメージングの役割がデバイスに追加されます。この役割によって、デバイスを、イメージの取得、イメージの適用、およびイメージのマルチキャストなどのすべてのイメージング操作を実行するイメージングサーバとして使用できます。

---

**注：**イメージング役割は、ZENworks Configuration Management ライセンスの状態に関連付けられています。ライセンス状態が非アクティブの場合は、イメージング役割が無効になります。たとえば、ZENworks Asset Management のライセンス付きコピーを持ち、ZENworks Configuration Management を評価している場合は、その ZENworks Configuration Management ライセンスの期限が切れると、イメージング役割は無効になります。詳細については、[229 ページのセクション 24.5 「変更可能なライセンス状態」](#) を参照してください。

---

次のフィールドに入力します：

**PXE サービスの有効化：**このオプションは、イメージングサーバの役割が割り当てられているデバイスでプロキシ DHCP サービスを自動的に開始します。

デバイスでプロキシ DHCP サービスが開始されているかどうか確認するには、デバイスのメッセージログをレビューします（[デバイス] タブ、[ワークステーション] フォルダを選択し、ワークステーションの [概要]、[メッセージログ] パネルをクリックします）。

**イメージング役割が削除されると、サーバからイメージファイルを削除します：**

このオプションは、イメージング役割が削除された場合、デバイスに保存されている ZENworks イメージファイルを削除します。

ローカルファイルの重大度レベルおよびシステムログが [ローカルデバイスのログ] ページで [情報とそれ以上] に設定されている場合、メッセージは [ローカルデバイスのログ] ページにログされます。（[環境設定] タブ、[デバイス管理]、[ローカルデバイスのログ] ）。

このオプションは、イメージングサーバの役割をデバイスから削除する場合のみ使用可能です。

- 4b (オプション) [コレクション]** の隣にあるチェックボックスをオンにし、[設定] をクリックします。

この役割によって、デバイスは、インベントリ情報、メッセージ（エラー、警告、情報など）、およびポリシー/バンドルステータスを収集し、その情報を親のプライマリサーバにロールアップします。親プライマリサーバは、その情報をデータベースに直接書き込むか、またはさらにその親のプライマリサーバに情報を渡し、渡された親サーバが情報をデータベースに書き込みます。

コレクションのロールアップスケジュールで、収集されたインベントリ情報が親のプライマリサーバにロールアップされて ZENworks データベースに含まれる頻度が決まります。情報がデータベース内にある場合は、ZENworks コントロールセンターで表示できます。

収集ロールアップ役割を使用するデバイスを指定するには、[設定] ページの [管理ゾーン] 設定にある [最密サーバルール] 設定を設定します。

次のフィールドに情報を入力します。

**収集ロールアップのスケジュール：**収集されたインベントリデータをコレクションサーバとして使用するデバイスからロールアップする頻度を、日、時間、および分で指定します。

**4c (オプション)** [コンテンツ] の隣にあるチェックボックスをオンにし、[設定] をクリックします。

この役割によって、管理対象デバイスは、コンテンツ (バンドル、ポリシー、システム更新、パッチ) を他のデバイスに配布できます。

コンテンツの役割を持って機能するようにデバイスを設定する場合、プライマリサーバをその親として指定する必要があります。コンテンツ役割を持つデバイスは、親プライマリサーバからすべてのコンテンツを受信します。コンテンツ役割を持つサテライトでホストされるコンテンツは、すべて、親プライマリサーバでもホストされる必要があります。コンテンツが新しいプライマリサーバでホストされていない場合は、追加されます。

このサテライトからのコンテンツが必要なデバイスを指定するには、[環境設定] ページの [管理ゾーン] 設定にある [最近接サーバルール] 設定を設定します。

次のフィールドに情報を入力します。

**コンテンツレプリケーションスケジュール:** 親プライマリサーバからサテライトのコンテンツを更新する頻度を、日数、時間、および分で指定します。

**5 (オプション)** [コンテンツまたはコレクション HTTP 要求 (あるいはその両方) のポート] フィールドで、ポート番号を指定します。

デフォルトポートは 80 です。コンテンツ およびコレクションサーバは同じ Web サーバおよび同じポートを共用します。指定されたポートが使用中でないことを確認してください。

**6 [OK]** をクリックし、変更を保存してダイアログボックスを閉じます。


**7 (オプション)** コンテンツサーバでホストするコンテンツを指定します。詳細については、[186 ページのセクション 20.2「コンテンツのインクルードまたは除外」](#)を参照してください。

サテライトがホストするコンテンツを指定する場合、複製されるコンテンツを含めたり除外できます。

その親プライマリサーバが持っていないコンテンツを含めるには、最初に親プライマリサーバにコンテンツを追加する必要があります。

**8** 他のサテライトを設定するには、これまでの手順を繰り返します。

**9 (条件付き)** イメージングの役割を設定すると、役割は直ちにデバイスに追加されます。役割がすぐに追加されない場合、次のデバイスの更新スケジュール中に追加されます。ただし、デバイスにすぐに役割を追加したい場合は、次のいずれかの方法で手動でデバイスを更新する必要があります。

- ◆ [環境設定] タブ > [サーバの階層] で、更新するデバイスの隣にあるチェックボックスをオンにし、次に [アクション] > [デバイスの更新] の順にクリックします。
- ◆ Windows 管理対象デバイスで、 を右クリックし、次に [更新] をクリックします。
- ◆ 管理対象外の Linux デバイスで、ターミナルを開き、現在の作業ディレクトリを /opt/novell/zenworks/bin/ に変更し、/zac ref コマンドを実行します。

プロキシ DHCP サービスがデバイスで起動されているかどうか確認するには、デバイスのメッセージログを確認します ([デバイス] タブ > [Workstations] フォルダの順に選択し、ワークステーションをクリックして [概要] > [メッセージログ] パネルを選択、または [デバイス] タブ > [サーバ] フォルダの順に選択し、サーバをクリックして [概要] > [メッセージログ] パネルを選択)。

ローカルファイルの重大度レベルおよびシステムログが [ローカルデバイスのログ] ページで [情報とそれ以上] に設定されている場合にのみ、メッセージは [ローカルデバイスのログ] ページにログされます。( [環境設定] タブ、[デバイス管理]、[ローカルデバイスのログ] )。

- 10 (条件付き) Linux サテライトサーバにイメージング役割が設定されている場合、イメージング処理を実行する前にデバイスのファイアウォールをオフにする必要があります。

## 7.5 デバイスビューからのサテライトの設定

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックし、[管理対象] タブで [サーバ] または [ワークステーション] をクリックします。
- 2 [サーバ] パネルまたは [ワークステーション] パネルで、設定するサテライトのチェックボックスをオンにします。  
一度に設定できるのは1つのサテライトのみです。
- 3 [アクション] > [サテライトサーバの設定] の順にクリックします。

サテライトサーバの設定

親プライマリサーバ: \*  
/デバイス/サーバ/nov-fr-ddsvr

推進するデバイス: \*  
/デバイス/ワークステーション/tw-270xsp2

サテライトサーバの役割

☒ イメージング [設定](#)

☐ コレクション [設定](#)

☐ コンテンツ

コンテンツ複製スケジュール

0 日 0 時間 5 分

コンテンツまたはコレクションHTTP要求(あるいはその両方)のポート: \*  
80

OK キャンセル

- 4 [サテライトサーバの役割] セクションで、目的の役割を設定します。  
すべての役割に対して [設定] リンクが無効になっている場合、その役割はこのデバイスで無効になります。たとえば、サテライトの親プライマリサーバがコレクション役割を持っていない場合、サテライトのコレクション役割は無効化し、設定できません。管理対象デバイスが実行する設定不可能な役割もダイアログボックスに一覧表示されますが、編集はできません。
- 4a (オプション) [イメージング] の隣にあるチェックボックスをオンにし、[設定] をクリックします。

このオプションを選択すると、イメージングサービスがインストールされ、イメージングの役割がデバイスに追加されます。この役割を使用すると、イメージングサーバとしてデバイスを使用して、イメージの取得、イメージの適用、およびイメージのマルチキャストなどの、すべてのイメージング操作を実行できます。

**注:** イメージング役割は、ZENworks Configuration Management ライセンスの状態に関連付けられています。ライセンス状態が非アクティブの場合は、イメージング役割が無効になります。たとえば、ZENworks Asset Management のライセンス



付きコピーを持ち、ZENworks Configuration Management を評価している場合は、その ZENworks Configuration Management ライセンスの期限が切れると、イメージング役割は無効になります。詳細については、[229 ページのセクション 24.5 「変更可能なライセンス状態」](#) を参照してください。

---

次のフィールドに入力します：

**PXE サービスの有効化：**このオプションは、イメージングサーバの役割が割り当てられているデバイスでプロキシ DHCP サービスを自動的に開始します。

デバイスでプロキシ DHCP サービスが開始されているかどうか確認するには、デバイスのメッセージログをレビューします（[デバイス] タブ、[ワークステーション] フォルダを選択し、ワークステーションの [概要]、[メッセージログ] パネルをクリックします）。

**イメージング役割が削除されると、サーバからイメージファイルを削除します：**

このオプションは、イメージング役割が削除された場合、デバイスに保存されている ZENworks イメージファイルを削除します。

ローカルファイルの重大度レベルおよびシステムログが [ローカルデバイスのログ] ページで [情報とそれ以上] に設定されている場合、メッセージは [ローカルデバイスのログ] ページにログされます。（[環境設定] タブ、[デバイス管理]、[ローカルデバイスのログ] ）。

このオプションは、イメージングサーバの役割をデバイスから削除する場合のみ使用可能です。

- 4b** (オプション) [コレクション] の隣にあるチェックボックスをオンにし、[設定] をクリックします。

この役割によって、デバイスは、インベントリ情報、メッセージ（エラー、警告、情報など）、およびポリシー/バンドルステータスを収集し、その情報を親のプライマリサーバにロールアップします。親プライマリサーバは、その情報をデータベースに直接書き込むか、またはさらにその親のプライマリサーバに情報を渡し、渡された親サーバが情報をデータベースに書き込みます。

コレクションのロールアップスケジュールで、収集されたインベントリ情報が親のプライマリサーバにロールアップされて ZENworks データベースに含まれる頻度が決まります。情報がデータベース内にある場合は、ZENworks コントロールセンターで表示できます。

収集ロールアップ役割を使用するデバイスを指定するには、[設定] ページの [管理ゾーン] 設定にある [最密サーバルール] 設定を設定します。

次のフィールドに情報を入力します。

**収集ロールアップのスケジュール：**収集されたインベントリデータをコレクションサーバとして使用するデバイスからロールアップする頻度を、日、時間、および分で指定します。

- 4c** (オプション) [コンテンツ] の隣にあるチェックボックスをオンにし、[設定] をクリックします。

この役割によって、管理対象デバイスは、コンテンツ（バンドル、ポリシー、システム更新、パッチ）を他のデバイスに配布できます。

コンテンツの役割を持って機能するようにデバイスを設定する場合、プライマリサーバをその親として指定する必要があります。コンテンツ役割を持つデバイスは、親プライマリサーバからすべてのコンテンツを受信します。コンテンツ役割

を持つサテライトでホストされるコンテンツは、すべて、親プライマリサーバでもホストされる必要があります。コンテンツが新しいプライマリサーバでホストされていない場合は、追加されます。

コンテンツの役割を有効にすると、サテライトはコンテンツを受信し、コンテンツはネットワークセグメント内の他のデバイスに送信することができます。

このサテライトからのコンテンツが必要なデバイスを指定するには、[環境設定] ページの [管理ゾーン] 設定にある [最近接サーバルール] 設定を設定します。

次のフィールドに情報を入力します。

**コンテンツレプリケーションスケジュール**：親プライマリサーバからサテライトのコンテンツを更新する頻度を、日数、時間、および分で指定します。

- 5 (オプション) [コンテンツまたはコレクション HTTP 要求 (あるいはその両方) のポート] フィールドで、ポート番号を指定します。

デフォルトポートは 80 です。コンテンツ およびコレクションサーバは同じ Web サーバおよび同じポートを共用します。指定されたポートが使用中でないことを確認してください。

- 6 [OK] をクリックし、変更を確定します。

1 つ以上の役割を有効にした場合、[役割] カラムの [サーバの階層] パネルに [サテライトの役割] アイコンが追加されます。

サーバの階層			
移動 アクション ▼			
名前	フォルダ	役割	データベースへ書き込み
<input type="checkbox"/> krobinson2	/デバイス/サーバ	すべて	
<input type="checkbox"/> Primary_Server_1	/デバイス/サーバ	すべて	
<input checked="" type="checkbox"/> Satellite_Server_1	/デバイス/サーバ		
<input type="checkbox"/> Satellite_Server_2	/デバイス/サーバ		
<input type="checkbox"/> DP_1	/デバイス/サーバ		
<input type="checkbox"/> DP_2	/デバイス/サーバ		
<input type="checkbox"/> RP_1	/デバイス/サーバ		
<input type="checkbox"/> Primary_Server_2	/デバイス/サーバ	すべて	

## アイコン 説明

- イメージングの役割を持つサテライトを示します。この役割を使用すると、イメージングサーバとしてデバイスを使用して、イメージの取得、イメージの適用、およびイメージのマルチキャストなどの、すべてのイメージング操作を実行できます。
- コレクション役割を持つサテライトを示します。この役割によって、デバイスは、インベントリ情報、メッセージ (エラー、警告、情報など)、ポリシーおよびバンドルのステータスを収集し、これらの情報を親のプライマリサーバにロールアップします。親プライマリサーバは、その情報をデータベースに直接書き込むか、またはさらにその親のプライマリサーバに渡し、渡された親サーバが情報をデータベースに書き込みます。
- コンテンツ役割を持つサテライトを示します。この役割によって、デバイスは、コンテンツ (バンドル、ポリシー、パッチ) およびシステム更新を他のデバイスに配布できます。コンテンツの役割を持って機能するようにデバイスを設定する場合、プライマリサーバをその親として指定する必要があります。コンテンツ役割を持つデバイスは、親プライマリサーバからすべてのコンテンツを受信します。




役割を無効にした場合、[サーバの階層] パネルから [サテライトの役割] アイコンが削除されます。サテライトに役割が 1 つしかない場合にそれを削除してしまうと、そのデバイスは [階層] パネルに表示されなくなります。そのサテライトサーバの機能はもう使用できません。また、そのコンテンツ、イメージング、またはコレクションロールアップ情報はデバイスから削除されました。

- 7 (オプション) すべてのサテライトの役割を無効にした場合、これらの機能で異なるサーバを認識するよう、その役割に依存しているデバイスを再設定します。

詳細については、[191 ページのセクション 21.1「最近接サーバルールの設定」](#)を参照してください。

- 8 (条件付き) イメージングの役割を設定すると、役割は直ちにデバイスに追加されます。役割がすぐに追加されない場合、次のデバイスの更新スケジュール中に追加されます。ただし、デバイスにすぐに役割を追加したい場合は、次のいずれかの方法で手動でデバイスを更新する必要があります。

- [環境設定] タブ > [サーバの階層] で、更新するデバイスの隣にあるチェックボックスをオンにし、次に [アクション] > [デバイスの更新] の順にクリックします。
- Windows 管理対象デバイスで、 を右クリックし、次に [更新] をクリックします。
- 管理対象外の Linux デバイスで、ターミナルを開き、現在の作業ディレクトリを `/opt/novell/zenworks/bin/` に変更し、`/zac ref` コマンドを実行します。

プロキシ DHCP サービスがデバイスで起動されているかどうか確認するには、デバイスのメッセージログを確認します ([デバイス] タブ > [Workstations] フォルダの順に選択し、ワークステーションをクリックして [概要] > [メッセージログ] パネルを選択、または [デバイス] タブ > [サーバ] フォルダの順に選択し、サーバをクリックして [概要] > [メッセージログ] パネルを選択)。

ローカルファイルの重大度レベルおよびシステムログが [ローカルデバイスのログ] ページで [情報とそれ以上] に設定されている場合にのみ、メッセージは [ローカルデバイスのログ] ページにログされます。([環境設定] タブ、[デバイス管理]、[ローカルデバイスのログ])。

- 9 (条件付き) Linux サテライトサーバにイメージング役割が設定されている場合、イメージング処理を実行する前にデバイスのファイアウォールをオフにする必要があります。

## 7.6 ホストするコンテンツの指定

コンテンツ役割が実行されている特定のプライマリサーバまたはサテライトで、どのコンテンツが含まれるのかまたは除外されるのかを指定できます。

コンテンツ役割デバイスは、コンテンツを親プライマリサーバから取得するため、サテライトでホストされるコンテンツは親プライマリサーバでもホストされる必要があります。

更新するコンテンツの選択ウィザードを使用して、コンテンツとコンテンツサーバ (ZENworks プライマリサーバおよびサテライト) との関係を作成すると、これらの関係は既存の関係よりも優先します。たとえば、バンドル A とポリシー B をサーバ 1 でホストし、サーバ 2 ではホストしないとします。現在、コンテンツは両方のサーバでホストされています。バンドル A およびポリシー B を選択し、次に [更新するコンテンツの選択] ウィザードを使用して、コンテンツをサーバ 1 に含め、サーバ 2 からは除外します。次回スケジュールされている複製の際、バンドル A とポリシー B は、サーバ 2 から削除されます。

ホストするコンテンツを指定するには、次の手順に従います。

- 1 ZCC で、[環境設定] タブをクリックし、[サーバの階層] セクションで、1 つまたは複数のコンテンツのホストにしたいサテライト (コンテンツ役割を実行するサテライト) の横のチェックボックスを選択します。
- 2 [アクション] > [コンテンツの指定] の順にクリックし、[更新するコンテンツの選択] ウィザードを起動します。



- 3 [使用できるコンテンツ] リストで、目的のコンテンツを選択します。  
Shift+ クリックおよび Ctrl+ クリックを使用して、複数のバンドルまたはポリシーを選択できます。
- 4 選択したコンテンツを [選択されたコンテンツ] リストに移動するには、> をクリックします。
- 5 [次へ] をクリックします。
- 6 [終了] をクリックして、コンテンツとコンテンツサーバ間のリレーションシップを作成します。

作成した関係に応じて、次のスケジュール複製時に、コンテンツサーバにコンテンツが複製されるか、コンテンツがサーバから削除されます。

## 7.7 1つのプライマリサーバから別なプライマリサーバへのサテライトの移動

サテライトを親プライマリサーバから別なプライマリサーバに移動できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [サーバの階層] パネルで、移動するサテライトの隣にあるチェックボックスをオンにし、[移動] をクリックします。
- 3 サテライトの新しい親にするプライマリサーバを選択し、[OK] をクリックします。

コンテンツ役割を持つサテライトでホストさせるすべてのコンテンツ (バンドル、ポリシー、およびパッチ) は、親プライマリサーバでもホストされる必要があります。コンテンツが新しいプライマリサーバでホストされていない場合は、追加されます。

## 7.8 コンテンツ役割のサテライトへの別なりポジトリの指定 (Windows のみ)

Windows サテライトの場合、コンテンツリポジトリは、次のデフォルトのパスにあります。

*installation\_path\zenworks\work\content-repo*

デフォルトのパスを、サーバにアクセス可能な別の場所に変更するには、次の手順に従います。

- 1 使用するディスクドライブがサテライトに接続され、適切にフォーマットされていることを確認してください。  
ドライバ名を指定する必要はありませんが、サーバはハードウェアを認識する必要があります。
- 2 次のいずれかを行って、デフォルトの場所 (*installation\_path\zenworks\work\content-repo*) にコンテンツがないことを確認してください。
  - ◆ 上記のパスに *content-repo* ディレクトリがない場合、そのパスに *content-repo* ディレクトリを作成します。
  - ◆ 現在このディレクトリにあるコンテンツを保存する必要がある場合、既存のディレクトリの名前を変更し、*content-repo* という名前の新しい空のディレクトリを作成します。  
後で、名前変更されたディレクトリから、新規コンテンツリポジトリの場所にコンテンツをコピーできます ( **ステップ 9** を参照 )。
  - ◆ 既存の *content-repo* ディレクトリのコンテンツが必要ない場合、ディレクトリを削除し、*content-repo* ディレクトリを再作成します。

サテライトの新規コンテンツリポジトリの場所へのポインタとして動作するためには、空の *content-repo* ディレクトリが存在している必要があります。

- 3 [スタート] をクリックして、[マイ コンピュータ] アイコンを右クリックしてから、[管理] を選択します。  
[スタート] をクリックして、[実行] コマンドラインで *compmgmt.msc* を入力します。
- 4 左ペインの [ストレージ] セクションで [ディスク管理] を選択します。  
**ステップ 1** で選択したディスクドライブが表示されます。
- 5 サテライト上でコンテンツリポジトリとして使用するディスクドライブのパーティションを右クリックし、[ドライバ文字およびパスの変更] を選択します。  
これは、*content-repo* ディレクトリにマウントするディスクドライブです ( **ステップ 1** を参照 )。
- 6 [追加] をクリックします。  
[ドライブ名またはパスの追加] ダイアログボックスが表示されます。
- 7 [次の空の NTFS フォルダでマウントする] を選択し、*content-repo* ディレクトリを参照して選択します。

*installation\_path\zenworks\work\content-repo*

- 8 必要に応じて [OK] をクリックして終了し、設定変更を保存します。
- 9 必要に応じて ( **ステップ 2** を参照 )、名前変更された古い *content-repo* ディレクトリから、新しい *content-repo* ディレクトリにファイルを移動します。  
これにより、新規コンテンツリポジトリとして選択したハードドライブにファイルがコピーされます。

## 7.9 ZENworks サーバの削除

[サーバの階層] パネルに一覧表示されている ZENworks サーバは、管理ゾーンから完全に削除することができます。これには、サーバをリストから削除する、ゾーンから非アクティブ化する、サーバのステータスを ZCC の [削除済みサーバ] フォルダ内で廃棄に変更することが含まれます。このアクションは元に戻すことはできません。元に戻したい場合は、ZENworks サーバの再インストールが必要になります。

プライマリサーバの削除の詳細については、[75 ページのセクション 6.6「ZENworks プライマリサーバの削除」](#)を参照してください。

- 1 ZCC で、[環境設定] タブをクリックし、[サーバの階層] セクションで、削除したい ZENworks サーバの前にあるチェックボックスを選択します。
- 2 [アクション] > [ZENworks サーバの削除] の順にクリックします。
- 3 サーバを完全に削除することに同意し、[OK] をクリックします。

## 7.10 サテライトの更新

デバイスを更新すると、保留中のアクションをすぐに実行することができます。

- 1 更新するサテライトサーバの前にあるチェックボックスをオンにします。
- 2 [アクション] > [デバイスの更新] の順にクリックします。  
アクションの実行中は [クイックタスクステータス] ボックスが表示されます。
- 3 (オプション) ステータスダイアログボックスを閉じるには、[非表示] をクリックします。  
更新はバックグラウンドで続きます。
- 4 (オプション) 更新アクションをキャンセルするには、デバイスのチェックボックスをクリックし、[中止] をクリックし、さらに [非表示] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

## 7.11 サテライトのトラブルシューティング

次のセクションでは、サテライトでの作業中に発生する可能性のある問題の解決方法について説明します。

- ◆ [93 ページの「zman ssc コマンドを使用して、イメージングの役割を持つサテライトを Windows の管理対象デバイスに追加することができない」](#)
- ◆ [93 ページの「zman ssd コマンドを使用して、イメージングの役割を持つサテライトを Windows デバイスから削除することができない」](#)
- ◆ [93 ページの「管理対象デバイスにイメージングの役割が割り当てられているにもかかわらず、このデバイスがイメージングサテライトの役割に昇格されない」](#)
- ◆ [93 ページの「プライマリサーバに ZENworks 10 Configuration Management SP2 \(10.2\) がインストールされている場合、イメージング役割を持つ ZENworks 10 Configuration Management SP1 \(10.1\) サテライトからイメージング操作を実行できない」](#)
- ◆ [94 ページの「Windows Vista SP2 の管理対象デバイスをイメージング役割を持つサテライトに昇格させた場合、更新されたイメージング統計値が、ZENworks アイコンに表示されない」](#)

### **zman ssc コマンドを使用して、イメージングの役割を持つサテライトを Windows の管理対象デバイスに追加することができない**

ソース：ZENworks 10 Configuration Management、サテライトサーバ。

アクション：Windows の管理対象デバイスを、イメージングの役割を持つサテライトに昇格させるには、zman ssaimg コマンドを使用します。

zman ssaimg コマンドの詳細については、ZENworks サーバの zman マニュアルページを見るか (man zman)、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「サテライトコマンド」を参照してください。

### **zman ssd コマンドを使用して、イメージングの役割を持つサテライトを Windows デバイスから削除することができない**

ソース：ZENworks 10 Configuration Management、サテライト。

アクション：Windows の管理対象デバイスからイメージングサテライトの役割を削除するには、zman ssimg コマンドを使用します。

このコマンドは、コンテンツやコレクションなどの他のサテライト役割がデバイスに割り当てられている場合は、それらのサテライトの役割は削除しません。


zman ssimg コマンドの詳細については、ZENworks サーバの zman マニュアルページを見るか (man zman)、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「サテライトコマンド」を参照してください。

### **管理対象デバイスにイメージングの役割が割り当てられているにもかかわらず、このデバイスがイメージングサテライトの役割に昇格されない**

ソース：ZENworks 10 Configuration Management、サテライト。

考えられる原因：ファイアウォールが管理対象デバイス上で設定されているため、管理対象デバイスがプライマリサーバに接続できません。

アクション：管理対象デバイス上で次のいずれかを実行してください。

- 1 ファイアウォールの設定を無効にします。
- 2 プライマリサーバに Ping し、管理対象デバイスがサーバに接続できるか確認します。
- 3  アイコンを右クリックで更新し、次に、[更新] をクリックします。

### **プライマリサーバに ZENworks 10 Configuration Management SP2 (10.2) がインストールされている場合、イメージング役割を持つ ZENworks 10 Configuration Management SP1 (10.1) サテライトからイメージング操作を実行できない**

ソース：ZENworks 10 Configuration Management、サテライト。

説明： 管理ゾーンが ZENworks 10 Configuration Management SP2 (10.2) のプライマリサーバと ZENworks 10 Configuration Management SP1 (10.1) のイメージング役割を持つサテライトで構成されている場合は、イメージ操作 ( イメージの取得やサテライトからのイメージの復元など ) の実行時に次のエラーメッセージが表示されます。

Specified port for HTTP server is already in use/Connection to HTTP server failed


考えられる原因： イメージング役割を持つサテライトに、プライマリサーバにインストールされているものと同じバージョンの ZENworks 10 Configuration Management がインストールされていません。

アクション： ZENworks 10 Configuration Management SP1 (10.1) サテライトを ZENworks 10 Configuration Management SP2 (10.2) サテライトにアップグレードします。

ZENworks 10 Configuration Management SP2 へのアップグレード方法の詳細については、『*ZENworks 10 Configuration Management アップグレードガイド*』の「*ZENworks Configuration Management 10.1.x から SP2 (10.2) へのアップグレード*」を参照してください。

### Windows Vista SP2 の管理対象デバイスをイメージング役割を持つサテライトに昇格させた場合、更新されたイメージング統計値が、ZENworks アイコンに表示されない

ソース： ZENworks 10 Configuration Management、サテライト。

説明： Windows Vista SP2 の管理対象デバイスをイメージング役割を持つサテライトに昇格させた場合、更新されたイメージング統計値は、 アイコンに表示されません ( [プロパティを表示する] > [サテライト] > [イメージング] )。・

アクション： サテライトの最新のイメージング統計値を見るためには、次の手順に従います。

- 1 コンソールプロンプトで、  
`ZENworks_installation_directory\novell\zenworks\bin\preboot` に移動します。
- 2 次のコマンドを実行します。  
`zmgmcast -status -i Satellite_IP_address`



管理ゾーンのサーバ階層によって、ZENworks® プライマリサーバとサテライトの関係が決定されます。これらの関係は、ゾーン内のコンテンツと情報の流れを制御します。適切に設定すると、低速のリンクによって接続されているネットワークセグメント間のネットワークトラフィックを最小化するのに役立ちます。

- ◆ 95 ページのセクション 8.1 「プライマリサーバ：ピア対親 / 子関係」
- ◆ 95 ページのセクション 8.2 「サテライト役割の関係」
- ◆ 96 ページのセクション 8.3 「プライマリサーバの親子関係の変更」

## 8.1 プライマリサーバ：ピア対親 / 子関係

デフォルトでは、システムに追加した各プライマリサーバが、その他のすべてのプライマリサーバに対するピアとして作成されます。ピア関係であることで、プライマリサーバで次のことが可能になります。

- ◆ ZENworks データベースへ直接書き込みアクセスでき、情報 ( インベントリ、メッセージ、およびステータス ) を追加できます。
- ◆ データベースからデバイスの設定情報を直接取得できます。
- ◆ コンテンツ ( バンドル、ポリシー、システム更新、およびパッチ ) をプライマリサーバからプルできます。

ZENworks データベースへ直接書き込みアクセスするには、JDBC\*/ODBC 接続が必要です。プライマリサーバがネットワーク上にあり、JDBC/ODBC 接続を経由して ZENworks データベースに効率的にアクセスできない場合、そのデータベースへの直接的な書き込みアクセス権を持たない別のプライマリサーバの子になるようにそのプライマリサーバを設定できます。ただし、ネットワーク接続で許される限り、プライマリサーバ間のピア関係を保持するようにしてください。

子の関係にあるプライマリサーバは、HTTP を使用してインベントリ、メッセージ、およびステータス情報を親プライマリサーバにロールアップし、その情報を親プライマリサーバがデータベースに書き込みます。ただし、その後も子プライマリサーバはデータベースから環境設定情報を取得してデータベースにバックアップし続けます。そのため、子プライマリサーバは ZENworks データベースに直接接続する必要があります。

WAN リンクを介して ZENworks データベースをプライマリサーバに接続することは、ネットワークのトラフィックを増大させるので、お勧めできません。WAN リンクを介してサテライトデバイスを使用することをお勧めします。詳細については、95 ページのセクション 8.2 「サテライト役割の関係」を参照してください。

## 8.2 サテライト役割の関係

サテライトは、ZENworks プライマリサーバが通常実行する特定の役割を実行できるデバイスです。サテライトは任意の管理対象 Windows デバイス ( サーバまたはワークステーション ) として使用できますが、プライマリサーバとしては使用できません。サテライトは、管理されていない Linux デバイス ( サーバまたはワークステーション ) として使用することもできます。サテライトを設定する場合は、サテライトが実行する役割を指定しま

す(イメージング、コレクション、またはコンテンツ)。サテライトは、ZENworks 10 Configuration Management フレームワークのスナップインとなるサードパーティ製品によって追加される役割を実行することもできます。サテライトで実行できるタスクの詳細については、[77 ページの第 7 章「サテライト」](#)を参照してください。

詳細情報については、次を参照してください。

- ◆ [96 ページのセクション 8.2.1「コンテンツ役割サーバの関係」](#)
- ◆ [96 ページのセクション 8.2.2「コレクション役割サーバの関係」](#)
- ◆ [96 ページのセクション 8.2.3「イメージングの役割サーバの関係」](#)

## 8.2.1 コンテンツ役割サーバの関係

コンテンツ役割は、コンテンツ(バンドル、ポリシー、およびパッチ)を他のデバイスに配布できる管理対象デバイスを識別します。コンテンツの役割を持って機能するようにデバイスを設定する場合、プライマリサーバをその親として指定する必要があります。コンテンツ役割を持つデバイスは、親プライマリサーバからすべてのコンテンツを受信します。

## 8.2.2 コレクション役割サーバの関係

コレクション役割によって、管理対象デバイスは、インベントリ情報、メッセージ(エラー、警告、情報など)、およびポリシー/バンドルのステータスを収集し、これらの情報を親のプライマリサーバにロールアップします。次に、親プライマリサーバがその情報をデータベースに直接書き込むか、または、さらにその親のプライマリサーバに情報を渡し、渡された親プライマリサーバが情報をデータベースに書き込みます。

## 8.2.3 イメージングの役割サーバの関係

イメージングの役割により、ユニキャストイメージングまたはマルチキャストイメージングを使用して、管理対象デバイスがサブネット内でイメージを取得および復元することができます。

# 8.3 プライマリサーバの親子関係の変更

その他のプライマリサーバのピアまたは子になるプライマリサーバを移動できます。

- ◆ [96 ページのセクション 8.3.1「プライマリサーバを子にする」](#)
- ◆ [97 ページのセクション 8.3.2「プライマリサーバをピアにする」](#)

## 8.3.1 プライマリサーバを子にする

プライマリサーバを他のプライマリサーバの子として配置できます。この子プライマリサーバによってコレクションデータが ZENworks データベースに直接書き込まれることはなくなります。代わりに、その情報をその親プライマリサーバに渡し、この親プライマリサーバがデータベースに書き込みます。ただし、その後も子プライマリサーバはデータベースから環境設定情報を取得してデータベースにバックアップし続けます。そのため、子プライマリサーバは ZENworks データベースに直接接続する必要があります。



プライマリサーバを別のサーバの子にするには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [サーバの階層] パネルで、子にするプライマリサーバの隣にあるチェックボックスをオンにします。
- 3 [移動] をクリックして、[デバイスの移動] ダイアログボックスを表示します。
- 4 親サーバにするプライマリサーバを選択します。
- 5 [OK] をクリックします。

### 8.3.2 プライマリサーバをピアにする

これにより、プライマリサーバは階層の最初のレベルに配置されるか、または入れ子になった 1 つ以上のレベルの深さである場合、移動されて別のプライマリサーバの子になります。

プライマリサーバを最初のレベルに戻すと、ZENworks データベースに直接書き込みます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [サーバの階層] パネルで、ピアにするプライマリサーバの隣にあるチェックボックスをオンにします。
- 3 [移動] をクリックして、[デバイスの移動] ダイアログボックスを表示します。
- 4 次のいずれかの操作を行います。
  - ♦ リストでサーバの最初のレベルに移動するには、[なし] を選択します。
  - ♦ 親サーバになる別のプライマリサーバを選択します。
- 5 [OK] をクリックします。



ZENworks<sup>®</sup> Adaptive Agent は、ネットワークを介したデバイスの管理を可能にする Novell<sup>®</sup> ZENworks 10 Configuration Management ソフトウェアの一部です。ZENworks Adaptive Agent は、通常、Adaptive Agent と呼ばれ、個々のデバイスにアクセスしなくても次の操作を行えるサービスを提供します。

- ◆ ソフトウェア、パッチ、およびシステム更新をデバイスに配布します。
- ◆ デバイスの動作を決定するポリシーを管理します。
- ◆ デバイスのハードウェアおよびソフトウェアのインベントリを取得します。
- ◆ リモートの場所からデバイスにアクセスしてトラブルシューティングし、ハードウェアおよびソフトウェアの問題を修復します。
- ◆ コンテンツの配布、デバイスのイメージング、インベントリとデバイスメッセージの収集を支援するサテライトとして機能します。

各サービスは、Adaptive Agent のプラグインモジュールを使用することで提供されます。ZENworks コントロールセンターを使用すると、デバイス上でどのモジュールをアクティブにするか設定できるので、それらのデバイスでどのサービスを利用可能にするか制御できます。他にもさまざまな Adaptive Agent の設定を行うことができます。

詳細情報については、次を参照してください。

- ◆ [99 ページのセクション 9.1「デバイス上の Adaptive Agent ソフトウェアとモジュールのバージョン表示」](#)
- ◆ [100 ページのセクション 9.2「特定のバージョンの Adaptive Agent がインストールされたデバイスの検索」](#)
- ◆ [100 ページのセクション 9.3「展開後の Adaptive Agent の設定」](#)
- ◆ [107 ページのセクション 9.4「ZENworks Explorer の設定」](#)
- ◆ [110 ページのセクション 9.5「Adaptive Agent のトラブルシューティング」](#)

## 9.1 デバイス上の Adaptive Agent ソフトウェアとモジュールのバージョン表示

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 [サーバ] をクリックすると、サーバの Adaptive Agent ソフトウェアのバージョンが表示されます。  
または  
[ワークステーション] をクリックすると、ワークステーションの Adaptive Agent ソフトウェアのバージョンが表示されます。
- 3 該当するデバイスの下線付きリンクをクリックします。
- 4 [全般] セクションの [ZENworks Agent バージョン] の行にバージョンが表示されます。

- 5 (オプション) 下線付きのバージョンをクリックすると、そのデバイスにインストールされた ZENworks Agent モジュールとそのバージョン番号のリストが表示されます。

デバイスの [設定] ページで ZENworks Agent 設定を使用して、ZENworks モジュールをアンインストール、有効化、または無効化することができます。詳細については、105 ページの「エージェント機能」を参照してください。

## 9.2 特定のバージョンの Adaptive Agent がインストールされたデバイスの検索

アップグレードやトラブルシューティングを行う場合は、高度な検索機能を使用して、ZENworks 管理ゾーンのデバイスのうち、特定の Adaptive Agent ソフトウェアがインストールされているデバイスのリストを表示することができます。

- 1 すべてのデバイス (サーバとワークステーション)、サーバ、ワークステーションのいずれかで特定の Adaptive Agent がインストールされたデバイスを検索するのによって、ZENworks コントロールセンターで次のいずれかの手順を実行します。
  - すべてのデバイスで検索するには、[デバイス] タブをクリックします。
  - すべてのサーバで検索するには、[デバイス] タブ > [サーバ] の順にクリックします。
  - すべてのワークステーションで検索するには、[デバイス] タブ > [ワークステーション] の順にクリックします。
- 2 [検索] セクションで、[高度な検索] をクリックします。
- 3 [追加] をクリックすると [検索条件] ダイアログボックスが表示されます。
- 4 [フィルタの追加] をクリックし、ドロップダウンリストから [デバイス/エージェントバージョン] をクリックして、次に [OK] をクリックします。

## 9.3 展開後の Adaptive Agent の設定

デフォルトでは、ZENworks Adaptive Agent は、ZENworks コントロールセンターの [エージェント機能] パネルで選択された機能とともに展開されます。展開時にエージェント機能をカスタマイズする方法については、「展開前の機能のカスタマイズ」を参照してください。展開後は、Adaptive Agent 機能のアンインストール/有効化/無効化の選択、エージェントのキャッシュの設定、再試行設定値の設定、およびユーザによるエージェントのアンインストールを可能にするかどうかの選択を行うことができます。

次の 3 つのレベルで設定できます。

- **管理ゾーン**: この設定は管理ゾーンの中のすべてのデバイスに適用されます。
- **デバイスフォルダ**: この設定は、フォルダまたはそのサブフォルダの中に含まれているすべてのデバイスに適用されます。管理ゾーンの設定を上書きします。
- **デバイス**: この設定は、それが設定されたデバイスにのみ適用されます。管理ゾーンレベルおよびフォルダレベルでの設定を上書きします。

詳細情報については、次を参照してください。

- 101 ページのセクション 9.3.1 「管理ゾーンレベルでのエージェントの設定」
- 102 ページのセクション 9.3.2 「デバイスフォルダレベルでのエージェントの設定」

- 102 ページのセクション 9.3.3 「デバイスレベルでのエージェントの設定」
- 103 ページのセクション 9.3.4 「ZENworks エージェントの設定」

### 9.3.1 管理ゾーンレベルでのエージェントの設定

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで、[デバイス管理] をクリックします。

環境設定	登録	システム情報	アセットインベントリ	アセット管理	システム更新
管理ゾーンの設定					
コンテンツ					
デバイス管理					
カテゴリ					
ローカルデバイスのログ					
デバイスの更新スケジュール					
ZENworks エージェント					
登録					
ZENworks Explorer 設定					
システム実数					
起動前サービス					
プライマリユーザ					
プライマリワークステーション					
ダイナミックグループの更新スケジュール					
Wake-on-LAN					
リモート管理					
ディスプレイと展開					
イベントとメッセージング					
インフラ管理					
インベントリ					
レポートサービス					
アセット管理					
パッチ管理					

- 3 [ZENworks エージェント] をクリックします。

ZENworks エージェント	
ZENworks エージェントを設定します。	
全般	
<input checked="" type="checkbox"/> ユーザにエージェントのアンインストールを許可します	
キャッシュ保持期間:	336 時間
キャッシュオフパンのしきい値:	90 日
ビジー状態のサーバに対する要求再試行回数:	20
再試行要求の初回待機時間(以降の各要求は1秒ずつ増加):	10 秒
再試行要求の最大待機時間:	20 秒
エージェント機能	
バンドル管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み <input checked="" type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 使用不可
ポリシー管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み <input checked="" type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 使用不可
アセット管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み <input checked="" type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 使用不可
イメージ管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み <input checked="" type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 使用不可
パッチ管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み <input checked="" type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 使用不可
リモート管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み <input checked="" type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 使用不可
ユーザ管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み <input checked="" type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 使用不可
再起動動作の選択(必要な場合):	
<input checked="" type="radio"/> ユーザに再起動を求める(デフォルト)	
<input type="radio"/> デバイスを再起動しない	
<input type="radio"/> 強制的にデバイスを再起動	
<input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="適用"/> <input type="button" value="リセット"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	

- 4 次のフィールドに入力します。詳細については、103 ページのセクション 9.3.4 「ZENworks エージェントの設定」を参照してください。
- 5 [OK] をクリックし、変更内容を適用します。

## 9.3.2 デバイスフォルダレベルでのエージェントの設定

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 [サーバ] フォルダまたは [ワークステーション] フォルダをクリックします。
- 3 設定するフォルダの隣にある [詳細] をクリックします。
- 4 [設定] タブをクリックし、[デバイス管理] をクリックし、[ZENworks エージェント] をクリックします。

ZENworksエージェント

ZENworksエージェントを設定します。

全般

☒ ユーザにエージェントのアンインストールを許可します

キャッシュ 保持期間: 336 時間

キャッシュ オープンのしきい値: 90 日

ビジー状態のサーバに対する要求再試行回数: 20

再試行要求の初回待機時間(以降の各要求は1秒ずつ増加): 10 秒

再試行要求の最大待機時間: 20 秒

エージェント機能

バンドル管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み	<input checked="" type="radio"/> 使用可能	<input type="radio"/> 使用不可
ポリシー管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み	<input checked="" type="radio"/> 使用可能	<input type="radio"/> 使用不可
アセット管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み	<input checked="" type="radio"/> 使用可能	<input type="radio"/> 使用不可
イメージ管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み	<input checked="" type="radio"/> 使用可能	<input type="radio"/> 使用不可
パッチ管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み	<input checked="" type="radio"/> 使用可能	<input type="radio"/> 使用不可
リモート管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み	<input checked="" type="radio"/> 使用可能	<input type="radio"/> 使用不可
ユーザ管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み	<input checked="" type="radio"/> 使用可能	<input type="radio"/> 使用不可

再起動動作の選択(必要な場合):  
☒ ユーザに再起動を求める(デフォルト)  
☐ デバイスを再起動しない  
☐ 強制的にデバイスを再起動

OK

適用

リセット

キャンセル

- 5 次のフィールドに入力します。詳細については、[103 ページのセクション 9.3.4 「ZENworks エージェントの設定」](#) を参照してください。
- 6 [OK] をクリックし、変更内容を適用します。

## 9.3.3 デバイスレベルでのエージェントの設定

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 [サーバ] フォルダまたは [ワークステーション] フォルダをクリックします。
- 3 設定するデバイスをクリックします。
- 4 [設定] タブをクリックし、[デバイス管理] をクリックし、[ZENworks エージェント] をクリックします。

**ZENworksエージェント**  
ZENworksエージェントを設定します。

---

**全般**

☒ ユーザにエージェントのアンインストールを許可します

キャッシュ保持期間: 336 時間

キャッシュオフアンのしきい値: 90 日

ビジー状態のサーバに対する要求再試行回数: 20

再試行要求の初回待機時間(以降の各要求は1秒ずつ増加): 10 秒

再試行要求の最大待機時間: 20 秒

---

**エージェント機能**

バンドル管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み	<input checked="" type="radio"/> 使用可能	<input type="radio"/> 使用不可
ポリシー管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み	<input checked="" type="radio"/> 使用可能	<input type="radio"/> 使用不可
アセット管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み	<input checked="" type="radio"/> 使用可能	<input type="radio"/> 使用不可
イメージ管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み	<input checked="" type="radio"/> 使用可能	<input type="radio"/> 使用不可
パッチ管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み	<input checked="" type="radio"/> 使用可能	<input type="radio"/> 使用不可
リモート管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み	<input checked="" type="radio"/> 使用可能	<input type="radio"/> 使用不可
ユーザ管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み	<input checked="" type="radio"/> 使用可能	<input type="radio"/> 使用不可

再起動動作の選択(必要な場合):

☒ ユーザに再起動を求める(デフォルト)

☐ デバイスを再起動しない

☐ 強制的にデバイスを再起動

OK 適用 リセット キャンセル

- 5 次のフィールドに入力します。詳細については、[103 ページのセクション 9.3.4 「ZENworks エージェントの設定」](#) を参照してください。
- 6 [OK] をクリックし、変更内容を適用します。

### 9.3.4 ZENworks エージェントの設定

- ◆ [103 ページの「全般」](#)
- ◆ [105 ページの「エージェント機能」](#)

#### 全般

ZENworks Adaptive Agent のキャッシュや、ユーザが Adaptive Agent をアンインストールできるかどうか、および再試行について設定できます。

- ◆ **ユーザへのエージェントのアンインストールの許可** : ユーザが ZENworks Adaptive Agent をアンインストールできるようにしたい場合は、このオプションを有効にします。このオプションは、ローカルアンインストールの場合のみ適用できます。
- ◆ **キャッシュ保持期間** : ZENworks Adaptive Agent のキャッシュディレクトリには、エージェントが使用するコンテンツデータが含まれます。キャッシュエントリと呼ばれるデータの集まりは、キャッシュデータベースに保存されています。

キャッシュデータベースにキャッシュエントリが追加されると、作成時間および満了時間が割り当てられます。作成時間は、エントリがデータベースに追加された時間を単に表わします。満了時間は、作成時間に [キャッシュ保持期間] の設定で指定された時間 (デフォルトでは 336 時間または 14 日) を足した時間です。たとえば、6 月 10 日午後 3 時にキャッシュエントリが追加されたとします。デフォルトの [キャッシュ保持期間] の設定を使用すると、有効期限は 6 月 24 日の午後 3 時に設定されます。

エージェントは、エントリの満了時間になるまではキャッシュエントリを更新しようとはしません。満了時間を過ぎると、エージェントが次回 ZENworks サーバに情報をリフレッシュするためにコンタクトすると、エージェントによりキャッシュエントリが更新されます。

---

**注:** 期限切れのキャッシュエントリの更新は、コンテンツ関連のキャッシュエントリ (バンドル、ポリシー、環境設定、登録設定など) に関してのみ行われます。イベント関連のキャッシュエントリ (リモート管理、インベントリ、レポートリングなど) の更新は、デバイス上でイベントが発生した時にのみ行われます。

---

[キャッシュ保持期間] 設定を長くすると、キャッシュエントリのリフレッシュ頻度が低くなるので、ネットワーク上のトラフィックの負荷を軽減できます。設定を短くすると、より新しい情報が得られますが、トラフィックの負荷が増加します。

この設定によって影響されるのは、エージェントがキャッシュエントリに対する更新を要求する頻度のみです。ZENworks コントロールセンターで情報が変更された場合、ZENworks サーバからエージェントに情報がプッシュされるので、キャッシュエントリをその満了時間よりも前に更新することもできます。

- ◆ **キャッシュオフアのしきい値:** ある期間にわたって、エントリをキャッシュデータベースに挿入することはできますが、削除はできません。このため、キャッシュが必要以上に大きくなってしまう可能性があります。

オフアとは、キャッシュに挿入されたけれども [キャッシュオフアのしきい値] 設定で指定された日数のうちにアクセスされなかったエントリのことです。たとえば、7月1日の午前10時にキャッシュエントリがアクセスされたとします。デフォルトの [キャッシュオフアのしきい値] の設定 (30日) を使用しない場合、7月31日の午前10時以前に再度アクセスされないと、エントリはオフアになります。

[キャッシュオフアのしきい値] 設定を長くすると、頻繁にアクセスされない情報がキャッシュデータベースから削除されないようにすることができます。設定を短くすると、キャッシュサイズを削減できます。

- ◆ **ビジー状態のサーバに対する要求再試行回数:** サーバがビジー状態ではなく不正であると見なす前に、ビジー状態のサーバに対して、エージェントが要求を再試行する回数を指定できます。

デフォルト値は 15 です。指定可能な最大値は 20 です。

- ◆ **再試行要求の初回待機時間:** [再試行要求の初回待機時間] 設定では、エージェントがサーバからビジーの応答を受け取った後、Web サービス要求を再試行するまでの初回待機時間を指定します。待機時間はビジー応答を受け取るたびに 1 秒増えます。デフォルト設定は 4 秒です。指定可能な最大値は 10 秒です。後続の要求は 1 秒増分されます。

たとえば、この設定をデフォルトのまま残したとします (4 秒)。サーバからビジー応答を受け取った後、エージェントは最初の再試行まで 4 秒間待つことになります。サーバがまだビジー状態の場合、エージェントは次の再試行までさらに 5 秒 (4 + 1) 待機することになります。3 度目の再試行では、初回の再試行以降 15 秒 (4 + 5 + 6) となります。時間は、[再試行要求の最大待機時間] 設定で指定した値に達するまで増えます。[ビジー状態のサーバに対する要求再試行回数] 設定で指定した値に達すると、再試行は停止されます。

- ◆ **再試行要求の最大待機時間:** サーバからビジーの応答を受け取った後、Web サービス要求を再試行するまでの最大待機時間を指定します。

デフォルト設定は 16 秒です。指定可能な最大値は 20 秒です。



## エージェント機能

ZENworks® Adaptive Agent は、モジュールを使用して管理対象デバイスで次の機能を実行します。

- ◆ アセット管理
- ◆ バンドル管理
- ◆ イメージ管理
- ◆ パッチ管理
- ◆ ポリシー管理
- ◆ リモート管理
- ◆ ユーザ管理

Windows 2000 デバイスのプロパティの表示では、[ユーザ管理] オプションが無効になっています。これは、Windows 2000 デバイスではユーザ管理の無効化とアンインストールができないためです。管理ゾーンまたはフォルダのプロパティの表示では、Windows 2000 デバイスに対するユーザ管理設定は無視されます。

デフォルトでは、デバイスにすべてのモジュールがインストールされます。ただし、モジュールはアンインストールできます。インストールしたモジュールを無効または有効にすることもできます。

多数の要因によって、モジュールをインストール、アンインストールまたは無効にしても、その設定が即座に有効にならないことがあります。

- ◆ たとえば、バンドルをデバイスに適用中にバンドル管理モジュールを無効にした場合、バンドルが適用され、デバイスが更新された後で、モジュールが無効化されます。
- ◆ DLU (ダイナミックローカルユーザ) ポリシーを実行中のデバイスで、ポリシー管理モジュールを無効化またはアンインストールした場合は、デバイスの再起動後に、モジュールが無効化またはアンインストールされます。
- ◆ リモート管理モジュールまたはイメージ管理モジュールをデバイスにインストールした場合は、デバイスを再起動しないと、インストールが有効になりません。
- ◆ ユーザ管理モジュールを無効化またはアンインストールした場合は、ポリシーの割り当て先ユーザがデバイスにログインしていても、ローミングプロファイルポリシーはデバイスに適用されません。
- ◆ ユーザ管理モジュールを無効化またはアンインストールした場合、ユーザ環境設定を含む Windows グループポリシーは、そのポリシーがデバイスに割り当てられている場合でも、その管理対象デバイスに適用されません。

モジュールは、次の3つのレベルでインストール、アンインストール、有効化、または無効化できます。

- ◆ **管理ゾーン**：この設定は管理ゾーンの中のすべてのデバイスに適用されます。
- ◆ **デバイスフォルダ**：この設定は、フォルダまたはそのサブフォルダの中に含まれているすべてのデバイスに適用されます。管理ゾーンの設定を上書きします。
- ◆ **デバイス**：この設定は、それが設定されたデバイスにのみ適用されます。管理ゾーンレベルおよびフォルダレベルでの設定を上書きします。

モジュールの状態を変更するには、次の手順に従います。

- 1 (条件付き) デバイスフォルダまたはデバイスで ZENworks エージェント設定を構成する場合、[設定の上書き] をクリックします。

- 2 モジュールをインストールするには、[インストール済み] チェックボックスを選択します。

または

モジュールをアンインストールするには、[インストール済み] チェックボックスをオフにします。

デフォルトでは、すべてのモジュールで [インストール済み] チェックボックスがオンになっており、ZENworks 管理ゾーンに登録するときにすべてのモジュールがデバイスにインストールされています。モジュールの [インストール済み] チェックボックスをオフにすると、そのモジュールは次の更新時にデバイスからアンインストールされます。

- 3 インストールされたモジュールを有効にするには、[有効] ボタンをクリックします。

または

インストールされたモジュールを無効にするには、[無効] ボタンをクリックします。

デフォルトでは、すべてのインストール済みモジュールで [有効] オプションが選択されており、すべてのモジュールがデバイスで有効です。モジュールを無効にしても、現在の管理対象デバイスからモジュールはアンインストールされません。モジュールはデバイスにインストールされたままですが、使用できません。


- 4 再起動が必要な場合は、再起動の動作を指定します。

このオプションは、モジュールのインストールまたはアンインストールの際にのみ適用されます。場合によっては、モジュールのインストールまたはアンインストールの際に Windows インストーラからデバイスの再起動が要求されることがあります。インストール中に再起動が要求された場合は、モジュールは再起動されるまで機能しません。アンインストール中に再起動が要求された場合は、モジュールのファイルは再起動されるまで完全には削除されませんが、モジュールは機能を停止します。

- ユーザに再起動を要求する(デフォルト): ユーザはデバイスの再起動を要求されます。ユーザは即座に再起動することも、後で再起動することもできます。
- デバイスを再起動しない: 再起動されません。ユーザが再起動を行う必要があります。
- 強制的にデバイスを再起動: デバイスは自動的に再起動されます。5 分以内にデバイスが再起動されることがユーザに通知されます。

- 5 [適用] をクリックして変更を保存します。

---

**注:** イメージングサテライト上のイメージ管理のアンインストールを選択した場合は、次のデバイス更新スケジュール時に、[サテライトイメージング] ページが  アイコンに表示されません。ただし、デバイスは、引き続きイメージングサテライトとして使用できます。デバイスは、ZENworks コントロールセンターにイメージングサテライトとして表示され ([環境設定] > [サーバの階層] パネル)、イメージングサービスがデバイス上で実行されます (デスクトップ [開始] メニュー > [設定] > [コントロールパネル] > [管理ツール] > [サービス])。

---

## 9.4 ZENworks Explorer の設定

ZENworks Adaptive Agent の ZENworks Explorer コンポーネント用に、一般的な設定を次の 3 つのレベルで設定できます。

- ◆ **管理ゾーン** : Agent の設定はすべてのデバイスフォルダおよびデバイスに継承されます。
- ◆ **デバイスフォルダ** : バンドル設定はフォルダまたはそのサブフォルダ内に含まれるすべてのデバイスによって継承されます。
- ◆ **デバイス** : バンドル設定は、それが設定されたデバイスのみに適用されます。

詳細情報については、次を参照してください。

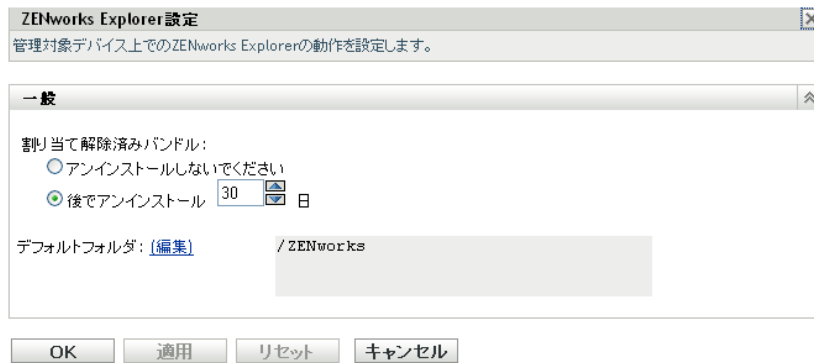
- ◆ 107 ページのセクション 9.4.1 「管理ゾーンレベルでの ZENworks Explorer の設定」
- ◆ 108 ページのセクション 9.4.2 「デバイスフォルダレベルでの ZENworks Explorer の設定」
- ◆ 109 ページのセクション 9.4.3 「デバイスレベルでの ZENworks Explorer の設定」

### 9.4.1 管理ゾーンレベルでの ZENworks Explorer の設定

- 1 ZENworks コントロールセンターで、**環境設定** タブをクリックします。



- 2 **デバイス管理** タブをクリックします。
- 3 **ZENworks Explorer 設定** をクリックします。



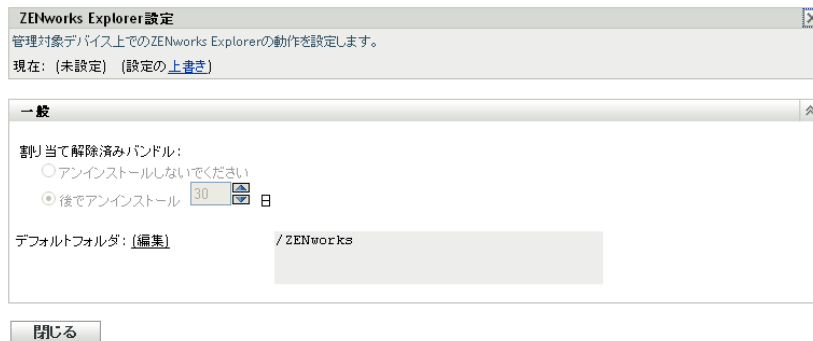
- 4 次のフィールドに入力します。詳細については、[110 ページのセクション 9.4.4 「ZENworks Explorer の一般設定」](#) を参照してください。
- 5 [OK] をクリックし、変更内容を適用します。

## 9.4.2 デバイスフォルダレベルでの ZENworks Explorer の設定

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。



- 2 [サーバ] フォルダまたは [ワークステーション] フォルダをクリックします。
- 3 設定するフォルダの隣にある [詳細] をクリックします。
- 4 [設定] タブをクリックし、[コンテンツ] をクリックし、次に [ZENworks Explorer 設定] をクリックします。



- 5 「**上書きの設定**」をクリックします。

デバイスフォルダまたはデバイスを設定する場合、設定を選択する前に「**上書きの設定**」をクリックする必要があります。

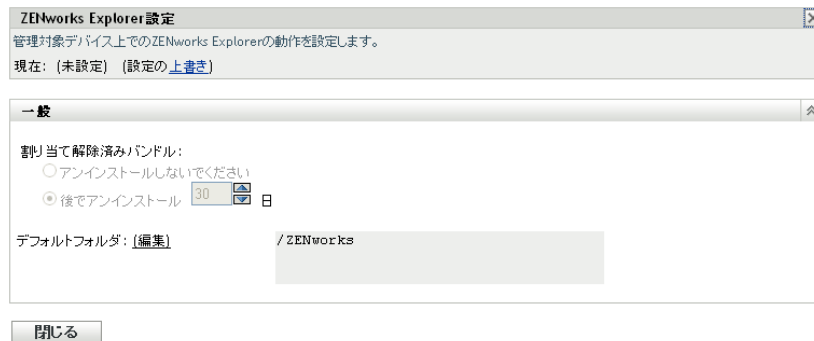
- 6 フィールドに入力します。詳細については、**110 ページのセクション 9.4.4 「ZENworks Explorer の一般設定」**を参照してください。
- 7 「**OK**」をクリックし、変更内容を適用します。

### 9.4.3 デバイスレベルでの ZENworks Explorer の設定

- 1 ZENworks コントロールセンターで、「**デバイス**」タブをクリックします。



- 2 「**サーバ**」フォルダまたは「**ワークステーション**」フォルダをクリックします。
- 3 設定するデバイスをクリックします。
- 4 「**設定**」タブをクリックし、「**コンテンツ**」タブをクリックし、「**ZENworks Explorer 設定**」をクリックします。



- 5 [上書きの設定] をクリックします。

デバイスフォルダまたはデバイスを設定する場合、設定を選択する前に [上書きの設定] をクリックする必要があります。

- 6 フィールドに入力します。詳細については、[110 ページのセクション 9.4.4 「ZENworks Explorer の一般設定」](#) を参照してください。
- 7 [OK] をクリックし、変更内容を適用します。

## 9.4.4 ZENworks Explorer の一般設定

ZENworks Explorer の [全般] パネルでは、デバイスに割り当てられていないバンドルをアンインストールするよう ZENworks Explorer を設定したり、バンドルをアンインストールするまで待機する日数を指定したり、ZENworks Explorer が使用するデフォルトのフォルダを指定したりすることができます。

- ◆ **未割り当てのバンドル:** バンドルがデバイスやデバイスのユーザに割り当てられなくなった後、それをアンインストールするかどうかを選択します。

バンドルをアンインストールする場合は、アプリケーションをアンインストールする前に待機する日数を選択します。アプリケーションがデバイスやユーザに割り当てられなくなった後に、すぐにそれをアンインストールする場合は、0 を指定します。

- ◆ **デフォルトフォルダ:** ZENworks Explorer は、Windows エクスプローラ、Windows の [スタート] メニュー、および ZENworks Window にデフォルトフォルダ (ZENworks) を表示します。バンドルは、バンドルの [概要] ページでフォルダを指定してデフォルトフォルダを上書きしている場合を除き、デフォルトフォルダに配置されます。

組織のニーズに適合するようにデフォルトフォルダの名前は変更できます。[編集] をクリックしてフォルダ名を変更します。


## 9.5 Adaptive Agent のトラブルシューティング


次のセクションでは、ZENworks Adaptive Agent で作業を行っているときに発生する可能性のある問題に対する解決方法について説明します。

- ◆ [111 ページの「\[ZENworks Adaptive Agent\] ページの左側のナビゲーションペインにサテライトのメニューが表示されない」](#)
- ◆ [111 ページの「権限ベースの認証を使用してリモートでデバイスを管理できない」](#)
- ◆ [111 ページの「ZENworks Adaptive Agent がインストールされた Citrix サーバとのターミナルセッションを起動できない」](#)

## [ZENworks Adaptive Agent] ページの左側のナビゲーションペインにサテライトのメニューが表示されない

ソース: ZENworks 10 Configuration Management、ZENworks Adaptive Agent。

説明: ZENworks コントロールセンターを使用してデバイスをサテライトに昇格させると、設定されたサテライト役割がデバイスに追加されます。ただし、 をダブルクリックすると、[ZENworks Adaptive Agent] ページの左側のナビゲーションペインには、サテライトのメニューは表示されません。

アクション: 管理対象デバイスを更新します ( デバイスの通知領域で、 アイコンを右クリックし、[更新] をクリックします)。

## 権限ベースの認証を使用してリモートでデバイスを管理できない

ソース: ZENworks 10 Configuration Management、ZENworks Adaptive Agent。

説明: 権限ベースの認証を使用して、リモートでデバイスを管理しようとすると、次のエラーがデバイスに記録されます。

```
Rights Authentication failed. An internal error occurred  
while communicating to ZENworks Management Daemon. Contact  
Novell Technical Services.
```

考えられる原因: ZENworks Adaptive Agent がデバイスにインストールされていません。デバイスには、Remote Management サーバのみがインストールされています。

アクション: ZENworks Adaptive Agent をデバイスにインストールします。  
ZENworks Adaptive Agent のインストールの詳細については、  
『ZENworks 10 Configuration Management 管理クイックスタート』の  
「ZENworks Adaptive Agent のインストール」を参照してください。

## ZENworks Adaptive Agent がインストールされた Citrix サーバとのターミナルセッションを起動できない

ソース: ZENworks 10 Configuration Management、ZENworks Adaptive Agent。

説明: ZENworks Adaptive Agent を Citrix\* サーバに展開後、次の ICA ログインセッション問題のいずれかが発生した可能性があります。

- ◆ Citrix エージェントから起動された ICA ログインセッションが、しばらくしてから終了します。
- ◆ ICA ログインセッションで、次の例外が表示されます。

```
winlogon.exe ..Application Error
```

例外ウィンドウを閉じようとする、セッションがハングし、次のメッセージが表示されます。

```
Running login scripts
```

アクション: Citrix サーバとのターミナルセッションを起動する前に、サーバ上で次のいずれかを実行します。

- ◆ NWGina.dll の名前を変更します。
  1. c:\windows\system32 ディレクトリ内で、NWGina.dll の名前を変更します。

2. レジストリエディタ内で、  
HKLM\Software\Microsoft\WindowsNT\CurrentVersion\Winlogon に移動し、CtxGinaDLL キーの値を NWGina.dll の新しい名前に変更します。
  3. サーバを再起動します。
- ◆ Novell Client をインストールします。

---

**注:** これは一度だけ実行すれば、後は必要ありません。

---



# ZENworks サーバおよび認証局のバックアップと復元

# 10

次のセクションでは、ZENworks サーバおよび認証局のバックアップおよび復元に関する詳細について説明します。

- 113 ページのセクション 10.1 「ZENworks サーバのバックアップ」
- 114 ページのセクション 10.2 「ZENworks サーバの復元」
- 115 ページのセクション 10.3 「認証局のバックアップ」
- 116 ページのセクション 10.4 「認証局の復元」

## 10.1 ZENworks サーバのバックアップ

Novell® ZENworks® 10 Configuration Management では、ZENworks プライマリサーバの環境設定ファイルをバックアップおよび復元することができます。サーバが失敗したり、新しいサーバのハードウェアにアップグレードする必要がある場合、これによって ZENworks サーバの ID と設定を保持できます。

ZENworks サーバは 1 回だけバックアップが必要です。バックアップは、環境設定ファイルしか保存しません。次のアイテムは、個別にバックアップする必要があります。

- コンテンツリポジトリ (バンドル、ポリシー、およびイメージのファイル)。管理ゾーンにプライマリサーバが 1 つしかない場合は、コンテンツリポジトリ用の別個のバックアップを実行する必要があります。2 つ以上プライマリサーバがあり、すべてのコンテンツを両方のサーバに複製した場合、それらのサーバは、互いのバックアップコピーとして機能します。
- ZENworks データベース (ZENworks サーバ上にある場合)。ZENworks サーバのバックアップと ZENworks データベースのバックアップは、2 つの別個プロセスです。ZENworks データベースが ZENworks サーバの 1 つと同じサーバにある場合は、まず、データベースをバックアップし、次に、ZENworks サーバをバックアップします。ZENworks データベースは頻繁に変更されるので、ZENworks データベースは、定期的にバックアップする必要があります。データベースのバックアップの詳細については、231 ページのパート VII 「データベース管理」を参照してください。

zman コマンドを使用して ZENworks サーバをバックアップすると、Windows サーバの場合は Novell\ZENworks\conf ディレクトリのすべてのファイルが、Linux サーバの場合は etc/opt/novell/zenworks/ ディレクトリのすべてのファイルが、指定した場所にある暗号化されたバックアップファイルに保存されます。

- 1 (条件付き) バックアップしているサーバが ZENworks データベースをホストしている場合は、データベースファイルを安全な場所に手動でバックアップします。

データベースのバックアップの詳細については、231 ページのパート VII 「データベース管理」を参照してください。

- 2 ZENworks サーバ上のコマンドプロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
zman zenserver-backup path_to_backup_file_to_create
```

例を次に示します。

```
zman zenserver-backup c:\zcm_backups\zone_backup.bak
```

または

```
zman zenserver-backup /root/zcm_backups/zone_backup.bak
```

- 3 入力が求められたら、ZENworks の管理者名およびパスワードを入力します。
- 4 入力が求められたら、バックアップファイルを暗号化するために使用されるパスフレーズを入力します (最低 10 文字)。  
このパスフレーズを覚えておいてください。サーバを復元する必要がある場合、これを入力する必要があります。
- 5 (条件付き) これが使用する唯一のプライマリサーバであるか、管理ゾーンで定義したすべてのコンテンツを含む唯一のプライマリサーバである場合は、コンテンツリポジトリを安全な場所に手動でバックアップします。  
コンテンツリポジトリの詳細は、[181 ページの第 19 章「コンテンツリポジトリ」](#)を参照してください。

---

**重要:** これが管理ゾーンに定義したすべてのコンテンツを含む唯一のプライマリサーバであっても、コンテンツリポジトリをバックアップしない場合は、完全な障害復旧の態勢をとることはできません。

---

- 6 定期的に[ステップ 1](#)と[ステップ 5](#)を繰り返し実行してください。  
[ステップ 2](#)から[ステップ 4](#)で説明している zman コマンドは 1 回実行するだけです。

## 10.2 ZENworks サーバの復元

この手順では、次を想定しています。

- ZENworks サーバの設定情報のバックアップがあります。詳細については、[113 ページのセクション 10.1「ZENworks サーバのバックアップ」](#)を参照してください。
- ZENworks データベースが ZENworks サーバにある場合、データベースのバックアップがあります。詳細については、[235 ページのセクション 25.3「組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースのバックアップ」](#)を参照してください。
- ZENworks サーバに保存されたバンドルおよびポリシーが、他の ZENworks サーバに複製されました。複製されない場合は、復元された ZENworks サーバからのポリシーまたはバンドルの配布が失敗します。
- ZENworks サーバに保存されているイメージファイルは、別の ZENworks サーバで使用可能です。そうでない場合、復元された ZENworks サーバからのイメージファイルの配布は失敗します。

---

**重要:** ZENworks サーバおよびデータベースを復元する場合、まず、ZENworks サーバを復元し、次に、最後にバックアップした ZENworks データベースを復元する必要があります。

---

ZENworks サーバを復元するには、次の手順に従います。

- 1 同じ IP アドレスおよび DNS 名を使用して、ZENworks サーバを再インストールします。  
同じ IP アドレスと DNS 名を使用しない場合、サーバに接続するすべてのデバイスを登録する必要があります。

外部データベースに接続されたプライマリサーバがゾーン内に 1 つしかない場合は、プライマリサーバを再インストールして、インストール中にダミーのデータベースを作成します。内部データベースを作成する必要はありません。

外部データベースに接続されたプライマリサーバがゾーン内に複数ある場合は、障害が発生したプライマリサーバを 2 番目のプライマリサーバとして再インストールします。インストール中にデータベースの設定を要求されます。

- 2 Windows サーバの場合は Novell\ZENworks\conf ディレクトリ、Linux サーバの場合は etc/opt/novell/zenworks ディレクトリで、読み込み / 書き込みの権限を持っていることを確認してください。

- 3 ZENworks サーバ上のコマンドプロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
zman zenserver-restore path_to_backup_file_to_restore
```

例を次に示します。

```
zman zenserver-restore c:\zcm_backups\zone_backup.bak
```

または

```
zman zenserver-restore /root/zcm_backups/zone_backup.bak
```

- 4 入力が求められたら、ZENworks の管理者名およびパスワードを入力します。
- 5 入力が求められたら、バックアップファイルを復号化するために使用されるパスフレーズを入力します (最低 10 文字)。  
これは、サーバをバックアップするときにファイルを暗号化するために入力された、同じパスフレーズです。
- 6 (条件付き) データベースがサーバ上にある場合、ZENworks サーバの情報が復元された後に、データベースを復元します。手順については、[241 ページのセクション 25.4 「組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースの復元」](#)を参照してください。
- 7 (条件付き) イメージファイルのバックアップがある場合、Windows サーバの場合は Novell\Zenworks\work\content-repo\images ディレクトリ、Linux サーバの場合は /var/opt/novell/zenworks/content-repo/images ディレクトリに、ファイルを復元します。
- 8 ZENworks サーバを再起動します。

## 10.3 認証局のバックアップ

ZENworks 内部の認証局になるように設定されたプライマリサーバ上の認証局ファイルをバックアップするには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks サーバのコマンドプロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
zman certificate-authority-export (certificate-authority-export/cae) [ オプション ] (ファイルパス)
```

このコマンドによって、ゾーン認証局の主要なペアの資格情報がファイルにエクスポートされます。zman の認証局コマンドの詳細については、『[ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス](#)』の「[zman\(1\)](#)」を参照してください。

- 2 管理ゾーンの管理者のユーザ名およびパスワードを入力します。
- 3 ファイル暗号化のパスフレーズを入力します。

このパスフレーズを覚えておいてください。サーバを復元する必要がある場合、これを入力する必要があります。

## 10.4 認証局の復元

ZENworks 内部の認証局になるよう設定されたプライマリサーバ上の認証局ファイルを復元するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks サーバのコマンドプロンプトで、次の `zman` コマンドを入力します。

```
zman certificate-authority-import (certificate-authority-import/cai) ( ファイルパス )
```

このコマンドにより、ゾーン認証局の主要なペアの資格情報がファイルからインポートされます。`zman` の認証局コマンドの詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「`zman(1)`」を参照してください。

- 2 管理ゾーンの管理者のユーザ名およびパスワードを入力します。
- 3 認証局ファイルをバックアップしたときに指定したファイル暗号化パスフレーズを入力します (115 ページのセクション 10.3 「認証局のバックアップ」のステップ 3)。

次のセクションでは、Novell® ZENworks® 10 Configuration Management で提供されている障害復旧メカニズムについて説明します。このメカニズムは、組織のリスクアセスメントで、そのような措置に対するニーズが識別された場合に、管理ゾーンの最初のプライマリサーバを保護するために役立ちます。

- 117 ページのセクション 11.1「最初のプライマリサーバから 2 番目のプライマリサーバへの入れ替え」
- 121 ページのセクション 11.2「既存のプライマリサーバから新しいプライマリサーバへの入れ替え」
- 122 ページのセクション 11.3「プライマリサーバでの内部証明書から外部証明書への変更」
- 123 ページのセクション 11.4「プライマリサーバの DNS 名変更後に実行するタスク」

## 11.1 最初のプライマリサーバから 2 番目のプライマリサーバへの入れ替え

管理ゾーンの最初のプライマリサーバを、既存の 2 番目のプライマリサーバ、または新しいサーバに入れ替えることができます。最初のプライマリサーバを、別のホスト名と IP アドレスを持つ新しいサーバに入れ替える場合、同じ管理ゾーン内で新しいサーバに ZENworks 10 Configuration Management をインストールする必要があります。その結果、新しいサーバが 2 番目のプライマリサーバになります。

---

注：このシナリオは、次のプラットフォームの組み合わせでテスト済みです。




- Windows Server\* 2003 (32 ビット) から Windows Server 2008 (32 ビット) へ
- SUSE® Linux Enterprise Server (SLES) 10 (32 ビット) から SLES 10 (32 ビット) へ

ZENworks レポーティングサーバではテストされていません。

---

最初のプライマリサーバを 2 番目のプライマリサーバに入れ替えるには、次の手順に従います。

- 1 最初のプライマリサーバの content-repo ディレクトリが、2 番目のプライマリサーバに複製されていることを確認します。  
content-repo ディレクトリは、Windows では `ZENworks_installation_directory\work\` に、Linux では `/var/opt/novell/zenworks/` ディレクトリにあります。
- 2 (条件付き) 最初のプライマリサーバにアドオンイメージがある場合：
  - 2a 2 番目のプライマリサーバの ZENworks コントロールセンターで [バンドル] タブをクリックし、次にイメージングバンドルをクリックします。  
[概要] タブが表示されます。
  - 2b [アドオンイメージファイル] の隣の [編集] をクリックします。  
[バンドルアドオンイメージ] ウィザードが表示されます。

- 2c** [アドオンイメージサーバアドレス] ページで、バンドルに関連付けられた最初のプライマリサーバを選択し、[削除] をクリックします。
- 2d** [Add] をクリックします。
- 2e** [Servers] フォルダの隣の [🔍] をクリックし、2 番目のプライマリサーバが見つかるまでフォルダ内のナビゲーションを行います。
- 2f** 2 番目のプライマリサーバを選択して、その名前を [選択済み] リストに表示し、[OK] をクリックします。
- 2g** [完了] をクリックします。  
2 番目のプライマリサーバにアドオンイメージが関連付けられ、アドオンイメージのコンテンツが 2 番目のプライマリサーバ上に作成されます。
- 2h** バンドルの [概要] タブで、[Increment Version (バージョン増分)] の下線付きのリンクをクリックして [バージョン] をクリックし、次に [Confirm Version Increment (バージョン増分の確認)] ダイアログボックスで [はい] をクリックします。
- 3 (条件付き)** 最初のプライマリサーバに ZENworks イメージングバンドルがある場合、バンドルを 2 番目のプライマリサーバにコピーします。
- 3a** .zmg の拡張子が付いたすべてのファイルを最初のプライマリサーバの /content-repo/images ディレクトリから、2 番目のプライマリサーバの /content-repo/images ディレクトリに手動でコピーします。
- 3b** プライマリサーバの ZENworks コントロールセンターで [バンドル] タブをクリックし、イメージングバンドルをクリックします。
- 3c** [アクション] タブをクリックします。
- 3d** ZENworks イメージ操作をクリックします。  
[アクション編集] ダイアログボックスが表示されます。
- 3e** [ZENworks イメージ] フィールド内の、 をクリックします。  
[サーバとパス情報] ダイアログボックスが表示されます。
- 3f** [サーバオブジェクト]、[IP]、または [DNS] フィールド内の、 をクリックして、2 番目のプライマリサーバをブラウザおよび選択します。
- 3g** [サーバ上のファイルパス] フィールド内の、 をクリックして、image.zmg ファイルをブラウザおよび選択します。
- 4** 認証局役割をエクスポートします。
- 4a** 最初のプライマリサーバの認証局の信頼できるバックアップを作成します。  
認証局のバックアップ方法の詳細は、[115 ページのセクション 10.3「認証局のバックアップ」](#) を参照してください。
- 
- 重要：** zman certificate-authority-export コマンドに -d オプションを指定し、ローカルサーバの認証局役割を削除します。
- 
- 4b** バックアップした認証局を 2 番目のプライマリサーバで復元します。  
バックアップした認証局の復元方法の詳細は、[116 ページのセクション 10.4「認証局の復元」](#) を参照してください。
- 5** 管理ゾーンレベルのデフォルト最近接サーバルールで、最初のプライマリサーバを移動してサーバリスト内の最後のエントリにします。
- 5a** ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。

- 5b** [管理ゾーンの設定] パネルで、[インフラ管理] > [最近接サーバのデフォルトルール] の順にクリックします。
- 5c** [コレクションサーバ] リストで、最初のプライマリサーバの横のチェックボックスを選択し、次に、サーバがリストの最後のエントリになるまで、[下へ移動] をクリックします。
- 5d** [コンテンツサーバ] リストで、最初のプライマリサーバの横のチェックボックスを選択し、次に、サーバがリストの最後のエントリになるまで、[下へ移動] をクリックします。
- 5e** [設定サーバ] リストで、最初のプライマリサーバの横のチェックボックスを選択し、次に、サーバがリストの最後のエントリになるまで、[下へ移動] をクリックします。
- 5f** [OK] をクリックします。
- 6** (条件付き) 追加の最近接サーバルールが設定されている場合は、それらのルールから最初のプライマリサーバを削除します。
- 6a** ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 6b** [管理ゾーンの設定] パネルで、[インフラ管理] > [最近接サーバルール] の順にクリックします。
- 6c** 最近接サーバルールを選択後、[編集] をクリックします。  
[Rule Construction(ルール構築)] ダイアログボックスが表示されます。
- 6d** [コレクションサーバ] リストで、最初のプライマリサーバの横のチェックボックスを選択し、次に、[削除] をクリックします。
- 6e** [コンテンツサーバ] リストで、最初のプライマリサーバの横のチェックボックスを選択し、次に、[削除] をクリックします。
- 6f** [設定サーバ] リストで、最初のプライマリサーバの横のチェックボックスを選択し、次に、[削除] をクリックします。
- 6g** [OK] を2回クリックします。
- 7** 管理ゾーン内のすべてのデバイス(プライマリサーバ、サテライト、および管理対象デバイス)を更新して、それらが新しい最近接サーバルールを取得するようにします。
- 8** (条件付き) 次のシナリオでデータベースを別なデバイスに移動します。
- ◆ 内部 ZENworks データベース (組み込み Sybase SQL\* Anywhere) を使用している。
  - ◆ 最初のプライマリサーバをホストしているデバイス上にインストールされた外部データベースを使用しており、プライマリサーバのアンインストール後はデバイスを使用する予定がない。
- データベースを別なデバイスに移動するには、次の手順に従います。
- 8a** (条件付き) 外部データベースを使用している場合、データベースの信頼できるバックアップがあることを確認します。
- 8b** データベースの資格情報を取得します。
- 内部データベースの資格情報を取得するには、次のいずれかのコマンドを使用します。
- ```
zman dgc -U administrator_name -P administrator_password
```
- または
- ```
zman database-get-credentials -U administrator_name -P administrator_password
```



外部データベースの資格情報を取得するには、データベース管理者にお問合せください。

- 8c** 最初のプライマリサーバからデータベース役割を削除します。

**8c1** データベースにログインします。

**8c2** SQL エディタで、次の SQL クエリを実行して最初のプライマリサーバのデータベース役割エントリを `zZENServerRoles` 表から削除します。

```
delete from zZENServerRoles where Roles='Database';
```

**8c3** SQL エディタで、次の SQL コマンドを実行します。

```
commit;
```

- 8d** データベースが最初のプライマリサーバのデバイスと同じデバイスにインストールされている場合は、そのデータベースを移動します。

**内部 Sybase:** 内部 Sybase データベースから外部 Sybase データベースにデータを移動する方法の詳細は、[242 ページのセクション 25.5「組み込み Sybase データベースから外部 Sybase データベースへのデータの移動」](#)を参照してください。

**外部 Sybase:** 外部 Sybase データベースから別の外部 Sybase データベースにデータを移動する方法の詳細は、[255 ページのセクション 26.1「ある外部 Sybase データベースから別の外部 Sybase データベースへデータを移動する」](#)を参照してください。

**MS SQL:** 新しい MS SQL データベースにデータを移動する方法の詳細は、MS SQL のマニュアルを参照してください。後から [257 ページのセクション 26.2「別の MS SQL データベースから移動されたデータが含まれている新しい MS SQL データベースを指すように、ZENworks サーバを設定する」](#)に記載の手順を実行してください。

**Oracle:** Oracle データベースから別の Oracle データベースにデータを移動する方法の詳細は、Oracle のマニュアルを参照してください。後から [258 ページのセクション 26.3「別の Oracle データベースから移動されたデータが含まれている新しい Oracle データベースを指すように、ZENworks サーバを設定する」](#)に記載の手順を実行してください。

- 9** 最初のプライマリサーバの下のすべてのサテライトを [サーバの階層] から削除します。

ZENworks コントロールセンターに一覧表示されているサーバ階層からサテライトを削除する方法の詳細は、[82 ページのセクション 7.3「サーバ階層からのサテライトの削除」](#)を参照してください。

- 10** サーバプロンプトで次のコマンドのいずれかを入力して、最初のプライマリサーバをリタイアします。

```
zman zsd primary_server_object_name
```

または

```
zman zenserver-delete primary_server_object_name
```

`zman` の詳細については、サーバの `zman` マニュアル (`man zman`) ページを表示するか、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「[zman\(1\)](#)」を参照してください。



- 11 管理ゾーン内のすべての操作が問題なく機能することを確認したら、最初のプライマリサーバ上の ZENworks 10 Configuration をアンインストールします。

ZENworks 10 Configuration Management のアンインストールの方法については、『ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド』の「ZENworks 10 Configuration Management SP2 のアンインストール」を参照してください。

## 11.2 既存のプライマリサーバから新しいプライマリサーバへの入れ替え

管理ゾーンに 1 つのプライマリサーバしかなく、プライマリサーバをホストしているデバイスを、古いデバイスと同じホスト名と IP アドレスで新しいデバイスに入れ替える場合、プライマリサーバを新しいデバイスに移動する必要があります。

---

注：このシナリオは、次のプラットフォームの組み合わせでテスト済みです。

- ◆ Windows Server\* 2003 (32 ビット) から Windows Server 2008 (32 ビット) へ
- ◆ SUSE® Linux Enterprise Server (SLES) 10 (32 ビット) から SLES 10 (32 ビット) へ

ZENworks レポーティングサーバではテストされていません。

---

- 1 既存の ZENworks サーバの信頼できるバックアップを作成します。

ZENworks サーバのバックアップを作成する方法の詳細は、[113 ページのセクション 10.1 「ZENworks サーバのバックアップ」](#)を参照してください。

- 2 プライマリサーバの認証局の信頼できるバックアップを作成します。

認証局のバックアップ方法の詳細は、[115 ページのセクション 10.3 「認証局のバックアップ」](#)を参照してください。

- 3 (条件付き) 次のいずれかのシナリオで、データベースの信頼できるバックアップを作成します。

- ◆ 内部 ZENworks データベース (組み込み Sybase SQL Anywhere) を使用している。
- ◆ プライマリサーバをホストしているデバイス上にインストールされた外部データベースを使用しており、プライマリサーバのアンインストール後はそのデバイスを使用する予定がない。

内部データベースのバックアップ方法の詳細は、[235 ページのセクション 25.3 「組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースのバックアップ」](#)を参照してください。

外部データベースのバックアップを作成するには、そのデータベースのマニュアルを参照してください。

- 4 プライマリサーバのすべての ZENworks サービスを中止します。

Windows 上で ZENworks サービスを中止する方法の詳細は、[71 ページのセクション 6.1.3 「ZENworks サービスの停止」](#)を参照してください。Linux 上で ZENworks サービスを中止する方法の詳細は、[73 ページのセクション 6.2.3 「ZENworks サービスの停止」](#)を参照してください。

- 5 プライマリサーバの content-repo ディレクトリの信頼できるバックアップを作成します。

content-repo ディレクトリは、Windows では `ZENworks_installation_directory\work\` に、Linux では `/var/opt/novell/zenworks/` ディレクトリにあります。

- 6 デバイスをネットワークから切断します。

7 新しいサーバのホスト名と IP アドレスが古いプライマリサーバのそれらと同じであることを確認します。

8 新しいサーバに、ZENworks 10 Configuration Management を古いプライマリサーバのものと同一管理ゾーン名とポートでインストールします。

ZENworks 10 Configuration Management のインストール方法については、『ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド』の「ZENworks 10 Configuration Management SP2 のインストール」を参照してください。

9 新しいプライマリサーバで次を実行してください。

9a バックアップした ZENworks サーバを復元します。

ZENworks サーバの復元方法の詳細は、114 ページのセクション 10.2 「ZENworks サーバの復元」を参照してください。

9b バックアップした認証局を復元します。

認証局の復元方法の詳細は、116 ページのセクション 10.4 「認証局の復元」を参照してください。

9c (条件付き) バックアップしたデータベースを復元します。

内部 ZENworks データベースの復元方法の詳細は、241 ページのセクション 25.4 「組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースの復元」を参照してください。

9d バックアップした content-repo ディレクトリを Windows では

ZENworks\_installation\_directory\work\ ディレクトリ、または Linux では /var/opt/novell/zenworks/ ディレクトリにコピーします。

10 新しいサーバが正しく稼働していることを確認してください。続いて、古いデバイスから ZENworks Configuration Management をアンインストールします。

ZENworks 10 Configuration Management をアンインストールする方法については、『ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド』の「ZENworks 10 Configuration Management SP2 のアンインストール」を参照してください。

## 11.3 プライマリサーバでの内部証明書から外部証明書への変更

Windows または Linux のプライマリサーバで、内部証明書を外部証明書に変更するには、次の手順に従います。

1 プライマリサーバのホスト名を件名とすることで、CSR (証明書署名要求) を作成します。

CSR を作成する方法については、『ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド』の「外部認証局の作成」を参照してください。

2 変更対象の証明書を持つプライマリサーバで、次の手順を実行します。

2a コンソールプロンプトで、次のコマンドを実行します。

```
novell-zenworks-configure -c SSL -Z
```

2b ステップ 1 で作成した外部証明書の情報を提供します。

2c 次のコマンドを実行して、すべての ZENworks サービスを再起動します。

```
novell-zenworks-configure -c Start
```

デフォルトで、すべてのサービスが選択されます。[アクション] として、[再起動] を選択する必要があります。

- 2d** Web ブラウザで、次の URL を入力して、新しい証明書が表示されることを確認します。

`https://ZENworks_Server_IP_address`

- 2e** `initial-web-service` ファイル (Windows では `ZENworks_installation_directory\Novell\ZENworks\conf` ディレクトリにあり、Linux では `/etc/opt/novell/zenworks/` ディレクトリにある) を編集して、サーバ証明書セクションのコンテンツを `server.cert` ファイルで利用可能な `pem` フォーマットで置き換えます。`server.cert` ファイルは、Windows では `ZENworks_installation_directory\novell\zenworks\conf\security` ディレクトリ、Linux では `/etc/opt/novell/zenworks/security/` ディレクトリにあります。

- 2f** 次のコマンドを実行して、エージェントパッケージを再構築します。

`novell-zenworks-configure -c CreateExtractorPacks -Z`

`novell-zenworks-configure -c RebuildCustomPacks -Z`

- 3** 変更された証明書を持つプライマリサーバに登録されている各管理対象デバイスおよびサテライトのコマンドプロンプトで、次の手順を実行します。

- 3a** 次のコマンドを実行して、ローカルにデバイスの登録を解除します。

`zac unr -f`

`zac` の詳細については、デバイス上で `zac` マニュアルページ (`man zac`) を見るか、または『*ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス*』の「**zac(1)**」を参照してください。

- 3b** キャッシュをクリアします。

**Windows の場合 :** 次のコマンドを実行します。

`delete c:\program files\novell\zenworks\cache\zmd /s`

**Linux の場合 :** 次のコマンドを実行します。

`rm -rf /var/opt/novell/zenworks/zmd/cache`

- 3c** 次のコマンドを実行して、管理ゾーンにデバイスを登録します。

`zac reg https://ZENworks_Server_DNS_name`

`zac` の詳細については、デバイス上で `zac` マニュアルページ (`man zac`) を見るか、または『*ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス*』の「**zac(1)**」を参照してください。

これで、ローカルキャッシュ内のサーバ証明書が置換されます。

## 11.4 プライマリサーバの DNS 名変更後に実行するタスク

プライマリサーバの DNS 名のみを変更する場合は、次のタスクを実行する必要があります。

- 1** プライマリサーバの DNS エントリが新しい DNS 名で更新されたことを確認します。
- 2** プライマリサーバの既存証明書の信頼できるバックアップを作成します。証明書は、Windows の場合は `\novell\zenworks\conf\security` ディレクトリ、Linux の場合は `/etc/opt/novell/zenworks/security` ディレクトリにあります。

**3** プライマリサーバで証明書を再作成します。

- ◆ プライマリサーバで実行するタスク
- ◆ 管理対象デバイスおよびサテライトで実行するタスク

**3a** プライマリサーバで、次の手順を実行します。

**3a1** コンソールプロンプトで、次のコマンドを実行します。

```
novell-zenworks-configure -c SSL -Z
```

表示される指示に従います。

**3a2** 次のコマンドを実行して、すべての ZENworks サービスを再起動します。

```
novell-zenworks-configure -c Start
```

デフォルトで、すべてのサービスが選択されます。[アクション] として、[再起動] を選択する必要があります。

**3a3** Web ブラウザで、次の URL を入力して、新しい証明書が表示されることを確認します。

```
https://ZENworks_Server_IP_address
```

**3a4** initial-web-service ファイル (Windows では

ZENworks\_installation\_directory\Novell\ZENworks\conf ディレクトリにあり、Linux では /etc/opt/novell/zenworks/ ディレクトリにある) を編集して、サーバ証明書セクションのコンテンツを server.cert ファイルで利用可能な pem フォーマットで置き換えます。server.cert ファイルは、Windows では

ZENworks\_installation\_directory\novell\zenworks\conf\security ディレクトリ、Linux では /etc/opt/novell/zenworks/security/ ディレクトリにあります。

**3a5** 次のコマンドを実行して、エージェントパッケージを再構築します。

```
novell-zenworks-configure -c CreateExtractorPacks -Z
```

```
novell-zenworks-configure -c RebuildCustomPacks -Z
```

**3b** 変更された証明書を持つプライマリサーバに登録されている各管理対象デバイスおよびサテライトのコマンドプロンプトで、次の手順を実行します。

**3b1** 次のコマンドを実行して、ローカルにデバイスの登録を解除します。

```
zac unr -f
```

zac の詳細については、デバイス上で zac マニュアルページ (man zac) を見るか、または『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「zac(1)」を参照してください。

**3b2** キャッシュをクリアします。

**Windows の場合 :** 次のコマンドを実行します。

```
delete c:\program files\novell\zenworks\cache\zmd /s
```

**Linux の場合 :** 次のコマンドを実行します。

```
rm -rf /var/opt/novell/zenworks/zmd/cache
```

**3b3** 次のコマンドを実行して、管理ゾーンにデバイスを登録します。

```
zac reg https://ZENworks_Server_DNS_name
```

zac の詳細については、デバイス上で `zac` マニュアルページ (`man zac`) を見るか、または『*ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス*』の「`zac(1)`」を参照してください。

これで、ローカルキャッシュ内のサーバ証明書が置換されます。



# ZENworks のシステム更新



このシステム更新機能を使用すると、適切なタイミングで Novell® ZENworks® 10 Configuration Management ソフトウェアの更新を取得したり、更新の自動ダウンロードをスケジュールしたりできます。

- ◆ 129 ページの第 12 章「ZENworks システム更新の概要」
- ◆ 131 ページの第 13 章「更新の設定」
- ◆ 149 ページの第 14 章「更新のダウンロードの管理」
- ◆ 155 ページの第 15 章「更新の展開」
- ◆ 171 ページの第 16 章「更新の削除」
- ◆ 173 ページの第 17 章「更新のコンテンツの確認」
- ◆ 177 ページの第 18 章「ステータスの更新」





# ZENworks システム更新の概要

# 12

このシステム更新機能を使用すると、適切なタイミングで Novell® ZENworks® 10 Configuration Management ソフトウェアの更新を取得したり、更新の自動ダウンロードをスケジュールしたりできます。

ソフトウェアは定期的に更新されます。また、更新のコンテンツを表示した後に、各更新を展開するかどうかを選択できます。

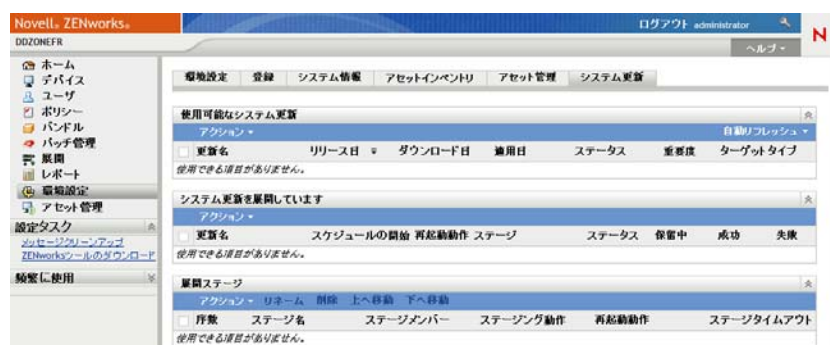
最初のいくつかの ZENworks 10 Configuration Management の更新は累積型ですが、その後の更新は追加型になります。たとえば、ZENworks の初めてのシステム更新がバージョン 10.0.3 の更新である場合、これには、バージョン 10.0.2 の更新に含まれているすべての更新が含まれています。ただし、バージョン 10.0.4 の更新を適用する前に、バージョン 10.0.3 の更新を適用する必要があります。

また、ユーザのナレッジベースを更新して、インベントリがより新しいソフトウェアを認識できるようにするために、最新の製品認識の更新 (PRU) をダウンロードすることもできます。

ZENworks ソフトウェアの更新を選択した場合、1 ステップまたはステージでグローバルに更新できます。また、ZENworks ソフトウェアがインストールされている管理ゾーンにある、特定のデバイス、デバイスのグループ、またはすべてのデバイスを更新することもできます。ZENworks コントロールセンターを使用して、各ソフトウェア更新でのデバイスごとの成功と失敗を追跡できます。

次の図は、[システム更新] ページを示しています。

**図 12-1** [システム更新] パネル ([使用可能なシステム更新]、[システム更新の展開]、および [展開ステージ])



ZENworks ソフトウェアの更新の設定および管理については、次のセクションを参照してください。

- ◆ 131 ページの第 13 章「更新の設定」
- ◆ 149 ページの第 14 章「更新のダウンロードの管理」
- ◆ 155 ページの第 15 章「更新の展開」
- ◆ 171 ページの第 16 章「更新の削除」

- ◆ 173 ページの第 17 章「更新のコンテンツの確認」
- ◆ 177 ページの第 18 章「ステータスの更新」

# 更新の設定

更新プロセスを設定するには、次のタスクを実行します。

- 131 ページのセクション 13.1 「システム更新の設定」
- 140 ページのセクション 13.2 「展開ステージの作成」

## 13.1 システム更新の設定

使用する前に、システム更新を設定する必要があります。システムで必要な数だけ次の設定を行います。

- 131 ページのセクション 13.1.1 「更新スケジュールのチェック」
- 133 ページのセクション 13.1.2 「ダウンロードスケジュール」
- 135 ページのセクション 13.1.3 「電子メール通知」
- 137 ページのセクション 13.1.4 「プロキシサーバの設定」
- 137 ページのセクション 13.1.5 「専用サーバの設定」
- 139 ページのセクション 13.1.6 「ステージタイムアウトの設定」
- 139 ページのセクション 13.1.7 「再起動の動作」

### 13.1.1 更新スケジュールのチェック

デフォルトは、更新チェックをスケジュールしない（[スケジュールタイプ] フィールドに [スケジュールなし] が表示されます）になります。このスケジュールオプションを選択すると、ソフトウェア更新をチェックできる唯一の方法は、[システム更新] タブの [使用可能なシステム更新] パネルで手動でチェックする方法です。

更新を確認する頻度を指定できます。これを行うと、スケジュールが実行されるときに、Novell から [システム更新] タブの [使用可能なシステム更新] パネルに、入手可能な更新の情報が自動的にダウンロードされます。これによって、更新のコンテンツ自体が自動的にダウンロードされるわけではありません。[ダウンロードスケジュール] パネルで、ダウンロードをスケジュールできます (133 ページの「ダウンロードスケジュール」を参照)。

ZENworks ソフトウェア更新の確認をスケジュールするには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターの左側のペインで [環境設定] をクリックし、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] をクリックしてオプションを展開し、[インフラ管理] をクリックしてオプションを展開し、次に、[システム更新の設定] を選択します。

[更新のチェック] パネルには、更新のための 2 つのスケジューリングオプションがあります。

- **スケジュールなし**: 更新の確認をスケジュールしないのがデフォルトです。このスケジュールオプションを選択すると、ソフトウェア更新をチェックできる唯一の方法は、[システム更新] タブの **[使用可能なシステム更新]** パネルで手動でチェックする方法です。[スケジュールなし] オプションを指定するには、**ステップ 3**に進みます。
  - **繰り返し**: 更新を確認する頻度を指定できます。このオプションを設定すると、スケジュールが実行されるときに、Novell から [システム更新] タブの **[使用可能なシステム更新]** パネルに、入手可能な更新の情報が自動的にダウンロードされます。これによって、更新のコンテンツ自体が自動的にダウンロードされるわけではありません。反復スケジュールを設定するには、**ステップ 4**に進んでください。
- 3 (条件付き) ソフトウェア更新 (デフォルト) のスケジュールされた確認を除外するには**、[スケジュールタイプ] フィールドの下矢印をクリックし、[スケジュールなし] を選択します。次に、[適用] をクリックしてスケジュールの変更を保存し、**ステップ 6**に進んでください。
- このオプションを選択した場合、更新を手動で確認する必要があります。詳細については、**151 ページの「手動による更新のダウンロード」**を参照してください。
- 4 (条件付き) ZENworks ソフトウェアに対する更新の確認の反復スケジュールを設定するには**、[スケジュールタイプ] フィールドの下矢印をクリックし、[繰り返し] を選択します。

[環境設定](#) > システム更新の設定

システム更新の設定

システム更新のダウンロード、プロキシサーバーの設定、および更新のスケジュール設定のためにサーバーを設定します

更新のチェックのスケジュール

この設定では、管理者は Novell から入手可能な更新の有無をチェックするスケジュールを設定できます。

スケジュールタイプ:

繰り返し

曜日

日 月 火 水 木 金 土

開始時刻: 1 : 00

[オプションを非表示](#)

☐ デバイスがスケジュールどおりに実行できない場合はすぐに処理する

☐ 協定世界時 (UTC) を使用 (現在の UTC 12:33)

☐ 開始時刻および終了時刻の間のランダムな時間に開始される

終了時刻: 1 : 00

☐ スケジュール実行を以下の日付範囲に限定:

開始日: 08/08/20

終了日: 08/08/20

- 5 次のフィールドに入力します:**
- 5a** 1 つ以上の曜日のチェックボックスをオンにします。
  - 5b** 確認を開始する時間を設定するには、[開始時刻] ボックスを使用して時間を指定します。

**5c** (オプション) 追加のスケジューリングオプションについては、[詳細オプション] をクリックし、必要に応じて次のオプションを選択します。

- ◆ **デバイスがスケジュールどおりに実行できない場合はすぐに処理する**：スケジュールに従って確認が行われない場合、ただちにシステム更新の内容が確認されます。たとえば、スケジュールされた時間にサーバが停止している場合、サーバがオンラインに戻った直後に更新の確認が発生します。
- ◆ **協定世界時 (UTC) の使用**：指定するスケジュール時刻がローカルタイムの代わりに UTC で解釈されます。
- ◆ **開始時刻と終了時刻の間でランダムに開始**：ここで指定した時間と **ステップ 5b** で指定した時間との間で、ランダムに更新が確認されます。[終了時刻] フィールドに入力します。
- ◆ **スケジュール実行を次の日付範囲に限定**：他のオプションに加え、チェックが行われる日付範囲を指定できます。

**5d** 繰り返しスケジュールの設定を終えたら、[適用] をクリックして、スケジュールの変更を保存します。

**6** このページを終了するには、スケジュールの設定を終了したら、[OK] をクリックします。

まだ [適用] をクリックして変更を有効にしていない場合は、[OK] をクリックすると変更が有効になります。[キャンセル] をクリックするとページが閉じますが、まだ適用されていない変更が失われます。

### 13.1.2 ダウンロードスケジュール

デフォルトでは、更新のダウンロードをスケジュールしません ( [スケジュールタイプ] フィールドにスケジュールなし ] が表示されます )。このスケジュールオプションを選択すると、更新をダウンロードできる唯一の方法は、[システム更新] タブの [使用可能なシステム更新] パネルで手動で行う方法のみとなります。

更新版をダウンロードする頻度を指定する場合、更新を確認するスケジュールとともに、このスケジュールを設定する必要があります ( **131 ページの「更新スケジュールのチェック」** を参照 )。

更新がチェックされ、その情報が [システム更新] タブの [使用可能なシステム更新パネル] に表示されると、スケジュールが実行された際に Novell から自動的にダウンロードされるようにスケジュールできます。

ZENworks ソフトウェア更新をスケジュールするには、次の手順に従います。

- 1** ZENworks コントロールセンターの左側のペインで [環境設定] をクリックし、[環境設定] タブをクリックします。
- 2** [管理ゾーンの設定] をクリックしてオプションを展開し、[インフラ管理] をクリックしてオプションを展開し、次に、[システム更新の設定] を選択します。

[ダウンロードスケジュール] パネルには、更新をダウンロードするための 2 つのスケジューリングオプションがあります。

- ◆ **スケジュールなし**：デフォルトでは、更新のダウンロードをスケジュールしません ( [スケジュールタイプ] フィールドにスケジュールなし ] が表示されます )。このスケジュールオプションを選択すると、更新をダウンロードできる唯一の方

法は、[システム更新] タブの [使用可能なシステム更新] パネルで手動で行う方法のみとなります。[スケジュールなし] オプションを指定するには、**ステップ 3**に進みます。

- **繰り返し** : 更新をダウンロードする頻度を指定できます。更新がチェックされ、その情報が [システム更新] タブの [使用可能なシステム更新] パネルに表示されると、スケジュールが実行された際に Novell から自動的にダウンロードされるようにスケジュールできます。反復スケジュールを設定するには、**ステップ 4**に進んでください。

- 3 (条件付き) ソフトウェア更新 (デフォルト) のスケジュールされたダウンロードを除外するには、[スケジュールタイプ] フィールドの下矢印をクリックし、[スケジュールなし] を選択します。次に、[適用] をクリックしてスケジュールの変更を保存し、**ステップ 6**に進んでください。

このオプションを選択した場合、更新を手動でダウンロードする必要があります。詳細については、**150 ページのセクション 14.2 「割り当てられた権限」**を参照してください。

- 4 (条件付き) ZENworks ソフトウェアに更新をダウンロードするための反復スケジュールを設定するには、[スケジュールタイプ] フィールドの下矢印をクリックし、次に、[繰り返し] を選択します。

[環境設定](#) > システム更新の設定

- 5 次のフィールドに入力します：

**5a** 1 つ以上の曜日のチェックボックスをオンにします。

**5b** ダウンロードを開始する時間を設定するには、[開始時刻] フィールドを使用して時間を指定します。

**5c** (オプション) 追加のスケジューリングオプションについては、[詳細オプション] をクリックし、必要に応じて次のオプションを選択します。

- **デバイスがスケジュールどおりに実行できない場合はすぐに処理する** : スケジュールに従って確認が行われない場合、ただちにシステム更新の内容が確認されます。たとえば、スケジュールされた時間にサーバが停止している場合、サーバがオンラインに戻った直後に更新の確認が発生します。

- ◆ **協定世界時 (UTC) の使用** : 指定するスケジュール時刻がローカルタイムの代わりに UTC で解釈されます。
- ◆ **開始時刻と終了時刻の間でランダムに開始** : ここで指定した時間と **ステップ 5b** で指定した時間との間で、更新のダウンロードがランダムに発生します。  
[終了時刻] フィールドに入力します。
- ◆ **スケジュール実行を次の日付範囲に限定** : 他のオプションに加え、ダウンロードできる日を指定できます。

**5d** 繰り返しスケジュールの設定を終えたら、[適用] をクリックして、スケジュールの変更を保存します。

- 6** このページを終了するには、スケジュールの設定を終了したら、[OK] をクリックします。

まだ [適用] をクリックして変更を有効にしていない場合は、[OK] をクリックすると変更が有効になります。[キャンセル] をクリックするとページが閉じますが、まだ適用されていない変更が失われます。

### 13.1.3 電子メール通知

**ステージの使用**と同時に、各ステージが完了したことを示すよう、電子メール通知を設定できます。更新を展開するとき、電子メール通知を使用するよう指定できます。

- 1** ZENworks コントロールセンターの左側のペインで [環境設定] をクリックし、[環境設定] タブをクリックします。
- 2** [管理ゾーンの設定] をクリックしてオプションを展開し、[イベントとメッセージング] をクリックします。次に、[SMTP 設定] を選択し、[電子メール通知] パネルを表示します。

[環境設定](#) > SMTP設定

通知を受け取るにはステージングを使用し、ステージの動作を次のいずれか1つに設定する必要があります。

- ◆ 通知とともに自動的にステージを進める
- ◆ 次のステージに進み、完了時に通知する

ステージングの電子メール設定が機能するように SMTP を設定する必要があります。

3 (条件付き) SMTP を設定していない場合:

3a [SMTP 設定] ページにアクセスするには、左側のペインで [環境設定] をクリックし、[管理ゾーンの設定] ヘッダの矢印をクリックしてそのオプションを展開します。次に、[イベントとメッセージング] をクリックし、[SMTP 設定] を選択します。

3b [電子メール通知] セクションで、次のフィールドに入力します。

**SMTP サーバアドレス:** SMTP サーバの DNS 名または IP アドレスを指定します。

**SMTP ポート:** SMTP サーバの通信ポートを指定します。

**SSL の使用:** 暗号化された SSL チャネルを使用して電子メールを送信します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。

**SMTP サーバには認証が必要:** 認証が必要な場合、このチェックボックスをオンにし、[ユーザ] および [パスワード] の情報を指定します。

3c [OK] をクリックし、変更を保存します。

3d [管理ゾーンの設定] をクリックしてそのオプションを展開し、[インフラ管理] をクリックし、次に [システム更新の設定] を選択して、[電子メール通知] パネルを表示します。

[環境設定](#) > [システム更新の設定](#)

4 次のフィールドに入力します:

**送信者:** 管理者の電子メールアドレスを指定するか、説明的なテキスト (たとえば、System-Update-Stage-Notice など) 入力します。単語と単語の間にはスペース文字を使用しないでください。

**宛先:** 管理者の電子メールアドレスを指定します。

これは、ステージが完了した際に通知を受け取る人物です。

5 [適用] をクリックして、変更を有効にします。

6 [OK] をクリックしてページを閉じるか、別の設定タスクに進みます。

まだ [適用] をクリックして変更を有効にしていない場合は、[OK] をクリックすると変更が有効になります。[キャンセル] をクリックするとページが閉じますが、まだ適用されていない変更が失われます。

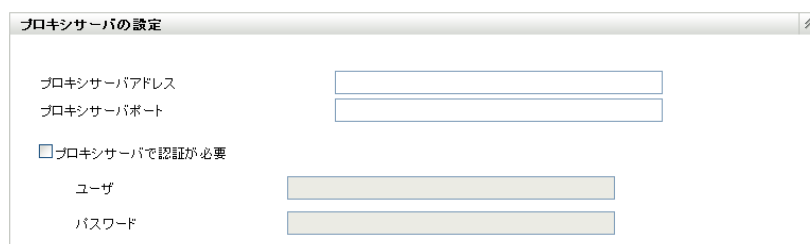


### 13.1.4 プロキシサーバの設定

このオプションは、すべての運用サーバにインターネットへのアクセスを付与しないような、制限された環境において役立ちます。これは、**[専用サーバの設定]** パネルとともに使用されます。

プロキシサーバを指定するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの **[環境設定]** をクリックします。
- 2 **[環境設定]** タブで、(必要に応じて) **[管理ゾーンの設定]** セクションを展開し、**[インフラ管理]** をクリックします。次に、**[システム更新の設定]** をクリックし、**[プロキシサーバの設定]** パネルを表示します。



The screenshot shows a window titled "プロキシサーバの設定" (Proxy Server Settings). It contains the following elements:

- A text input field for "プロキシサーバアドレス" (Proxy Server Address).
- A text input field for "プロキシサーバポート" (Proxy Server Port).
- A checkbox labeled "プロキシサーバで認証が必要" (Require authentication on proxy server).
- If the checkbox is checked, there are two more text input fields: "ユーザ" (User) and "パスワード" (Password).

- 3 次のフィールドに入力します：

**Proxy Server Address:** プロキシサーバの DNS 名または IP アドレスを指定します。

**プロキシサーバのポート:** プロキシサーバの通信ポートを指定します。

**プロキシサーバには認証が必要:** このチェックボックスをオンにすると、**[ユーザ]** および **[パスワード]** フィールドが編集可能になります。認証が必要な場合、このチェックボックスをオンにし、プロキシサーバにアクセスするためのユーザ名およびパスワードを指定します。

- 4 **[適用]** をクリックして、変更を有効にします。
- 5 **[OK]** をクリックしてページを閉じるか、**別の設定タスク**に進みます。

まだ **[適用]** をクリックして変更を有効にしていない場合は、**[OK]** をクリックすると変更が有効になります。**[キャンセル]** をクリックするとページが閉じますが、まだ適用されていない変更が失われます。

### 13.1.5 専用サーバの設定

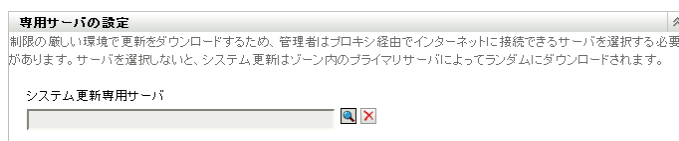
デフォルトでは、管理ゾーン内の使用可能なすべてのプライマリサーバは、ランダムに更新をダウンロードするために使用できます。ただし、更新のダウンロードを専用で処理するために、1つの ZENworks サーバを指定できます。選択したサーバは、直接または**プロキシサーバ**を経由して、インターネットにアクセスする必要があります。

詳細情報については、次を参照してください。

- 138 ページの **「更新専用サーバの指定」**
- 138 ページの **「更新専用サーバのクリア」**

## 更新専用サーバの指定

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの **〔環境設定〕** をクリックします。
- 2 **〔環境設定〕** タブで、( 必要に応じて ) **〔管理ゾーンの設定〕** セクションを展開し、**〔インフラ管理〕** をクリックします。次に、**〔システム更新の設定〕** をクリックし、**〔専用サーバの設定〕** パネルを表示します。

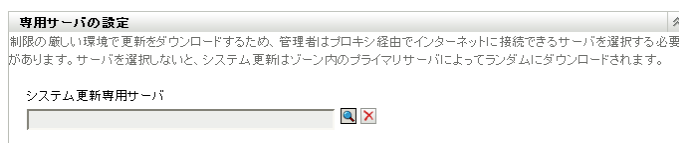


- 3 ZENworks プライマリサーバを参照して選択します。  
サーバの ID は、**〔システム更新専用サーバ〕** フィールドに表示されます。  
この ZENworks サーバは、管理ゾーンのメンバーである必要があります。
- 4 **〔適用〕** をクリックして、変更を有効にします。
- 5 **〔OK〕** をクリックしてページを閉じるか、**別の設定タスク**に進みます。  
まだ **〔適用〕** をクリックして変更を有効にしていない場合は、**〔OK〕** をクリックすると変更が有効になります。**〔キャンセル〕** をクリックするとページが閉じますが、まだ適用されていない変更が失われます。

## 更新専用サーバのクリア

更新専用サーバをクリアすると、更新は管理ゾーンのプライマリサーバからランダムに再試行されます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの **〔環境設定〕** をクリックします。
- 2 **〔環境設定〕** タブで、( 必要に応じて ) **〔管理ゾーンの設定〕** セクションを展開し、**〔インフラ管理〕** をクリックします。次に、**〔システム更新の設定〕** をクリックし、**〔専用サーバの設定〕** パネルを表示します。



- 3 **〔クリア〕** をクリックして、**〔システム更新専用サーバ〕** フィールドから専用サーバを削除します。
- 4 ( 条件付き ) 最後に保存した専用サーバの設定に戻す必要がある場合は、**〔リセット〕** をクリックします。  
これにより、たとえば最後に **〔適用〕** または **〔OK〕** をクリックした場合などの最終的な保存設定に専用サーバがリセットされます。
- 5 **〔適用〕** をクリックして、変更を有効にします。

---

**重要:** **〔適用〕** をクリックすると、以前の設定を復元できなくなります。

---

### 13.1.6 ステージタイムアウトの設定

展開ステージはオプションですが、ステージを使用すると、最初にテストグループ、次に管理対象デバイスなどのように、1度に1ステップずつ更新を展開することができます。更新プロセス中に失敗が発生した場合、プロセスは中断されます。**電子メール通知**を使用すると、各ステージの完了が通知されます。

グローバルなデフォルトのタイムアウト設定は3日です。これは、ステージごとに同じタイムアウトの長さを与えます。個々のステージのタイムアウトの設定の詳細については、**144 ページの「ステージのタイムアウトの変更」**を参照してください。

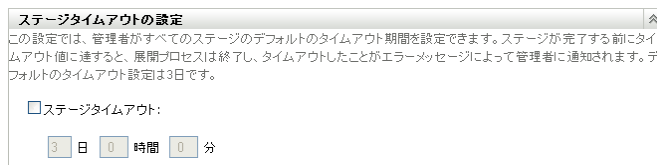
更新しようとしているすべてのデバイスを更新するために十分な長さを持つ値を設定します。これが短すぎる場合、いくつかのデバイスは更新されない可能性があります。

ステージが完了する前にタイムアウト値に達した場合、展開プロセスが一時停止され、管理者にエラーメッセージが送信されます。エラーを解決し、管理者が[エラーをクリアして再試行]をクリックしてプロセスを再起動するまで、展開プロセスを一時停止します。

ステージがいつ完了したのかを知るために、**電子メール通知**を使用できます。

グローバルなステージのタイムアウト設定を設定するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの[環境設定]をクリックします。
- 2 [環境設定] タブで、(必要に応じて)[管理ゾーンの設定] パネルを展開し、[インフラ管理] をクリックします。次に、[システム更新の設定] をクリックし、[ステージタイムアウトの設定] パネルを表示します。



ステージタイムアウトの設定

この設定では、管理者がすべてのステージのデフォルトのタイムアウト期間を設定できます。ステージが完了する前にタイムアウト値に達すると、展開プロセスは終了し、タイムアウトしたことがエラーメッセージによって管理者に通知されます。デフォルトのタイムアウト設定は3日です。

☒ ステージタイムアウト:

3 日 0 時間 0 分

- 3 [ステージのタイムアウト] チェックボックスをオンにし、目的の日数、時間数、および分を指定します。
- 4 [適用] をクリックして、変更を有効にします。
- 5 [OK] をクリックしてページを閉じるか、**別の設定タスク**に進みます。

まだ[適用] をクリックして変更を有効にしていない場合は、[OK] をクリックすると変更が有効になります。[キャンセル] をクリックするとページが閉じますが、まだ適用されていない変更が失われます。

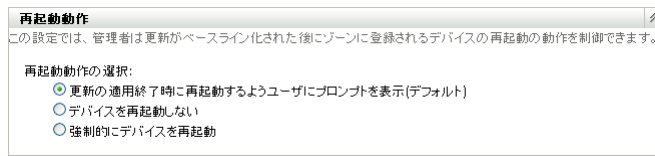
### 13.1.7 再起動の動作

更新の中には、デバイスに展開された後にデバイスの再起動を必要としないものもあります。ただし、更新プロセスを完了させるのに再起動が必要な場合は、デバイスが再起動されるまで展開は完了しません。

再起動の動作を設定するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの[環境設定]をクリックします。

- 2 [環境設定] タブで、( 必要に応じて ) [管理ゾーンの設定] パネルを展開し、[インフラ管理] をクリックします。次に、[システム更新の設定] をクリックし、[再起動の動作] パネルを表示します。



- 3 次のいずれかを行います：

- **更新の適用が完了したら、再起動するようにユーザに要求 (デフォルト) :** 更新が適用されるとすぐに、再起動するように要求が表示されます。ユーザが最初に再起動を拒否した場合、デバイスが再起動されるまで、デバイスを再起動するよう定期的に要求されます。
- **デバイスを再起動しない :** デバイスは再起動されませんが、デバイスが再起動されるまで、再起動するように定期的にユーザに要求します。
- **デバイスを強制的に再起動 :** 更新で再起動が必要である場合、更新が適用されると、ユーザの介入なしに、デバイスが自動的に再起動されます。

- 4 [適用] をクリックして、変更を有効にします。

- 5 [OK] をクリックしてページを閉じるか、**別の設定タスク**に進みます。

まだ [適用] をクリックして変更を有効にしていない場合は、[OK] をクリックすると変更が有効になります。[キャンセル] をクリックするとページが閉じますが、まだ適用されていない変更が失われます。

## 13.2 展開ステージの作成

展開ステージはオプションですが、ステージを使用すると、最初にテストグループ、次に管理対象デバイスなどのように、一度に 1 ステップずつ更新を展開することができます。**更新プロセス中に失敗が発生した場合、プロセスは中断されます。電子メール通知を使用すると、各ステージの完了が通知されます。**

詳細情報については、次を参照してください。

- **141 ページのセクション 13.2.1 「ステージについて」**
- **143 ページのセクション 13.2.2 「展開ステージの作成」**
- **144 ページのセクション 13.2.3 「ステージのタイムアウトの変更」**
- **145 ページのセクション 13.2.4 「ステージング動作の変更」**
- **146 ページのセクション 13.2.5 「再起動の動作の変更」**
- **146 ページのセクション 13.2.6 「展開ステージのメンバーシップの変更」**
- **147 ページのセクション 13.2.7 「展開ステージの名前変更」**
- **147 ページのセクション 13.2.8 「展開ステージの削除」**
- **148 ページのセクション 13.2.9 「ステージが開始する順序の変更」**

## 13.2.1 ステージについて

ステージを使用すると次のことが実行できます。

- ◆ テストグループ、特定のデバイスまたはデバイスグループ、またはゾーン内のすべての管理対象デバイスなどの、異なるデバイスまたはグループに対して設定します。
- ◆ 既存のステージのメンバーシップを変更します。
- ◆ ステージの実行順序を変更します。
- ◆ ステージの名前変更および削除を行います。
- ◆ ステージのデフォルトタイムアウトを指定します。その時間に達したら、エラーが解決され、管理者がプロセスを再起動するまで更新プロセスが一時停止されます。
- ◆ 再起動を要求する、再起動を強制する、再起動を抑制する、の中から、デバイスが更新を完了した際の再起動の動作を指定します。
- ◆ ステージを通じて更新プロセスがどのように進行するかを指定します。
  - ◆ 通知の有無にかかわらず自動
  - ◆ 1度に1ステージずつ、各ステージが完了するごとに通知を送信
  - ◆ 設定されたステージをバイパスし、すべてのデバイスに更新を即時適用

展開ステージの作成には、多くの理由があります。

- ◆ 運用環境に展開する前に、特定のデバイスで更新をテストする。
- ◆ 1つのステージにすべてのプライマリサーバを含めることにより、これらを同時に更新できる。
- ◆ いくつかのステージでサーバをグループ化すると、更新を実行するために使用されるプライマリサーバで、更新プロセスが集中しないようにできる。
- ◆ いくつかのステージでワークステーションをグループ化すると、更新を実行するために使用されるプライマリサーバで、更新プロセスが集中しないようにできる。

ステージの一部ではないすべての管理対象デバイスは、最後の展開ステージが処理された後に、自動的に更新されます。

更新の進行中はステージを設定できません。

次の図は、[システム更新] ページ上の [展開ステージ] パネルを示しています。

図 13-1 [展開ステージ] パネル

展開ステージ					
アクション・リソース・削除 上へ移動 下へ移動					
順序	ステージ名	ステージメンバー	ステージ動作	再起動動作	ステージタイムアウト
1	Test	<a href="#">メンバーの表示/変更</a>	ステージを自動的に進める	ユーザにプロンプトを表示	3日0時0分
2	Production	<a href="#">メンバーの表示/変更</a>	ステージを自動的に進める	ユーザにプロンプトを表示	3日0時0分

次の表はカラム情報について説明しています。カラムの中には、ヘッダをクリックして一覧表示されている情報をソートできるものもあります。ソート順序を逆にするには、ヘッダを再度クリックします。

**表 13-1** 展開ステージカラムの説明

カラム見出し	説明
順序	<p>ステージが実行される順序が表示されます。[上へ移動] および [下へ移動] オプションを使用してステージングの順序を変更できます。詳細については、<a href="#">148 ページの「ステージが開始する順序の変更」</a>を参照してください。</p> <p>最初にリストされたステージは順序 1、2 番目のステージは順序 2 などのように表示されます。このため、ステージ名にシーケンス番号を含める必要はありません。</p>
ステージ名	<p>ステージを作成する際、[アクション] &gt; [ステージの追加] オプションを使用して指定するステージの名前です。</p> <p>この名前は、その目的を示すように十分に内容のわかるものにしてください。</p>
ステージメンバー	<p>このカラムには、[メンバーの表示/ 変更] オプションが含まれています。このオプションは、ステージのメンバーすべてを一覧表示する [ステージメンバーの変更] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスを使用して、ステージにメンバーを追加したり、ステージからメンバーを削除できます。</p> <p>ステージメンバーシップには、個別のデバイスと、デバイスを含むグループを含めることができます。</p> <p>詳細については、<a href="#">146 ページの「展開ステージのメンバーシップの変更」</a>を参照してください。</p>
ステージング動作	<p>各ステージの現在の動作を表示します。この動作は、[アクション] &gt; [ステージング動作の変更] オプションを使用して変更できます。詳細については、<a href="#">145 ページの「ステージング動作の変更」</a>を参照してください。</p>
再起動の動作	<p>更新が展開された後のデバイスの再起動の動作を表示します。</p> <p>更新の中には、デバイスに展開された後にデバイスの再起動を必要としないものもあります。ただし、更新プロセスを完了させるのに再起動が必要な場合は、デバイスが再起動されるまで展開は完了しません。</p> <p>再起動オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>更新の適用が完了したら、再起動するようにユーザに要求 (デフォルト):</b> 更新が適用されるとすぐに、再起動するように要求が表示されます。ユーザが最初に再起動を拒否した場合、デバイスが再起動されるまで、デバイスを再起動するよう定期的に要求されます。</li> <li>• <b>デバイスを再起動しない:</b> デバイスは再起動されませんが、デバイスが再起動されるまで、再起動するように定期的にユーザに要求します。</li> <li>• <b>デバイスを強制的に再起動:</b> 更新で再起動が必要である場合、更新が適用されると、ユーザの介入なしにデバイスが自動的に再起動されます。</li> </ul> <p>詳細については、<a href="#">146 ページの「再起動の動作の変更」</a>を参照してください。</p>

カラム見出し	説明
ステージタイムアウト	<p>分で一覧表示されている、ステージのタイムアウトが表示されます。これは、[アクション] &gt; [ステージタイムアウトの変更] オプションを使用して変更できます。デフォルトは0日と0時間3分で、<b>139 ページの「ステージタイムアウトの設定」</b>で変更が可能なグローバルタイムアウト時間です。ここで値を変更すると、選択した展開ステージに対する値のみが変更されます。</p> <p>この時間の値に到達すると、そのステージの展開が終了し、次のステージが開始されます。時間の長さが十分でないと、ステージのメンバーであるデバイスすべてに対して展開が完了しない可能性があります。</p> <p>詳細については、<b>144 ページの「ステージのタイムアウトの変更」</b>を参照してください。</p>

## 13.2.2 展開ステージの作成

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。

順番	ステージ名	ステージメンバー	ステージング操作	再始動操作	ステージタイムアウト
1	Test	<a href="#">メンバーの表示/変更</a>	ステージを自動的に進める	ユーザにプロンプトを表示	3日0時0分
2	Production	<a href="#">メンバーの表示/変更</a>	ステージを自動的に進める	ユーザにプロンプトを表示	2日0時0分

- 2 [展開ステージ] パネルで、[アクション] をクリックし、[ステージの追加] を選択します。

展開の処理中にステージを追加することはできません。

- 3 展開ステージ名を指定し、[OK] をクリックします。

[デバイス] タブに、展開ステージがデバイスフォルダとして表示されます。したがって、フォルダの目的がわかるような名前を指定する必要があります。

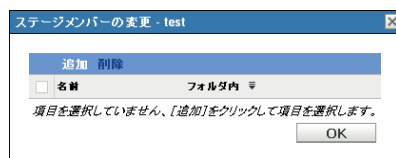
ZENworks コントロールセンターのデバイスのリストでグループをソートするために、名前の先頭に「展開ステージ」のようなものを含めることができます。

ZENworks コントロールセンターでの名前付けの詳細については、**295 ページの付録 A「ZENworks コントロールセンターの命名規則」**を参照してください。

新しく作成されたステージには、メンバーが含まれていません。メンバーを追加するには、ステージのメンバーシップを変更する必要があります。

- 4 展開ステージにデバイスを追加します。

- 4a [ステージメンバー] カラムで、メンバーを追加するステージの [メンバーの表示/変更] をクリックします。



- 4b [追加] をクリックし、デバイスを参照して選択し、[OK] をクリックします。

個別のデバイス、デバイスグループ、またはそれらを組み合わせたものを追加できます。



同じ展開ステージまたは異なるステージで、管理対象サーバとワークステーションの両方を持つことができます。または、サーバとワークステーションを別の展開ステージに分割できます。

---

**重要:** いくつかのネットワークサーバは、ZENworks 管理で使用するプライマリサーバになります。また、ネットワーク上のその他のサーバは、ZENworks Adaptive Agent がインストールされた管理対象デバイスのみになります。

他の管理対象サーバを更新する前や、特に管理対象ワークステーションを更新する前に、プライマリサーバを更新する必要があります。

---

- 4c ステージへのメンバーの追加が終了するまで、**ステップ 4b** を繰り返します。
- 4d 別のステージにメンバーを追加するには、**ステップ 4a** から **ステップ 4c** を繰り返します。
- 5 すべての展開ステージを作成するまで、**ステップ 2** から **ステップ 4** を繰り返します。
- 6 展開ステージのシーケンスを並べ替える必要がある場合、ステージを選択し、[上へ移動] または [下へ移動] をクリックします。  
テスト目的でステージの 1 つを使用している場合、リスト内の最初のものを使用してください。

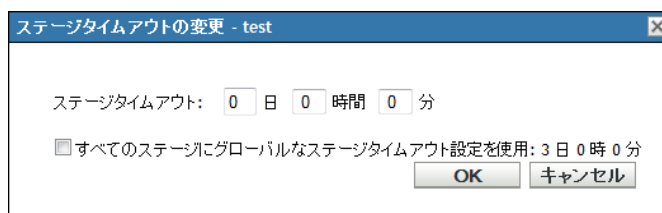
### 13.2.3 ステージのタイムアウトの変更

ステージのタイムアウトにより、ステージが終了するまでの時間の長さが設定されます。デフォルトのタイムアウトは 3 日です。このセクションの手順を使用して、個々のステージのタイムアウト用に値を設定します。グローバルなステージタイムアウト値は、**139 ページの「ステージタイムアウトの設定」**の次のステップによって確立されます。

更新の進行中はステージを変更できません。

選択したステージのタイムアウト値を設定するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [展開ステージ] パネルで、ステージのチェックボックスをオンにし、[アクション] をクリックします。次に、[ステージタイムアウトの変更] を選択すると、次のダイアログボックスが表示されます。



- 3 タイムアウト値を指定します。  
このタイムアウト値の変更は、選択したステージにのみ適用されます。このステージにタイムアウト値を指定する場合は、ステージ内のすべてのデバイスを更新するのに十分な長さの値を設定します。十分な時間を設定しないと、更新されないデバイスが発生する可能性があります。  
ステージが完了する前にタイムアウト値に到達すると、展開プロセスが終了し、管理者にエラーメッセージが送信されます。



- 4 (オプション) [すべてのステージにグローバルなステージタイムアウト設定を使用] チェックボックスをオンにして、グローバルなタイムアウト値を使用して指定します (デフォルトは3日、0時間、および0分)。

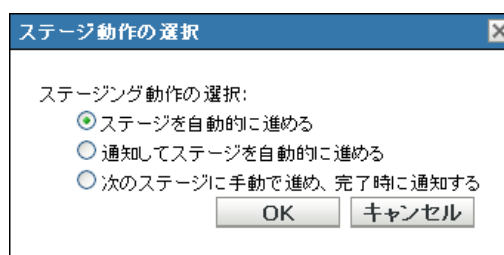
詳細については、139 ページの「ステージタイムアウトの設定」を参照してください。

- 5 [OK] をクリックします。

### 13.2.4 ステージング動作の変更

デフォルトのステージの動作では、設定されたステージを自動的に進めます。デフォルト動作は変更できます。1つのステージのステージング動作を変更すると、その変更はすべてのステージに対して有効になります。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [展開ステージ] パネルで、ステージの隣にあるチェックボックスをオンにし、[アクション] をクリックします。次に、[ステージ動作の変更] を選択すると、次のダイアログボックスが表示されます。



- 3 次のステージ動作の1つを選択します。

**自動的にステージを進める :** 1つのステージで更新が完了すると、次のステージが開始されます。これはデフォルトの動作です (チェックボックスがオンになっています)。

最後のステージが完了すると、該当するデバイスでステージのメンバーでないものが処理されます。

**通知とともに自動的にステージを進める :** 最初のステージを開始し、完了時に電子メール通知を送信します。次に、次のステージを自動的に開始します。

このオプションを使用するには、[電子メール通知] セクションの [システム更新のダウンロード] の設定ページで、通知方法を設定する必要があります。

**次のステージに手動で進み、完了時に通知する :** テストグループへの更新の結果の確認など、ステージ間でのユーザアクションのために、この方法を使用します。

このオプションは、最初のステージを自動的に開始します。ステージが完了したら、電子メール通知が送信され、次のステージを手動で開始するまでシステムが待機します。

このオプションを使用するには、[電子メール通知] セクションの [システム更新のダウンロード] の設定ページで、通知方法を設定する必要があります。

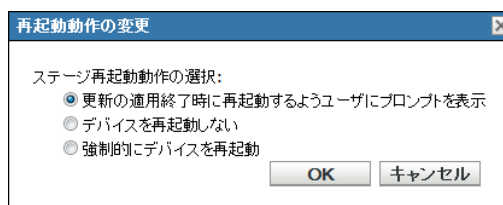
- 4 [OK] をクリックします。

## 13.2.5 再起動の動作の変更

更新の中には、デバイスに展開された後にデバイスの再起動を必要としないものもあります。ただし、更新プロセスを完了させるのに再起動が必要な場合は、デバイスが再起動されるまで展開は完了しません。

再起動の動作を変更するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [展開ステージ] パネルで、1 つ以上の展開ステージのチェックボックスをオンにし、[アクション] をクリックします。次に、[再起動動作の変更] をクリックします。



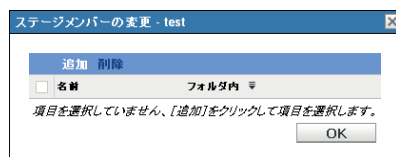
- 3 次のいずれかを行います:

- **更新の適用が完了したら、再起動するようにユーザに要求 (デフォルト):** 更新が適用されるとすぐに、再起動するように要求が表示されます。ユーザが最初に再起動を拒否した場合、デバイスが再起動されるまで、デバイスを再起動するように定期的に要求されます。
- **デバイスを再起動しない:** デバイスは再起動されませんが、デバイスが再起動されるまで、再起動するように定期的にユーザに要求します。
- **デバイスを強制的に再起動:** 更新で再起動が必要である場合、更新が適用されると、ユーザの介入なしにデバイスが自動的に再起動されます。

- 4 [OK] をクリックします。

## 13.2.6 展開ステージのメンバーシップの変更

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 (オプション) 展開ステージにデバイスを追加します。
  - 2a [ステージメンバー] カラムで、メンバーを追加するステージの [メンバーの表示/変更] をクリックします。



- 2b [追加] をクリックし、デバイスを参照して選択し、[OK] をクリックします。  
個別のデバイス、デバイスグループ、またはそれらを組み合わせたものを追加できます。

同じ展開ステージまたは異なるステージで、管理対象サーバとワークステーションの両方を持つことができます。または、サーバとワークステーションを別の展開ステージに分割できます。

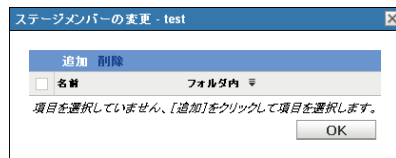
---

**重要:** いくつかのネットワークサーバは、ZENworks 管理で使用するプライマリサーバになります。また、ネットワーク上のその他のサーバは、ZENworks Adaptive Agent がインストールされた管理対象デバイスのみになります。

他の管理対象サーバを更新する前や、特に管理対象ワークステーションを更新する前に、プライマリサーバを更新する必要があります。

---

- 2c ステージへのメンバーの追加が終了するまで、**ステップ 2b** を繰り返します。
- 2d 別のステージにメンバーを追加するには、**ステップ 2a** から **ステップ 2c** を繰り返します。
- 3 (オプション) 展開ステージからデバイスを削除します。
  - 3a [ステージメンバー] カラムで、メンバーを削除するステージの [メンバーの表示/変更] をクリックします。



- 3b 削除するデバイスの隣にあるチェックボックスを1つ以上オンにし、[削除] をクリックします。
- 4 ステージのメンバーシップの設定が完了したら、[OK] をクリックします。

## 13.2.7 展開ステージの名前変更

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [展開ステージ] パネルで、名前変更される展開ステージのチェックボックスをオンにします。
- 3 [名前変更] をクリックします。
- 4 [名前変更] ダイアログボックスで、新しい名前を指定して、[OK] をクリックします。

ZENworks コントロールセンターでの名前付けの詳細については、**295 ページの付録 A「ZENworks コントロールセンターの命名規則」**を参照してください。

## 13.2.8 展開ステージの削除

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [展開ステージ] パネルで、削除される展開ステージの1つ以上のチェックボックスをオンにします。
- 3 [削除] をクリックします。

削除したステージは復元できません。

### 13.2.9 ステージが開始する順序の変更

ステージを使用するすべての更新は、現在一覧表示されているステージングの順序に従って、ステージのメンバーであるデバイスに展開されます。

ステージングの順序を変更するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [展開ステージ] パネルで、移動される展開ステージのチェックボックスをオンにします。
- 3 [上へ移動] または [下へ移動] を必要に応じてクリックし、ステージングの順序を変更します。
- 4 各ステージで必要に応じて **ステップ 2** および **ステップ 3** を繰り返します。

# 更新のダウンロードの管理

[システム更新] ページの [使用可能なシステム更新] パネルには、更新を確認した後に使用可能な更新が表示されます。このパネルには、Novell® の PRU (製品認識の更新) も組み込まれています。PRU は、ナレッジベースを更新して、ZENworks インベントリによる新しいソフトウェアの認識を可能にします。[131 ページの「更新スケジュールのチェック」](#) で設定したスケジュールに従って、表示が更新されます。

最初のいくつかの ZENworks 10 Configuration Management の更新は累積型ですが、その後の更新は追加型になります。たとえば、ZENworks の初めてのシステム更新がバージョン 10.0.3 の更新である場合、これには、バージョン 10.0.2 の更新に含まれているすべての更新が含まれています。ただし、バージョン 10.0.4 の更新を適用する前に、バージョン 10.0.3 の更新を適用する必要があります。

詳細情報については、次を参照してください。

- [149 ページのセクション 14.1「入手可能な更新について」](#)
- [150 ページのセクション 14.2「割り当てられた権限」](#)
- [152 ページのセクション 14.3「PRU のダウンロードとインストール」](#)

## 14.1 入手可能な更新について

次の図は、[使用可能なシステム更新] パネルを示しています。

図 14-1 [使用可能なシステム更新] パネル

使用可能なシステム更新						
アクション +						自動リフレッシュ
更新名	リリース日	ダウンロード日	適用日	ステータス	重要度	ターゲットタイプ
<input type="checkbox"/> Support Pack 2 for ZCM (10.2)	2009/05/27	2009/05/31		ダウンロードされました	必須	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/> May 2009 PRU	2009/05/05	2009/05/31		ダウンロードされました	中程度	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/> Update for ZCM (10.1.3)	2009/02/18	2009/05/31		ベースライン済み	必須	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/> Update for ZCM (10.1.2a)	2008/12/08	2009/05/31		ベースライン済み	必須	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/> Update for ZCM (10.1.1)	2008/10/08	2009/05/31		ベースライン済み	必須	すべてのデバイス

カラムの情報および [自動リフレッシュ] ドロップダウンリスト (パネルの右側の [ターゲットタイプ] の上) の説明を、次の表に示します。カラムの中には、ヘッダをクリックして一覧表示されている情報をソートできるものもあります。ソート順序を逆にするには、ヘッダを再度クリックします。

表 14-1 [使用可能なシステム更新] カラムの説明

カラムの見出しまたはリスト	説明
更新名	Novell が作成した更新の名前が表示されます。  [リリース詳細] ページにアクセスするには、名前をクリックします。  詳細については、 <a href="#">173 ページの第 17 章「更新のコンテンツの確認」</a> を参照してください。

カラムの見出しまたはリスト	説明
リリース日付	Novell が更新を作成した日付が表示されます。
ダウンロード日付	更新をダウンロードした日付が表示されます。
適用日	更新を適用した日付が表示されます。
ステータス	15 秒ごとに自動更新される、更新の現在のステータスが表示されます。個別のステータスに関する詳細については、 <a href="#">177 ページの第 18 章「ステータスの更新」</a> を参照してください。
重要	ZENworks のインストールに対する、システム更新の相対的重要度が表示されます。可能なエントリは次のとおりです。  <b>OPTIONAL:</b> ZENworks の通常動作には不要。 <b>MANDATORY:</b> 適用が必要な必須の更新。
ターゲットタイプ	更新のタイプが表示されます。たとえば次のものがあります。  <b>ZENworks サーバ:</b> 更新は ZENworks サーバにのみ適用されます。  <b>すべてのデバイス:</b> ZENworks サーバを含むすべての管理対象デバイスに更新が適用されます。
自動リフレッシュ	[自動リフレッシュ] (パネルの右側のメニュー項目、[ターゲットタイプ] の上) をクリックし、次のいずれかを選択します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 自動リフレッシュなし</li> <li>◆ 15 秒間隔でリフレッシュ</li> <li>◆ 30 秒間隔でリフレッシュ</li> <li>◆ 60 秒間隔でリフレッシュ</li> </ul> <p>デフォルトでは、パネルビューは自動的に更新されません。ただし、[システム更新] タブをクリックすると、表示を手動で更新できます。</p>

## 14.2 割り当てられた権限

ダウンロードをスケジュールしたり、手動でダウンロードできます。

- ◆ [150 ページのセクション 14.2.1「更新のダウンロードのスケジュールリング」](#)
- ◆ [151 ページのセクション 14.2.2「手動による更新の確認」](#)
- ◆ [151 ページのセクション 14.2.3「手動による更新のダウンロード」](#)
- ◆ [152 ページのセクション 14.2.4「インターネット接続を持たないサーバへの手動による更新のインポート」](#)

### 14.2.1 更新のダウンロードのスケジュールリング

更新の確認と更新のダウンロードの両方をスケジュールできます。

- ◆ [131 ページの「更新スケジュールのチェック」](#)
- ◆ [133 ページの「ダウンロードスケジュール」](#)

## 14.2.2 手動による更新の確認

[システム更新] ページの [使用可能なシステム更新] パネルに最新の更新が表示されない場合、手動で表示を更新できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。

アクション	リリース	ダウンロード日	適用日	ステータス	必要度	ターゲットタイプ
更新のチェック						
更新のダウンロード	10.2	2009/05/27	2009/05/31	ダウンロードされました	必須	すべてのデバイス
更新をデバイスに展開		2009/05/05	2009/05/31	ダウンロードされました	中程度	すべてのデバイス
更新の展開		2009/02/18	2009/05/31	ベースライン済み	必須	すべてのデバイス
Update for ZCM (10.1.2a)		2008/12/08	2009/05/31	ベースライン済み	必須	すべてのデバイス
Update for ZCM (10.1.1)		2008/10/08	2009/05/31	ベースライン済み	必須	すべてのデバイス

- 2 [使用可能なシステム更新] パネルで、[アクション] > [更新のチェック] の順にクリックします。

使用可能な更新には、[使用可能] のステータスが表示されます。

- 3 一覧表示された更新を再ソートするには、[使用可能なシステム更新] パネルで任意のカラムのヘッダをクリックします。

ソート順を逆にするには、ヘッダを2回クリックします。

## 14.2.3 手動による更新のダウンロード

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。

アクション	リリース	ダウンロード日	適用日	ステータス	必要度	ターゲットタイプ
更新のチェック						
更新のダウンロード	10.2	2009/05/27	2009/05/31	ダウンロードされました	必須	すべてのデバイス
更新をデバイスに展開		2009/05/05	2009/05/31	ダウンロードされました	中程度	すべてのデバイス
更新の展開		2009/02/18	2009/05/31	ベースライン済み	必須	すべてのデバイス
Update for ZCM (10.1.2a)		2008/12/08	2009/05/31	ベースライン済み	必須	すべてのデバイス
Update for ZCM (10.1.1)		2008/10/08	2009/05/31	ベースライン済み	必須	すべてのデバイス



- 2 [使用可能なシステム更新] パネルで、1 つ以上の更新の隣にあるチェックボックスをオンにし、[アクション] をクリックします。次に、[更新版のダウンロード] をクリックします。

更新がダウンロードされ、そのステータスが [ダウンロードされました] に設定されます。

更新のサイズによっては、ダウンロードプロセスに時間がかかる場合があります。

- 3 ダウンロードの進行状況の表示 ([ステータス] カラム) を更新するには、[システム更新] タブをクリックするか、[自動リフレッシュ] オプションを使用します。
- 4 展開ステージを使用して、選択した更新を適用する場合、**155 ページの第 15 章「更新の展開」**を参照して、ステージを設定して更新を展開します。

または

ダウンロードされた更新を、管理ゾーンの適用可能なすべてのデバイスにすぐに適用するには、展開するダウンロードされた更新のチェックボックスをオンにし、[アクション] > [更新をデバイスに展開] の順にクリックします。システム更新の展開の作成ウィザードにより、展開プロセスをステップごとに実行できます。詳細については、**155 ページの第 15 章「更新の展開」**を参照してください。

## 14.2.4 インターネット接続を持たないサーバへの手動による更新のインポート

環境内にインターネットにアクセスできないサーバがある場合は、更新または PRU( 製品認識の更新) ファイルを、**Novell ダウンロードページ (<http://download.novell.com>)** から取得し、CD などの媒体にコピーします。次に、zman system-update-import コマンドを使用して、その CD から ZENworks プライマリサーバにファイルをインポートします。詳細については、『**ZENworks コマンドラインユーティリティ**』ガイドの「**システム更新 / 製品認識の更新コマンド**」を参照してください。

ファイルが ZENworks プライマリサーバにあると、更新または PRU が、ZENworks コントロールセンター ([環境設定] > [システム更新]) の [システム更新] タブの [使用可能なシステム更新] パネルに表示されます。管理対象デバイスに対する更新を展開するには、**155 ページの第 15 章「更新の展開」**の説明を参照してください。

## 14.3 PRU のダウンロードとインストール

Novell は、ZENworks インベントリがより新しいソフトウェアを認識できるように、ユーザのナレッジベースを更新するための製品認識の更新 (PRU) を提供しています。

このアクションによって、使用中のデータベースに PRU が展開され、管理対象デバイスへの展開のスケジュールが設定されます。その後、デバイス上の ZENworks Adaptive Agent によって展開が行われます。

PRU が最新ではない場合、インベントリから一部のソフトウェアが「未認識」として返されることがあります。ただし、**ローカルソフトウェア製品**ユーティリティを使用して、未認識のソフトウェアのフィンガープリントを取り、ナレッジベースを更新することができます。

PRU をダウンロードしてインストールするには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。





- PRU が [使用可能なシステム更新] パネルに表示されない場合、[アクション] > [更新のチェック] の順にクリックします。  
最新の PRU の情報が入手可能な場合、表示されます。
- 一覧表示された PRU をダウンロードするには、[使用可能なシステム更新] パネルに移動し、一覧表示された PRU のチェックボックスをオンにします。次に、[アクション] > [更新版のダウンロード] の順にクリックします。
- ダウンロードされた PRU をインストールするには、[使用可能なシステム更新] パネルに移動し、[アクション] > [今すぐPRUを展開] の順にクリックします。  
PRU が [システム更新の展開] パネルに一覧表示され、その進行状況が表示されます。



## 更新の展開

- ◆ 155 ページのセクション 15.1 「更新の展開について」
- ◆ 158 ページのセクション 15.2 「更新の展開」
- ◆ 164 ページのセクション 15.3 「保留中のステージの開始」
- ◆ 165 ページのセクション 15.4 「展開の再スケジュール」
- ◆ 166 ページのセクション 15.5 「ステージングのバイパス」
- ◆ 166 ページのセクション 15.6 「展開のキャンセル」
- ◆ 166 ページのセクション 15.7 「展開の再試行のエラーのクリア」
- ◆ 166 ページのセクション 15.8 「デバイスごとのステータスの表示」

### 15.1 更新の展開について

更新の展開オプションは、次のとおりです。

- ◆ 展開ステージを使用せずに、すべてのデバイスに更新を展開します。展開をスケジュールできます。
- ◆ 展開を一時停止し、管理者に電子メール通知を送信するようにステージを設定しない限り、前のステージが完了した後に、1つのステージが自動的に開始する展開ステージを使用して、更新を展開します。展開をスケジュールできます。
- ◆ 次のステージの開始を手動制御できるよう、電子メール通知を使用した展開ステージを使用して、更新を展開します。このオプションは、運用環境内のすべてのデバイスに更新を展開する前に、テスト目的で使用できます。展開をスケジュールできます。
- ◆ 展開ステージを使用せずに、(個々にデバイスグループごとに選択された)特定のデバイスに更新を展開します。このオプションは、運用環境内のすべてのデバイスに更新を展開する前に、テスト目的で使用できます。展開をスケジュールできます。

---

**重要：**展開後の更新を削除するには、[Novell サポート \(http://www.novell.com/support\)](http://www.novell.com/support) からのヘルプが必要です。

---

管理ゾーンのすべてのデバイスに更新を展開する前に、ZENworks コントロールセンター内の特定の管理対象デバイスをリタイアすることを選択した場合は、まず、そのデバイスがリタイアしたことを確認してから、更新を適用する必要があります。デバイスがリタイアされるのは、デバイスにインストールされている ZENworks Adaptive Agent がリフレッシュされたときのみです。したがって、エージェントのリフレッシュの前に更新を展開した場合、その更新はリタイア対象のデバイスにも適用されます。エージェントは、次のデバイス更新スケジュール (デフォルトのデバイス更新間隔は 12 時間) 時に自動的にリフレッシュされます。次のデバイス更新スケジュールの前に更新を展開する場合は、エージェントを手動でリフレッシュする必要があります。

[システム更新の展開] パネルに、更新の展開の進行状況および結果が表示されます。

更新プロセス全体が完了すると、このパネルから更新が削除されます。展開された更新に関する情報については、[リリース詳細] ページの [展開履歴] パネルに表示できます。

次の図は、[システム更新の展開] パネルを示しています。

図 15-1 [システム更新の展開] パネル

システム更新の展開							
アクション							
<input type="checkbox"/> 名前の変更	スケジュールの開始	動作の起動	ステージ	ステータス	保留中	成功	失敗
<input type="checkbox"/> ZCM Update 10.0.2	今すぐ	ユーザにプロンプトを表示	<a href="#">すべてのデバイスステージ</a>	<a href="#">処理中</a>	1	0	0

次の表はカラム情報について説明しています。カラムの中には、ヘッダをクリックして一覧表示されている情報をソートできるものもあります。ソート順序を逆にするには、ヘッダを再度クリックします。

表 15-1 [システム更新を展開しています] カラムの説明

カラム見出し	説明
更新名	Novell が作成した更新の名前が表示されます。  名前をクリックして [デバイス別のステータス] ページにアクセスします。また、[保留中]、[成功]、または [失敗] カラムの下線の付いた番号をクリックして、そのステータスを持つデバイスを表示するようフィルタリングされた、適切な [デバイス別のステータス] ページを表示することもできます。
開始スケジュール	設定されているスケジュールがあれば、最新のスケジュールが表示されます。[展開の再スケジュール] アクションを使用して、更新の再スケジュールを行います。詳細については、 <a href="#">165 ページのセクション 15.4「展開の再スケジュール」</a> を参照してください。  デバイスごとに独自のスケジュールを含めることができます。
再起動の動作	更新が展開された後のデバイスの再起動の動作を表示します。  更新の中には、デバイスに展開された後にデバイスの再起動を必要としないものもあります。ただし、更新プロセスを完了させるのに再起動が必要な場合は、デバイスが再起動されるまで展開は完了しません。  再起動オプションは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>更新の適用が完了したら、再起動するようにユーザに要求</b>：更新が適用されるとすぐに、再起動するように要求が表示されます。ユーザが最初に再起動を拒否した場合、デバイスが再起動されるまで、デバイスを再起動するよう定期的に要求されます。これがデフォルトの設定です。</li> <li>◆ <b>デバイスを再起動しない</b>：デバイスは再起動されませんが、デバイスが再起動されるまで、再起動するように定期的にユーザに要求します。</li> <li>◆ <b>デバイスを強制的に再起動</b>：更新で再起動が必要である場合、更新が適用されると、ユーザの介入なしにデバイスが自動的に再起動されます。</li> </ul>

カラム見出し	説明
ステージ	<p>展開のステータスを示します。可能なエントリーは次のとおりです。</p> <p><b>stage_name:</b> 一覧表示されている現在のステージのメンバーである管理対象デバイスに更新を展開中です。</p> <p><b>選択したデバイスステージ:</b> 更新は、ステージを使用せずに選択された管理対象デバイスに展開されています。</p> <p><b>すべてのデバイスステージ:</b> 更新は、ステージを使用せずに管理ゾーンに含まれるすべての管理対象デバイスに展開されています。</p> <p>最後のステージが完了すると、[すべてのデバイスステージ] と表示されます。これは、管理ゾーンに残った、完了したステージに含まれなかったデバイスが更新を受け取る最中であることを意味します。つまり、管理対象デバイスは、更新をスキップできません。</p> <p>ステージが使用中の場合、ステージ名をクリックするとステージメンバーごとにデバイスのステータスが表示されます。詳細については、<a href="#">166 ページのセクション 15.8「デバイスごとのステータスの表示」</a>を参照してください。</p>
ステータス	<p>展開中の更新のステータスを示します (ステージが使用されている場合は、最新のステージに対して)。可能なステータスに関する詳細については、<a href="#">177 ページの第 18 章「ステータスの更新」</a>を参照してください。</p> <p>[ステータス] カラムの中の項目をクリックし、現在のステータスを説明するメッセージを表示します。</p> <p>更新のステータスが APPLIED または BASELINE ステータスに達すると、このパネルは更新の展開項目が表示されなくなりますが、[展開履歴] パネルに表示されます。詳細については、<a href="#">166 ページのセクション 15.8「デバイスごとのステータスの表示」</a>を参照してください。</p>
保留中	<p>更新展開プロセスが保留になっているデバイスの数が表示されます。デバイスがステージのメンバーであり、1つのステージの完了後に自動的に他のステージが開始されない場合は、デバイスは保留状態になります。</p> <p>[デバイス別のステータス] ページを表示するには番号をクリックします。このページには、更新の展開が保留されているデバイスが表示されます。詳細については、<a href="#">166 ページのセクション 15.8「デバイスごとのステータスの表示」</a>を参照してください。</p>
成功	<p>更新の展開プロセスが完了しているデバイスの数が表示されます。</p> <p>[デバイス別のステータス] ページを表示するには番号をクリックします。このページには、更新を正常に受け取ったデバイスが表示されます。詳細については、<a href="#">166 ページのセクション 15.8「デバイスごとのステータスの表示」</a>を参照してください。</p>
失敗	<p>更新展開プロセスが失敗したデバイスの数。</p> <p>[デバイス別のステータス] ページを表示するには番号をクリックします。このページには、更新の受け取りに失敗したデバイスが表示されます。詳細については、<a href="#">166 ページのセクション 15.8「デバイスごとのステータスの表示」</a>を参照してください。</p> <p>展開が失敗した場合、エラーを無視して続行するか、エラーが解決した場合は更新を再展開することができます。</p>

## 15.2 更新の展開

- 1 (オプション) 展開ステージを使用する場合、まだ展開ステージを設定していない場合は設定します。

詳細については、[140 ページのセクション 13.2「展開ステージの作成」](#)を参照してください。

- 2 ZENworks コントロールセンターの左側のペインで **環境設定** をクリックし、**システム更新** タブをクリックし、**使用可能なシステム更新** パネルを表示します。



- 3 (条件付き) 新しい更新が表示されない場合、**[アクション] > [更新のチェック]** の順にクリックします。

入手可能な更新の説明を次に示します。

使用可能なシステム更新						
アクション ▼						
<input type="checkbox"/> 更新名	リリース日	ダウンロード日	有効日	ステータス	重要度	ターゲットタイプ
<input type="checkbox"/> Jun 2009 PRU	2009/06/02			使用可能	中程度	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/> Support Pack 2 for ZCM (10.2)	2009/05/27			使用可能	必須	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/> Update for ZCM (10.1.3)	2009/02/18		2009/06/03	ベースライン済み	必須	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/> Update for ZCM (10.1.2a)	2008/12/08		2009/06/03	ベースライン済み	必須	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/> Update for ZCM (10.1.1)	2008/10/08		2009/06/03	ベースライン済み	必須	すべてのデバイス

- 4 (オプション) 入手可能な更新のコンテンツを表示するには、(**[更新名]** カラムで) 更新の名前をクリックし、**[リリース詳細]** ページを表示します。



詳細については、**173 ページの第 17 章「更新のコンテンツの確認」**を参照してください。

- 更新をダウンロードするには、そのチェックボックスをオンにし、[アクション] をクリックし、[更新版のダウンロード] をクリックします。

更新によってダウンロードが完了した後、そのステータスが [ダウンロードされました] に自動的に変更されます。更新をダウンロードする時間の長さは、そのサイズおよびハードウェアの設定に依存します。

複数の更新を一度にダウンロードできますが、展開は一度に 1 回しか実行できません。これらのステップは各更新で繰り返されるため、現時点で展開しようとしている更新のみをダウンロードする必要があります。

ダウンロードされた更新の説明を次に示します。

使用可能なシステム更新						
アクション ▼				自動リフレッシュ ▼		
更新名	リリース日	ダウンロード日	適用日	ステータス	重要度	ターゲットタイプ
<input type="checkbox"/> Jun 2009 PRU	2009/06/02			使用可能	中程度	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/> Support Pack 2 for ZCM (10.2)	2009/05/27			使用可能	必須	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/> Update for ZCM (10.1.3)	2009/02/18		2009/06/03	ベースライン済み	必須	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/> Update for ZCM (10.1.2a)	2008/12/08		2009/06/03	ベースライン済み	必須	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/> Update for ZCM (10.1.1)	2008/10/08		2009/06/03	ベースライン済み	必須	すべてのデバイス

- ダウンロードされた更新を展開するかどうかを判断し、そのチェックボックスをオンにします。

一度に 1 つの更新しか展開できません。

ダウンロードした更新のコンテンツを確認するには、**173 ページの第 17 章「更新のコンテンツの確認」**のダウンロードされた更新のコンテンツの確認に関する説明を参照してください。

異なる展開の更新をダウンロードする場合、**ステップ 4**に戻ります。

- [アクション] > [更新をデバイスに展開] の順にクリックします。

これにより、適用可能なすべてのデバイスへの更新を展開するための、システム更新の展開の作成ウィザードが開始します。展開ステージが有効になっている場合、これらを使用できます。

展開ウィザードには、展開のスケジュールリングを含む多くのオプションが用意されています。

システム更新の展開の作成

手順1: 展開の再起動動作の選択

更新名:

ZCM 10.0.7の更新

リリース日:

2008年4月7日

ダウンロード日:

2008年4月12日

優先度レベル:

オプション

説明:

ターゲット:

製品バージョン:

0

更新に関する注:

更新のReadme:

更新されたファイル:

管理ゾーンの展開オプションを選択してください:

☐ システム更新を管理ゾーン内の選択したデバイスに展開する
 ☒ システム更新を管理ゾーン内のすべてのデバイスに展開する
 ☐ ステージを使用してシステム更新を管理ゾーン内のデバイスに展開する

<< 戻る

次へ >>

キャンセル

## 8 展開ウィザードで、次のステップを完了します。

- 8a** [システム更新と展開オプションの選択] ページで、展開オプションを選択します (これらはすべて後続のウィザードページでスケジュールできます)。

ZENworks システムのサイズによっては、すべての ZENworks サーバに選択した更新を展開してから、これらのサーバと通信する管理対象デバイスに更新を展開することを、ベストプラクティスとして推奨します。運用環境では、[システム更新を管理ゾーン内の選択したデバイスに展開する] オプションを使用して最初にサーバを更新し、次に管理対象デバイスを更新するか、[ステージを使用してシステム更新を管理ゾーン内のデバイスに展開する] オプションを使用してサーバを含むステージに更新を展開してから、管理対象デバイスを含む別なステージに更新を展開することをお勧めします。

- 管理ゾーンに含まれる選択したデバイスにシステム更新を展開 :** **ステップ 8e** で選択したデバイスにのみ、選択した更新を展開します。ステージは使用されません。このオプションを選択した場合は、ウィザードの次のページで、展開に含められるデバイスの再起動動作を選択できます。
- 管理ゾーンに含まれるすべてのデバイスにシステム更新を展開 :** 管理ゾーンに含まれるすべてのデバイスに選択した更新を展開します。ステージは使用されません。このオプションを選択した場合は、ウィザードの次のページで、展開に含められるデバイスの再起動動作を選択できます。

このオプションは、管理対象デバイスの前に ZENworks サーバが更新されることを保証するものではありません。大規模な ZENworks システムや運用環境では、次のいずれかのオプションを使用することをお勧めします。

- 管理ゾーンに含まれるデバイスにステージを使用してシステム更新を展開 :** 選択した更新は、ステージの 1 つでメンバーシップを持つデバイスだけに展開されます。ステージは 1 つずつ実行されます。つまり、前のステージが完了するまで次のステージは開始されません。すべてのステージの完了後、[すべてのデバイス] ステージが実行されます。このオプションを選択し、



再起動動作をステージごととして設定した場合は、ウィザードの次のページで、他の全ステージの後で自動的に実行される**すべてのデバイスステージ**の再起動動作を選択できます。

ステージの詳細については、**140 ページのセクション 13.2「展開ステージの作成」**を参照してください。

**8b** [次へ] をクリックして、次のページを表示します。

The screenshot shows a wizard window titled 'システム更新の展開の作成' (Create System Update Deployment). The current step is '手順2: 展開の再起動動作の選択' (Step 2: Selection of deployment restart actions). Under the heading '展開の再起動動作の選択' (Selection of deployment restart actions), there are three radio button options: '更新の適用が終了したときにユーザに対して再起動するよう促す' (Prompt user to restart when application is complete), 'デバイスを再起動しない' (Do not restart device), and '強制的にデバイスを再起動' (Force restart device). At the bottom, there are three buttons: '<< 戻る' (Back), '次へ >>' (Next), and 'キャンセル' (Cancel).

**8c** 次のいずれかを行います：

- ◆ **更新の適用が完了したら、再起動するようにユーザに要求**：更新が適用されるとすぐに、再起動するように要求が表示されます。ユーザが最初に再起動を拒否した場合、デバイスが再起動されるまで、デバイスを再起動するように定期的に要求されます。これがデフォルトの設定です。
- ◆ **デバイスを再起動しない**：デバイスは再起動されませんが、デバイスが再起動されるまで、再起動するように定期的にユーザに要求します。
- ◆ **デバイスを強制的に再起動**：更新で再起動が必要である場合、更新が適用されると、ユーザの介入なしにデバイスが自動的に再起動されます。

更新の中には、デバイスに展開された後にデバイスの再起動を必要としないものもあります。ただし、更新プロセスを完了させるのに再起動が必要な場合は、デバイスが再起動されるまで展開は完了しません。

**8d** [次へ] をクリックします。

**8e** (条件付き) **ステップ 8a** で、管理ゾーンで [システム更新を選択したデバイスに展開する] を選択した場合、次のウィザードページが表示されます。

The screenshot shows a wizard window titled 'システム更新の展開の作成' (Create System Update Deployment). The current step is '手順3: 展開デバイスとグループの選択' (Step 3: Selection of deployment devices and groups). It features a table with two columns: '追加' (Add) and '削除' (Remove). Below the table is a search field labeled '名前' (Name) with a checkbox. A message below the search field states: '項目を選択していません、[追加] をクリックして項目を選択します。' (No items selected, click [Add] to select items). At the bottom, there are three buttons: '<< 戻る' (Back), '次へ >>' (Next), and 'キャンセル' (Cancel).

**8f** デバイスまたはグループを展開の設定に追加するには、[追加] をクリックし、更新の展開に含めるデバイスまたはデバイスグループを参照して選択し、次に [OK] をクリックします。

**8g** [次へ] をクリックし、[展開スケジュールの選択] ページを表示します。

**8h** 次のフィールドに入力します：

**スケジュールタイプ**：スケジュールオプションの 1 つを選択します。

- ◆ **今すぐ**：ウィザードが終了したら、すぐに更新を展開します。

システム更新の展開の作成  
手順2: 展開スケジュールの選択

スケジュールタイプ:

今すぐ

このスケジュールは、ウィザードの完了時に直ちに実行されます。

<< 戻る

次へ >>

キャンセル

- ◆ **特定の日付**: 設定したスケジュールに従って、更新を展開します。[日付特有] オプションには、次のオプションが表示されます。

システム更新の展開の作成  
手順4: 展開スケジュールの選択

スケジュールタイプ:

日付特有

開始日 2008年4月12日

☐ 毎年イベントを実行

☒ デバイスがスケジュールどおりに実行できない場合はすぐに処理する

スケジュールの実行が開始される時間を選択

☒ 開始時刻にすぐに実行

☐ 開始時刻および終了時刻の間でランダムに開始

開始時刻 1 : 00 am 終了時刻 1 : 00 am

<< 戻る

次へ >>

キャンセル

次のフィールドに入力します:

- ◆ **開始日**: カレンダーから展開日を選択します。
- ◆ **毎年イベントを実行**: 毎年開始日に更新を展開するには、このオプションを選択します。
- ◆ **デバイスがスケジュールどおりに実行できない場合はすぐに処理する**: 更新ではこのオプションを使用しないでください。これは、更新には適用されません。
- ◆ **開始時刻にただちに開始**: 指定した開始時刻に、更新を展開できます。
- ◆ **開始時刻と終了時刻の間でランダムに開始**: 指定した時間の間でランダムに更新を展開できます。[終了時刻] フィールドに入力します。

- 8i [次へ] をクリックし、[展開オプションの確認] ページを表示して、情報を確認します。

システム更新の展開の作成

手順5: 展開オプションの確認

更新名: ZCM Update 10.0.2

展開タイプ: システム更新を管理ゾーン内の選択したデバイスに展開する

展開の再起動動作: 更新の適用が終了したときにユーザに対して再起動するよう促す

展開スケジュール:


スケジュールタイプ: 日付特有

スケジュールされたイベントが実行される日: 2008年4月12日

開始時間: 1:00 AM

終了時間:

<< 戻る    終了    キャンセル

- 9 これでよい場合は、[完了] をクリックして更新の展開を開始します。これで行かない場合は、[戻る] をクリックして変更します。
- 10 (条件付き) 展開スケジュールタイプとして、**ステップ 8h** で [今すぐ] を選択した場合、更新は次のデバイス更新スケジュール中のみ展開されます。ただし、デバイスにすぐに更新を適用したい場合は、次のいずれかの方法で手動で管理対象デバイスを更新する必要があります。
- [デバイス] タブ > [管理対象] タブ > [サーバ]、または [ワークステーション] の順にクリックし、更新するデバイスの隣のチェックボックスをオンにして、[クイックタスク] > [デバイスの更新] の順にクリックします。
  - 管理対象デバイスで、 アイコンを右クリックし、次に [更新] をクリックします。
  - 管理対象外の Linux デバイスで、ターミナルを開き、現在の作業ディレクトリを /opt/novell/zenworks/bin/ に変更し、/zac ref コマンドを実行します。
- 11 更新の展開の進行状況を見るには、次のいずれかを行います。
- ZENworks コントロールセンターでは、[システム更新] ページのパネルを参照します。
    - 展開が完了すると、[使用可能なシステム更新] パネルの [ステータス] カラムに、[ベースライン済み] が自動的に表示されます。
    - 展開が完了したときに、[展開されたシステム更新] パネルに、そのリストに更新が表示されます。
  - 更新が展開される Windows デバイスで、[ZENworks] アイコンを右クリックし、[進捗表示] を選択すると、[ZENworks 進行状況] ダイアログボックスが開きます。
- これらのデバイスは ZENworks の管理対象デバイスでなく、ZENworks アイコンを持たないため、Linux デバイスではダウンロードの進行状況を見ることはできません。

更新 MSI ファイルのダウンロードの進行状況が表示されます。終了するとダイアログボックスが自動的に閉じ、[進捗表示] オプションがグレー表示になります。

5 分間待機した後、デバイス上のすべての ZENworks サービスが終了します。次に、MSI (Windows の場合) または RPM (Linux の場合) がインストールされ、サービスが再起動されます。

**12** 次の手順に従って、更新が正常に展開されたことを検証します。

**12a** MSI または RPM がインストールされており、更新プロセスが完了していることを検証するには、次のログファイルを確認します。

**Windows:** `installation_path\novell\zenworks\logs\systemupdate.log`

**Linux:** `/var/opt/novell/log/zenworks/SystemUpdate.log`

また、次のファイルがあるかどうかを調べることもできます (Windows と Linux で同じパスです)。

`installation_path\novell\zenworks\work\system-update\systemupdate.ini.timestamp`

**12b** 適切に動作していることを確認するために、デバイス上の ZENworks ソフトウェアをテストします。

**12c** 更新が展開されたことを確認するには、次のいずれかの操作を行って、バージョン番号が増加したかどうかを判別してください (たとえば、ZENworks の最初の更新では、値が 10.0.x から 10.0.2 に変更されます)。

- Windows レジストリを開き、次を参照します。

`HKEY_LOCAL_MACHINE/Software/Novell`

ZENworks キーでは、更新プロセスは、[バージョン] の値だけ増加する必要があります。

- Windows デバイスで、次のファイルを確認します。

`Installation_path\Novell\ZENworks\version.txt`

- Linux デバイスで、次のファイルを確認します。

`/etc/opt/novell/zenworks/version.txt`

**12d** 各テストデバイスで、**ステップ 12a** から **ステップ 12c** を繰り返します。

**13** (条件付き) 展開ステージが完了し、次のステージを開始する準備ができれば電子メール通知を受信する場合、[展開されたシステム更新] パネルに移動し、[アクション] > [次のステージに進む] の順にクリックします。

**14** 別の更新を展開するには、**ステップ 4** から繰り返します。

## 15.3 保留中のステージの開始

デフォルトのステージの動作では、設定されたステージを自動的に進めます。ただし、個々のステージまたはすべてのステージのステージ動作を設定できます。

[保留中ステージの開始] オプションは、ステージを自動的に完了させるのではなく、[次のステージに手動で進め、完了時に通知する] オプションを使用して、入力を手動で行って続行させるためにステージごとに停止する場合のみ使用可能です。

保留中ステージを開始するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [システム更新の展開] パネルで、更新のチェックボックスをオンにします。
- 3 [アクション] > [保留ステージの開始の順] にクリックします。

## 15.4 展開の再スケジュール

展開の開始後に再スケジュールすることはできません。

- 165 ページのセクション 15.4.1「すべてのステージのステータスに対する展開の再スケジュール」
- 165 ページのセクション 15.4.2「その他のステータスに対する展開の再スケジュール」

### 15.4.1 すべてのステージのステータスに対する展開の再スケジュール

- 1 更新用にチェックボックスをオンにします。  
同時に展開された更新がすべてのデバイスにある必要はないので、デバイス別に個別の展開スケジュールを設定できます。
- 2 [アクション] > [展開の再スケジュール] の順にクリックして、[再展開スケジュール] ダイアログボックスを開きます。
- 3 [OK] をクリックして [今すぐ] のデフォルトのスケジュールを受諾するか、[スケジュールタイプ] フィールドの [日付特有] を選択して、新しい日付を指定して [OK] をクリックします。

### 15.4.2 その他のステータスに対する展開の再スケジュール

- 1 更新用にチェックボックスをオンにします。
- 2 [アクション] > [展開の再スケジュール] の順にクリックします。
- 3 [デバイス別のステータス] ページで更新のチェックボックスをオンにし、次に、[展開の再スケジュール] をクリックします。
- 4 [デバイス別のステータス] ページで、[デバイス] カラム内に一覧表示されているデバイスを 1 つまたは複数の選択します。
- 5 [デバイスの再スケジュール] をクリックして、[再展開スケジュール] ダイアログボックスを開きます。
- 6 [OK] をクリックしてデフォルトの [今すぐ] を承認するか、[スケジュールタイプ] フィールドの [日付特有] を選択して新しい日付を指定し、[OK] をクリックします。

## 15.5 ステージングのバイパス

ステージはいつでもバイパスできます。また、管理ゾーン内のすべての管理対象デバイスに直ちに更新を展開することもできます。

- 1 更新用にチェックボックスをオンにします。
- 2 [アクション] > [ステージをバイパスしてすべてのデバイスに適用] の順にクリックします。

## 15.6 展開のキャンセル

このオプションは、主にまだ開始されていない展開をキャンセルするためのものです。

ステージを使用してのみ展開を適用する方法を選択し、更新の展開をキャンセルした場合、[使用可能なシステム更新] パネル内のステータスが [中断] に変わります。

ただし、更新では、個々のデバイスに展開したり、他のデバイスのステージを介して展開することを選択できます。そのため、[使用可能なシステム更新] パネルのステータスは次のように変わります。

- ◆ ステージによる展開のみをキャンセルする場合は、[準備完了] に変わります。
- ◆ ステージによる展開および個別に選択されたデバイスの展開の両方をキャンセルする場合は、[中断] に変わります。

展開をキャンセルするには、次の手順に従います。

- 1 更新用にチェックボックスをオンにします。
- 2 [アクション] > [展開のキャンセル] の順にクリックします。

---

**警告:** (単にスケジュールされているだけでなく) 現在実行中の展開をキャンセルすると、その時点までに実行されたすべての展開アクションは元に戻すことはできません。現在、ロールバックオプションは用意されていません。

---

- 3 [OK] をクリックして、展開のキャンセルを確認します。

## 15.7 展開の再試行のエラーのクリア

展開を中止するほどエラーが深刻ではないと判断した場合、次の操作に従って展開を続行します。

- 1 [アクション] > [エラーをクリアして続行] の順にクリックします。

## 15.8 デバイスごとのステータスの表示

詳細情報については、次を参照してください。

- ◆ 167 ページのセクション 15.8.1 「デバイスのステータスの理解」
- ◆ 168 ページのセクション 15.8.2 「デバイスのプロパティの表示」
- ◆ 168 ページのセクション 15.8.3 「デバイスのステータスに関する情報の表示」
- ◆ 168 ページのセクション 15.8.4 「無視されたデバイスの切り替え」
- ◆ 169 ページのセクション 15.8.5 「デバイスへの更新の再展開」

- 169 ページのセクション 15.8.6 「デバイスへの更新の再スケジュール」
- 170 ページのセクション 15.8.7 「デバイスの更新」

## 15.8.1 デバイスのステータスの理解

次の図は、[システム更新] ページ上の [システム更新の展開] パネルを示しています。

図 15-2 [システム更新の展開] パネル

システム更新の展開							
アクション							
<input type="checkbox"/> 名前の変更	スケジュールの開始	操作の起動	ステージ	ステータス	保留中	成功	失敗
<input type="checkbox"/> ZCM Update 10.0.2	今すぐ	ユーザにプロンプトを表示	<a href="#">すべてのデバイスステージ</a>	<a href="#">処理中</a>	1	0	0

下線の付いたリンクをクリックすると、対応するデバイスのステータスを表示できます。たとえば、[保留中] カラムのリンクをクリックすると、次の図に示すように、展開が保留されているデバイスのステータスが表示されます。

図 15-3 保留中ステータスを持つデバイスの [デバイス別のステータス] ページ

ZCM 10.0.7 の更新 - 保留中ステータスのデバイス				
アクション				
<input type="checkbox"/> デバイスの無視	デバイス	ステータス	デバイスタイプ	In Folder
<input type="checkbox"/>	<a href="#">zendoc3a</a>	<a href="#">更新が割り当てられました</a>	サーバ	/ devices/servers/zendoc3a

このページに表示できるステータスは次のとおりです。

**すべてのデバイス**：ステータスにかかわらず、選択した更新を受け取るように設定されたすべてのデバイスを一覧表示します。

**保留中のデバイス**：選択した更新が保留中のデバイスのみ一覧表示します。

**正常なデバイス**：選択した更新が正常に展開されたすべてのデバイスを一覧表示します。

**失敗したデバイス**：選択した更新が失敗したデバイスのみを一覧表示します。

**更新は割り当てられました**：選択した更新が割り当てられたデバイスのみ一覧表示します。

次の表はカラム情報について説明しています。カラムの中には、ヘッダをクリックして一覧表示されている情報をソートできるものもあります。ソート順序を逆にするには、ヘッダを再度クリックします。このページは、デバイスに更新が適用されるときに、そのデバイスで作業を行うことができるようにするために、自動的に更新されます。

カラム見出し	説明
デバイス	デバイスの名前です。名前をクリックすると、デバイスのプロパティページが ZENworks コントロールセンターに表示されます。
ステータス	<p>デバイスに対する現在の更新の展開ステータスです。ステータス項目をクリックすると、ステータスの情報が表示されます。</p> <p>個別のステータスに関する詳細については、177 ページの第 18 章「ステータスの更新」を参照してください。</p>
デバイスタイプ	デバイスがサーバまたはワークステーションのいずれであるかです。

カラム見出し	説明
フォルダ内	デバイスの ZENworks オブジェクトが格納されている ZENworks コントロールセンターフォルダを表示します。

## 15.8.2 デバイスのプロパティの表示

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [システム更新の展開] パネルの [更新名]、[ステージ]、[保留中]、[成功]、または [失敗] の各カラムで、下線の付いたリンクをクリックし、適切な [デバイス別のステータス] ページを表示します。

たとえば、[保留中] カラムのリンクをクリックすると、次の図に示すように、展開が保留されているデバイスのステータスが表示されます。

ZCM 10.0.7 の更新 - 保留中ステータスのデバイス				
アクション				
<input type="checkbox"/> デバイスの無視	デバイス	ステータス	デバイスタイプ	In Folder
<input type="checkbox"/>	<a href="#">zendoc3a</a>	<a href="#">更新が割り当てられました</a>	サーバ	/devices/servers/zendoc3a

- 3 [デバイス] カラムの下線の付いたリンクをクリックし、デバイスのプロパティを表示します。

## 15.8.3 デバイスのステータスに関する情報の表示

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [システム更新の展開] パネルの [更新名]、[ステージ]、[保留中]、[成功]、または [失敗] の各カラムで、下線の付いたリンクをクリックし、適切な [デバイス別のステータス] ページを表示します。

たとえば、[保留中] カラムのリンクをクリックすると、次の図に示すように、展開が保留されているデバイスのステータスが表示されます。

ZCM 10.0.7 の更新 - 保留中ステータスのデバイス				
アクション				
<input type="checkbox"/> デバイスの無視	デバイス	ステータス	デバイスタイプ	In Folder
<input type="checkbox"/>	<a href="#">zendoc3a</a>	<a href="#">更新が割り当てられました</a>	サーバ	/devices/servers/zendoc3a

- 3 [ステータス] カラムの下線の付いたリンクをクリックし、デバイスに関するステータス情報を表示します。

## 15.8.4 無視されたデバイスの切り替え

デバイスで更新が失敗したときに、エラーを解決せずに展開を続行する場合に、デバイスの無視は便利です。たとえば、デバイスがオフラインで、展開を続行できるようにするためそのデバイスを無視する場合などです。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。



- 2 [システム更新の展開] パネルの [更新名]、[ステージ]、[保留中]、[成功]、または [失敗] の各カラムで、下線の付いたリンクをクリックし、適切な [デバイス別のステータス] ページを表示します。

たとえば、[保留中] カラムのリンクをクリックすると、次の図に示すように、展開が保留されているデバイスのステータスが表示されます。

ZCM 10.0.7 の更新 - 保留中ステータスのデバイス				
アクション ▼				
<input type="checkbox"/> デバイスの無視	デバイス ▲	ステータス	デバイスタイプ	In Folder
<input type="checkbox"/>	<a href="#">zendoc3a</a>	<a href="#">更新が割り当てられました</a>	サーバ	/devices/servers/zendoc3a
1 - 1/1		5の表示 ▼ 項目		

- 3 1つまたは複数のデバイスの隣にあるチェックボックスをクリックします。
- 4 [アクション]、[無視されたデバイスの切り替え] の順にクリックします。  
[アクション] メニューで使用可能なオプションは、[割り当てられた全デバイスのステータス] パネル、[保留中ステータスのデバイス] パネル、または [失敗ステータスのデバイス] パネルを表示しているかどうかによって異なります。[成功ステータスのデバイス] パネルを表示している場合は、オプションは使用できません。

## 15.8.5 デバイスへの更新の再展開

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [システム更新の展開] パネルの [更新名]、[ステージ]、[保留中]、[成功]、または [失敗] の各カラムで、下線の付いたリンクをクリックし、適切な [デバイス別のステータス] ページを表示します。

たとえば、[保留中] カラムのリンクをクリックすると、次の図に示すように、展開が保留されているデバイスのステータスが表示されます。

ZCM 10.0.7 の更新 - 保留中ステータスのデバイス				
アクション ▼				
<input type="checkbox"/> デバイスの無視	デバイス ▲	ステータス	デバイスタイプ	In Folder
<input type="checkbox"/>	<a href="#">zendoc3a</a>	<a href="#">更新が割り当てられました</a>	サーバ	/devices/servers/zendoc3a
1 - 1/1		5の表示 ▼ 項目		

- 3 デバイスの隣にあるチェックボックスを1つ以上オンにします。
- 4 [アクション]、[更新をデバイスに再展開] の順にクリックします。  
[アクション] メニューで使用可能なオプションは、[割り当てられた全デバイスのステータス] パネル、[保留中ステータスのデバイス] パネル、または [失敗ステータスのデバイス] パネルを表示しているかどうかによって異なります。[成功ステータスのデバイス] パネルを表示している場合は、オプションは使用できません。

## 15.8.6 デバイスへの更新の再スケジュール

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [システム更新の展開] パネルの [更新名]、[ステージ]、[保留中]、[成功]、または [失敗] の各カラムで、下線の付いたリンクをクリックし、適切な [デバイス別のステータス] ページを表示します。

たとえば、[保留中] カラムのリンクをクリックすると、次の図に示すように、展開が保留されているデバイスのステータスが表示されます。

ZCM 10.0.7 の更新 - 保留中ステータスのデバイス				
アクション ▼				
<input type="checkbox"/> デバイスの無視	デバイス ▲	ステータス	デバイスタイプ	In Folder
<input type="checkbox"/>	<a href="#">zendoc3a</a>	<a href="#">更新が割り当てられました</a>	サーバ	/devices/servers/zendoc3a
1 - 1/1		5の表示 ▼ 項目		

- 3 デバイスの隣にあるチェックボックスを1つ以上オンにします。
- 4 [アクション]、[デバイスの再スケジュール] の順にクリックします。  
[アクション] メニューで使用可能なオプションは、[割り当てられた全デバイスのステータス] パネル、[保留中ステータスのデバイス] パネル、または[失敗ステータスのデバイス] パネルを表示しているかどうかによって異なります。[成功ステータスのデバイス] パネルを表示している場合は、オプションは使用できません。  
更新の展開がスケジュールされている場合のみ、[デバイスの再スケジュール] オプションが表示されます。更新のスケジュールが[今すぐ]に設定されている場合、このオプションは使用できません。

## 15.8.7 デバイスの更新

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの[環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [システム更新の展開] パネルの[更新名]、[ステージ]、[保留中]、[成功]、または[失敗] の各カラムで、下線の付いたリンクをクリックし、適切な[デバイス別のステータス] ページを表示します。

たとえば、[保留中] カラムのリンクをクリックすると、次の図に示すように、展開が保留されているデバイスのステータスが表示されます。

ZCM 10.0.7 の更新 - 保留中ステータスのデバイス				
アクション ▼				
<input type="checkbox"/> デバイスの無視	デバイス ▲	ステータス	デバイスタイプ	In Folder
<input type="checkbox"/>	<a href="#">zendoc3a</a>	<a href="#">更新が割り当てられました</a>	サーバ	/devices/servers/zendoc3a
1 - 1/1		5の表示 ▼ 項目		

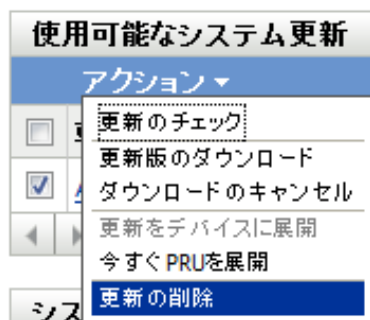
- 3 デバイスの隣にあるチェックボックスを1つ以上オンにします。
- 4 [アクション] > [デバイスの更新] の順にクリックします。  
[アクション] メニューで使用可能なオプションは、[割り当てられた全デバイスのステータス] パネル、[保留中ステータスのデバイス] パネル、または[失敗ステータスのデバイス] パネルを表示しているかどうかによって異なります。[成功ステータスのデバイス] パネルを表示している場合は、オプションは使用できません。

# 更新の削除

# 16

ダウンロードに失敗した更新、または展開しない更新をクリアできます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの「環境設定」をクリックし、「システム更新」タブをクリックします。
- 2 「使用可能なシステム更新」パネルで、1つ以上の更新のチェックボックスをオンにします。
- 3 「アクション」>「更新の削除」の順にクリックします。



更新がリストから削除され、ダウンロードされたすべてのファイルが削除されます。ただし、削除された更新が更新サーバでまだ使用可能な状態である場合、次回更新のチェックを行ったときに、可能なダウンロードとして再度リストに表示されます。



## 更新のコンテンツの確認

次の理由から、更新のコンテンツを確認できます。

- ◆ 更新をダウンロードするかどうかを判断する
- ◆ ダウンロードされた更新を展開するかどうかを判断する
- ◆ 更新によって何が展開されたのかを確認する
- ◆ 更新の履歴を確認する

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ◆ 173 ページのセクション 17.1 「リリース詳細ページの表示」
- ◆ 173 ページのセクション 17.2 「リリース詳細の更新」
- ◆ 174 ページのセクション 17.3 「展開履歴」

### 17.1 リリース詳細ページの表示

- 1 ZENworks® コントロールセンターで、左側のペインの「環境設定」をクリックし、次に、「システム更新」タブをクリックします。
- 2 「使用可能なシステム更新」パネルで、「更新名」カラムの更新名をクリックして、「リリース詳細」ページを表示します。



### 17.2 リリース詳細の更新

表 17-1 システム更新リリース詳細パネルの情報

カラム見出し	説明
更新名	Novell® 作成の更新の名前。
GUID の更新	更新の GUID。

カラム見出し	説明
リリース日付	Novell によって更新がリリースされた日付。
ダウンロード日付	更新のコンテンツ (更新のインストールに必要なすべてのファイルを含む) をダウンロードした日付。
優先度レベル	ZENworks インストールに対する更新コンテンツの相対的重要度。可能なエントリ:  <b>OPTIONAL:</b> ZENworks の通常動作には不要。 <b>MANDATORY:</b> 適用が必要な必須の更新。
説明	更新の目的とそのコンテンツに関する簡単な説明。
ターゲット	ターゲットデバイスが、プライマリサーバのみ、すべての管理対象デバイス、または ZENworks の役割を持つサーバのいずれかを示します。
製品バージョン	この更新における ZENworks のバージョン。
前提条件の更新	この更新を行うをために必要なすべての更新。
置き換え更新	現在の更新で置換されるすべての更新。
更新のメモ	更新に関係する重要事項に関する簡単な説明。
更新の Readme	時間ぎりぎりに追加された説明などの更新に関する情報。Readme を開くにはこのエントリをクリックします。
更新されたファイル	ZENworks ソフトウェアを更新するために適用される更新に含まれるすべてのファイルを一覧表示します。

## 17.3 展開履歴

この「展開履歴」パネルには、選択した更新に対する履歴の現在のスナップショットが表示されます。パネルの内容は自動的に更新されません。

詳細情報については、次を参照してください。

- ◆ [175 ページのセクション 17.3.1 「展開履歴の詳細について」](#)
- ◆ [175 ページのセクション 17.3.2 「展開履歴タスクの実行」](#)

## 17.3.1 展開履歴の詳細について

表 17-2 展開履歴の詳細パネルのカラム

カラム見出し	説明
ステージ	<p>使用されている展開方法を示します。利用可能なエントリは次のとおりです。</p> <p><b>stage_name:</b> 一覧表示されているステージのメンバーである管理デバイスに更新を展開されました。</p> <p><b>選択したデバイスステージ:</b> 管理ゾーンに含まれる、選択した管理対象デバイス (ステージのメンバーではない) に更新が展開されました。</p> <p><b>すべてのデバイスステージ:</b> 管理ゾーンに含まれる、すべての管理対象デバイス (ステージのメンバーではない) に更新が展開されました。</p>
ステータス	<p>[適用済み] または [ベースライン済み] など、正常に展開された更新のステータスを示します。</p> <p><b>進行中:</b> 現在、ステージのメンバーに更新を展開中です。</p> <p>個別のステータスに関する詳細については、<a href="#">177 ページの第 18 章「ステータスの更新」</a>を参照してください。</p>
保留中	<p>更新展開プロセスが保留になっているデバイスの数が表示されます。デバイスがステージのメンバーであり、1つのステージの完了後に自動的に他のステージが開始されない場合は、デバイスは保留状態になります。</p> <p><a href="#">[デバイス別のステータス]</a> ページを表示するには、番号をクリックします。すると、保留中の更新の展開があるデバイスが表示されます。</p>
成功	<p>更新展開プロセスが完了したデバイスの数が表示されます。</p> <p><a href="#">[デバイス別のステータス]</a> ページを表示するには番号をクリックします。このページには、更新を正常に受け取ったデバイスが表示されます。</p>
失敗	<p>更新展開プロセスが失敗したデバイスの数が表示されます。</p> <p><a href="#">[デバイス別のステータス]</a> ページを表示するには番号をクリックします。このページには、更新の受け取りに失敗したデバイスが表示されます。</p> <p>展開が失敗した場合、エラーを無視して続行するか、エラーが解決した場合は更新を再展開することができます。</p>

## 17.3.2 展開履歴タスクの実行

表 17-3 更新の展開履歴を評価するためのタスク

タスク	手順	追加の詳細
展開が保留中のデバイスを表示する	<ol style="list-style-type: none"><li>1. [展開ステージ] パネルで、[保留中] カラムの数字をクリックします。</li><li>2. [デバイス別のステータス] ページで、情報を確認します。</li></ol>	更新の展開が保留中のデバイスが表示されます。

タスク	手順	追加の詳細
展開が正常終了したデバイスを表示する	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. [展開ステージ] パネルで、[成功] カラムの数字をクリックします。</li> <li>2. [デバイス別のステータス] ページで、情報を確認します。</li> </ol>	選択した更新が正常に適用されたデバイスが表示されます。
展開が失敗したデバイスを確認する	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. [展開ステージ] パネルで、[失敗] カラムの数字をクリックします。</li> <li>2. [デバイス別のステータス] ページで、情報を確認します。</li> </ol>	<p>更新の展開が失敗したデバイスが表示されます。</p> <p>失敗したデバイスがあるときに、展開が正常に終了したと見なすためには、失敗したデバイスを無視するか、失敗したデバイスに更新を再展開する前にエラーを修正する必要があります。</p>



## ステータスの更新

ZENworks コントロールセンターのいくつかの [システム更新] パネルの [ステータス] カラムに、次の更新ステータスが表示されます。

**中断:** [アクション] > [展開のキャンセル] の順に選択するなどの操作を行ったため、更新の展開が停止しました。

**適用済み:** 管理対象デバイスに、更新が正常に適用されました。

**使用可能:** このステータスを持つ更新により、更新に関する情報がダウンロードされました。これは、[更新ID] カラムの更新名をクリックすることにより表示できます。

**再起動を待機しています:** 更新の適用後にユーザが手動で再起動するまで、デバイスは待機します。

**ベースライン済み:** 更新が /Devices フォルダに割り当てられています。つまり、管理ゾーンに追加されたすべての新規デバイスは、まだその更新レベルに達していなければ、自動的に更新されます。ベースライン済みの更新が完了と見なされても、無視された個々のデバイスが存在する可能性もあります。

**キャンセル済み:** [アクション] > [ダウンロードのキャンセル] を順に選択した後に、ダウンロードまたは展開は正常にキャンセルされたことが表示されます。

**キャンセル:** [アクション] > [ダウンロードのキャンセル] の順に選択した後に、一時的に表示されます。

**展開しています:** 更新は現在展開されています。展開の詳細と、展開中の更新に対して取れるアクションについては、[155 ページの第 15 章「更新の展開」](#)を参照してください。

**ダウンロード済み:** 更新のコンテンツがダウンロードされ、展開の用意ができました。展開の詳細および展開した更新に対して実行できるアクションについては、[155 ページの第 15 章「更新の展開」](#)を参照してください。

**ダウンロードしています:** ダウンロードプロセスの完了した割合を表示します。ダウンロードが完了すると、このステータスは [ダウンロードされました] に変わります。

**エラー:** 更新される 1 つ以上のデバイスでエラーが発生したため、ステージを完了できませんでした。エラーを無視して続行するか、続行する前にエラーを修正するかを選択できます。このステータスは、更新のダウンロードのエラーも示します。

**進行中:** 現在のステージはアクティブです。

**更新をインストールしています:** 更新は現在デバイスにインストールされています。

**準備完了:** 現在のステージを開始する準備ができました。

**再起動が進行中です:** デバイスは再起動中です。

**再起動プロセスがキャンセルされました:** 更新適用後のデバイスの再起動は、キャンセルされました。

**スケジュール済**：更新には定義されたスケジュールが存在します。システム更新の展開の作成ウィザードで展開を作成する場合は、[155 ページの第 15 章「更新の展開」](#)を参照してください。[アクション] > [展開の再スケジュール] オプションを使用して、更新のスケジュールを変更できます。

**ステージ完了**：ステージが完了しました。

**ステータス不明**：デバイスの更新のステータスが不明です。

**置き換え済み**：更新は、[使用可能なシステム更新] セクションにある別の更新で置き換えられたことを示します。このステータスは、この更新の展開プロセスの実行中で、保留中のデバイスがある場合にのみ表示されます。置き換え済み更新を削除できますが、展開はできません。

**更新は中断されました**：デバイスの更新がキャンセルされました。

**更新完了**：デバイスで更新のインストールが完了しました。

**更新が完了しましたがエラーがありました**：デバイスで更新のインストールが完了しましたが、エラーがありました。詳細については、更新ログを参照してください。

**更新は割り当てられました**：更新がデバイスに割り当てられました。

**ゾーンの更新前アクション**：サーバの更新が開始される前に、管理ゾーンのアクションが実行されます。

**ゾーンの更新後アクション**：サーバアップグレードが終了した後に、管理ゾーンのアクションが実行されます。

ZENworks はプライマリサーバ、サテライト、および管理対象デバイス間でコンテンツを複製し、配布します。これには次のコンテンツが含まれます。

- ◆ **バンドル** : デバイス上のアプリケーションまたはファイルの展開および管理に必要な、ファイル、構成設定、インストール指示など。ZENworks Configuration Management と ZENworks Patch Management で使用されます。
- ◆ **ポリシー** : 管理対象デバイスのハードウェアとソフトウェアの環境設定の範囲を制御するルール。ZENworks Configuration Management で使用されます。
- ◆ **パッチ** : 管理対象デバイス上の既存のソフトウェアの更新に必要な、ファイルと手順。ZENworks Patch Management で使用されます。
- ◆ **システム更新** : ZENworks システムコンポーネントのソフトウェア更新。ZENworks Configuration Management、ZENworks Asset Management、ZENworks Patch Management で使用されます。

詳細情報については、次を参照してください。

- ◆ 181 ページの第 19 章「コンテンツリポジトリ」
- ◆ 185 ページの第 20 章「コンテンツ複製」
- ◆ 191 ページの第 21 章「コンテンツ配信」



# コンテンツリポジトリ

それぞれの ZENworks® サーバには、コンテンツリポジトリがあります。コンテンツリポジトリには、サーバに複製されたすべてのバンドルおよびポリシーのコンテンツや、キャプチャされてサーバに保存されたすべてのイメージが保存されます。

単一のコンテンツリポジトリを、複数のプライマリサーバによって共用することはできません。各サーバは、自分のコンテンツリポジトリを使用する必要があります。

コンテンツリポジトリは自己保守を行います。バンドルまたはポリシーを追加すると、複製設定に基づいて、バンドルまたはポリシーのコンテンツが該当するコンテンツリポジトリに追加されます。バンドルまたはポリシーを削除したり、そのコンテンツをホストするサーバを変更したりすると、バンドルまたはポリシーのコンテンツも該当するサーバから削除されます。

必要に応じて、コンテンツリポジトリを異なる場所に移動できます。次のセクションではそれらの手順について説明します。

- 181 ページのセクション 19.1 「Windows サーバ上の [コンテンツリポジトリ] の場所の変更」
- 183 ページのセクション 19.2 「Linux サーバでの、コンテンツリポジトリの場所の変更」

## 19.1 Windows サーバ上の [コンテンツリポジトリ] の場所の変更

コンテンツリポジトリは、Windows サーバの次の場所にあります。

`installation_path\zenworks\work\content-repo`

コンテンツリポジトリとして異なるディスクドライブを指定できます。Windows では、ドライブを「マウント」することによりこれが行われます。マウントとは、マップされたドライブ文字を使用せずに、単にハードドライブのパーティションへの既存のパスを指すことです。

次のステップで、デフォルトのコンテンツリポジトリの場所を、新規コンテンツリポジトリとなるディスクドライブのパーティションにマウントします。

- 1 使用するディスクドライブがサーバに接続され、NTFS として適切にフォーマットされていることを確認してください。

このディスクドライブは、マシンの既存のディスクドライブまたは新しいディスクドライブを使用できます。ハードウェアは、サーバによって認識される必要があります。ただし、新規ディスクドライブをマシンに追加した場合は、ドライブ文字を指定しないでください。Windows では、ドライブ文字にはマウントできません。

2 空の content-repo ディレクトリが、新規コンテンツリポジトリの場所へのポインタとなるデフォルトの場所 (*installation\_path\zenworks\work\content-repo*) に存在する必要があるため、デフォルトの場所にコンテンツがないことを確認するために次のいずれかの操作を行ってください。

- ◆ 現在このディレクトリにあるコンテンツを保存する必要がある場合は、既存のディレクトリを名前変更して content-repo という新しいディレクトリを作成します。  
後から、この名前変更されたディレクトリのコンテンツを新しいコンテンツリポジトリの場所にコピーすることができます ( **ステップ 10** 参照 )。
- ◆ 既存の content-repo ディレクトリ内のコンテンツがどれも必要ない場合は、ディレクトリを削除して再作成します。
- ◆ 上記のパスに content-repo ディレクトリがない場合は、パスとディレクトリを作成します。

3 [スタート] をクリックして、[マイ コンピュータ] アイコンを右クリックしてから、[管理] を選択します。

[スタート] をクリックして、[実行] コマンドラインで *compmgmt.msc* を入力します。

4 左ペインの [ストレージ] セクションで [ディスク管理] を選択します。

**ステップ 1** で選択したディスクドライブが、右側のペインに表示されます。

5 (条件付き) ドライブ文字が、新規コンテンツリポジトリの場所として使用するパーティションに関連付けられている場合、次の操作を行います。

5a [コンピュータ管理] ダイアログボックスで、ドライブのパーティションを右クリックします。

5b [ドライブ文字およびパスの変更] を選択します。

5c ドライブ文字を選択します。

5d [削除] をクリックし、[はい] を選択して確定します。

6 コンテンツリポジトリとして使用するディスクドライブのパーティションで右クリックしてから、[ドライブ名とパスの変更] を選択します。

これは、**ステップ 8** の content-repo ディレクトリにマウントするディスクドライブです

7 [追加] をクリックします。

[ドライブ名またはパスの追加] ダイアログボックスが表示されます。

8 [次の空の NTFS フォルダでマウントする] を選択し、デフォルトの content-repo ディレクトリを参照して選択し、[次へ] をクリックします。

デフォルトのディレクトリは、*installation\_path\zenworks\work\content-repo* です。

これは、**ステップ 6** で選択したハードドライブのパーティションへのデフォルトのパスをマウントします。

必要に応じて、Windows のコンピュータ管理機能を使用して、ドライブを NTFS としてフォーマットします。

9 必要に応じてボタンをクリックし、終了したり、設定の変更を保存します。

10 (条件付き。 **ステップ 2** を参照) 名前変更された古い content-repo ディレクトリから、新しい content-repo ディレクトリにファイルをコピーします。

この時点から、すべての ZENworks 10 Configuration Management のデータは、選択したハードドライブのパーティションにある新規コンテンツリポジトリの場所に直接書き込まれます。

## 19.2 Linux サーバでの、コンテンツリポジトリの場所の変更

ローカルマウントまたは NFS、SMB、または CIFS などのネットワーク共有にデータを保存し、content-repo ディレクトリの共有をマウントしてデータにアクセスすることができます。

ローカルのデバイスのほかの場所にデータを保存する場合、シンボリックリンクをローカルのハードドライブに作成することもできます。ディレクトリをシンボリックにリンクする方法の詳細については、ln(1) のマニュアルページを参照してください。

次のセクションでは、Linux でのコンテンツリポジトリの場所の管理に関する情報について説明します。

- ◆ 183 ページのセクション 19.2.1 「共有のマウント」
- ◆ 183 ページのセクション 19.2.2 「共有のマウント解除」
- ◆ 184 ページのセクション 19.2.3 「永続的なマウントの作成」
- ◆ 184 ページのセクション 19.2.4 「新規リポジトリへの既存のコンテンツの移動」

### 19.2.1 共有のマウント

リモートマシンで共有を設定したら、次のコマンドを使用して、/var/opt/novell/zenworks/content-repo からそれをマウントできます。

```
mount -t cifs -o username=username //example.machine.com/share_name /var/opt/novell/zenworks/content-repo
```

コマンドでは、//example.machine.com/share-name はマウントする共有であり、/var/opt/novell/zenworks/content-repo はマウントポイントです。

別の共有上のコンテンツリポジトリの一部のデータからのみ保存する必要がある場合、それを行うことが可能です。たとえば、ZENworks イメージファイルを別の共有に保存する必要がある場合、次のコマンドを使用できます。

```
mount -t cifs -o username=username //example.machine.com/share_name /var/opt/novell/zenworks/content-repo/images
```

または、バンドルおよびポリシーのコンテンツを別の共有に保存するために、次のコマンドを使用できます。

```
mount -t cifs -o username=username //example.machine.com/share_name /var/opt/novell/zenworks/content-repo/content
```

### 19.2.2 共有のマウント解除

183 ページのセクション 19.2.1 「共有のマウント」で作成したこのマウントは一時的なものであり、オペレーティングシステムがシャットダウンまたは再起動したときに、共有がマウント解除されます。また、次のコマンドを使用して、共有を手動でマウント解除することもできます。

```
umount /var/opt/novell/zenworks/content-repo
```

### 19.2.3 永続的なマウントの作成

Linux サーバが起動するたびにマウントが発生するようにするには、`/etc/fstab` 設定ファイルに次のエントリを追加する必要があります。

```
//example.machine.com/share_name /var/opt/novell/zenworks/content-repo cifs  
credentials=path_to_credentials_file 0 0
```

コマンドに一覧表示されているアカウント情報ファイルには、ユーザ名およびパスワードが含まれています。詳細については、マニュアルページの `mount.cifs(8)` を参照してください。アカウント情報ファイルの形式は次のとおりです。

```
username=value
```

```
password=value
```

### 19.2.4 新規リポジトリへの既存のコンテンツの移動

新しい共用をマウントしてコンテンツリポジトリの場所を変更したら、古い場所にあるすべてのコンテンツは使用できなくなります。使用可能にするには、新規リポジトリに移動する必要があります。

所有権の問題については、[TID 7000673 \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) を参照してください。



ファイルを含むバンドルまたはポリシーを追加する場合は、ファイルが ZENworks® サーバにあるコンテンツリポジトリにアップロードされます。さらに、ZENworks データベースが更新され、バンドルまたはポリシーとそこに含まれるコンテンツが追加されます。

ZENworks サーバと配布ポイントは、まとめてコンテンツサーバと呼ばれますが、ZENworks データベースを定期的に読み込み、新しいバンドルとポリシーを見つけます。バンドルまたはポリシーのコンテンツを含まない各コンテンツサーバは、コンテンツがあるコンテンツサーバからコンテンツを取得します。

さまざまな設定によって、ゾーン内のコンテンツサーバの間でのコンテンツの複製方法を制御できます。次の操作を行えます。

- デフォルトで、コンテンツを新しいコンテンツサーバに複製するかどうかを指定します。
- 手動で、コンテンツサーバにコンテンツを含めるか、コンテンツを除外します。
- 複製の発生頻度をスケジュールします。
- コンテンツサーバからコンテンツサーバへの 1 秒当たりの複製量に制限を設定します。

これらのタスクの実行の詳細については、次のセクションを参照してください。

- 185 ページのセクション 20.1 「コンテンツを新しいコンテンツサーバに複製」
- 186 ページのセクション 20.2 「コンテンツのインクルードまたは除外」
- 188 ページのセクション 20.3 「複製スケジュールの変更」
- 189 ページのセクション 20.4 「コンテンツ複製のスロットリング率」

## 20.1 コンテンツを新しいコンテンツサーバに複製

デフォルトでは、新規コンテンツサーバ (ZENworks サーバまたは配布ポイント) がゾーンに追加され、そのコンテンツサーバにすべてのバンドルおよびポリシーのコンテンツが複製されます。ただし、特定のバンドルまたはコンテンツポリシーを複製しないことを選択できます。

たとえば、Microsoft® Office 用のバンドルがあるとします。これを特定のコンテンツサーバに含めていて、追加サーバには複製したくないとします。これが発生しないようにするには、新規コンテンツサーバへの複製を除外するよう、Microsoft Office のバンドルの複製設定を変更します。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、変更する複製設定のあるバンドルまたはポリシーの詳細ページに移動します。
- 2 [コンテンツサーバ] タブをクリックします。  
[複製設定] パネルには、新しいコンテンツサーバが含まれる (コンテンツを受信する) か除外される (コンテンツを受信しない) が表示されます。
- 3 [複製設定] パネルで、[編集] をクリックして、[新しいサーバを含める / 除外] ダイアログボックスを表示します。

4 [インクルード済み] を選択して、新しいサーバをコンテンツの複製に含めます。

または

[除外] を選択して、新しいサーバを除外します。

5 [OK] をクリックして、変更内容を保存します。

## 20.2 コンテンツのインクルードまたは除外

デフォルトの複製設定によって、コンテンツが自動的に新しいコンテンツサーバに複製されるかどうかが決まります(185 ページのセクション 20.1「コンテンツを新しいコンテンツサーバに複製」参照)。各バンドルまたはポリシーの設定を構成します。バンドルまたはポリシーのコンテンツを新しいコンテンツサーバに含める場合は、新しいサーバすべてに複製します。同じように、コンテンツを除外する場合は、新しいサーバのどれにも複製しません。

場合によっては、デフォルトの複製設定では、希望するコンテンツの複製範囲が与えられなかったり、範囲が変更されたりすることがあります。この場合は、手動で、特定のコンテンツサーバにコンテンツを含めたり除外したりすることができます。これには3通りの方法があります。

- 186 ページのセクション 20.2.1「複数のコンテンツサーバ上での1コンテンツの管理」
- 187 ページのセクション 20.2.2「1つのコンテンツサーバ上での複数コンテンツの管理」
- 187 ページのセクション 20.2.3「複数のコンテンツサーバ上での複数コンテンツの管理」

### 20.2.1 複数のコンテンツサーバ上での1コンテンツの管理

このセクションでは、1つのバンドルまたはポリシーのコンテンツの複数のコンテンツサーバへの複製を管理する手順を提供します。複数のバンドルまたはポリシーのコンテンツの1つのコンテンツサーバへの複製を管理する場合は、187 ページのセクション 20.2.2「1つのコンテンツサーバ上での複数コンテンツの管理」を参照してください。

1 ZENworks コントロールセンターで、変更するコンテンツ複製のあるバンドルまたはポリシーの詳細ページに移動します。

2 [コンテンツサーバ] タブをクリックします。

[複製状態] パネルに、ゾーン内のすべてのコンテンツサーバが表示されます。バンドルまたはポリシーのコンテンツがコンテンツサーバに含まれている場合、[インクルード済み] カラムに ✓ アイコンが表示されます。

3 コンテンツサーバの複製ステータスを変更するには、サーバの隣にあるチェックボックスをオンにし、[対象項目] をクリックしてサーバ上のコンテンツを含めるか、[除外] をクリックしてサーバからコンテンツを除外します。


コンテンツサーバをサーバに含めたり除外したりする際には、次のレプリケーションルールに注意してください。

- ZENworks サーバが1つ以上の配布ポイントの親サーバである場合、最初に配布ポイントからコンテンツを除外せずに、ZENworks サーバからコンテンツを除外することはできません。

- 管理ゾーンに ZENworks サーバが 1 つだけある場合、コンテンツを除外できません。
- 最初に配布ポイントの親 ZENworks サーバを含めずに、配布ポイントを含めることはできません。

## 20.2.2 1 つのコンテンツサーバ上での複数コンテンツの管理

このセクションでは、複数のバンドルまたはポリシーに対するコンテンツの 1 つのコンテンツサーバへの複製を管理する手順を説明します。1 つのバンドルまたはポリシーのコンテンツの複数のコンテンツサーバへの複製を管理する場合は、[186 ページのセクション 20.2.1 「複数のコンテンツサーバ上での 1 コンテンツの管理」](#)を参照してください。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、変更するコンテンツ複製のあるコンテンツサーバの詳細ページに移動します。
- 2 [コンテンツ] タブをクリックします。  
[複製設定] パネルには、ゾーン内のすべてのバンドルとポリシーが表示されます。バンドルまたはポリシーのコンテンツがコンテンツサーバに含まれている場合、[インクルード済み] カラムに  アイコンが表示されます。
- 3 バンドルまたはポリシーの複製ステータスを変更するには、バンドルまたはポリシーの隣にあるチェックボックスをオンにし、[対象項目] をクリックしてサーバ上のそのコンテンツを含めるか、[除外] をクリックしてサーバからそのコンテンツを除外します。

コンテンツをサーバに含めたり除外したりする際には、次のレプリケーションルールに注意してください。

- ZENworks サーバが 1 つ以上の配布ポイントの親サーバである場合、最初に配布ポイントからコンテンツを除外せずに、ZENworks サーバからコンテンツを除外することはできません。
- 管理ゾーンに ZENworks サーバが 1 つだけある場合、コンテンツを除外できません。
- 最初に配布ポイントの親 ZENworks サーバを含めずに、配布ポイントを含めることはできません。

## 20.2.3 複数のコンテンツサーバ上での複数コンテンツの管理

[コンテンツの指定] ウィザードを使用して、複数のコンテンツサーバ上の複数のコンテンツを含めたり除外したりできます。たとえば、4 つのコンテンツサーバのうち 2 つのみに含めるバンドルを 4 つ持つことができます。個別のバンドル ([186 ページのセクション 20.2.1 「複数のコンテンツサーバ上での 1 コンテンツの管理」](#) 参照) または個別のコンテンツサーバ ([187 ページのセクション 20.2.2 「1 つのコンテンツサーバ上での複数コンテンツの管理」](#) 参照) の複製を管理するのではなく、ウィザードを使用して、4 つのバンドルすべてとコンテンツサーバの複製を一度に管理できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックして、[サーバ] フォルダをクリックして開きます。
- 2 左のナビゲーションペインにある [サーバタスク] リストで、[コンテンツの指定] をクリックしてウィザードを起動します。
- 3 画面の指示に従って、ウィザードを完了します。

ウィザードページの詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックするか、次の表を参照してください。

[ウィザード] ページ	詳細
コンテンツ サーバ / 配布ポイントのインクルードまたは除外	<p>コンテンツを含めるコンテンツサーバを [インクルード済み] リストに移動します。コンテンツを除外するコンテンツサーバを [除外] リストに移動します。</p> <p>コンテンツサーバをサーバに含めたり除外したりする際には、次のレプリケーションルールに注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ZENworks サーバが1つ以上の配布ポイントの親サーバである場合、配布ポイントからコンテンツを除外せずに、ZENworks サーバからコンテンツを除外することはできません。</li> <li>◆ 管理ゾーンに ZENworks サーバが1つだけある場合、コンテンツを除外できません。</li> <li>◆ 配布ポイントの親 ZENworks サーバを含めずに、配布ポイントを含めることはできません。</li> </ul>
システムページに追加された新しいサーバ	今後追加されるコンテンツサーバにコンテンツを含めるか除外するかを選択します。
ページを更新するコンテンツを選択する	[使用できるコンテンツ] リストから [選択されたコンテンツ] リストに移動することで影響を受けるコンテンツを識別します。

次の場所から [コンテンツの指定] ウィザードを起動することもできます。

- ◆ バンドルページ
- ◆ ポリシーページ
- ◆ [設定] ページ > [サーバの階層] パネル

## 20.3 複製スケジュールの変更

デフォルトでは、ZENworks サーバは、新しいコンテンツまたは削除されたコンテンツを 5 分おきに確認します。バンドルおよびポリシーの追加または削除があまり頻繁ではない場合は、スケジュールの頻度を減らすこともできます。

ZENworks サーバは、最大 5 つのスレッドを使用して、複製サイクル中のリポジトリ内のコンテンツを更新します。現在の複製サイクルが次にスケジュールされたサイクルの前に完了しない場合は、スケジュールは無視され、複製は自動的に次のサイクルに進みます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[設定] をクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで、[コンテンツ] > [コンテンツの複製] の順にクリックします。
- 3 [プライマリサーバの繰り返しコンテンツ複製スケジュール] では、[日] フィールド、[時間] フィールド、および [分] フィールドを使用してスケジュールを設定します。  
フィールドを自由に組み合わせて使用できます。たとえば、30 時間ごとに指定するには、「30 時間」または「1 日と 6 時間」のどちらの入力も可能です。
- 4 [適用] または [OK] をクリックしてスケジュールを保存します。

## 20.4 コンテンツ複製のスロットリング率

コンテンツ複製のスロットリング率で、コンテンツを他のコンテンツサーバに複製するとき、またはコンテンツを管理対象デバイスに配布するときの ZENworks サーバが転送するコンテンツの最大量 (KB/ 秒) が決まります。

デフォルトでは、スロットリング率はありません。つまり、ZENworks サーバはすべての使用可能な帯域幅を使用します。スロットリング率を設定するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[設定] をクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで、[コンテンツ] > [コンテンツの複製] の順にクリックします。
- 3 [プライマリサーバの出力スロットル (KB/ 秒)] リストで、希望するスロットリング率を選択します。

この率は、ゾーン内の ZENworks サーバすべてに適用されます。個別にスロットリング率を設定することはできません。

- 4 [適用] または [OK] をクリックして変更を保存します。



コンテンツ配信または配布は、コンテンツサーバ (ZENworks® プライマリサーバまたはコンテンツ役割を持つサテライト) から、管理対象デバイスにバンドルおよびポリシーのコンテンツを転送するプロセスを示します。

最近接サーバのルールの設定、コンテンツをダウンロードできないときのための配信停止日の設定、およびダウンロードする新規コンテンツを管理対象デバイスが検索する頻度の設定など、管理対象デバイスへのコンテンツの提供方法を決定するために使用できるさまざまな設定があります。

これらのタスクの実行の詳細については、次のセクションを参照してください。

- 191 ページのセクション 21.1 「最近接サーバルールの設定」
- 204 ページのセクション 21.2 「配信停止スケジュール」
- 206 ページのセクション 21.3 「デバイスの更新スケジュールの設定」

## 21.1 最近接サーバルールの設定

複数のコンテンツサーバがある場合、最近接サーバのルールを使用すると、管理対象デバイスがどのコンテンツサーバを使用してコンテンツをダウンロードするのかを判断できます。最近接サーバルールによって、ネットワークアドレスに基づいてコンテンツサーバにデバイスをマップできます (DNS 名と IP アドレス)。

たとえば、123.45.67.1 から 123.45.67.100 の範囲内の IP アドレスに該当する ContentServer1 に、すべてのデバイスをマップするルールを作成できます。

次のセクションでは、最近接サーバルールの設定について説明し、その手順を示します。

- 191 ページのセクション 21.1.1 「最近接サーバルールの理解」
- 193 ページのセクション 21.1.2 「最近接サーバのデフォルトルールの設定」
- 198 ページのセクション 21.1.3 「最近接サーバルールの作成」

### 21.1.1 最近接サーバルールの理解

ZENworks 管理ゾーンに、1 つ以上のサーバ (プライマリサーバおよびサテライト) が含まれている場合、デバイスがどのサーバに接続されるのかを指定する必要があります。[最近接サーバルール] パネルでは、コレクション、コンテンツ、および環境設定の機能についてデバイスがコンタクトするサーバを決定するルールを作成できます。

最近接サーバのルールに関して、サテライトとして設定されているデバイスはサーバと見なされ、[コレクションサーバ] リストおよび [コンテンツサーバ] リストの選択肢として一覧表示されます。

次のセクションでは、最密サーバルールを作成する前に理解しておく必要のある情報を提供します。

- 192 ページの「コレクションサーバ、コンテンツサーバ、および設定サーバ」

- ◆ 192 ページの「コレクションサーバ、コンテンツサーバ、および設定サーバへのデバイスのマッピング」
- ◆ 192 ページの「有効なルール」

## コレクションサーバ、コンテンツサーバ、および設定サーバ

デバイスがサーバにコンタクトする理由として、3つの基本的な機能があります。

- ◆ **コレクション**：インベントリおよびメッセージログの情報は各デバイスから収集され、ZENworks コントロールセンターで表示したり、レポートに出力することができます。各 ZENworks プライマリサーバおよび任意のサテライトはコレクションサーバとして動作できます。
- ◆ **コンテンツ**：管理対象デバイスにコンテンツが提供されます。各 ZENworks プライマリサーバおよび任意のサテライトはコンテンツサーバとして動作できます。
- ◆ **設定**：環境設定および登録情報はデバイスに適用されます。ZENworks プライマリサーバのみが設定サーバとして機能できます。

デバイスは、3つすべての機能に対して1つのサーバにコンタクトするか、各機能に対して別々のサーバにコンタクトすることができます。

## コレクションサーバ、コンテンツサーバ、および設定サーバへのデバイスのマッピング

最密サーバルールにより、[コレクションサーバ] リスト、[コンテンツサーバ] リスト、および [設定サーバ] リストという3つのリストに対する特定のネットワークアドレスにデバイスがマップされます。

たとえば、123.45.678.1 ~ 123.45.678.100 の IP アドレス範囲に属するデバイス用のルールを作成する場合を考えます。この場合、IP アドレス範囲を指定し、次の3つのリストを作成します。

コレクションサーバリスト	コンテンツサーバリスト	設定サーバリスト
サーバ 1	サーバ 3	サーバ 1
サーバ 2	サーバ 1	サーバ 3
サーバ 3		サーバ 2

これら3つのリストに基づいて、範囲内の IP アドレスを持つデバイスは、コレクション用にサーバ 1、コンテンツ用にサーバ 3、そして環境設定用にサーバ 1 にコンタクトします。利用できないサーバがあれば、デバイスはリストにある次のサーバにコンタクトします。

## 有効なルール

最密サーバルールは次の3つのレベルで定義できます。

- ◆ **管理ゾーン**：ルールはすべてのデバイスフォルダおよびデバイスに継承されます。
- ◆ **デバイスフォルダ**：ルールはフォルダまたはそのサブフォルダ内に含まれるすべてのデバイスに継承されます。それらは、管理ゾーンの設定を上書きします。
- ◆ **デバイス**：ルールは、それが設定されたデバイスだけに適用されます。管理ゾーンレベルとフォルダレベルの設定を上書きします。



各デバイスには、適用される最密サーバルールが 1 つのみ存在します。デバイスの有効なルールは次のようにして決定されます。

1. **デバイスの設定**：デバイスに設定されたすべてのルールを評価します。デバイスがルールの基準を満たす場合、そのルールがデバイスの有効なルールになります。
2. **フォルダ設定**：デバイスのルールが適用されていない場合、デバイスの親フォルダに設定されたすべてのルールを評価します。デバイスがルールの基準を満たす場合、そのルールがデバイスの有効なルールになります。そうでない場合、1 つ上の階層の次のフォルダに設定されているルールを評価します。
3. **管理ゾーン**：フォルダルールが適用されていない場合、管理ゾーンで設定されたすべてのルールを評価します。デバイスがルールの基準を満たす場合、そのルールがデバイスの有効なルールになります。基準を満たさない場合は、デバイスに**デフォルトルール**を適用します。
4. **デフォルトルール**：デバイス、フォルダ、または管理ゾーンのルールが適用されていない場合、デバイスにデフォルトのルールを適用します。このルールは、デバイスにコンタクトさせたい順番にコンテンツサーバを並べただけのリストです。

### 21.1.2 最近接サーバのデフォルトルールの設定

最近接サーバのルールが定義されていないか、または適用されていない場合、最近接サーバのデフォルトルールを使用すると、最近接のコレクション、コンテンツ、および設定サーバを判断するためにデバイスによって使用されるルールを定義できます。このルールは、デバイスにコンタクトさせたい順番にサーバを並べただけのリストです。リストにサーバを追加したり、リストからサーバを削除したりすることはできません。

最近接サーバのデフォルトルールに関して、サテライトとなるデバイスはサーバと見なされ、[コレクションサーバ] および [コンテンツサーバ] リストの選択肢として一覧表示されます。

デフォルトでは、すべての ZENworks サーバは、コレクション、コンテンツ、および設定サーバとして機能し、コレクションサーバ、コンテンツサーバ、および設定サーバのリストに表示されます。さらに、コンテンツ役割またはイメージング役割として定義されたデバイスは、[コンテンツサーバ] リストにも表示され、コレクション役割として定義されたデバイスは、[コレクションサーバ] リストにも表示されます。

最近接サーバのデフォルトルールを設定するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[設定] タブをクリックしてから、[インフラ管理]（[管理ゾーンの設定] パネル）> [最近接サーバのデフォルトのルール] の順にクリックします。

[環境設定](#) > 最近接サーバのデフォルトルール

[コンテンツサーバ] セクションには、すべての ZENworks プライマリサーバおよびゾーン内のコンテンツ役割を持つサテライトが含まれます。リストからサーバを追加または削除できません。ただし、リスト内のサーバをデバイスにコンタクトさせたい順序に並べ替えることはできます。

- 2 [コンテンツサーバ] セクションに一覧表示されているサーバを設定するには、次のいずれかを行います。

タスク	手順	追加の詳細
既存グループのコピー	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 役割セクションのリストの 1 つの中で、[グループ] &gt; [既存グループのコピー] の順にクリックします。</li><li>2. ドロップダウンリストからグループを選択してから、[OK] をクリックします。</li><li>3. [適用] をクリックして、変更を有効にします。</li></ol>	<p>既存グループをコピーする場合、グループ名およびいくつかのメンバーは保持されます。</p> <p>コピー先のグループに保持されたメンバーはすでに、コピーされたグループの新しいセクションの役割と一致する割り当て済みの役割を持っているはずです。</p>

タスク	手順	追加の詳細
空のグループを作成	<ol style="list-style-type: none"> <li>役割セクションのリストの1つの中で、[グループ] &gt; [空のグループを作成] の順にクリックします。  [グループ] &gt; [グループに追加] オプションの順にクリックすることにより、後でメンバーを追加できます。</li> <li>[適用] をクリックして、変更を有効にします。</li> </ol>	作成されたグループは、グループが作成された役割セクションでのみ表示されます。
選択したサーバからグループを作成	<ol style="list-style-type: none"> <li>役割セクションのリストの1つの中で、1つまたは複数のサーバのチェックボックスをオンにします。</li> <li>[グループ] &gt; [選択からグループを作成] の順にクリックします。</li> <li>グループ名を指定して、[OK] をクリックします。</li> <li>[適用] をクリックして、変更を有効にします。</li> </ol>	<p>サーバは複数のグループおよび L4 スイッチ定義のメンバーとなることができます。</p> <p>グループおよび L4 スイッチ定義のメンバーであるサーバは、もはやサーバリストの最上位レベルにはリストされません。</p>
グループの削除	<ol style="list-style-type: none"> <li>役割セクションのリストの1つの中で、1つまたは複数のグループのチェックボックスをオンにします。</li> <li>[グループ] &gt; [グループの削除] の順にクリックし、次に [OK] をクリックします。</li> <li>[適用] をクリックして、変更を有効にします。</li> </ol>	グループを削除する場合、役割セクションのリストに以前追加されたサーバが保持されます。これは、役割セクションのリスト内の別のグループまたは L4 スイッチ定義のメンバーではないメンバーを、リストの最上位レベルに移動することにより、自動的に行われます。

タスク	手順	追加の詳細
サーバをグループに追加	<ol style="list-style-type: none"> <li>役割セクションのリストの1つの中で、1つまたは複数のサーバのチェックボックスをオンにします。</li> <li>[グループ] &gt; [グループに追加] の順にクリックします。</li> <li>次のいずれかの操作を行います。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 選択済みのサーバを新しいグループに追加するには、[新規作成] を選択し、グループ名を指定して、[OK] をクリックします。</li> <li>◆ 選択済みのサーバを既存のグループに追加するには、[既存を選択] フィールドのドロップダウンリストからグループを選択し、[OK] をクリックします。</li> </ul> </li> <li>[適用] をクリックして、変更を有効にします。</li> </ol>	<p>サーバは複数のグループおよび L4 スイッチ定義のメンバーとなることができます。</p> <p>グループのメンバーであるサーバは、もはやサーバリストの最上位レベルにはリストされません。</p>
サーバをグループから削除	<ol style="list-style-type: none"> <li>役割セクションのリストの1つの中で、グループの下にリストされている1つまたは複数のサーバのチェックボックスをオンにします。</li> <li>[グループ] &gt; [グループから削除] の順にクリックし、次に [OK] をクリックします。</li> <li>[適用] をクリックして、変更を有効にします。</li> </ol>	<p>前に役割セクションのリストに追加されたサーバを保持するため、サーバが他のグループまたはそのリスト内の L4 スイッチ定義のメンバーに入っていない場合、削除済みのサーバはリストの最上位レベルに戻されます。</p>
空の L4 スイッチ定義を作成	<ol style="list-style-type: none"> <li>役割セクションのリストの1つの中で、[L4 スイッチ] &gt; [空の L4 スイッチ定義を作成] の順にクリックします。</li> <li>L4 スイッチ定義名を指定し、[OK] をクリックします。</li> </ol> <hr/> <p><b>重要:</b> L4 スイッチ定義名は、DNS 名または L4 スイッチ自身の IP アドレスのいずれかである必要があります。</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> <li>[適用] をクリックして、変更を有効にします。</li> </ol>	<p>L4 スイッチ定義は、どこで作成されたものであっても、3つのリストにそれぞれ表示されます。</p>

タスク	手順	追加の詳細
L4 スイッチ定義を作成選択したサーバから	<ol style="list-style-type: none"> <li>役割セクションのリストの1つの中で、1つまたは複数のサーバのチェックボックスをオンにします。</li> <li>[L4 スイッチ] &gt; [選択から L4 スイッチ定義を作成] の順にクリックします。</li> <li>L4 スイッチ定義名を指定し、[OK] をクリックします。</li> </ol> <p><b>重要:</b> L4 スイッチ定義名は、DNS 名または L4 スイッチ自身の IP アドレスのいずれかである必要があります。</p>	<p>作成された L4 スイッチ定義は、どこで作成されたものであっても各リストに表示され、各 L4 スイッチ定義のインスタンスの下には選択済みのサーバがリストされます。</p> <p>サーバは複数のグループおよび L4 スイッチ定義のメンバーとなることができます。</p> <p>L4 スイッチの定義またはグループのメンバーであるサーバは、もはやサーバリストの最上位レベルにはリストされません。</p>
L4 スイッチ定義を削除	<ol style="list-style-type: none"> <li>役割セクションのリストの1つの中で、[L4 スイッチ] &gt; [L4 スイッチ定義を削除] の順にクリックして、[OK] をクリックします。</li> <li>[適用] をクリックして、変更を有効にします。</li> </ol>	<p>1つの役割セクションから L4 スイッチ定義を削除すると、他の2つの役割セクションからも削除されます。</p> <p>L4 スイッチ定義を削除すると、役割セクションのリストに以前追加されたサーバが保持されます。これは、役割セクションのリスト内の別のグループまたは L4 スイッチ定義のメンバーではないメンバーを、リストの最上位レベルに移動することにより、自動的に行われます。</p>

タスク	手順	追加の詳細
L4 スイッチ定義にサーバを追加	<ol style="list-style-type: none"> <li>役割セクションのリストの1つの中で、1つまたは複数のサーバのチェックボックスをオンにします。</li> <li>[L4 スイッチ] &gt; [L4 スイッチ定義に追加] の順にクリックします。</li> <li>次のいずれかの操作を行います。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 選択済みのサーバを新しい L4 スイッチ定義に追加するには、[新規作成] を選択して L4 スイッチ定義名を指定し、[OK] をクリックします。</li> </ul> </li> </ol>	<p>サーバは複数のグループおよび L4 スイッチ定義のメンバーとなることができます。</p> <p>L4 スイッチ定義のメンバーであるサーバは、もはやサーバリストの最上位レベルにはリストされません。</p>
L4 スイッチ定義からサーバを削除	<ol style="list-style-type: none"> <li>役割セクションのリストの1つの中で、L4 スイッチ定義の下にリストされている1つまたは複数のサーバのチェックボックスをオンにします。</li> <li>[L4 スイッチ] &gt; [L4 スイッチ定義から削除] の順にクリックし、次に [OK] をクリックします。</li> <li>[適用] をクリックして、変更を有効にします。</li> </ol>	<p>前に役割セクションのリストに追加されたサーバを保持するため、サーバが他のグループまたはそのリスト内の L4 スイッチ定義のメンバーに入っていない場合、削除済みのサーバはリストの最上位レベルに戻されます。</p>

- [上へ移動] ボタンおよび [下へ移動] ボタンを使用して、コンテンツのサーバに接続するためにデバイスが使用する順序を決定します。
- サーバの並べ替えが終了したら、[OK] または [適用] をクリックし、変更を保存します。

### 21.1.3 最近接サーバルールを作成

- ZENworks コントロールセンターを起動します。

2 次のいずれかの操作を行います。

- 管理ゾーン向けの最近接サーバルールを作成するには、[設定] タブをクリックして、[インフラ管理] ( [管理ゾーンの設定] パネル ) > [最近接サーバルール] の順にクリックします。
- デバイスフォルダの最近接サーバのルールを作成するには、フォルダの詳細ページを開き、次に [設定] > [インフラ管理] ( [設定] パネル ) > [最近接サーバのルール] の順にクリックします。
- デバイスの最近接サーバのルールを作成するには、デバイスの詳細ページを開き、次に [設定] > [インフラ管理] ( [設定] パネル ) > [最近接サーバのルール] の順にクリックします。

環境設定 > 最近接サーバルール

最近接サーバルール

最近接サーバルールを使用して、管理対象のデバイスが最近接のサーバを決定する方法の設定の構成します。

追加  
編集  
上へ移動  
下へ移動  
削除

OK 適用 リセット キャンセル

3 デバイスまたはデバイスフォルダ向けに最密サーバルールを作成する場合、[上書きの設定] をクリックし、[最密サーバルール] パネルを有効にします。

[上書き] オプション ( 非表示 ) は、デバイスおよびデバイスフォルダレベルでのみ表示されます。

4 [追加] をクリックして、[ルール構築] ダイアログボックスを表示します。

ルール構築

ルール名: \*

☐ 最近接サーバのデフォルトルールを除外

ルールロジック: \*

フィルタの追加 フィルタセットの追加 フィルタの挿入 削除

次の項目を使用してフィルタを結合: および

☐ 選択

コレクションサーバ:

上へ移動 下へ移動 追加 削除 グループ L4スイッチ

名前

コンテンツサーバ:

上へ移動 下へ移動 追加 削除 グループ L4スイッチ

名前

設定サーバ:

上へ移動 下へ移動 追加 削除 グループ L4スイッチ

名前

\* アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

OK キャンセル

5 [ルール名] フィールドに、ルールの名前を指定します。

ZENworks コントロールセンターの最近接サーバのルールの一覧に名前が表示されます。この一覧にアクセスするには、左パネルにある [環境設定] をクリックし、[環境設定] タブをクリックし、[管理ゾーンの設定] パネルをクリックして開き、[インフラ管理] セクションをクリックして開き、最後に [最近接サーバルール] をクリックします。現在のレベルに対して定義されているすべてのルールがここに表示されます。

- 6 この最近接サーバのルールに一覧表示されているサーバに最近接サーバのデフォルトルールを追加しない場合、[最近接サーバのデフォルトルールを除外] チェックボックスをオンにします。

最近接サーバルール機能では、最初にルールで指定されているサーバを使用し、指定されているサーバが管理対象デバイスに対して利用可能でない場合は最近接サーバのデフォルトのルールにリストされている他のサーバに進みます。したがって、ルールに指定されているサーバからのみコンテンツを取得する場合は、このチェックボックスをオンにして他のすべてのサーバを除外します。

- 7 [ルールロジック] フィールドを使用して、ルールの式を作成します。

式は基準オプション、演算子、および値から構成されます。たとえば、次のようになります。

DNS Name Filter equal to \*.novell.com

DNS Name Filter は基準オプションで、equal to が演算子で、\*.novell.com が値です。上の例では、最近接サーバルールは、DNS 名が .novell.com で終わるデバイスにのみ適用されることになります。

必要に応じて、NOT を使用して式の論理否定を実行できます。たとえば、次のようになります。

NOT DNS Name Filter equal to \*.novell.com

上の例では、最近接サーバルールは、DNS 名が .novell.com で終わらないデバイスにのみ適用されることになります。

ルールには複数の式を使用できます。たとえば、次のようになります。

DNS Name Filter equal to provo.novell.com or IP Address equal to 123.45.678.12/24

次の条件を使用できます。

オプション	説明
DNS Name Filter	<p>フィルタ基準を満たす DNS 名に一致します。正確なフィルタを指定するか、クエスチョンマーク (?) やアスタリスク (*) をワイルドカードとして使用して、DNS 名の中の 1 つ以上の文字と照合します。? は、1 文字と一致し、* は 1 文字以上と一致します。例：</p> <p>provo.novell.com:novell.com のトップレベルドメインの provo サブドメインに含まれるすべてのデバイスに一致します。</p> <p>*.novell.com:novell.com のトップドメインの中のすべてのデバイス (サブドメインの中のデバイスもすべて) に一致します。</p> <p>provo?.novell.com:novell.com のトップドメインの provo1 および provo2 のサブドメインにあるすべてのデバイスに一致します。provo12 のサブドメインにあるデバイスには一致しません。</p>



オプション	説明
IP Address /n	<p>指定した CIDR (Classless Inter-Domain Routing) ブロックに含まれる IP アドレスに一致します。CIDR を使用すると、IP アドレスのドット付きの 10 進数の部分が、8 ビットずつの 4 つのバイトから構成される 32 ビットの 2 進数に変換されます。スラッシュの後に続く数字 (/n) は、プレフィックスの長さを表わし、アドレスの左側から数えた共有初期ビットの数です。/n の数は 0 ~ 32 のいずれかで、8、16、24、および 32 が通常使われる数です。例：</p> <p>123.45.678.12/16:123.45 で始まるすべての IP アドレスに一致します。</p> <p>123.45.678.12/24:123.45.678 で始まるすべての IP アドレスに一致します。</p>

- 8 [コンテンツサーバ] セクションに一覧表示されているサーバを設定するには、次のいずれかを行います。

タスク	手順	追加の詳細
サーバリストにメンバを追加	<ol style="list-style-type: none"> <li>役割セクションのリストのいずれか 1 つで、[追加] をクリックします。</li> <li>1 つまたは複数のサーバを参照して選択します。 プライマリサーバおよびサテライトを追加できます。</li> <li>[OK] をクリックし、選択したサーバをリストに追加します。</li> </ol>	<p>選択したサーバは、[追加] をクリックしたリストにのみ追加されます。各リストごとに異なるサーバを持つことができます。</p> <p>割り当て済みの役割を持つプライマリサーバおよびサテライトは、<b>最近接サーバのデフォルトルール</b>のリストに自動的に含まれます。</p>
サーバの並べ替え	<ol style="list-style-type: none"> <li>ロールセクションのリストの 1 つの中で、サーバのうちのいずれか 1 つのチェックボックスをオンにします。</li> <li>必要に応じて [上へ移動] または [下へ移動] をクリックし、リスト内の順序を変更します。</li> <li>必要に応じて、一覧表示されている他のサーバに対してこの作業を繰り返します。</li> </ol>	<p>コレクション、コンテンツ、および設定の目的のためサーバにコンタクトするのにデバイスが使用する順序を決定します。</p> <p>リスト内のサーバの順序は別々に並べることができます。他の 2 つのリストよりも、リスト内のより高い位置に異なるサーバを配置することにより、コレクション、コンテンツ、および設定の作業負荷を分散することができます。例：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ コレクションサーバ： Server1、Server2、Server3</li> <li>◆ コンテンツサーバ： Server2、Server3、Server1</li> <li>◆ 設定サーバ： Server3、Server1、Server2</li> </ul>

タスク	手順	追加の詳細
既存グループのコピー	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 役割セクションのリストの1つの中で、[グループ] &gt; [既存グループのコピー] の順にクリックします。</li> <li>2. ドロップダウンリストからグループを選択してから、[OK] をクリックします。</li> <li>3. [適用] をクリックして、変更を有効にします。</li> </ol>	<p>既存グループをコピーする場合、グループ名およびいくつかのメンバーは保持されます。</p> <p>コピー先のグループに保持されたメンバーはすでに、コピーされたグループの新しいセクションの役割と一致する割り当て済みの役割を持っているはずです。</p>
空のグループを作成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 役割セクションのリストの1つの中で、[グループ] &gt; [空のグループを作成] の順にクリックします。 [グループ] &gt; [グループに追加] オプションの順にクリックすることにより、後でメンバーを追加できます。</li> <li>2. [適用] をクリックして、変更を有効にします。</li> </ol>	<p>作成されたグループは、グループが作成された役割セクションでのみ表示されます。</p>
選択したサーバからグループを作成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 役割セクションのリストの1つの中で、1つまたは複数のサーバのチェックボックスをオンにします。</li> <li>2. [グループ] &gt; [選択からグループを作成] の順にクリックします。</li> <li>3. グループ名を指定して、[OK] をクリックします。</li> <li>4. [適用] をクリックして、変更を有効にします。</li> </ol>	<p>サーバは複数のグループおよび L4 スイッチ定義のメンバーとなることができます。</p> <p>グループおよび L4 スイッチ定義のメンバーであるサーバは、もはやサーバリストの最上位レベルにはリストされません。</p>
グループの削除	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 役割セクションのリストの1つの中で、1つまたは複数のグループのチェックボックスをオンにします。</li> <li>2. [グループ] &gt; [グループの削除] の順にクリックし、次に [OK] をクリックします。</li> <li>3. [適用] をクリックして、変更を有効にします。</li> </ol>	<p>グループを削除する場合、役割セクションのリストに以前追加されたサーバが保持されます。これは、役割セクションのリスト内の別のグループまたは L4 スイッチ定義のメンバーではないメンバーを、リストの最上位レベルに移動することにより、自動的に行われます。</p>

タスク	手順	追加の詳細
サーバをグループに追加	<ol style="list-style-type: none"> <li>役割セクションのリストの1つの中で、1つまたは複数のサーバのチェックボックスをオンにします。</li> <li>[グループ] &gt; [グループに追加] の順にクリックします。</li> <li>次のいずれかの操作を行います。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 選択済みのサーバを新しいグループに追加するには、[新規作成] を選択し、グループ名を指定して、[OK] をクリックします。</li> <li>◆ 選択済みのサーバを既存のグループに追加するには、[既存を選択] フィールドのドロップダウンリストからグループを選択し、[OK] をクリックします。</li> </ul> </li> <li>[適用] をクリックして、変更を有効にします。</li> </ol>	<p>サーバは複数のグループおよび L4 スイッチ定義のメンバーとなることができます。</p> <p>グループのメンバーであるサーバは、もはやサーバリストの最上位レベルにはリストされません。</p>
サーバをグループから削除	<ol style="list-style-type: none"> <li>役割セクションのリストの1つの中で、グループの下にリストされている1つまたは複数のサーバのチェックボックスをオンにします。</li> <li>[グループ] &gt; [グループから削除] の順にクリックし、次に [OK] をクリックします。</li> <li>[適用] をクリックして、変更を有効にします。</li> </ol>	<p>前に役割セクションのリストに追加されたサーバを保持するため、サーバが他のグループまたはそのリスト内の L4 スイッチ定義のメンバーに入っていない場合、削除済みのサーバはリストの最上位レベルに戻されます。</p>
L4 スイッチ定義を作成		<p>このオプションは、[ルール構築] ダイアログボックスでは使用されません。</p>

タスク	手順	追加の詳細
L4 スイッチの削除	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 役割セクションのリストの 1 つの中で、[L4 スイッチ] &gt; [L4 スイッチを削除] の順にクリックして、[OK] をクリックします。</li> <li>2. [適用] をクリックして、変更を有効にします。</li> </ol>	<p>1 つの役割セクションから L4 スイッチ定義を削除すると、ダイアログボックスの他の 2 つの役割セクションからも削除されます。</p> <p>[ルール構築] ダイアログボックスから L4 スイッチ定義を削除しても、[最近接サーバのデフォルトルール] ページからは定義が削除されません。</p> <p>L4 スイッチ定義を削除すると、役割セクションのリストに以前追加されたサーバが保持されます。これは、役割セクションのリスト内の別のグループまたは L4 スイッチ定義のメンバーではないメンバーを、リストの最上位レベルに移動することにより、自動的に行われます。</p>
L4 スイッチの追加	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 役割セクションのリストの 1 つの中で、[L4 スイッチ L4] &gt; [L4 スイッチの追加] の順にクリックし、ドロップダウンリストから既存のスイッチを選択して、[OK] をクリックします。</li> <li>2. [適用] をクリックして、変更を有効にします。</li> </ol>	<p>[最近接サーバデフォルトルール] ページで表示された既存の L4 スイッチ定義から選択できます。</p>

- 9 [上へ移動] ボタンおよび [下へ移動] ボタンを使用して、コンテンツのサーバに接続するためにデバイスが使用する順序を決定します。

ZENworks サーバが一覧表示される順序は、デバイスがそれらに接続する順序です。最初の ZENworks サーバが利用できない場合は、2 番目のサーバにコンタクトする、といった仕組みになります。

- 10 終了したら、[OK] をクリックして [最近接サーバルール] リストにルールを追加します。

- 11 追加のルールを作成するには、**ステップ 2** から **ステップ 10** を繰り返します。

- 12 必要に応じて、ルールの作成終了後、[上へ移動] および [下へ移動] ボタンを使用して、[最近接サーバルール] リスト内のルールの順番を変更します。

ルールはリストの中の順番通りに評価されます。評価したい順序でルールを配置する必要があります。

## 21.2 配信停止スケジュール

管理対象デバイスにコンテンツをダウンロードさせたくない時間がある場合は、コンテンツ停止スケジュールを作成できます。スケジュールは次のレベルで定義できます。

- ◆ **管理ゾーン**：スケジュールはすべてのデバイスに継承されます。
- ◆ **デバイスフォルダ**：スケジュールはフォルダまたはそのサブフォルダ内に含まれるすべてのデバイスによって継承されます。このスケジュールは、管理ゾーンの停止スケジュールを上書きします。

- ◆ **デバイス** : スケジュールは、それが定義されたデバイスのみ適用されます。管理ゾーンレベルおよびフォルダレベルで設定されているすべてのスケジュールを上書きします。

停止スケジュールには、1つまたは複数の時間帯を含めることができます。

コンテンツ停止スケジュールを作成するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターを起動します。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
  - ◆ 管理ゾーン向けのコンテンツ停止スケジュールを作成するには、[設定] タブをクリックしてから、[コンテンツ] ( [管理ゾーンの設定] パネル ) > [コンテンツ停止スケジュール] の順にクリックします。
  - ◆ デバイスフォルダのコンテンツ停止スケジュールを作成するには、フォルダの詳細ページを開いて、[設定] > [コンテンツ] ( [設定] パネル内 ) > [コンテンツ停止スケジュール] の順にクリックします。
  - ◆ デバイス向けのコンテンツ停止スケジュールを作成するには、デバイスの詳細ページを開いて、[設定] > [コンテンツ] ( [設定] パネル ) > [コンテンツ停止スケジュール] の順にクリックします。

デバイス > ワークステーション > aexxus > コンテンツ停止スケジュール

コンテンツ停止スケジュール

管理対象のデバイスにコンテンツが提供されるのを防ぐ停止スケジュールの設定。

現在: /デバイス/ワークステーション/aexxus

次の設定に遷す: (未設定)

コンテンツ停止スケジュール			
追加 削除			
<input type="checkbox"/> 開始日	開始時刻	終了日	終了時刻
使用できる項目がありません。			

OK 適用 リセット キャンセル

- 3 デバイスまたはデバイスフォルダ向けにコンテンツ停止スケジュールを作成する場合、[上書きの設定] をクリックし、[コンテンツ停止スケジュール] パネルを有効にします。
- 4 [追加] をクリックして、[停止時間帯の指定] ダイアログボックスを表示してから、次のフィールドを入力します。
 

**開始日** : スケジュールに含めたい最初の日付を選択します。

**終了日** : スケジュールに含めたい最後の日付を選択します。開始日から終了日までのそれぞれの日付に、( 開始時間および終了時間で指定した ) 停止期間が発生します。

**開始時間** : 停止時間帯の開始時刻を選択します。

**終了時間** : 停止時間帯の終了時刻を選択します。停止時間を 24 時間にしたい場合は、開始と同じ時刻を選択します。
- 5 [OK] をクリックし、停止期間を保存します。
- 6 停止時間帯を追加するには、**ステップ 4** を繰り返します。
- 7 完了したら、[OK] または [適用] をクリックして、スケジュールを保存します。

## 21.3 デバイスの更新スケジュールの設定

デバイスの起動時に、デバイス上の ZENworks Adaptive Agent は、情報を更新するために ZENworks サーバに接続します。起動後に情報が変更された場合、変更がデバイスに表示される前に、Adaptive Agent で情報を再度更新する必要があります。

情報をリフレッシュした結果、ダウンロードすべき新しいコンテンツが存在することが判明した場合は、Adaptive Agent がコンテンツサーバにコンタクトしてダウンロードプロセスを開始します。

デバイス更新スケジュールを使用して、デバイスが ZENworks サーバにコンタクトしてバンドル、ポリシー、設定、および登録情報を更新する頻度を決定できます。スケジュールは次のレベルで定義できます。

- ◆ **管理ゾーン**：スケジュールはすべてのデバイスに継承されます。
- ◆ **デバイスフォルダ**：スケジュールはフォルダまたはそのサブフォルダ内に含まれるすべてのデバイスによって継承されます。このスケジュールは、管理ゾーンのスケジュールを上書きします。
- ◆ **デバイス**：スケジュールは、それが定義されたデバイスのみに適用されます。管理ゾーンレベルおよびフォルダレベルで設定されているすべてのスケジュールを上書きします。

デバイス更新スケジュールを作成するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターを起動します。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
  - ◆ 管理ゾーン向けのデバイス更新スケジュールを作成するには、[設定] タブをクリックして、[デバイス] ( [管理ゾーンの設定] パネル) > [デバイス更新停止スケジュール] の順にクリックします。
  - ◆ デバイスフォルダ向けのデバイスの更新スケジュールを作成するには、フォルダの詳細ページを開き、次に [設定] > [デバイス管理] ( [設定] パネル) > [デバイスの更新スケジュール] の順にクリックします。
  - ◆ デバイス向けのデバイスの更新スケジュールを作成するには、デバイスの詳細ページを開き、次に、[設定] > [コンテンツ] ( [設定] パネル) > [デバイスの更新スケジュール] の順にクリックします。

**デバイスの更新スケジュール**

このデバイスの更新間隔を設定します。

現在 /デバイス/ワークステーション/brvmwarexxx  
次の設定に戻す: システム

---

**デバイスの更新スケジュール**

☐ **手動の更新**  
デバイスは、ユーザが手動でするまで更新されません

☒ **スケジュールされた更新:**

**全更新スケジュール**  
すべての更新: ポリシー、バンドル、設定、登録など

0 日 12 時間 0 分

☒ **任意の待機時間**  
最小: 300 秒 最大: 360 秒

**部分更新スケジュール**  
ポリシー、設定、および登録の更新のみの実行

0 日 2 時間 0 分

OK 適用 リセット キャンセル

- 3 デバイスまたはデバイスフォルダのデバイス更新スケジュールを作成する場合は、**[上書きの設定]** をクリックして **[デバイスの更新スケジュール]** パネルをアクティブ化し、次のスケジュールから選択します。

**手動のリフレッシュ:** デバイスのユーザが手動でリフレッシュを開始した場合のみにデバイスがリフレッシュされるようにするには、**[手動のリフレッシュ]** を選択し、**[適用]** をクリックします。デスクトップの通知領域 (システムトレイ) にある **[ZENworks]** アイコンをクリックすると、ユーザは更新を開始できます。

**スケジュールされたリフレッシュ:** リフレッシュスケジュールを作成する場合、**[スケジュールされたリフレッシュ]** を選択します。完全または部分的な更新スケジュールを使用できます。

- 全リフレッシュスケジュール:** ZENworks サーバから、バンドル、ポリシー、設定、および登録情報を含むそのすべての情報をデバイスが更新する頻度を定義します。次のフィールドを使用して、全更新スケジュールを作成します。
  - 日、時間、分:** リフレッシュ間の時間の長さを指定します。たとえば、リフレッシュ間隔を 8.5 時間に設定する場合、0 日、8 時間、30 分と指定します。デフォルトは 12 時間です。
  - 任意の待機時間:** 同じ更新スケジュールを持つ複数のデバイスが同時に更新を開始しないようにするには、このオプションを選択します。たとえば、同じ更新スケジュールを持つ 1000 個のデバイスがある場合は、ZENworks サーバに過度な負担をかけてしまう可能性があります。このオプションを選択すると、デバイスはリフレッシュを開始する前にランダムに生成された時間の長さだけ待機します。**[最小]** および **[最大]** フィールドを使用して、ランダムに生成される時間の範囲 (秒数) を指定します。
  - 部分リフレッシュスケジュール:** ZENworks サーバから、デバイスがそのポリシー、環境設定、および登録情報を更新する頻度を定義します。バンドル情報は更新されません。

**[日]**、**[時間]**、および **[分]** のフィールドで、リフレッシュ間の時間を指定します。たとえば、リフレッシュ間隔を 3 時間に設定する場合、0 日、3 時間、0 分と指定します。デフォルトは 2 時間です。

**[スケジュールされた更新]** 設定は、全更新と部分更新の両方に適用できます。

リフレッシュの間隔はデバイスのリフレッシュが完了するまではリセットされません。たとえば、リフレッシュ間隔を 8 時間に設定したと仮定します。デバイスの最初のリフレッシュが午後 6 時に行われ、完了するまでに 13 秒かかります。2 度目のリフレッシュは午前 2 時 13 秒 (リフレッシュが午後 6 時 13 秒に完了してから 8 時間後) に行われます。2 度目のリフレッシュが完了するまでに 15 秒かかる場合、3 番目のリフレッシュは午前 10 時 28 秒に行われます。

- 4 完了したら、[OK] または [適用] をクリックして、スケジュールを保存します。



# ユーザ



次のセクションでは、ZENworks® 管理ゾーンと信頼されたユーザソース (Microsoft Active Directory\* または Novell® eDirectory™) との接続、およびユーザが ZENworks 管理ゾーンへログインする方法の管理について説明します。

- ◆ 211 ページの第 22 章「ユーザソース」
- ◆ 219 ページの第 23 章「ユーザの認証」



Novell® ZENworks® 10 Configuration Management では、コンテンツをユーザおよびデバイスに割り当てることができます。デバイスが実行されており、ネットワークに接続されている場合、デバイス割り当て済みコンテンツが使用可能です。ユーザ割り当て済みコンテンツは、ユーザが管理ゾーンにログインしている場合のみ使用可能です。たとえば、ユーザにバンドルを割り当てた場合、ユーザがログインした後にのみバンドルを使用できます。

デバイスとは異なり、ユーザは管理ゾーンでは定義されません。代わりに、信頼されたユーザソースとして使用する LDAP ディレクトリに接続します。必要に応じて、複数のディレクトリに接続できます。

---

**注：**ユーザソースを定義すると、自動的に ZENworks Adaptive Agent からプロンプトが表示され、デバイスユーザに ZENworks 管理ゾーンへのログインを促します。ユーザにこのプロンプトを表示させたくない場合は、ZENworks Adaptive Agent レベルで、ユーザ管理モジュールをアンインストールまたは使用不可にすることができます。詳細については、[100 ページのセクション 9.3 「展開後の Adaptive Agent の設定」](#)を参照してください。

---

次のセクションでは、ユーザソースを定義する方法について説明します。

- [211 ページのセクション 22.1 「前提条件」](#)
- [212 ページのセクション 22.2 「ユーザソースの追加」](#)
- [215 ページのセクション 22.3 「ユーザソースの削除」](#)
- [215 ページのセクション 22.4 「ユーザソースからのコンテナの追加」](#)
- [215 ページのセクション 22.5 「LDAP 負荷分散および耐障害性の提供」](#)

## 22.1 前提条件

- **最低のディレクトリバージョン：**Novell eDirectory™ 8.7.3 または Microsoft Active Directory\*(Windows 2000 SP4 の場合)
- **最低の LDAP バージョン：**LDAPv3
- **最低のユーザアカウントの権限：**読み込み権。

Active Directory では、基本的なユーザアカウントを使用できます。これにより、ディレクトリへの十分な読み込みアクセスが提供されます。

eDirectory の場合、CN、O、OU、C、DC、GUID、WM:NAME DNS、およびオブジェクトクラスの属性に対する継承可能な読み込み権が必要です。ディレクトリのルートコンテキストまたは ZENworks のルートコンテキストとして指定した別のコンテキストで、権限を割り当てることができます。

ユーザソースディレクトリにアクセスするために使用されるユーザ名およびパスワードは、ZENworks プライマリサーバの iaRealm.xml ファイルに、クリアテキスト形式で保存されます。セキュリティが心配な場合は、ディレクトリへのアクセスを制限してください。

- **DNS 名の解決** : Active Directory を使用する場合、ZENworks サーバ (特に、ZENworks サーバ上の DNS クライアント) は、ユーザソースとして定義された各 Active Directory ドメインの DNS 名を解決することができる必要があります。そうでない場合、Active Directory ドメインのユーザは、ZENworks 管理ゾーンにログインできません。

## 22.2 ユーザソースの追加

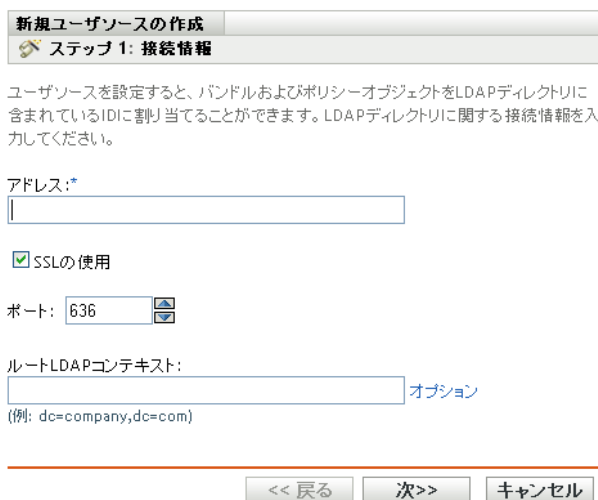
- 1 ZENworks コントロールセンターで、**[設定]** タブをクリックします。



The image shows the 'Settings' (設定) tab in the ZENworks Control Center. The top navigation bar includes 'Environment Settings' (環境設定), 'Registration' (登録), 'System Information' (システム情報), 'Asset Inventory' (アセットインベントリ), 'Asset Management' (アセット管理), and 'System Update' (システム更新). The main content area has several expandable sections: 'Management Zone Settings' (管理ゾーンの設定), 'Server Layers' (サーバの階層), 'Administrators' (管理者), 'Roles' (役割), 'User Sources' (ユーザソース), and 'Licenses' (ライセンス). The 'User Sources' section is expanded, showing a table with columns 'New' (新規) and 'Delete' (削除). Below the table, there is a checkbox for 'Status Name' (ステータス 名前) and a message 'No items can be used.' (使用できる項目がありません。). The 'Licenses' section is also visible at the bottom.

- 2 **[ユーザソース]** パネルで、**[新規作成]** をクリックして新規ユーザソースの作成ウィザードを起動します。

[ユーザ](#) > 新規ユーザソースの作成



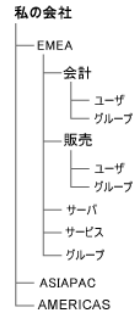
The image shows the 'New User Source Wizard' (新規ユーザソースの作成) with 'Step 1: Connection Information' (ステップ 1: 接続情報) selected. The wizard explains that setting a user source allows associating LDAP objects with IDs in the directory. It asks the user to enter connection information for the LDAP directory. The form includes a text field for 'Address' (アドレス)\*, a checkbox for 'Use SSL' (SSLの使用) which is checked, a text field for 'Port' (ポート) with the value 636, and a text field for 'LDAP Context' (ルートLDAPコンテキスト) with a placeholder '(例: dc=company,dc=com)' and a link to 'Options' (オプション). At the bottom, there are three buttons: '<< Back' (<< 戻る), 'Next >>' (次>>), and 'Cancel' (キャンセル).

- 3 説明に従って、ユーザソースへの接続を作成します。

各ウィザードページの詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックするか、次の表を参照してください。

[ウィザード] ページ	詳細
[接続情報] ページ	<p>LDAP ディレクトリに接続するときに必要な情報を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>◆ <b>アドレス</b> : LDAP のディレクトリが存在するサーバの IP アドレスまたは DNS ホスト名を指定します。</li><li>◆ <b>SSL の使用</b> : デフォルトでは、このオプションは有効です。LDAP が SSL (Secure Socket Layer) プロトコルを使用していない場合は、オプションを無効にします。</li><li>◆ <b>ポート</b> : このフィールドは、[SSL の使用] オプションが有効か無効かによって、SSL ポート (636) または非 SSL ポート (389) にデフォルト設定されます。LDAP サーバが異なるポートでリスンしている場合は、そのポート番号を選択します。</li><li>◆ <b>ルートコンテキスト</b> : ルートコンテキストは、ユーザコンテナの参照を開始できるポイントをディレクトリ内に構築します。ルートコンテキストを指定することによって、ディレクトリ内の参照を少なくすることができますが、これを使用するかどうかはオプションです。ルートコンテキストを指定しない場合、ディレクトリのルートコンテナがエントリポイントとなります。</li></ul>
[アカウント情報] ページ	<p>ディレクトリにアクセスするためのユーザ名およびパスワードを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>◆ <b>ユーザ名</b> : ディレクトリに対して読み取り専用のアクセス権を持つユーザのユーザ名を指定します。ユーザには読み取り専用のアクセス権以上の権限を与えることができますが、読み取り専用のアクセス権が必要かつ推奨される権限です。</li></ul> <p>Novell eDirectory アクセスには、標準の LDAP 表記法を使用します。例 :</p> <p><code>cn=admin_read_only,ou=users,o=mycompany</code></p> <p>Microsoft Active Directory には、標準のドメイン表記法を使用します。例 :</p> <p><code>AdminReadOnly@mycompany.com</code></p> <ul style="list-style-type: none"><li>◆ <b>パスワード</b> : [ユーザ名] フィールドで指定したユーザのパスワードを指定します。</li></ul>

ユーザソースとして LDAP ディレクトリに接続すると、ディレクトリ内にある公開するコンテナを定義できます。定義するユーザコンテナの数は、ディレクトリをどれぐらい公開したいかに応じて決まります。次に例を示します。




Accounting コンテナおよび Sales コンテナ内のすべてのユーザに ZENworks コンテンツを受信させたいとします。それに加えて、グループに基づいてコンテンツを配布するために、会計、販売、およびグループコンテナに含まれるユーザグループにアクセスしたいと仮定します。ユーザおよびグループへのアクセスを取得するには、2つのオプションがあります。

Accounting、Sales、および Gtoupd のコンテナのみをエクスポートしたいとします。それらのユーザおよびグループへのアクセスを取得するには、次の2つのオプションがあります。

- ◆ MyCompany/EMEA をユーザコンテナとして追加できます。そうすることにより、サーバおよびサービスコンテナを含む、EMEA の下にあるすべてのコンテナが ZENworks コントロールセンターで表示されます。EMEA コンテナにあるユーザおよびユーザグループのみ表示されますが (サーバおよびサービスは表示されません)、構造は公開されます。
- ◆ MyCompany/EMEA/Accounting を最初のユーザコンテナ、MyCompany/EMEA/Sales を2番目のユーザコンテナ、MyCompany/EMEA/Groups を3番目のユーザコンテナとして追加できます。これらのコンテナのみ、ZENworks コントロールセンターの MyCompany ディレクトリリファレンスの下のフォルダとして表示されます。

ユーザがいるコンテナを追加するには、次の手順に従います。

1. [追加] をクリックして、[ユーザコンテナの追加] ダイアログボックスを表示します。
2. [コンテキスト] フィールドで  をクリックして、目的のコンテナを参照して選択します。
3. [表示名] フィールドで、ZENworks コントロールセンターでユーザコンテナを表示するのに使用される名前を指定します。
4. [OK] をクリックしてコンテナをリストに追加します。

## 22.3 ユーザソースの削除

ソースを削除すると、ソースのユーザに対するすべての割り当ておよびメッセージが削除されます。ソースの削除は元に戻すことはできません。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [ユーザソース] パネルでユーザソースの隣にあるチェックボックスをオンにし、[削除] をクリックします。
- 3 [OK] をクリックして、削除を確認します。

## 22.4 ユーザソースからのコンテナの追加

管理ゾーンでユーザソースを定義した後は、そのソースからいつでもコンテナを追加できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [ユーザソース] パネルで、[ユーザソース] をクリックします。

設定 > TREE67

TREE67

設定

一般

名前: TREE67

ディレクトリタイプ: eDirectory

通信ステータス:

接続の詳細 (編集) アドレス: 192.168.5.67  
ポート: 636  
SSLの使用: はい

ユーザ名とパスワード: (編集) cn=admin,o=context

ルートコンテキスト: (編集)

説明: (編集)

ユーザコンテナ

追加 置換 削除 リネーム

<input type="checkbox"/>	コンテキスト	名前
<input type="checkbox"/>	/TREE67/context	context

- 3 [ユーザコンテナ] パネルで [追加] をクリックして [ユーザコンテナの追加] ダイアログボックスを表示し、次のフィールドに入力します。

**コンテキスト:** 追加するコンテナを参照して選択するには、 をクリックします。

**表示名:** ZENworks コントロールセンターに表示されるときに、ユーザコンテナ用に使用する名前を指定します。他のユーザコンテナの名前と同じ名前は使用できません。

- 4 [OK] をクリックし、ユーザコンテナを追加します。  
コンテナ、およびそのユーザおよびユーザグループは、[ユーザ] ページで使用可能です。

## 22.5 LDAP 負荷分散および耐障害性の提供

ユーザソースのアクセス用に複数の LDAP サーバがある場合は、各 LDAP サーバがわかるように、ZENworks サーバを設定できます。これによって、負荷分散と耐障害性が提供されます。

たとえば、複数の ZENworks サーバがある場合、各 ZENworks サーバが異なる LDAP サーバを介してユーザソースにアクセスするように設定できます。これによって、LDAP サーバ間のワークロードの配布がより均等になります。

同様に、ZENworks サーバごとに、ユーザソースに接続するための複数の LDAP ソースのリストを表示できます。LDAP サーバの 1 つが使用できなくなると、ZENworks サーバは、別の LDAP サーバを使用します。

ZENworks サーバに追加の LDAP サーバを定義するには、次の手順に従います。

- 1 alt-servers.properties.sample ファイルを alt-servers.properties と呼ばれる新しいファイルにコピーします。このファイルは、ZENworks サーバ上の次のディレクトリにあります。
  - ◆ c:\program files\novell\zenworks\conf\datamodel\authsource(Windows の場合)
  - ◆ /etc/opt/novell/zenworks/datamodel/authsource(Linux の場合)
- 2 alt-servers.properties ファイルを、ユーザソース名と、このファイルのアクセスに使用できる LDAP サーバのリストを含むように変更します。

ファイルには、次に示すように、エントリのフォーマットに関する指示が含まれています。

```
# Sample alt-servers.properties file.
#
# The alt-servers.properties file allows you to configure how this server
will connect to a particular user source.
# When connecting to a LDAP user source, ZENworks will try to connect to
the servers in the order listed in this file.
# This allows for fail-over to other LDAP servers and for load
distribution, if different ZENworks Primary Servers are
# configured with the server addresses in a different order.
#
# * The [user-source-name] must exactly match how the user source name
appears on the configuration page in ZCC.
# * You must specify the LDAP port along with each server address.
# * SSL is configured for the entire user source, not for each individual
server. You must specify either the
#   SSL port or the clear text port for all servers, depending on how the
user source is configured in ZCC.
# * If the server-list.properties file contains an entry for a user source,
ZENworks will not try to connect to the
#   server address configured in ZCC. It only tries the addresses listed in
the properties file.
# * If you create or modify the server-list.properties file, you will need
to restart the Novell ZENworks Server and
#   Novell ZENworks Loader services for it to take effect.
# * Performance will be impacted if one or more of the servers at the top
of the list are down, as ZENworks attempts to
#   connect to the servers in order. This is particularly true of the CASA
authentication token service, which is
#   contacted when a user tries to log in to ZENworks on a workstation.
#
# Format:
#
# [user-source-name]=\
#   [host1]:[port] \
#   [host2]:[port] \
#   [host3]:[port]
#
```



```
# Example:
#
MY_EDIR_TREE=\
  edir1.novell.com:636 \
  edir2.novell.com:636 \
  edir3.novell.com:636 \
  edir4.novell.com:636
```

- 3** ZENworks サーバを再起動します。
- 4** 追加の LDAP サーバを定義する ZENworks サーバごとに、**ステップ 1** から **ステップ 3** までを繰り返します。



次のセクションでは、ZENworks® 管理ゾーンに対するユーザの認証の詳細について説明します。

- 219 ページのセクション 23.1 「ユーザソースの認証」
- 219 ページのセクション 23.2 「アカウント情報のストレージ」
- 220 ページのセクション 23.3 「ZENworks ユーザ認証の無効化」
- 220 ページのセクション 23.4 「ユーザ認証のトラブルシューティング」

## 23.1 ユーザソースの認証

デフォルトでは、管理ゾーンのユーザソースとして定義された LDAP ディレクトリ (Novell® eDirectory™ または Microsoft\* Active Directory) にユーザがログインしたとき、ユーザは管理ゾーンに対して自動的に認証されます。ユーザの LDAP ディレクトリ (またはユーザの LDAP ディレクトリコンテキスト) が ZENworks でユーザソースとして定義されている場合、ZENworks に対するユーザ認証が発生します。

ZENworks Adaptive Agent は Windows ログインまたは Novell ログインクライアントと統合し、ユーザにシングルログインを提供します。ユーザが Windows または Novell クライアントで eDirectory または Active Directory のアカウント情報を入力した場合、ユーザのアカウント情報が ZENworks ユーザソースのものと一致すると、管理ゾーンにログインします。そうでない場合、別の [ZENworks ログイン] 画面で、正しいアカウント情報の入力が必要と求められます。

たとえば、あるユーザが 2 つのディレクトリツリー Tree1 と Tree2 でアカウントを持っているとします。Tree1 は、管理ゾーンのユーザソースとして定義されていますが、Tree2 は定義されていません。そのユーザが Tree1 にログインすると、自動的に管理ゾーンにログインします。一方、そのユーザが Tree2 にログインした場合は、Adaptive Agent のログイン画面が表示され、Tree1 のアカウント情報を入力するよう求められます。

---

注：生体認証デバイスまたはスマートカードを使用する認証はサポートされていません。

---

## 23.2 アカウント情報のストレージ

ZENworks は、シングルサインオンを有効にするために、Novell CASA (Common Authentication Services Adapter) を使用します。ZENworks Adaptive Agent が、Microsoft クライアント、Novell クライアント、または [ZENworks ログイン] 画面で入力されたアカウント情報を使用して、管理ゾーンに対してユーザを認証するとき、ユーザのデバイスの安全な CASA ボールトにユーザ名およびパスワードが保存されます。

ZENworks Adaptive Agent とともに、CASA がインストールされます。これには、ストレージボールト内の資格情報の管理に使用されるインタフェースとして、CASA マネージャが含まれます。CASA マネージャは、[スタート] > [プログラムファイル] > [Novell CASA] メニューから利用できます。一般的に、ユーザまたはデバイスのユーザは CASA マネージャを使用する必要がありません。ユーザのアカウント情報は、LDAP ディレクトリで変更された場合、ユーザの次回ログイン時に CASA ストレージボールト内で

更新されます。CASA マネージャを実行すると、GTK# ライブラリをインストールするよう要求されます。(CASA マネージャの実行に必要な) ライブラリのインストールを選択した場合は、インストール元である Novell Web サイトが表示されます。

管理対象デバイスから CASA を削除しないでください。CASA マネージャをユーザに表示しないようにする場合は、[スタート] > [プログラムファイル] メニューから [Novell CASA] フォルダを削除できます。

## 23.3 ZENworks ユーザ認証の無効化

デフォルトでは、ユーザソースが定義されている場合、Microsoft クライアントまたは Novell クライアントを使用してユーザがログインしようとするたびに、ZENworks 管理ゾーン、ZENworks Adaptive Agent は、ゾーンのユーザを認証しようとします。

必要に応じて、そのゾーンへのユーザ認証を無効にできます。たとえば、何人かのユーザはデバイス割り当て済みコンテンツのみを受信するようにできます。こうすることにより、それらのユーザはそのゾーンにログインできないため、オーバーヘッドがかかりません。

ゾーンに対するユーザ認証を無効にするには、次の手順に従います。

- 1 ユーザのデバイス上のレジストリで次のキーを見つけます。

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Novell\ZENworks\ZenLgn

- 2 (条件付き) ログインを無効にする場合、次の DWORD 値を追加します。

値の名前: DisablePassiveModeLogin

値のデータ: 0 以外のすべての値 (1、2、3、100 など)

ログインが無効になっている場合、Microsoft クライアントまたは Novell クライアントを介してユーザがログインしたときに、管理ゾーンに対する認証は行われません。

- 3 (条件付き) Microsoft クライアントまたは Novell クライアントからのログインが失敗した場合に表示される ZENworks のログインプロンプトを無効にするには、次の DWORD 値を追加します。

値の名前: DisablePassiveModeLoginPrompt

値のデータ: 0 以外のすべての値 (1、2、3、100 など)

通常 Adaptive Agent は、Microsoft クライアントまたは Novell クライアントで入力されたアカウント情報を使用して、ゾーンに対してユーザを認証しようとします。ログインが失敗した場合、ユーザが別のアカウント情報を使用して認証を受けることができるように、ZENworks のログインプロンプトが表示されます。この値の設定により、ZENworks のログインプロンプトが無効になります。

## 23.4 ユーザ認証のトラブルシューティング

このセクションでは、いくつかのユーザ認証関係の問題について説明します。認証時に発生する可能性のある他の問題をトラブルシューティングしたい場合は、[Novell サポートナレッジベース \(http://support.novell.com/search/kb\\_index.jsp\)](http://support.novell.com/search/kb_index.jsp) にある TID 3273870 を参照してください。

- 221 ページの「ZENworks のログイン画面に、不正なユーザ名が表示される」
- 221 ページの「ZENworks サーバにログインできない」

- ◆ 221 ページの「同時に多数のクライアントがログインしている場合、ログインに失敗する可能性がある」
- ◆ 222 ページの「Windows 2003、Windows XP、Windows Vista のデバイス上でデバッグログを有効にするには？」
- ◆ 222 ページの「CASA デバッグログを有効にするには？」
- ◆ 222 ページの「ZENworks サーバ上のユーザソースへのログインが遅い」
- ◆ 223 ページの「Windows Vista デバイスへのログイン時に、ZENworks サーバにログインできない」

## ZENworks のログイン画面に、不正なユーザ名が表示される

説明： デフォルトでは、[ZENworks ログイン] 画面の [ユーザ名] オプションにより、Windows のローカルユーザ名が表示されます。

考えられる原因： ユーザのフルネームのみを変更した場合 ( [マイコンピュータ] > [管理] > [システムツール] > [ローカルユーザとグループ] > [氏名] )、[ZENworks ログイン] 画面には、新しいフルネームではなく古いユーザ名が表示されます。

アクション： ローカルユーザのアカウントの詳細を変更するには、ユーザ名およびユーザのフルネームの両方を変更する必要があります。

- 1 デスクトップで、[スタート] メニュー > [ファイル名を指定して実行] の順にクリックします。
- 2 [ファイル名を指定して実行] ウィンドウで、「control userpasswords2」と入力し、[OK] をクリックします。
- 3 ユーザ名をダブルクリックし、ユーザの [ユーザ名] と [フルネーム] の両方を編集します。
- 4 [OK] をクリックします。

## ZENworks サーバにログインできない

考えられる原因： OES 2.0 サーバにインストールされた eDirectory のアカウントを持つユーザが、OES 2.0 以外の ZENworks サーバにログインしようとしています。

アクション： OES 2.0 以外の ZENworks サーバにログインするには、ユーザが LUM (Linux User Management) ユーザである必要があります。LUM ユーザの詳細については、[Novell Linux User Management Technology Guide \(http://www.novell.com/documentation/oes2/acc\\_linux\\_svcs\\_lx/index.html?page=documentation/oes2/acc\\_linux\\_svcs\\_lx/data/fbdecbed.html\)](http://www.novell.com/documentation/oes2/acc_linux_svcs_lx/index.html?page=documentation/oes2/acc_linux_svcs_lx/data/fbdecbed.html) を参照してください。

## 同時に多数のクライアントがログインしている場合、ログインに失敗する可能性がある

説明： サーバがサポートできる同時クライアント接続数の最大値は、設定されている Connector acceptCount に依存します。同時に行われるクライアント要求の数が、Connector acceptCount の値を超えると、サーバが接続を許可できないため、クライアントの接続要求が失敗する可能性があります。

アクション： サーバがサポートできるクライアントの接続要求数を増やします。

### Windows サーバの場合：

- 1 管理者としてログインします。
- 2 `ZENworks_Install_path\share\ats\catalinabase\conf\server.xml` ファイルを開きます。
- 3 [ポート 2645 上の SSL Coyote HTTP//1.1 コネクタの定義] セクションで、Connector `acceptCount` の値を目的の値に変更します。値は 300 が最適です。
- 4 認証トークンサービスを再起動します。
  - 4a デスクトップで、[スタート] > [ファイル名を指定して実行] の順にクリックします。
  - 4b [ファイル名を指定して実行] ウィンドウで、「`service.msc`」と入力し、[OK] をクリックします。
  - 4c `CasaAuthTokenSvc` を再起動します。

### Linux サーバの場合：

- 1 root としてログインします。
- 2 `/srv/www/casaats/conf/server.xml` ファイルを開きます。
- 3 [ポート 2645 上の SSL Coyote HTTP//1.1 コネクタの定義] セクションで、Connector `acceptCount` の値を目的の値に変更します。300 という値が最適です。
- 4 認証トークンサービスを再起動します。
  - 4a サーバのプロンプトで、`/etc/init.d/` に移動します。
  - 4b `casa_atstd restart` コマンドを実行します。

### Windows 2003、Windows XP、Windows Vista のデバイス上でデバッグログを有効にするには？

アクション： ログを有効にするには、Novell サポートナレッジベース ([http://support.novell.com/search/kb\\_index.jsp](http://support.novell.com/search/kb_index.jsp)) の TID 3418069 を参照してください。

### CASA デバッグログを有効にするには？

アクション： ログを有効にするには、Novell サポートナレッジベース ([http://support.novell.com/search/kb\\_index.jsp](http://support.novell.com/search/kb_index.jsp)) の TID 3418069 を参照してください。

### ZENworks サーバ上のユーザソースへのログインが遅い

説明： 管理対象デバイスから ZENworks サーバのユーザソースへのログインに時間がかかることがあります。これはログインプロセスがデバイス更新を同期するからです。

アクション： ログインプロセスを高速化するには、次の手順を実行してログインプロセスを変更し、デバイスの更新を非同期に行うようにします。

- 1 レジストリエディタを開きます。

- 2 HKEY\_LOCAL\_MACHINE\Software\Novell\ZENworks に移動します。
- 3 ZENLoginUserRefreshAsync という名前の文字列を作成し、値に「TRUE」を設定します。
- 4 再度デバイスにログインします。

---

**重要：**デバイスを非同期に更新するようにログインプロセスを変更した場合、最新のポリシーがすぐに利用できない場合があります。この設定では、ポリシーの精度よりもログインパフォーマンスが優先されます。

---

### Windows Vista デバイスへのログイン時に、ZENworks サーバにログインできない

説明： Novell SecureLogin がインストールされ、Active Directory がユーザソースとして設定されている Windows Vista\* デバイスにログインする場合は、ZENworks サーバに自動的にログインされません。

アクション： 次を実行します。

- 1 レジストリエディタを開きます。
- 2 HKLM\Software\Protocom\SecureLogin\ に移動します。
- 3 ForceHKLMandNoDPAPI と呼ばれる DWORD を作成し、値を 1 に設定します。
- 4 デバイスを再起動します。





# ZENworks 製品のライセンス登録

## VI

このセクションには、ZENworks 製品の評価、アクティブ化、および非アクティブ化に関する情報が含まれています。

- ◆ 227 ページの第 24 章「ZENworks 製品のライセンス登録」



ZENworks® 10 ファミリ製品には、次の機能が含まれています。

- ◆ ZENworks 10 Configuration Management
- ◆ ZENworks 10 Asset Management
- ◆ ZENworks 10 Patch Management
- ◆ Asset Inventory for UNIX/Linux

デフォルトでは、すべての製品がインストールされます。これにより、ライセンスキーを提供して製品をアクティブ化したり、またはライセンスをまだ購入していない製品を評価できます。ライセンス登録した製品または評価製品を、使用しなくなったら、非アクティブ化することもできます。次のセクションでは、製品ライセンスの管理について説明します。

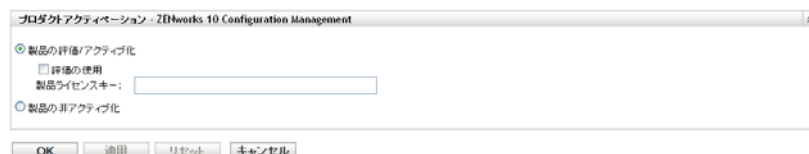
- ◆ 227 ページのセクション 24.1 「製品の評価」
- ◆ 228 ページのセクション 24.2 「製品の有効期限の延長」
- ◆ 228 ページのセクション 24.3 「製品のアクティブ化」
- ◆ 228 ページのセクション 24.4 「製品の非アクティブ化」
- ◆ 229 ページのセクション 24.5 「変更可能なライセンス状態」
- ◆ 230 ページのセクション 24.6 「事前定義されたレポートの表示」

ライセンス情報を表示するために実行可能な他の操作については、『*ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス*』の「**ライセンスコマンド**」を参照してください。

パッチ管理サブスクリプションライセンスに関する詳細は、『*ZENworks 10 Configuration Management 管理クイックスタート*』の「**パッチ管理ライセンスの更新**」を参照してください。

## 24.1 製品の評価

- 1 ZENworks コントロールセンターにログインします。
- 2 [環境設定] タブをクリックします。
- 3 [製品ライセンス] パネルで、評価する製品をクリックします。
- 4 [製品の起動] パネルで、[製品の評価/アクティブ化] オプションを選択します。

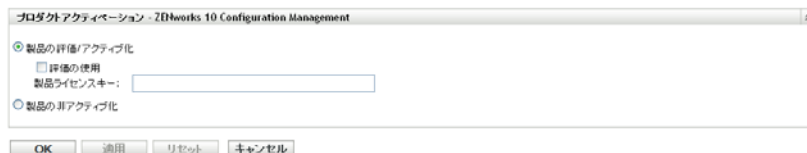


- 5 [使用評価] オプションを選択し、次に、[適用] をクリックします。
- 6 [OK] をクリックします。

ライセンス状態の変更については、229 ページのセクション 24.5 「変更可能なライセンス状態」を参照してください。

## 24.2 製品の有効期限の延長

- 1 ZENworks コントロールセンターにログインします。
- 2 [環境設定] タブをクリックします。
- 3 [製品ライセンス] パネルで、評価する製品をクリックします。
- 4 [製品の起動] パネルで、[製品の評価/アクティブ化] オプションを選択します。

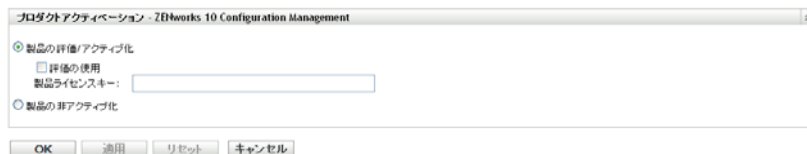


- 5 [製品ライセンスキー] に延長した評価ライセンスキーを指定後、[適用] をクリックします。
- 6 [OK] をクリックします。

ライセンス状態の変更については、229 ページのセクション 24.5 「変更可能なライセンス状態」を参照してください。

## 24.3 製品のアクティブ化

- 1 ZENworks コントロールセンターにログインします。
- 2 [環境設定] タブをクリックします。
- 3 [製品ライセンス] パネルで、アクティブ化する製品をクリックします。
- 4 [製品の起動] パネルで、[製品の評価/アクティブ化] オプションを選択します。

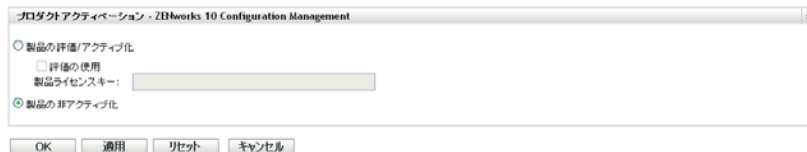


- 5 [製品ライセンスキー] にライセンスキーを指定し、[Apply(適用)] をクリックします。
- 6 [OK] をクリックします。

ライセンス状態の変更については、229 ページのセクション 24.5 「変更可能なライセンス状態」を参照してください。

## 24.4 製品の非アクティブ化

- 1 ZENworks コントロールセンターにログインします。
- 2 [環境設定] タブをクリックします。
- 3 [製品ライセンス] パネルで、非アクティブ化する製品をクリックします。



- 4 [製品の起動] パネルで、[製品の非アクティブ化] オプションを選択します。
- 5 [適用] をクリックします。
- 6 [OK] をクリックします。

可能なライセンス状態の変更については、[229 ページのセクション 24.5「変更可能なライセンス状態」](#)を参照してください。

## 24.5 変更可能なライセンス状態

新しいライセンス状態への移行は、製品の現在のライセンス状態と、その前のライセンス状態によって異なります。状況に応じて製品の評価、アクティブ化、または非アクティブ化を選択できます。

次に例を示します。

- ◆ 現在非アクティブ化されている製品は、評価、評価延長、またはアクティブの状態に移行できます。
- ◆ 評価から非アクティブ化の状態に移行した製品は、アクティブ、評価、または評価延長の状態に移行できます。

**表 24-1** ZENworks 製品のライセンス状態の変更

以前のライセンス状態	現在のライセンス状態	新しいライセンス状態	追加情報
	非アクティブ化	評価	製品の評価期間は 60 日です。
	非アクティブ化	評価延長	製品の評価期間は 120 日です。
	非アクティブ化	アクティブ	
	評価	評価延長	残りの評価期間に 60 日が追加されます。
	評価	アクティブ	
	評価	非アクティブ化	
	アクティブ	非アクティブ化	
評価	非アクティブ化	アクティブ	
評価	非アクティブ化	評価	残りの評価期間が与えられます。たとえば、製品を 10 日間の評価期間で使用した後に非アクティブ化し、次に、製品を再度評価することを選択した場合は、50 日間の評価期間を取得します。

以前のライセンス状態	現在のライセンス状態	新しいライセンス状態	追加情報
評価	非アクティブ化	評価延長	残りの評価期間に 60 日が追加されます。
評価延長	非アクティブ化	評価延長	残りの評価期間が与えられます。
評価延長	非アクティブ化	アクティブ	
アクティブ	非アクティブ化	アクティブ	

## 24.6 事前定義されたレポートの表示

事前定義されたレポートを見るには、ZENworks レポーティングサーバをインストールしておく必要があります。ZENworks レポーティングサーバのインストール方法については、『*ZENworks 10 Configuration Management レポーティングサーバインストールガイド*』を参照してください。

ライセンス登録の事前定義レポートを表示するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[レポート] タブをクリックします。
- 2 ZENworks レポーティングサーバの [レポーティング] パネルで、[ZENworks レポーティングサーバ InfoView] をクリックして ZENworks レポーティングサーバ InfoView を起動します。
- 3 [Novell ZENworks Reports] > [Predefined Reports] > [ZENworks System] の順にナビゲートします。
- 4 ライセンスに関する次の事前定義レポートが含まれています。

**ZENworks License Information:** 管理ゾーン内のすべてのデバイスにインストールされている Asset Inventory for UNIX/Linux、ZENworks Configuration Management、および ZENworks Asset Management のライセンスの詳細を表示します。製品のライセンスステータス、ライセンスの有効期限、ライセンスを保持しているサーバに接続している管理対象デバイスとインベントリデバイスの数、管理対象ユーザの数などの情報を表示できます。

レポートの作成と管理の詳細は、『*ZENworks 10 Configuration Management システムレポートリファレンス*』を参照してください。

Novell® ZENworks® 10 Configuration Management では、zman コマンドラインユーティリティを使用して、組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースをバックアップおよび復元することができます。リモート Sybase SQL Anywhere、Oracle\*、または Microsoft SQL Server\* の各データベースのバックアップおよび復元については、それらデータベースのマニュアルを参照してください。

---

**重要 :** ZENworks データベースをホストしている ZENworks サーバをバックアップする場合は、ZENworks サーバのバックアップ (1 回のみ必要) 前に ZENworks データベースを少なくとも 1 回はバックアップしておく必要があります。ZENworks データベースは定期的にバックアップすることもできます。ただし、サーバとデータベースは任意の順番でバックアップすることができます。

ZENworks サーバおよび ZENworks データベースを復元する場合は、まず、ZENworks サーバを復元し、次に、最後にバックアップした ZENworks データベースを復元する必要があります。ZENworks サーバのバックアップおよび復元の詳細については、[113 ページの第 10 章「ZENworks サーバおよび認証局のバックアップと復元」](#)を参照してください。

---

ZENworks 10 Configuration Management を使用すると、Sybase SQL Anywhere データベースから Oracle データベースにデータをマイグレートすることもできます。

詳細については、次のセクションを参照してください。

- ◆ [233 ページの第 25 章「組み込みデータベースの保守」](#)
- ◆ [255 ページの第 26 章「外部データベースの保守」](#)





- ◆ 233 ページのセクション 25.1「組み込み Sybase SQL Anywhere データベースの資格情報の取得と保存」
- ◆ 234 ページのセクション 25.2「組み込み Sybase SQL Anywhere データベースによって使用されるポートの変更」
- ◆ 235 ページのセクション 25.3「組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースのバックアップ」
- ◆ 241 ページのセクション 25.4「組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースの復元」
- ◆ 242 ページのセクション 25.5「組み込み Sybase データベースから外部 Sybase データベースへのデータの移動」
- ◆ 244 ページのセクション 25.6「外部 O E M Sybase データベースから組み込み Sybase データベースへのデータの移動」
- ◆ 246 ページのセクション 25.7「組み込み Sybase SQL Anywhere から外部 Oracle データベースへのデータのマイグレート」

## 25.1 組み込み Sybase SQL Anywhere データベースの資格情報の取得と保存

ZENworks にバンドルされた組み込み Sybase SQL Anywhere データベースを含む ZENworks 10 Configuration Management をインストールした場合は、今後の使用のためにデータベースの資格情報を保存しておくことをお勧めします。

- 1 サーバプロンプトに次のいずれかのコマンドを入力して、組み込み Sybase SQL Anywhere データベースの資格情報を取得できます。

```
zman database-get-credentials
```

または

```
zman dgc
```

資格情報がコンソール上に表示されます。

zman の詳細については、サーバの zman マニュアル (man zman) ページを表示するか、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「zman(1)」を参照してください。

- 2 資格情報をコピーし、ファイルに保存しておきます。

リモート Sybase SQL Anywhere データベース、Oracle データベース、または Microsoft SQL Server データベースの資格情報の取得と保存については、各データベースのマニュアルを参照してください。

## 25.2 組み込み Sybase SQL Anywhere データベースによって使用されるポートの変更

デフォルトでは、Sybase SQL Anywhere はポート 2638 を使用します。データベースが実行されるポートを変更できます。

- 1 zenworks\_database.conf ファイルで、サーバがリスンする新規ポート番号を指定します。  
zenworks\_database.conf ファイルは、Windows の場合は %ZENWORKS\_HOME%\conf、Linux の場合は /etc/opt/novell/zenworks にあります。

- 2 すべてのプライマリサーバ上にある zdm.xml ファイルの次のエントリで、新規ポート番号を指定します。

```
<entry key="Port">2638</entry>
```

デフォルトでは、デフォルトのポート番号である 2638 がエントリに一覧表示されます。

zdm.xml ファイルは、Windows の場合は %ZENWORKS\_HOME%\conf\datamodel、Linux の場合は /etc/opt/novell/zenworks/datamodel にあります。

- 3 (条件付き) ZENworks レポーティングサーバがプライマリサーバにインストールされている場合、新規ポート番号を ODBC データ情報に追加します。

◆ **Windows サーバの場合 :** 次を実行します。

1. デスクトップの [スタート] メニューの [設定] をクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。次に、[ODBC データソース] をダブルクリックします。

[ODBC データソースアドミニストレータ] ウィンドウが表示されます。

2. [システム DSN] タブをクリックします。

3. [ZENworks データストア] をダブルクリックします。

[ODBC 環境設定] ウィンドウが表示されます。

4. [ネットワーク] タブをクリックします。

5. [ネットワークプロトコルおよびオプションの選択] パネルで、TCP/IP ポート番号の値 (デフォルトでは 2638) を、zenworks\_database.conf で指定したポート番号 (ステップ 1 で指定した新しい番号) に変更します。

◆ **Linux サーバの場合** /opt/novell/zenworks/share/boe/bobje/odbc.ini ファイルで、TCP/IP の値を zenworks\_database.conf で指定したポート番号 (ステップ 1 で指定した新しい番号) に変更します。

- 4 すべてのプライマリサーバで、データベースサービス、zenserver、および ZENLoader サービスを再起動します。

◆ **Windows の場合 :** 次を実行します。

1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
3. [Novell ZENworks 組み込みデータストア]、[Novell ZENworks ロードサービス]、および [Novell ZENworks サーバ] のサービスを再起動します。

- ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、指定された順序で次のコマンドを入力します。

- ◆ /etc/init.d/novell-zenmtr stop
- ◆ /etc/init.d/novell-zenserver stop
- ◆ /etc/init.d/novell-zenloader stop
- ◆ /etc/init.d/sybase-asa restart
- ◆ /etc/init.d/novell-zenserver start
- ◆ /etc/init.d/novell-zenloader start
- ◆ /etc/init.d/novell-zenmtr start

TCP ポートおよび UDP ポートが 2638 から変更されたとしても、データベースサーバは UDP ポート 2638 もリスンします。詳細については、[Sybase データベースのマニュアル \(http://www.ianywhere.com/developer/product\\_manuals/sqlanywhere/1001/en/html/dbdaen10/daserverport-network-conparm.html\)](http://www.ianywhere.com/developer/product_manuals/sqlanywhere/1001/en/html/dbdaen10/daserverport-network-conparm.html) を参照してください。

## 25.3 組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースのバックアップ

組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースは、ローカルマシンまたはネットワークロケーションのディレクトリにバックアップできます。

- ◆ 235 ページのセクション 25.3.1「Windows サーバまたは Linux サーバ上にある、組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースをバックアップする」
- ◆ 237 ページのセクション 25.3.2「Windows サーバ上で実行されている組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースを、Windows マシン上のネットワークロケーションリモートにバックアップする」
- ◆ 239 ページのセクション 25.3.3「Linux サーバ上で実行されている組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースを、リモート Linux マシン上のネットワークロケーションにバックアップする」

### 25.3.1 Windows サーバまたは Linux サーバ上にある、組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースをバックアップする

- 1 コマンドプロンプトで次のコマンドを入力して、ZENworks の管理者名およびパスワードを保存します。

```
zman admin-store-credential administrator
```

アカウント情報を保存しない場合、各 zman コマンドの ZENworks の管理者名およびパスワードを入力する必要があります。

組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースを直ちにバックアップしたり、特定の時間に実行するようバックアップをスケジュールすることができます。組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースをすぐにバックアップするには、**ステップ 2**に進みます。特定の時間に実行するようバックアップをスケジュールするには、**ステップ 3**に進んでください。

- 2 組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースをデータベースサーバ上のディレクトリにすぐにバックアップするには、コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

*zman database-backup complete\_path\_of\_the\_backup\_directory\_on\_database\_server*

たとえば、Windows データベースサーバ上の c:\dbbackup ディレクトリにデータベースをバックアップするには、zman database-backup c:\dbbackup を実行します。Linux データベースサーバ上の /root/dbBackup ディレクトリにデータベースをバックアップするには、zman database-backup /root/dbBackup を実行します。

- 3** 毎日または特定の日付の、特定の時間に実行するようバックアップをスケジュールするには、スケジュールファイルを作成して実行する必要があります。

- 3a** 次のコンテンツを使用して、スケジュールファイル backupschedule.sql を作成します。

```
CREATE EVENT backup_schedule_name
```

```
SCHEDULE
```

```
specify_the_schedule
```

毎日午後 11 時にデータベースをバックアップするサンプルスケジュールファイルは、次のとおりです。

```
CREATE EVENT ZENDBBackup
```

```
SCHEDULE
```

```
START TIME '11:00 PM' EVERY 24 HOURS
```

その月の第 1 日、第 2 日、第 3 日、および第 4 日の午前 1 時にデータベースをバックアップするサンプルスケジュールファイルは、次のとおりです。

```
CREATE EVENT ZENDBBackup1
```

```
SCHEDULE
```

```
START TIME '1:00 AM'
```

```
ON (1,2,3,4)
```

サンプルのスケジュールファイルは、Windows サーバの場合は

ZENworks\_Installation\_directory:\Novell\Zenworks\share\zman\samples\database ディレクトリ、Linux サーバの場合は /opt/novell/zenworks/share/zman/samples/database ディレクトリにあります。

- 3b** コマンドプロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
zman database-backup complete_path_of_the_backup_directory c:\backUpSchedule.sql -d
```

```
SQL_function_call
```

たとえば、Windows サーバ上の c:\dbbackup\day\_of\_the\_week ディレクトリにデータベースをバックアップするには、次のコマンドを入力します。

```
zman database-backup c:\dbbackup c:\backUpSchedule.sql -d "DAYNAME(today())"
```

このコマンドの詳細については、デバイスの zman マニュアルページ (man zman) を表示するか、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「zman(1)」を参照してください。

- 4** コマンドプロンプトで次のコマンドを入力して、ステップ 1 で保存したアカウント情報をクリアします。

```
zman admin-clear-credential
```

バックアップスケジュールに従って、zenworks\_zone\_name.db データベースファイルと zenworks\_zone\_name.log トランザクションログファイルがデータベースのバックアップディレクトリに作成されます。

ZENworks 10 Configuration Management (10.1) と ZENworks 10 Configuration Management (10.1.1) への更新では、データベースのバックアップ後も古いトランザクションログは削除されません。ログファイルの名前は、最後のバックアップ時のタイムスタンプで変更されます。タイムスタンプは、YYMMDD 形式です。たとえば、トランザクションログを最後にバックアップしたのが 2008 年 9 月 23 日の場合、ログファイルは 080923\*.log という名前に変更されます。ただし、ログファイルは必須のものではなく、Windows では %ZENWORKS\_HOME%\database ディレクトリ、Linux では /var/opt/novell/zenworks/database ディレクトリから手動で削除することで、ディスク容量を空けることができます。ZENworks 10 Configuration Management (10.1.2) 以降の更新ではログファイルは自動的に削除されます。

### 25.3.2 Windows サーバ上で実行されている組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースを、Windows マシン上のネットワークロケーションリモートにバックアップする

Windows サーバ上にインストールされて実行されている組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースを、別の Windows マシンのネットワークロケーションにバックアップするには、ローカルマシンとリモートマシンが必要です。ローカルマシンは、ZENworks サーバコンポーネントおよび組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースがインストールされた Windows サーバです。リモートマシンは、データベースをバックアップするネットワークロケーションを持つ Windows マシンです。

**1** ローカルマシンで次のステップを実行します。

**1a** 管理者ユーザを作成し、パスワードを指定します。

たとえば、Administrator という管理ユーザ名と、novell というパスワードを指定できます。

**1b** デスクトップの [スタート] メニューの [設定] をクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。次に、[管理ツール] をダブルクリックし、[サービス] をダブルクリックします。

**1c** [Novell ZENworks データストア] サービスを右クリックし、次に、[プロパティ] をクリックします。

**1d** [ログオン] タブをクリックします。

**1e** [このアカウント] を選択し、次に、**ステップ 1a** で作成した管理者ユーザの名前およびパスワードを指定します。

たとえば、ユーザを Administrator に指定し、パスワードを novell に指定します。

**1f** [OK] をクリックします。

**2** バックアップを保存するネットワークロケーションがあるリモートマシンで、次のステップを実行します。

**2a** **ステップ 1a** で作成したユーザと同じアカウント情報を持つアカウントを作成します。

たとえば、ユーザを Administrator に指定し、パスワードを novell に指定します。

**2b** ネットワークロケーション上での読み込み / 書き込み権限をユーザに提供します。

データベースをすぐにバックアップするには、**ステップ 3**に進みます。毎日または特定の日付の、特定の時間に実行するようバックアップをスケジュールするには、**ステップ 4**に進んでください。

- 3** リモートマシン上のネットワークロケーションに、データベースをすぐにバックアップするには、コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
zman database-backup \\IP_address_of_the_remote_machine\backup_directory\custom_directory
```

ここで、`\\IP_address_of_the_remote_machine\backup_directory` は、リモートマシン上のネットワークロケーションであり、`custom_directory_name` は、zman で新規作成し、データベースファイルをバックアップするディレクトリに指定する名前です。

- 4** バックアップをスケジュールするには、次の手順に従います。

- 4a** 次のコンテンツを使用して、スケジュールファイル `backupschedule.sql` を作成します。

```
CREATE EVENT backup_schedule_name  
SCHEDULE  
specify_the_schedule
```

毎日午後 11 時にデータベースをバックアップするサンプルスケジュールファイルは、次のとおりです。

```
CREATE EVENT ZENDBBackup  
SCHEDULE  
START TIME '11:00 PM' EVERY 24 HOURS
```

その月の第 1 日、第 2 日、第 3 日、および第 4 日の午前 1 時にデータベースをバックアップするサンプルスケジュールファイルは、次のとおりです。

```
CREATE EVENT ZENDBBackup1  
SCHEDULE  
START TIME '1:00 AM'  
ON (1,2,3,4)
```

サンプルのスケジュールファイルは、`ZENworks_Installation_directory\Novell\Zenworks\share\zman\samples\database` ディレクトリにあります。

- 4b** コマンドプロンプトで次のコマンドを実行します。

```
zman database-backup \\IP_address_of_the_remote_machine\backup_directory\custom_directory  
c:\backUpSchedule.sql -d SQL_function_call
```

ここで、`\\IP_address_of_the_remote_machine\backup_directory` は、リモートマシン上のネットワークロケーションであり、`custom_directory_name` は、zman で新規作成し、データベースファイルをバックアップするディレクトリに指定する名前です。

このコマンドの詳細については、デバイス上の zman マニュアルページ (`man zman`) を見るか、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「zman(1)」を参照してください。

バックアップスケジュールに従って、`zenworks_zone_name.db` および `zenworks_zone_name.log` が、リモートマシン上のネットワークロケーションに作成されます。バックアップされたデータベースは、`zenworks_zone_name.db` に保存されます。データベースのバックアップの結果は、`zenworks_zone_name.log` にログインされます。

### 25.3.3 Linux サーバ上で実行されている組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースを、リモート Linux マシン上のネットワークロケーションにバックアップする

Linux サーバにインストールされて実行されている組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースを、Linux マシン上のネットワークロケーションにバックアップするには、ローカルマシンおよびリモートマシンが必要です。ローカルマシンは、ZENworks サーバコンポーネントおよび組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースがインストールされた Linux サーバです。リモートマシンは、データベースのバックアップ先となるネットワーク上の Linux マシンです。詳細については、[241 ページのセクション 25.4「組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースの復元」](#)を参照してください。

- 1 次の手順に従って、リモートマシンに Samba 共有を作成します。
  - 1a コマンドプロンプトで `useradd user_name` コマンドを入力して、ユーザを作成します。
  - 1b [ステップ 1a](#) で作成したユーザ名を持つリモートマシンにログインし、`passwd specify_the_password` コマンドを使用してパスワードを設定します。
  - 1c データベースのバックアップを保存するためのディレクトリを作成します。  
たとえば、`backup` という名前のディレクトリを作成します。
  - 1d `yast2 samba-server` コマンドを実行して、Samba サーバの設定を開きます。
  - 1e [\[共有\]](#) タブをクリックし、[\[追加\]](#) をクリックし、[ステップ 1c](#) で作成したバックアップディレクトリに対する共有名およびパスを指定します。  
たとえば、共有名を `dbbackup` に指定します。
  - 1f [\[dbbackup\]](#) 共有を選択し、[\[編集\]](#) をクリックし、次の属性を追加します。
    - ◆ `create mask = 0640`
    - ◆ `force user = user_name_created_in_ ステップ 1a`
    - ◆ `guest ok = yes`
    - ◆ `public = yes`
    - ◆ `wide links = no`
    - ◆ `writable = yes`
- 2 ローカルマシンにディレクトリを作成します。  
たとえば、`/root` に `zenworks_dbbackup` という名前のディレクトリを作成します。
- 3 コマンドプロンプトで次のコマンドを入力し、ローカルマシン上の `zenworks_dbbackup` ディレクトリで Samba 共有をマウントします。  

```
mount -t smbfs //IP_address_of_the_remote_machine/share_name -o  
username=user_name_specified_in_Step1a,password=password_specified_in_Step1b  
local_directory_name_with_complete_path_created_in_Step2
```

  
例を次に示します。  

```
mount -t smbfs //IP_address_of_the_remote_machine/dbbackup -o  
username=user_name_specified_in_Step1a,password=password_specified_in_Step1b /root/  
zenworks_dbbackup
```



データベースをすぐにバックアップするには、**ステップ 4**に進みます。毎日または特定の日付の、特定の時間に実行するようバックアップをスケジュールするには、**ステップ 5**に進んでください。

- 4 リモートマシン上のネットワークロケーションに、データベースをすぐにバックアップするには、コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
zman database-backup database_backup_directory
```

例を次に示します。

```
zman database-backup /root/zenworks_dbbackup
```

- 5 次の手順に従って、バックアップをスケジュールします。

- 5a** 次のコンテンツを使用して、スケジュールファイル `backupschedule.sql` を作成します。

```
CREATE EVENT backup_schedule_name
SCHEDULE
specify_the_schedule
```

毎日午後 11 時にデータベースをバックアップするサンプルスケジュールファイルは、次のとおりです。

```
CREATE EVENT ZENDBBackup
SCHEDULE
START TIME '11:00 PM' EVERY 24 HOURS
```

その月の第 1 日、第 2 日、第 3 日、および第 4 日の午前 1 時にデータベースをバックアップするサンプルスケジュールファイルは、次のとおりです。

```
CREATE EVENT ZENDBBackup1
SCHEDULE
START TIME '1:00 AM'
ON (1,2,3,4)
```

サンプルのスケジュールファイルは、ZENworks\_Installation\_directory:\Novell\Zenworks\share\zman\samples\database ディレクトリにあります。

- 5b** コマンドプロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
zman database-backup database_backup_directory c:\backUpSchedule.sql -d SQL_function_call
```

例を次に示します。

```
zman database-backup /root/zenworks_dbbackup c:\backUpSchedule.sql -d SQL_function_call
```

このコマンドの詳細については、デバイスの `zman` マニュアルページ (`man zman`) を表示するか、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「**zman(1)**」を参照してください。

バックアップスケジュールに従って、`zenworks_zone_name.db` および `zenworks_zone_name.log` が、リモートマシン上のネットワークロケーション (`/root/zenworks_dbbackup`) に作成されます。バックアップされたデータベースは、`zenworks_zone_name.db` に保存されます。データベースのバックアップの結果は、`zenworks_zone_name.log` にログインされます。



## 25.4 組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースの復元

次のセクションでは、バックアップされた組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースの復元に関する情報について説明します。

- 241 ページのセクション 25.4.1「Windows サーバでの組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースの復元」
- 242 ページのセクション 25.4.2「Linux サーバ上の組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースの復元」

---

**重要:** データベースが ZENworks サーバ上にある場合は、まず、ZENworks Server を復元し、次に、ZENworks データベースを復元する必要があります。ZENworks サーバとデータベース (少なくとも 1 回) をバックアップしたことを確認します。ZENworks データベースは定期的にバックアップすることもできます。ただし、サーバとデータベースは任意の順番でバックアップすることができます。ZENworks サーバのバックアップおよび復元の詳細については、113 ページの第 10 章「ZENworks サーバおよび認証局のバックアップと復元」を参照してください。

---

### 25.4.1 Windows サーバでの組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースの復元

- 1 Windows サーバのプロンプトで、`ZENworks_Installation_directory:\novell\zenworks\bin` に移動し、次のコマンドを入力します。

```
ZenworksWindowsDBRestore.bat ZENworks_Installation_directory:\Novell\Zenworks\Database  
c:\dbBackup\zenworks_zone_name.db c:\dbBackup\zenworks_zone_name.log
```

- 2 次のメッセージが表示されたら、任意のキーを押します。

```
Before proceeding, make sure you have backed up any files in:<Installation  
directory>:\Novell\ZENworks\database Press any key to continue.
```

- 3 次のメッセージが表示されたら、「Y」と入力します。

```
The following services are dependent on the Novell ZENworks Datastore  
service. Stopping the Novell ZENworks Datastore service will also stop  
these services: Novell ZENworks Loader, Novell ZENworks Agent Service,  
Novell ZENworks Server. Do you want to continue this operation? (Y/N) [N]:
```

- 4 次のメッセージが表示されたら、任意のキーを押します。

```
The Novell ZENworks Datastore service was stopped successfully. Press any  
key to continue...
```

- 5 次のメッセージが表示されたら、「Yes」と入力します。

```
Overwrite <installation  
directory>:\Novell\ZENworks\database\zenworks_<zone_name>.db? (Yes/No/  
All)
```

- 6 次のメッセージが表示されたら、「Yes」と入力します。

```
Overwrite <installation  
directory>:\Novell\ZENworks\database\zenworks_<zone_name>.log? (Yes/No/  
All):
```

backupFile および backupLogFile が、ZENworks\_Installation\_directory:\Novell\ZENworks\database にコピーされ、データベースが復元されます。

- 7 (条件付き) zenworks\_installation\_directory\novell\zenworks\database\conf\zenworks\_database.conf ファイルに記載された以外の場所にデータベースを復元する場合、zenworks\_database.conf を手動で編集してデータベースの新しい場所を指定します。

## 25.4.2 Linux サーバ上の組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースの復元

- 1 ZENworks サーバに root としてログインします。
- 2 /opt/novell/zenworks/bin に変更し、次のコマンドを入力します。  
`/ZenworksLinuxDBRestore.sh -F "/root/dbBackup/zenworks_zone_name.db"`
- 3 次のメッセージが表示されたら、「Y」と入力します。  
The backup database file will OVERWRITE the existing database. Is that OK?  
[y/n]
- 4 次のメッセージが表示されたら、「Y」と入力します。  
The novell-zenloader needs to be stopped for the database restore to be performed. Would you like to proceed [y/n]?  
バックアップファイルが /var/opt/novell/zenworks/database にコピーされ、復元ログファイルが /var/opt/novell/log/zenworks/dbrestore.log にコピーされます。データベースが復元されました。

## 25.5 組み込み Sybase データベースから外部 Sybase データベースへのデータの移動

ZENworks 10 Configuration Management では、Sybase SQL Anywhere データベース (組み込み Sybase データベース) から、OEM Sybase データベース (外部 Sybase データベース) へ、データを移動できます。

- 242 ページのセクション 25.5.1 「データの移動の準備」
- 243 ページのセクション 25.5.2 「内部の Sybase から外部の Sybase へのデータの移動」

### 25.5.1 データの移動の準備

内部 Sybase データベースから外部 Sybase データベースにデータを移動する前に、次の操作を行います。

- Windows デバイスまたは Linux デバイス上に、内部 Sybase データベースとともに、ZENworks 10 Configuration Management がインストールされていることを確認してください。
- 外部 Sybase データベースをインストールします。外部 Sybase データベースのインストール方法の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド』の「外部 ZENworks データベースのインストール」を参照してください。

## 25.5.2 内部の Sybase から外部の Sybase へのデータの移動

- 1 外部 Sybase データベースがインストールされているデバイスで、Novell ZENworks 組み込みデータストアサービスを中止します。

- ◆ **Windows の場合 :** 次を実行します。

1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
3. [Novell ZENworks 組み込みデータストア] サービスを右クリックして [中止] をクリックするか、[Novell ZENworks 組み込みデータストア] サービスを選択してツールバー上の [■] をクリックします。

- ◆ **Linux の場合 :** コンソールのプロンプトで、「/etc/init.d/.sybase-asa stop」と入力します。

- 2 内部 Sybase データベースがインストールされているデバイスから、zenworks\_database.conf および database ディレクトリ内のすべてのファイルを、外部 Sybase データベースがあるデバイス上の適切なディレクトリにコピーします。

zenworks\_database.conf は、Windows の場合は ZENworks\_installation\_path\conf\ ディレクトリ、Linux の場合は /etc/opt/novell/zenworks/ ディレクトリにあります。

database ディレクトリは、Windows の場合は ZENworks\_installation\_path ディレクトリ、Linux の場合は /var/opt/novell/zenworks/ ディレクトリにあります。

- 3 外部 Sybase データベースがインストールされているデバイスで、zenworks\_database.conf を開き、データベースファイルの正しいパスが含まれていることを確認してください。

- 4 内部 Sybase データベースがインストールされているデバイスで、zdm.xml を編集します。(Windows の場合は ZENworks\_installation\_path\conf\datamodel、Linux の場合は /etc/opt/novell/zenworks/datamodel にあります)。

- ◆ Embedded エントリキーの値を false に変更します。デフォルトでは、これは true です。
- ◆ Server エントリキーの値を、外部 Sybase データベースがインストールされているデバイスの IP アドレスに設定します。
- ◆ Port エントリキーの値が、外部 Sybase データベースが実行されているポート番号であることを確認してください。

- 5 外部 Sybase データベースがインストールされているデバイスで、Novell ZENworks 組み込みデータストアサービスを開始します。

- ◆ **Windows の場合 :** 次を実行します。

1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
3. [Novell ZENworks 組み込みデータストア] サービスを右クリックし、[スタート] をクリックするか、または [Novell ZENworks 組み込みデータストア] サービスを選択します。次に、ツールバーで [■] をクリックします。

- ◆ **Linux の場合 :** コンソールのプロンプトで、「/etc/init.d/.sybase-asa start」と入力します。

6 内部 Sybase データベースがインストールされているデバイスで、ZENworks サービスを再起動します。

- ◆ **Windows の場合** : 次を実行します。
  1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
  2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
  3. [Novell ZENworks サーバ]、[Novell ZENworks Services Monitor]、および [Novell ZENworks エージェントサービス] のサービスを開始します。
- ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、次のコマンドを入力します。
  - ◆ /etc/init.d/.novell-zenmntr restart
  - ◆ /etc/init.d/.novell-zenserver restart
  - ◆ /etc/init.d/.novell-zenloader restart

ZENworks サーバは、新しいデータベースを指しています。

## 25.6 外部 OEM Sybase データベースから組み込み Sybase データベースへのデータの移動

ZENworks 10 Configuration Management では、OEM Sybase データベース ( 外部 Sybase データベース ) から、ZENworks サーバにインストールされている Sybase SQL Anywhere データベース ( 組み込み Sybase データベース ) へ、データを移動できます。

- ◆ [244 ページのセクション 25.6.1 「データの移動の準備」](#)
- ◆ [245 ページのセクション 25.6.2 「外部 Sybase から組み込み Sybase へのデータの移動」](#)

### 25.6.1 データの移動の準備

外部 Sybase データベースから組み込み Sybase データベースへデータを移動する前に、次の操作を行います。

- ◆ Windows デバイスまたは Linux デバイス上に、外部 OEM Sybase データベースとともに、ZENworks 10 Configuration Management がインストールされていることを確認してください。
- ◆ 組み込み Sybase データベースを ZENworks サーバにインストールします。外部 Sybase データベースのインストール方法の詳細については、『*ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド*』の「**外部 ZENworks データベースのインストール**」を参照してください。

組み込み Sybase データベースのインストール時には、[Sybase アクセス設定] ページの設定中に次の点を考慮する必要があります。

- ◆ データベース名は、外部 Sybase データベースの名前と同じにしても、一意の名前にしても構いません。
- ◆ ユーザ名とパスワードは、外部 Sybase データベースのものと同じにする必要があります。
- ◆ データベースのサーバ名は、一意にする必要があります。

## 25.6.2 外部 Sybase から組み込み Sybase へのデータの移動

- 1 組み込み Sybase データベースがインストールされている ZENworks サーバで、次の操作を行います、

1a Novell ZENworks 組み込みデータストアサービスを停止します。

◆ **Windows の場合 :** 次を実行します。

1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
3. [Novell ZENworks 組み込みデータストア] サービスを右クリックして [中止] をクリックするか、[Novell ZENworks 組み込みデータストア] サービスを選択してツールバー上の ■ をクリック します。

◆ **Linux の場合 :** コンソールのプロンプトで、「/etc/init.d/.sybase-asa stop」 と入力 します。

1b database ディレクトリのコンテンツを削除します。

database ディレクトリは、Windows の場合は `ZENworks_installation_path` ディレクトリ、Linux の場合は `/opt/novell/zenworks/` ディレクトリにあります。

- 2 外部 Sybase データベースがインストールされているデバイスで、Novell ZENworks 組み込みデータストアサービスを中止します。

◆ **Windows の場合 :** 次を実行します。

1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
3. [Novell ZENworks 組み込みデータストア] サービスを右クリックして [中止] をクリックするか、[Novell ZENworks 組み込みデータストア] サービスを選択してツールバー上の ■ をクリ クします。

◆ **Linux の場合 :** コンソールのプロンプトで、「/etc/init.d/.sybase-asa stop」 と入力 します。

- 3 外部 Sybase データベースがインストールされているデバイスから、database ディレクトリ内のすべてのファイルを、組み込み Sybase データベースを含む ZENworks サーバの該当するディレクトリにコピーします。

database ディレクトリは、Windows の場合は `ZENworks_installation_path` ディレクトリ、Linux の場合は `/opt/novell/zenworks/` ディレクトリにあります。

- 4 組み込み Sybase データベースがインストールされている ZENworks サーバで、`zenworks_database.conf` を開き、データベースファイルの正しいパスが含まれていることを確認してください。

- 5 組み込み Sybase データベースがインストールされている ZENworks サーバで、`zdm.xml` を編集します (Windows の場合は `ZENworks_installation_path\conf\datamodel`、Linux の場合は `/etc/opt/novell/zenworks/datamodel` にあります)。

◆ 次のエントリを追加します。

```
<entry key="Embedded">true</entry>
```

◆ Server エントリキーの値を 127.0.0.1 (組み込み Sybase データベースがインストールされている ZENworks サーバの IP アドレス) に設定します。

- ◆ Port エントリキーの値が、組み込み Sybase データベースが実行されているポート番号であることを確認してください。
  - ◆ Engine エントリキーの値を、組み込みデバイスのインストール時に指定したデータベースサーバ名に設定します。
  - ◆ (オプション)組み込み Sybase データベースのインストール時に一意のデータベース名を指定した場合は、Database エントリキーの値をその一意のデータベース名に設定します。
- 6** 組み込み Sybase データベースがインストールされている ZENworks サーバで、ZENworks サービスを再起動します。
- ◆ **Windows の場合 :** 次を実行します。
    1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
    2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
    3. 次のサービスを開始します :Novell ZENworks サーバ、Novell ZENworks Services Monitor、Novell ZENworks 組み込みデータストア、および Datastorell ZENworks エージェントサービス
  - ◆ **Linux の場合 :** コンソールのプロンプトで、次のコマンドを入力します。
    - ◆ /etc/init.d/.novell-zenmntr restart
    - ◆ /etc/init.d/.novell-zenserver restart
    - ◆ /etc/init.d/.novell-zenloader restart
    - ◆ /etc/init.d/.sybase-asa restart

ZENworks サーバは、新しいデータベースを指しています。

## 25.7 組み込み Sybase SQL Anywhere から外部 Oracle データベースへのデータのマイグレート

ZENworks 10 Configuration Management では、ZENworks プライマリサーバ上で実行されている内部組み込み Sybase SQL Anywhere データベースまたは外部 Sybase SQL Anywhere データベースから、ZENworks 10 Configuration Management がインストールされていないデバイス上にインストールされている Oracle データベースにデータをマイグレートできます。

---

**重要 :** ZENworks レポーティングサーバがデバイスにインストールされている場合は、データベースのマイグレート後、レポーティングサーバは動作しません。レポーティングサーバが動作するには、データベースマイグレート後に Oracle クライアントをインストールしたプライマリサーバに、ZENworks レポーティングサーバを再度インストールする必要があります。詳細については、[250 ページのセクション 25.7.3 「マイグレーション後のタスク」](#)を参照してください。

---

データベースをマイグレートするには、次を参照してください。

- ◆ [247 ページのセクション 25.7.1 「データの移動の準備」](#)
- ◆ [249 ページのセクション 25.7.2 「Sybase SQL Anywhere データベースから Oracle データベースへのデータのマイグレート」](#)
- ◆ [250 ページのセクション 25.7.3 「マイグレーション後のタスク」](#)

- ◆ 251 ページのセクション 25.7.4 「データベースのマイグレーションのトラブルシューティング」
- ◆ 254 ページのセクション 25.7.5 「Sybase データベースへ戻す」

## 25.7.1 データの移動の準備

Sybase データベースから Oracle データベースへデータをマイグレートする前に、次を実行してください。

- ◆ ZENworks 10 Configuration Management のライセンス状態がアクティブであることを確認します。この製品は、ライセンスバージョンか評価バージョンのいずれかでインストールおよび実行される必要があります。
- ◆ report-save (rpsv) (宛先フォルダ) コマンドを使用して、すべてのレポート、rights.xml、および ownership.xml を保存します。XML ファイルには、すべてのレポートの権限と所有権の詳細が含まれています。
- ◆ Sybase データベースが設定されているプライマリサーバが、ZENworks 10 Configuration Management にアップグレードされていることを確認します。
- ◆ ZENworks プライマリサーバに、内部または外部の Sybase データベースがインストールされていることを確認します。
- ◆ ZENworks 10 Configuration Management がインストールされていないデバイスに、Oracle データベースがインストールされていることを確認してください。
- ◆ USERS 表領域に ZENworks データベーススキーマを作成して保存するのに十分な領域があることを確認します。表領域には、データの入っていない ZENworks データベーススキーマを作成するのに最低 100 MB と、マイグレートされるデータベースのサイズに応じて適切な追加の領域が必要です。データベースのマイグレーションユーティリティは、デフォルトで USERS 表領域のみを使用します。マイグレーション時にその他の表領域を手動で指定することはできません。
- ◆ データベースプロンプトで、次のクエリを実行することにより、NLS\_CHARACTERSET パラメータが AL32UTF8 に設定され、NLS\_NCHAR\_CHARACTERSET パラメータが AL16UTF16 に設定されていることを確認します。

```
select parameter, value from nls_database_parameters where parameter like '%CHARACTERSET%';
```

- ◆ (条件付き) 新しいユーザスキーマを作成してデータベースをマイグレートする場合は、次の要件を満たしていることを確認してください。
  - ◆ データベース管理者の資格情報を知っている必要があります。
  - ◆ Oracle のアクセスユーザに関連付けるための表領域がすでに存在している必要があります。
- ◆ ネットワーク内のサーバ上にある既存のユーザスキーマを使用して、次のシナリオでデータベースのマイグレートを選択できます。
  - ◆ データベース管理者が必要な権限を持つユーザスキーマを作成し、ZENworks 管理者は、そのユーザスキーマ用の資格情報をデータベース管理者から受け取ります。この場合、データベースをマイグレートするのにデータベース管理者の資格情報は必要ありません。
  - ◆ Oracle データベース内でユーザスキーマを作成し、データベースのマイグレーション時にそれを使用します。



既存のユーザスキーマを使用してデータベースをマイグレートする場合は、次の追加の要件を満たしているか確認します。

- ◆ ユーザスキーマにデータベースを作成する次の権限があることを確認します。

```
CREATE SESSION
CREATE_TABLE
CREATE_VIEW
CREATE_PROCEDURE
CREATE_SEQUENCE
CREATE_TRIGGER
```

- ◆ USERS 表領域上で、ユーザスキーマのクォータが無制限に設定されていることを確認します。
- ◆ 管理ゾーン内のすべてのサーバで実行されている ZENworks サービスを、手動で中止します。

サービスを中止するには、

- ◆ **Windows の場合** 次を実行します。

1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
3. [Novell ZENworks サーバ]、[Novell ZENworks Services Monitor]、および [Novell ZENworks エージェントサービス] のサービスを中止します。

- ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、次のコマンドを入力します。

- ◆ /etc/init.d/.novell-zenmntr stop
- ◆ /etc/init.d/.novell-zenserver stop
- ◆ /etc/init.d/.novell-zenloader stop

- ◆ プライマリサーバ上の Novell ZENworks 組み込みデータストアサービスが実行されていることを確認してください。

- ◆ **Windows の場合** : 次を実行します。

1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
3. [Novell ZENworks 組み込みデータストア] サービスのステータスは、[開始済み] である必要があります。

- ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、「/etc/init.d/.sybase-asa status」と入力します。

- ◆ (オプション) データベースマイグレーションの状態は、novell-zenworks-configure.log ファイルにログされます。デフォルトでは、Info (情報) および Severe (重度) のタイプのメッセージのみログされます。他のメッセージタイプ (たとえば、Finer (より良い)、Finest (最高)、および Warning (警告) など) もファイルにログしたい場合は、novell-zenworks-configure.properties ファイルで次のことを行います。

1. Logger.logLevel の値を適切なメッセージタイプに設定します。

たとえば、Finest (最高) のタイプをログする場合には、次のように設定します。

```
#Logger.logLevel = FINEST
```



2. 次のように「#」を外して、非コメント化します。

```
Logger.logLevel = FINEST
```

novell-zenworks-configure.properties ファイルは、Windows の場合は  
%ZENWORKS\_HOME%\conf\、Linux の場合は、/etc/opt/novell/zenworks/ にあります。

## 25.7.2 Sybase SQL Anywhere データベースから Oracle データベースへのデータのマイグレート

- ♦ 249 ページの「[Sybase SQL Anywhere データベースから Oracle データベースへのデータのマイグレート](#)」
- ♦ 250 ページの「[データベースのマイグレーションの再開](#)」

### Sybase SQL Anywhere データベースから Oracle データベースへのデータのマイグレート

- 1 [247 ページのセクション 25.7.1「データの移動の準備」](#)に一覧表示されているすべてのタスクが完了していることを確認してください。
- 2 データベースのマイグレーションユーティリティを実行します。
  - ♦ **Windows の場合** : コマンドプロンプトで `ZENworks_installation_path\bin\novell-zenworks-configure.bat` ファイルに移動し、次のコマンドを入力します。  
`novell-zenworks-configure.bat -c DBMigrateConfigureAction`
  - ♦ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、`/opt/novell/zenworks/bin` に移動し、次のコマンドを入力します。  
`novell-zenworks-configure -c DBMigrateConfigureAction`
- 3 ターゲットデータベースのタイプとして、**Oracle** を入力します。
- 4 Oracle データベースサーバの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
- 5 Oracle データベースサーバによって使用されるポートを入力します。
- 6 Oracle データベースの完全修飾ネットサービス名を入力します。
- 7 新しいユーザスキーマを作成するか、既存のユーザスキーマを使用するか選択できます。  
新しいユーザスキーマを作成する場合は、[ステップ 8](#) を続行します。  
既存のユーザスキーマを使用する場合は、[ステップ 9](#) へスキップします。
- 8 データベースサーバの管理者のユーザ名およびパスワードを入力します。
- 9 データベースのユーザ名の入力求められたら、スキーマ名を入力します。
- 10 データベースユーザのパスワードの入力が求められたら、データベーススキーマのパスワードを入力します。  
データベースのマイグレーションを開始します。
- 11 データベースのマイグレーションが終了したら、`novell-zenworks-configure.log` ファイルをチェックして、マイグレーションが正常に行われたかを確認できます。ログファイルは、Windows の場合は、`%ZENWORKS_HOME%\log\`、Linux の場合は、`/var/opt/novell/log/zenworks/` にあります。
- 12 データベースが正常にマイグレートされた後に、[250 ページのセクション 25.7.3「マイグレーション後のタスク」](#)に進みます。

## データベースのマイグレーションの再開

何らかの理由でデータベースのマイグレーションが停止した場合、dbmigration.xml ファイルが作成されていれば、ZENworks マイグレーションユーティリティを使用してマイグレーションを再開できます。ファイルは、Windows の場合は *ZENworks installation\_path\bin* ディレクトリ、Linux の場合は */opt/novell/zenworks/bin* ディレクトリにあります。

- 1 データベースのマイグレーションユーティリティを実行します。
  - ◆ **Windows の場合** : コマンドプロンプトで *ZENworks installation\_path\bin\novell-zenworks-configure.bat* ファイルに移動し、次のコマンドを入力します。  
`novell-zenworks-configure.bat -c DBMigrateConfigureAction`
  - ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、*/opt/novell/zenworks/bin* に移動し、次のコマンドを入力します。  
`novell-zenworks-configure -c DBMigrateConfigureAction`
- 2 ターゲットデータベースのタイプとして、**Oracle** を入力します。
- 3 **Oracle** データベースサーバの IP アドレスまたはホスト名を入力します。

データベースをマイグレートする際には、使用する **Oracle** データベースサーバの IP アドレスまたはホスト名を指定する必要があります。たとえば、データベースをマイグレートする際にデータベースサーバの IP アドレスを指定した場合は、データベースのマイグレーションを再開する場合にそれと同じ IP アドレスを指定する必要があります。データベースサーバのホスト名は指定できません。
- 4 **Oracle** データベースサーバによって使用されるポートを入力します。
- 5 **Oracle** データベースの完全修飾ネットサービス名を入力します。
- 6 既存のスキーマの使用を選択します。
- 7 データベースのマイグレーションを停止する前に指定したデータベースのユーザ名の入力が必要であれば、スキーマ名を入力します。
- 8 データベースのマイグレーションを停止する前に指定したデータベースユーザのパスワードの入力が求められたら、データベーススキーマのパスワードを入力します。
- 9 データベースのマイグレーションの再開を選択します。

データベースのマイグレーションを開始します。
- 10 データベースが正常にマイグレートされた後に、**250 ページのセクション 25.7.3 「マイグレーション後のタスク」**に進みます。

### 25.7.3 マイグレーション後のタスク

管理ゾーンに 1 つのサーバしかない場合、**Oracle** データベースにデータが正常にマイグレートされた後に、すべての **ZENworks** サービスが自動的に開始されます。

管理ゾーンに複数のサーバがある場合は、次の操作を行います。

- 1 マイグレーションユーティリティを実行するデバイスで、すべてのサーバの適切なディレクトリに次のファイルをコピーします。  
`zdm.xml`  
`dmaccounts.properties`  
`dmmappings.properties`

ファイルは、Windows の場合は、ZENworks\_installation\_path\conf\datamodel ディレクトリ、Linux の場合は /etc/opt/novell/zenworks/datamodel ディレクトリにあります。

## 2 ZENworks サービスを再起動します。

- ◆ **Windows の場合** : 次を実行します。

1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
3. [Novell ZENworks サーバ]、[Novell ZENworks Services Monitor]、および [Novell ZENworks エージェントサービス] のサービスを開始します。

- ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、次のコマンドを入力します。

- ◆ /etc/init.d/.novell-zenmnttr restart
- ◆ /etc/init.d/.novell-zenserver restart
- ◆ /etc/init.d/.novell-zenloader restart

## 3 Sybase SQL Anywhere データベースから Oracle データベースへの ZENworks レポートのマイグレート :

- 3a** ZENworks レポートングサーバのインスタンスを持たないプライマリサーバに、Oracle クライアントをインストールします。
- 3b** ZENworks レポートングサーバの新しいインスタンスを、Oracle クライアントがインストールしてあるデバイスにインストールします。
- 3c** レポートングサーバの新しいインスタンスが実行されているデバイスに、レポートをコピーします。これらは、マイグレートする前に保存した ZENworks レポートです。詳細については、[247 ページのセクション 25.7.1 「データの移動の準備」](#) を参照してください。
- 3d** 次のコマンドを使用して、レポートを発行し、レポートング権限およびレポートの所有権の詳細を復元します。  

```
zman rpld path_of_directory_containing_rights.xml_and_ownership.xml
```
- 3e** データベースのマイグレート前にインストールされていた ZENworks レポートングサーバのインスタンスをアンインストールします。

ZENworks サーバは、新しいデータベースを指しています。

Oracle 10g データベースの場合、ユーザソースのログイン名も含め、管理者名の大文字と小文字が区別されます。インストール中に自動作成されたデフォルトの ZENworks 管理者アカウントでは最初の文字に大文字を使用しているため、ZENworks コントロールセンターにログインするときには Administrator と入力する必要があります。

## 25.7.4 データベースのマイグレーションのトラブルシューティング

- ◆ [252 ページの「Java ヒープ領域例外のトラブルシューティング」](#)
- ◆ [252 ページの「Oracle データベースのクラッシュのトラブルシューティング」](#)
- ◆ [253 ページの「Oracle テーブルスペース問題のトラブルシューティング」](#)

- 253 ページの「データベースマイグレーション失敗問題のトラブルシューティング」
- 253 ページの「既存のユーザスキーマの使用によるデータベースマイグレーションのトラブルシューティング」

## Java ヒープ領域例外のトラブルシューティング

メモリ不足により、データベースマイグレーション時に Java ヒープ領域の例外が発生した場合は、次の操作を行います。

- 1 Windows の場合は `ZENworks_installation_path\bin\novell-zenworks-configure.bat` ファイル、Linux の場合は `/opt/novell/zenworks/bin/novell-zenworks-configure` を編集し、マイグレーションユーティリティが実行されているデバイスの RAM に応じて、次の行のヒープ領域の値を変更します。

```
"%JAVA_HOME%\bin\java" -Djava.library.path=%ZENLIB% -cp "%MYCP%"
%DEBUG_OPTS% %JAVA_OPTS% -Xmx128m
com.novell.zenworks.configure.ConfigureLoader %CONFIG_OPTS%
```

ヒープ領域の値は、-Xmx128m 以内のメガバイト (MB) で表されます。デフォルトでは、128 です。

たとえば、デバイスの RAM が 512 MB である場合、novell-zenworks-configure.bat ファイルの行を次のように更新できます。

```
"%JAVA_HOME%\bin\java" -Djava.library.path=%ZENLIB% -cp "%MYCP%"
%DEBUG_OPTS% %JAVA_OPTS% -Xmx512m
com.novell.zenworks.configure.ConfigureLoader %CONFIG_OPTS%
```

---

**重要：** ヒープ領域の値は、デバイスの RAM 以下である必要があります。

---

- 2 コンソールのプロンプトで、Windows の場合は `ZENworks_installation_path\bin\novell-zenworks-configure.bat` ファイル、Linux の場合は `/opt/novell/zenworks/bin/novell-zenworks-configure` を実行します。
- 3 表示される指示に従います。  
 マイグレーションの再開に必要なファイルの場所の入力を求められたら、DBMigration.xml の完全パスを入力します。ファイルは、Windows の場合は `ZENworks_installation_path\bin` ディレクトリ、Linux の場合は `/opt/novell/zenworks/bin` ディレクトリにあります。  
 XML ファイルには、テーブルが正常にマイグレートされたかどうかを示すテーブルおよびフラグのリストが含まれています。データベースマイグレーションの再開時に、フラグの値が `False` に設定されているテーブルのみがマイグレートされます。

## Oracle データベースのクラッシュのトラブルシューティング

データベースのマイグレーション中に Oracle データベースがクラッシュした場合：

- 1 コンソールのプロンプトで、Windows の場合は `ZENworks_installation_path\bin\novell-zenworks-configure.bat` ファイル、Linux の場合は `/opt/novell/zenworks/bin/novell-zenworks-configure` を実行します。
- 2 表示される指示に従います。  
 マイグレーションの再開に必要なファイルの場所の入力を求められたら、DBMigration.xml の完全パスを入力します。ファイルは、Windows の場合は `ZENworks_installation_path\bin` ディレクトリ、Linux の場合は `/opt/novell/zenworks/bin` ディレクトリにあります。

XML ファイルには、テーブルが正常にマイグレートされたかどうかを示すテーブルおよびフラグのリストが含まれています。データベースマイグレーションの再開時に、フラグの値が `False` に設定されているテーブルのみがマイグレートされます。

---

**重要：** DBMigration.xml のコンテンツは編集しないでください。

---

## Oracle テーブルスペース問題のトラブルシューティング

Oracle の `USERS` 表領域に `ZENworks` データベーススキーマを作成し保存するのに十分な領域がない場合は、表を作成しようとする、次のメッセージが表示されてデータベースのマイグレーションが失敗します。

```
SEVERE: Terminating the database migration...
SEVERE: An error has occurred while migrating the database.
```

この問題を解決するには、Oracle データベースの管理者が `USERS` 表領域のサイズを増やす必要があります。データの入っていない `ZENworks` データベーススキーマを作成するのに最低 100 MB と、マイグレートされるデータベースのサイズに応じて適切な追加の領域が表領域に存在することを確認してください。

## データベースマイグレーション失敗問題のトラブルシューティング

`NLS_CHARACTERSET` パラメータが `AL32UTF8` に設定されておらず、`NLS_NCHAR_CHARACTERSET` パラメータが `AL16UTF16` に設定されていない場合、データベースのマイグレーションが失敗し、次のエラーメッセージが表示されます。

```
Failed to run the sql script: localization-updater.sql,
message:Failed to execute the SQL command: insert into
zLocalizedMessage(messageid,lang,messagestr)
values('POLICYHANDLERS.EPE.INVALID_VALUE_FORMAT','fr','La strat gie {0} n'a
pas pu  tre appliqu e du fait que la valeur de la variable "{1}" n'est pas
dans un format valide. '),
message:ORA-00600: internal error code, arguments: [ktfbbsearch-7], [8], [],
[], [], [], [], []
```

この問題を解決するには、`NLS_CHARACTERSET` パラメータを `AL32UTF8` に設定し、`NLS_NCHAR_CHARACTERSET` パラメータを `AL16UTF16` に設定します。文字セットパラメータが推奨値で設定されたことを確認するには、データベースプロンプトで、次のクエリを実行します。

```
select parameter, value from nls_database_parameters where parameter like
'%CHARACTERSET%';
```

## 既存のユーザスキーマの使用によるデータベースマイグレーションのトラブルシューティング

既存のユーザスキーマを使用してデータベースをマイグレートする場合、データベースマイグレーションユーティリティは、`ZENworks` データベースを作成しますが、データのマイグレートに失敗する可能性があります。

この問題を解決するには、次の操作を行います。

- 1 新しく作成された ZENworks データベースから、データベース管理者が ZENworks のテーブル、ビュー、およびユーザーシーケンスを削除するようにしてください。その後、user\_recyclebin データベーステーブルをクリアします。
- 2 同じユーザースキーマを使用して、データベースのマイグレーションを再度開始します。詳細については、249 ページの「**Sybase SQL Anywhere データベースから Oracle データベースへのデータのマイグレート**」を参照してください。

## 25.7.5 Sybase データベースへ戻す

Sybase データベースの使用に戻す場合は、次の手順に従います。

- 1 マイグレーションユーティリティを実行するデバイスで、次のファイルの名前を変更します。

zdm.xml.bak to zdm.xml

dmaccounts.properties.bak to dmaccounts.properties

dmmappings.properties.bak to dmmappings.properties

ファイルは、Windows の場合は、ZENworks\_installation\_path\conf\datamodel ディレクトリ、Linux の場合は /etc/opt/novell/zenworks/datamodel ディレクトリにあります。

- 2 すべての ZENworks サービスを再起動します。

- ◆ **Windows の場合 :** 次を実行します。

1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
3. [Novell ZENworks サーバ]、[Novell ZENworks Services Monitor]、および [Novell ZENworks エージェントサービス] のサービスを開始します。

- ◆ **Linux の場合 :** コンソールのプロンプトで、次のコマンドを入力します。

- ◆ /etc/init.d/.novell-zenmntr restart
- ◆ /etc/init.d/.novell-zenserver restart
- ◆ /etc/init.d/.novell-zenloader restart

- 255 ページのセクション 26.1「ある外部 Sybase データベースから別の外部 Sybase データベースへデータを移動する」
- 257 ページのセクション 26.2「別の MS SQL データベースから移動されたデータが含まれている新しい MS SQL データベースを指すように、ZENworks サーバを設定する」
- 258 ページのセクション 26.3「別の Oracle データベースから移動されたデータが含まれている新しい Oracle データベースを指すように、ZENworks サーバを設定する」

## 26.1 ある外部 Sybase データベースから別の外部 Sybase データベースへデータを移動する

ZENworks 10 Configuration Management では、ある OEM Sybase データベース ( 外部 Sybase データベース ) から、別の外部 Sybase データベースにデータを移動できます。

- 255 ページのセクション 26.1.1「データの移動の準備」
- 255 ページのセクション 26.1.2「ある外部の Sybase から別の外部の Sybase へのデータの移動」

### 26.1.1 データの移動の準備

ある外部 Sybase データベースから別の外部 Sybase データベースにデータを移動する前に、次の操作を行います。

- Windows デバイスまたは Linux デバイス上に、外部 Sybase データベースとともに、ZENworks 10 Configuration Management がインストールされていることを確認してください。このデータベースから、別の外部データベースにデータが移動しました。
- 外部 Sybase データベースがインストールされている、別の Windows デバイスまたは Linux デバイスがあるようにしてください。外部 Sybase データベースのインストール方法の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド』の「外部 ZENworks データベースのインストール」を参照してください。

### 26.1.2 ある外部の Sybase から別の外部の Sybase へのデータの移動

次の手順では、データの移動元のデバイスを EDB1、データの移動先のデバイスを EDB2 とします。

- 1 データの移動元の EDB1 デバイスで、Novell ZENworks 組み込みデータストアサービスを停止します。
  - **Windows の場合 :** 次を実行します。
    1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。



2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
  3. [Novell ZENworks 組み込みデータストア] サービスを右クリックして [中止] をクリックするか、[Novell ZENworks 組み込みデータストア] サービスを選択してツールバー上の [■] をクリックします。
- ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、「/etc/init.d/.sybase-asa stop」と入力します。
- 2 EDB1 デバイスから、zenworks\_database.conf および database ディレクトリ内のすべてのファイルを、EDB2 デバイス上にある適切なディレクトリにコピーします。  
zenworks\_database.conf は、Windows の場合は ZENworks\_installation\_path\conf\ ディレクトリ、Linux の場合は /etc/opt/novell/zenworks/ ディレクトリにあります。  
database ディレクトリは、Windows の場合はデフォルトで ZENworks\_installation\_path ディレクトリ、Linux の場合は /var/opt/novell/zenworks/ ディレクトリにあります。
  - 3 EDB2 デバイスで、zenworks\_database.conf を開き、データベースファイルの正しいパスが含まれていることを確認してください。
  - 4 EDB1 デバイスで、zdm.xml を編集します (Windows の場合は ZENworks\_installation\_path\conf\datamodel、Linux の場合は /etc/opt/novell/zenworks/datamodel にあります)。
    - ◆ Server エントリキーの値を、EDB2 デバイスの IP アドレスに設定します。
    - ◆ Port エントリキーの値が、EDB2 デバイスが実行されているポート番号であることを確認します。
  - 5 EDB2 デバイスで、Novell ZENworks 組み込みデータストアサービスを開始します。
    - ◆ **Windows の場合** : 次を実行します。
      1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
      2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
      3. [Novell ZENworks 組み込みデータストア] サービスを右クリックし、[スタート] をクリックするか、または [Novell ZENworks 組み込みデータストア] サービスを選択します。次に、ツールバーで [■] をクリックします。
    - ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、「/etc/init.d/.sybase-asa start」と入力します。
  - 6 EDB1 デバイスで、ZENworks サービスを再起動します。
    - ◆ **Windows の場合** : 次を実行します。
      1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
      2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
      3. [Novell ZENworks サーバ]、[Novell ZENworks Services Monitor]、および [Novell ZENworks エージェントサービス] のサービスを開始します。
    - ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、次のコマンドを入力します。
      - ◆ /etc/init.d/.novell-zenmntr restart
      - ◆ /etc/init.d/.novell-zenserver restart
      - ◆ /etc/init.d/.novell-zenloader restart

ZENworks サーバは、新しいデータベース (EDB2) を指しています。



## 26.2 別の MS SQL データベースから移動されたデータが含まれている新しい MS SQL データベースを指すように、ZENworks サーバを設定する

ある MS SQL データベースから別の MS SQL データベースにデータを移動する場合、新しい MS SQL データベースを指すように ZENworks サーバを設定する必要があります。

次のセクションでは、詳細情報について説明します。

- ◆ 257 ページのセクション 26.2.1 「データの移動の準備」
- ◆ 257 ページのセクション 26.2.2 「新しい MS SQL データベースを指すように ZENworks サーバを設定する」

### 26.2.1 データの移動の準備

新しい MS SQL データベースを指すようにサーバを設定する前に、次の操作を行います。

- ◆ ZENworks 10 Configuration Management が、MS SQL データベースとともに、(Windows または Linux 上に) インストールされていることを確認します。このデータベースから、別の MS SQL データベースにデータがマイグレートされました。このデバイスが MSDB1 と呼ばれているとします。
- ◆ MS SQL データベースがインストールされている別の Windows デバイスがあるようにしてください。このデバイスが MSDB2 と呼ばれているとします。MS SQL データベースのインストール方法の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド』の「外部 ZENworks データベースのインストール」を参照してください。
- ◆ MSDB1 から MSDB2 へのデータの移動の詳細については、MS SQL データベースのマニュアルを参照してください。

### 26.2.2 新しい MS SQL データベースを指すように ZENworks サーバを設定する

新しいデータベース (MSDB2) を指すように ZENworks サーバを設定するには、次の手順に従います。

- 1 MSDB1 デバイスで、zdm.xml (Windows の場合は `ZENworks_installation_path\conf\datamodel`、Linux の場合は `/etc/opt/novell/zenworks/datamodel` にあります) を編集し、次の操作を行います。
  - ◆ Port エントリキーの値が、MS SQL データベースが実行されているポート番号であることを確認してください。
  - ◆ Server エントリキーの値を、MSDB2 デバイスの IP アドレスに設定します。
  - ◆ Database エントリキーの値を、MSDB2 デバイスのデータベースディレクトリのパスに設定します。
- 2 MSDB1 デバイスで、ZENworks サービスを再起動します。
  - ◆ **Windows の場合 :** 次を実行します。
    1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。

2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
  3. [Novell ZENworks サーバ]、[Novell ZENworks Services Monitor]、および [Novell ZENworks エージェントサービス] のサービスを開始します。
- ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、次のコマンドを入力します。
    - ◆ /etc/init.d/.novell-zenmntr restart
    - ◆ /etc/init.d/.novell-zenserver restart
    - ◆ /etc/init.d/.novell-zenloader restart

## 26.3 別の Oracle データベースから移動されたデータが含まれている新しい Oracle データベースを指すように、ZENworks サーバを設定する

ある Oracle データベースから別の Oracle データベースにデータを移動する場合、新しい Oracle データベースを指すように ZENworks サーバを設定する必要があります。

次のセクションでは、詳細情報について説明します。

- ◆ 258 ページのセクション 26.3.1 「データの移動の準備」
- ◆ 259 ページのセクション 26.3.2 「新しい Oracle データベースを指すように ZENworks サーバを設定する」

### 26.3.1 データの移動の準備

新しい Oracle データベースを指すようにサーバを設定する前に、次の操作を行います。

- ◆ ZENworks 10 Configuration Management が、Oracle データベースとともに、(Windows または Linux 上に) インストールされていることを確認します。このデータベースから、別の Oracle データベースにデータがマイグレートされました。このデバイスが ORDB1 と呼ばれているとします。
- ◆ ORDB1 と同じデータベース資格情報で Oracle データベースがインストールされた別な Windows デバイスがあることを確認します。このデバイスが ORDB2 と呼ばれているとします。Oracle データベースのインストール方法の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド』の「外部 ZENworks データベースのインストール」を参照してください。
- ◆ ORDB1 から ORDB2 にデータを移動します。データの移動の詳細については、Oracle データベースのマニュアルを参照してください。

## 26.3.2 新しい Oracle データベースを指すように ZENworks サーバを設定する

新しい Oracle データベース (ORDB2) を指すように ZENworks サーバを設定するには、次の手順に従います。

- 1 ORDB1 デバイスで、zdm.xml (Windows の場合は *ZENworks\_installation\_path*\conf\datamodel、Linux の場合は /etc/opt/novell/zenworks/datamodel にあります) を編集し、次の操作を行います。
  - ◆ Port エントリキーの値が、Oracle データベースが実行されているポート番号であることを確認してください。
  - ◆ Server エントリキーの値を、ORDB2 デバイスの IP アドレスに設定します。
  - ◆ Database エントリキーの値を、ORDB2 デバイスにインストールされた Oracle データベースのネットサービス名に設定します。
- 2 ORDB1 デバイスで、ZENworks サービスを再起動します。
  - ◆ **Windows の場合 :** 次を実行します。
    1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
    2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
    3. [Novell ZENworks サーバ]、[Novell ZENworks Services Monitor]、および [Novell ZENworks エージェントサービス] のサービスを開始します。
  - ◆ **Linux の場合 :** コンソールのプロンプトで、次のコマンドを入力します。
    - ◆ /etc/init.d/.novell-zenmtr restart
    - ◆ /etc/init.d/.novell-zenserver restart
    - ◆ /etc/init.d/.novell-zenloader restart



このセクションには、広範なゾーン機能を制御できる管理ゾーン環境設定に関する情報が含まれています。

- ◆ 263 ページの第 27 章「管理ゾーンの環境設定の変更」



管理ゾーンの環境設定によって、ゾーンの機能を広い範囲で制御できます。デバイスにコンテンツを配布する時間およびZENworksのサーバ間でコンテンツを複製する頻度(複数のサーバがある場合)を制御する[コンテンツ]設定があります。デバイス管理設定では、デバイスが更新された情報を確認するためにZENworksサーバにアクセスする頻度、動的グループの更新頻度、およびどのレベルのメッセージ(情報、警告、またはエラー)をZENworks Adaptive Agentで記録するかを制御することができます。インベントリ、ディスカバリおよび展開設定、その他さまざまな設定があります。

環境設定はカテゴリにグループ化されます。

- ◆ 263 ページのセクション 27.1「環境設定のアクセス」
- ◆ 266 ページのセクション 27.2「コンテンツ設定」
- ◆ 267 ページのセクション 27.3「デバイス管理の設定」
- ◆ 268 ページのセクション 27.4「検出と展開の設定」
- ◆ 268 ページのセクション 27.5「イベントとメッセージング設定」
- ◆ 269 ページのセクション 27.6「インフラ管理設定」
- ◆ 269 ページのセクション 27.7「インベントリ設定」
- ◆ 270 ページのセクション 27.8「レポートサービスの設定」
- ◆ 271 ページのセクション 27.9「Asset Management 設定」
- ◆ 271 ページのセクション 27.10「パッチ管理サービス設定」

## 27.1 環境設定のアクセス

デバイスに適用する管理ゾーンの設定は、ゾーン内のすべてのデバイスに継承されます。ゾーン設定は、デバイスフォルダまたは個々のデバイス上でゾーン設定を行うことで上書きできます。これにより、必要に応じて最多のデバイスに適用するゾーン設定を確立して、フォルダおよびデバイス状の設定を上書きすることができます。

デフォルトでは、ゾーンの設定は一般的な機能を提供する値を使用して事前に設定されています。ただし、使用している環境で必要な動作に適応するように設定を変更することができます。

- ◆ 263 ページのセクション 27.1.1「ゾーンでの環境設定の変更」
- ◆ 264 ページのセクション 27.1.2「フォルダの環境設定の変更」
- ◆ 265 ページのセクション 27.1.3「デバイスでの環境設定の変更」

### 27.1.1 ゾーンでの環境設定の変更

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで、変更する設定の設定カテゴリ([コンテンツ]、[デバイス管理]、[ディスカバリと展開]、[イベントとメッセージング] など)をクリックします。



3 設定をクリックして、詳細ページを表示します。

4 必要に応じて、設定を変更します。

設定の詳細については、ZENworks コントロールセンターで [ヘルプ] ボタンをクリックするか、次のセクションを参照してください。

- ◆ 266 ページの「コンテンツ設定」
- ◆ 267 ページの「デバイス管理の設定」
- ◆ 268 ページの「検出と展開の設定」
- ◆ 268 ページの「イベントとメッセージング設定」
- ◆ 269 ページの「インフラ管理設定」
- ◆ 269 ページの「インベントリ設定」
- ◆ 270 ページの「レポーティングサービスの設定」
- ◆ 271 ページの「Asset Management 設定」
- ◆ 271 ページの「パッチ管理サービス設定」

5 設定の変更が完了したら、[OK] (または [適用]) をクリックして変更内容を保存します。

環境設定がデバイスに適用されると、設定がフォルダレベルまたはデバイスレベルで上書きされない限り、設定はゾーン内のすべてのデバイスに継承されます。

## 27.1.2 フォルダの環境設定の変更

1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。

2 [デバイス] パネル ([管理対象] タブ) で、設定を変更するフォルダを参照します。

3 フォルダが見つかったら、フォルダ名の隣にある [詳細] をクリックしてフォルダの詳細を表示します。

4 [設定] タブをクリックします。

5 [設定] パネルで、変更する設定の設定カテゴリ ([コンテンツ]、[デバイス管理]、[インフラ管理] など) をクリックします。



## ワークステーション

概要 関係 設定

設定		
コンテンツ		≡
デバイス管理		≡
カテゴリ	説明	から継承
<a href="#">ローカルデバイスのログ</a>	管理対象デバイスが遭遇した警告およびエラーのローカルログを有効にして設定します。	(システム)
<a href="#">デバイスの更新スケジュール</a>	デバイスの更新間隔を設定します。	(システム)
<a href="#">ZENworksエージェント</a>	ZENworksエージェントを設定します。	(システム)
<a href="#">登録</a>	登録設定を構成します。	(システム)
<a href="#">ZENworks Explorer設定</a>	管理対象デバイス上でのZENworks Explorerの動作を設定します。	(システム)
<a href="#">システム変数</a>	システム変数を設定します。	---
<a href="#">起動前サービス</a>	ブレードサービスを設定します。	(システム)
<a href="#">プライマリユーザ</a>	プライマリユーザの決定方法の設定を構成します。	---
<a href="#">リモート管理</a>	リモート管理を有効にして設定します。	(システム)
<a href="#">デバイスの動的名前変更</a>	デバイスの自動名前変更を有効にします。	(システム)
インフラ管理		≡
インベントリ		≡
アセット管理		≡

6 設定をクリックして、詳細ページを表示します。

7 必要に応じて、設定を変更します。

設定の詳細については、ZENworks コントロールセンターで [ヘルプ] ボタンをクリックするか、または次のセクションを参照してください。

- 266 ページの「コンテンツ設定」
- 267 ページの「デバイス管理の設定」
- 268 ページの「検出と展開の設定」
- 268 ページの「イベントとメッセージング設定」
- 269 ページの「インフラ管理設定」
- 269 ページの「インベントリ設定」
- 270 ページの「レポートングサービスの設定」
- 271 ページの「Asset Management 設定」
- 271 ページの「パッチ管理サービス設定」

8 設定の変更が完了したら、[OK] (または [適用]) をクリックして変更内容を保存します。

環境設定は、設定がサブフォルダまたは個別のデバイス上で上書きされない限り、サブフォルダに含まれるすべてのデバイスを含めフォルダ内のすべてのデバイスによって継承されます。

### 27.1.3 デバイスでの環境設定の変更

1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。

2 [デバイス] パネル ([管理対象] タブ) で、設定を変更するデバイスを参照します。

- 3 デバイスを見つけたら、デバイス名をクリックして詳細を表示します。
- 4 [設定] タブをクリックします。
- 5 [設定] パネルで、変更したい設定の設定カテゴリ ( [コンテンツ]、[デバイス管理]、[インフラ管理] など ) をクリックします。

[デバイス](#) > [サーバ](#) > nov-fr-ddsvr

9-9 ▼

nov-fr-ddsvr

概要	インベントリ	関係	設定	コンテンツ	統計情報	パッチ
設定						
コンテンツ						▼
デバイス管理						⌵
カテゴリ	説明	から継承				
<a href="#">ローカルデバイスのログ</a>	管理対象デバイスが遭遇した警告およびエラーのローカルログを有効にして設定します。	(システム)				
<a href="#">デバイスの更新スケジュール</a>	デバイスの更新間隔を設定します。	(システム)				
<a href="#">ZENworks エージェント</a>	ZENworks エージェントを設定します。	(システム)				
<a href="#">ZENworks Explorer 設定</a>	管理対象デバイス上での ZENworks Explorer の動作を設定します。	(システム)				
<a href="#">システム変数</a>	システム変数を設定します。	---				
<a href="#">起動前サービス</a>	ブレードサービスを設定します。	(システム)				
<a href="#">プライマリユーザ</a>	プライマリユーザの決定方法の設定を構成します。	---				
<a href="#">リモート管理</a>	リモート管理を有効にして設定します。	(システム)				
インフラ管理						▼
インベントリ						▼
アセット管理						▼

- 6 設定をクリックして、詳細ページを表示します。
- 7 必要に応じて、設定を変更します。

設定の詳細については、ZENworks コントロールセンターで [ヘルプ] ボタンをクリックするか、または次のセクションを参照してください。

- ◆ 266 ページの「コンテンツ設定」
- ◆ 267 ページの「デバイス管理の設定」
- ◆ 268 ページの「検出と展開の設定」
- ◆ 268 ページの「イベントとメッセージング設定」
- ◆ 269 ページの「インフラ管理設定」
- ◆ 269 ページの「インベントリ設定」
- ◆ 270 ページの「レポートングサービスの設定」
- ◆ 271 ページの「Asset Management 設定」
- ◆ 271 ページの「パッチ管理サービス設定」

- 8 設定の変更が完了したら、[OK] ( または [適用] ) をクリックして変更内容を保存します。

## 27.2 コンテンツ設定

[コンテンツ] セクションには、次の設定が含まれています。

**コンテンツ停止スケジュール:** コンテンツ (バンドル、ポリシー、環境設定など) がデバイスに提供されない時間帯を定義します。詳細については、[コンテンツ停止スケジュール \(../resources/help/settings\\_sysreplication.html\)](#) を参照してください。

**コンテンツの複製:** コンテンツ (バンドルファイルおよびポリシーファイル) が ZENworks プライマリサーバおよびサテライトサーバ上で更新される頻度を決定します。詳細については、[コンテンツの複製 \(../resources/help/settings\\_contentreplication.html\)](#) を参照してください。

## 27.3 デバイス管理の設定

[デバイス管理] セクションには、次の設定が含まれています。

**ローカルデバイスのログ:** メッセージを管理対象デバイスのローカルドライブにログするように設定します。ログするメッセージの重大度のレベル、およびログファイルをバックアップするタイミングを決定できます。また、ZENworks コントロールセンターで表示するために、ZENworks サーバに送信されるメッセージの重大度のレベルも決定できます。詳細については、[ローカルデバイスのログ \(../resources/help/settings\\_syslocallogging.html\)](#) を参照してください。

**デバイスの更新スケジュール:** デバイスが、バンドル、ポリシー、環境設定、および登録情報の更新のため、ZENworks サーバにコンタクトする頻度を指定します。また、一定の日数の間に ZENworks サーバに連絡しないデバイスにどのように対処するかも指定できます。詳細については、[デバイス更新スケジュール \(../resources/help/settings\\_sysrefreshsched.html\)](#) を参照してください。

**ZENworks Agent:** ZENworks Adaptive Agent 用のアンインストールおよびキャッシングの設定や、特定の Adaptive Agent モジュールの有効化または無効化を行います。詳細については、[ZENworks Agent \(../resources/help/settings\\_agent.html\)](#) を参照してください。

**登録:** 登録されているデバイスの命名方法、登録ルールが有効かどうか、および ZENworks コントロールセンター内のデバイスオブジェクトの登録情報が更新される際に名前を変更できるかどうかなどを含む、デバイスの登録時に使用される設定を制御します。詳細については、[登録 \(../resources/help/settings\\_registration.html\)](#) を参照してください。

**ZENworks Explorer の環境設定:** ZENworks Adaptive Agent の ZENworks Explorer コンポーネントの一般設定を行います。バンドルがデバイスやデバイスのユーザに割り当てられなくなった後、それをアンインストールするかどうかを選択できます。また、Windows Explorer 内、[スタート] メニュー上、およびすべてのバンドルが含まれている ZENworks ウィンドウ内のデフォルトフォルダの名前を変更できます。詳細については、[ZENworks Explorer の環境設定 \(../resources/help/settings\\_applicationbundles.html\)](#) を参照してください。

**システム変数:** ZENworks コントロールセンターに情報を入力する際に、パス、名前、その他を置き換えるために使用できる変数を定義します。詳細については、[システム変数 \(../resources/help/settings\\_systemvariables.html\)](#) を参照してください。

**起動前サービス:** 起動前サービスを使用するデバイスを設定します。詳細については、[起動前サービス \(../resources/help/settings\\_sysimaging.html\)](#) を参照してください。

**プライマリユーザ:** いつ、どのようにデバイスのプライマリユーザが計算されるかを決定します。詳細については、[プライマリユーザ \(../resources/help/settings\\_primaryuser.html\)](#) を参照してください。

**プライマリワークステーション:** いつ、どのようにデバイスのプライマリワークステーションが計算されるかを決定します。[なし(計算しない)] オプションを選択して、計算を無効にすることもできます。詳細については、[プライマリワークステーション \(../resources/help/settings\\_primaryws.html\)](http://resources/help/settings_primaryws.html) を参照してください。

**動的グループの更新スケジュール:** グループ内のメンバーシップを更新するために、動的グループの条件がデバイスに適用される頻度を決定します。動的グループ内のメンバーシップは、動的グループの基準をデバイスに適用することで決定されます。デバイスが基準を満たす場合は、グループに追加されます。動的グループに手動でデバイスを追加したり、動的グループからデバイスを削除したりすることはできません。詳細については、[動的グループの更新スケジュール \(../resources/help/settings\\_dynamicgroupschedule.html\)](http://resources/help/settings_dynamicgroupschedule.html) を参照してください。

**Wake-on-LAN:** デバイスの起動を再試行する回数および再試行の間隔を設定します。詳細については、[Wake-on-LAN \(../resources/help/settings\\_wakeonlan.html\)](http://resources/help/settings_wakeonlan.html) を参照してください。

**リモート管理:** 管理対象デバイスでのリモート管理サービスの動作または実行を決めるルールのセットである、リモート管理の設定を行います。詳細については、[リモート管理 \(../resources/help/settings\\_sysremotemanagement.html\)](http://resources/help/settings_sysremotemanagement.html) を参照してください。

## 27.4 検出と展開の設定

[検出と展開] セクションには、次の設定が含まれています。

**アドバタイズされた検出設定:** ZENworks システムが、ZENworks のプレエージェントがインストールされているネットワーク上のデバイスの検出を試行する頻度を指定します。詳細については、[アドバタイズされた検出設定 \(../resources/help/settings\\_discovery\\_advertised.html\)](http://resources/help/settings_discovery_advertised.html) を参照してください。

**調査:** 一度に実行できる検出要求の最大数や検出に使用するテクノロジーなどを含む、検出プロセス時に使用される設定を制御します。また、WMI (Windows\* Management Instrumentation) および SNMP 検出技術で使用する IP と SNMP の設定も指定できます。詳細については、[検出 \(../resources/help/settings\\_discoverysettings.html\)](http://resources/help/settings_discoverysettings.html) を参照してください。

**Windows プロキシ:** ZENworks サーバの代わりに検出と展開を実行を実行するためのゾーン内にある管理対象の Windows デバイスを指定します。これは、主に Linux 上で動作する ZENworks サーバが、WMI や WinAPI などの Windows 特有の検出技術を使用する検出タスク、および管理対象の Windows デバイスを使用する展開タスクの負担を減らすことができるように設計されています。詳細については、[Windows プロキシ \(../resources/help/settings\\_winproxysettings.html\)](http://resources/help/settings_winproxysettings.html) を参照してください。

## 27.5 イベントとメッセージング設定

[イベントとメッセージング] セクションには、次の設定が含まれています。

**集中型のメッセージログ:** メッセージの自動クリーンアップ、電子メール通知、SNMP トラップ、および UDP 転送を含む、プライマリサーバによって実行されるメッセージログに関連する設定を行います。詳細については、[集中型のメッセージログ \(../resources/help/settings\\_syscentralizedlogging.html\)](http://resources/help/settings_syscentralizedlogging.html) を参照してください。

**SMTP 設定 :** 電子メール通知を ZENworks 管理者に送信するように SMTP サーバを設定します。詳細については、[SMTP 設定 \(../resources/help/settings\\_smtpsettings.html\)](#) を参照してください。

## 27.6 インフラ管理設定

[インフラ管理] セクションには、次の設定が含まれています。

**最密サーバのデフォルトのルール :** 最密のサーバルールが定義されていない場合や、いずれも適用されない場合に、最も近いコレクションサーバ、コンテンツサーバ、および設定サーバをデバイスが特定するために使用するルールを定義します。このルールは、デバイスにコンタクトさせたい順番にサーバを並べただけのリストです。リストにサーバを追加したり、リストからサーバを削除することはできません。詳細については、[最密サーバのデフォルトルール \(../resources/help/settings\\_closestserverdefaultrule.html\)](#) を参照してください。

**最密サーバルール :** ZENworks 管理ゾーンに複数のサーバが含まれる場合、デバイスがコレクション、コンテンツ、および設定機能に関してどのサーバに連絡するかを決定するために使用されるルールを作成します。詳細については、[最密サーバルール \(../resources/help/settings\\_closestserverrules.html\)](#) を参照してください。

**HTTP プロキシ設定 :** 使用するプロキシサーバを定義します。プロキシサーバを使用すると、デバイスはそれを介して ZENworks サーバに間接的に接続できます。デバイスの ZENworks Adaptive Agent はプロキシサーバに接続し、その後、ZENworks サーバへリソースをリクエストします。プロキシは、ZENworks サーバに接続してリソースを提供するか、キャッシュからリソースを提供します。詳細については、[HTTP プロキシ設定 \(../resources/help/settings\\_httpproxy.html\)](#) を参照してください。

**システム更新設定 :** 更新をチェックする頻度、ダウンロードスケジュールの指定、電子メール通知の設定などを含む、システム更新機能をどのように使用するかを設定します。詳細については、[システム更新設定 \(../resources/help/settings\\_systemupdate.html\)](#) を参照してください。

**ZENworks のニュース設定 :** ZENworks ニュースをダウンロードするサーバとスケジュールを設定します。詳細は、「[ZENworks のニュース設定 \(../resources/help/settings\\_zenworksnews.html\)](#)」を参照してください。

## 27.7 インベントリ設定

[インベントリ] セクションには、次の設定が含まれています。

**インベントリ :** オンデマンドスキャン、初期スキャン、および繰り返しスキャンを含む、インベントリスキャンの設定を行います。スキャン実行時に省略するディレクトリを指定したり、ZENworks Knowledgebase に含まれていないソフトウェアアプリケーションを識別したりすることもできます。詳細については、[インベントリ \(../resources/help/settings\\_sysinventory.html\)](#) を参照してください。

**インベントリスケジュール :** スキャンが自動実行されないような指定、または日付指定、繰り返し、イベントドリブンスキャンなどの指定を含む、インベントリスキャンを実行するタイミングを指定します。詳細については、[インベントリスケジュール \(../resources/help/settings\\_sysinventoryschedule.html\)](#) を参照してください。

**コレクションデータフォーム**：デバイス向けにどのデモグラフィックデータ（ユーザの名前または電話番号、ユーザが所属する部署など）を収集するか設定します。詳細については、[コレクションデータフォーム \(../resources/help/settings\\_sysinventorycollectwizard.html\)](http://../resources/help/settings_sysinventorycollectwizard.html) を参照してください。

**コレクションデータフォームのスケジュール**：コレクションデータフォームの送信方法を設定します。通常のインベントリスキャンの一部としてスケジュールしたり、「デバイスのクイックタスク」を使用したり、「コレクションデータフォームのスケジュール」を使用したりすることができます。詳細については、[コレクションデータフォームのスケジュール \(../resources/help/settings\\_sysinventorywizardschedule.html\)](http://../resources/help/settings_sysinventorywizardschedule.html) を参照してください。

**インベントリのみ**：ZENworks Adaptive Agent はインストールされていないものの、インベントリモジュールがインストールされているゾーン内で、デバイス用のインベントリスキャン設定を行います。このタイプのスキャンは、Windows NT、Windows 95、Windows 98、Windows Me、NetWare、および Mac OS\* X で動作するデバイスに対して役立ちます。詳細については、[インベントリのみ \(../resources/help/settings\\_sysumi.html\)](http://../resources/help/settings_sysumi.html) を参照してください。

**インベントリのためのスケジュール**：インベントリのためのスキャンを実行するタイミングを設定します。詳細については、[インベントリのためのスケジュール \(../resources/help/settings\\_sysumischedule.html\)](http://../resources/help/settings_sysumischedule.html) を参照してください。

**インベントリのための調整**：データベース内で重複が起こらないように新しいワークステーションを調整するかどうか、および調整方法を制御します。管理ゾーンに対して新規のワークステーションのスキャンが行われると、ワークステーションに識別子が割り当てられます。ディスク破損などによって識別子が失われた場合は、次のスキャン時に新しい識別子が割り当てられます。調整を使用すると、ワークステーションが既にデータベースに含まれているかどうかを確認できます。含まれる場合は、データベース内の識別子が新しい識別子に一致するように変更されます。詳細については、[インベントリのための調整 \(../resources/help/settings\\_sysinventoryreconcile.html\)](http://../resources/help/settings_sysinventoryreconcile.html) を参照してください。

## 27.8 レポートینگサービスの設定

[レポートینگサービス] セクションには、次の設定が含まれています。

**電子メール通知の設定**：ZENworks 管理者に電子メール通知を送信するように ZENworks レポートینگサーバを設定します。詳細については、[電子メール通知の設定 \(../resources/help/cfg\\_mzset\\_reptsrv\\_set.html\)](http://../resources/help/cfg_mzset_reptsrv_set.html) を参照してください。

**フォルダ同期スケジュール**：ZENworks レポートینگサーバ Infoview で作成した [カスタムレポート] フォルダを ZENworks コントロールセンターと同期させる更新間隔を定義します。詳細については、[フォルダ同期スケジュール \(../resources/help/cfg\\_report\\_foldersync.html\)](http://../resources/help/cfg_report_foldersync.html) を参照してください。

**ZENworks レポートینگサーバのパスフレーズをリセット**：ユーザは、ZENworks レポートینگサーバのパスフレーズをリセットできます。詳細については、[パスフレーズのリセット \(../resources/help/cfg\\_report\\_resetpassphrase.html\)](http://../resources/help/cfg_report_resetpassphrase.html) を参照してください。

**ファイルの場所の通知設定**：ZENworks レポートینگサーバまたはその他のリモートサーバのレポートインスタンス用の宛先ディレクトリを指定します。詳細については、[ファイルの場所の通知設定 \(../resources/help/cfg\\_report\\_filelocsettings.html\)](http://../resources/help/cfg_report_filelocsettings.html) を参照してください。



**FTP サーバ通知設定**：レポーティングインスタンスを転送する FTP サーバに宛先を指定します。詳細については、[FTP サーバ通知設定 \(../resources/help/cfg\\_report\\_ftpsrvrsettings.html\)](#) を参照してください。

## 27.9 Asset Management 設定

[Asset Management] セクションには、次の設定が含まれています。

**レポート**：Asset Management 用のレポート設定を行います。詳細については、[レポート \(../resources/help/settings\\_sysamreport.html\)](#) を参照してください。

**コンプライアンス**：ライセンスコンプライアンスデータが更新される時間を設定します。詳細については、[コンプライアンス \(../resources/help/settings\\_sysamcompliance.html\)](#) を参照してください。

**使用状況モニタリング**：ソフトウェアの使用率監視を有効にします。詳細については、[使用状況モニタリング \(../resources/help/am\\_usagemonitor.html\)](#) を参照してください。

**使用表示**：使用状況データを、ZENworks コントロールセンターの [ライセンス管理] ページ ( [アセット管理] > [ライセンス管理] タブ ) に表示するかどうかを設定します。詳細については、[使用表示 \(../resources/help/am\\_usagedisplay.html\)](#) を参照してください。

### 27.10 パッチ管理サービス設定

[パッチ管理サービス] セクションには、次の設定が含まれています。

**サブスクリプションサービスの情報**：ステータスを含む、サブスクリプションに関する情報を表示します。サブスクリプション設定を更新することもできます。詳細については、[サブスクリプションサービスの情報 \(../resources/help/b9f6zcf.html\)](#) を参照してください。

**製品のシリアル番号**：ZENworks プライマリサーバのパッチ管理サブスクリプションを表示して検証します。また、支払済みのサブスクリプションをアクティブ化したり、有効期限が切れた場合にサブスクリプションを更新したりすることもできます。このページでは、パッチ管理アクティビティの一部であるすべてのサブスクリプション要素の概要が表示されます。詳細については、[製品のシリアル番号 \(../resources/help/b9f92rl.html\)](#) を参照してください。

**HTTP プロキシの設定**：インターネットのパッチサブスクリプションにアクセスするための HTTP プロキシを設定します。HTTP プロキシサーバを使用すると、ZENworks Patch Management サービスがサブスクリプションサービスをインターネット経由でダウンロードできます。詳細については、[HTTP プロキシの設定 \(../resources/help/b9f9hi0.html\)](#) を参照してください。

**サブスクリプションのダウンロード**：ZENworks プライマリサーバ用のサブスクリプションダウンロードオプションを設定します。詳細については、[サブスクリプションのダウンロード \(../resources/help/b9fa3i3.html\)](#) を参照してください。





# メッセージログ



このセクションでは、Novell® ZENworks® システムの設定および管理に役立つ Message Logger の機能とプロシージャに関する情報を提供します。

- ◆ 275 ページの第 28 章「概要」
- ◆ 277 ページの第 29 章「Message Logger の設定」
- ◆ 283 ページの第 30 章「メッセージの管理」



Novell® ZENworks® 10 Configuration Management の Message Logger コンポーネントを使用すると、他の ZENworks コンポーネント (zenloader、webservice、ZMD(ZENworks Management Daemon)、リモート管理、ポリシーエンフォーサなど) がさまざまな出力ターゲットにメッセージをログすることができます。出力ターゲットには、システムログ、ローカルログ、データベース、SMTP、SNMP トラップ、および UDP があります。

次のセクションでは、Message Logger コンポーネントに関する追加情報について説明します。

- ◆ 275 ページのセクション 28.1 「Message Logger の機能」
- ◆ 275 ページのセクション 28.2 「メッセージ重大度」
- ◆ 276 ページのセクション 28.3 「メッセージ形式」

## 28.1 Message Logger の機能

Message Logger は、次の機能を実行します。

- ◆ ローカルファイルにメッセージを書き込む
- ◆ システムログまたはイベントログにメッセージを書き込む
- ◆ 管理コンソールにメッセージを書き込む
- ◆ 管理サーバにメッセージを送信する
- ◆ SMTP メールとして、メッセージをプライマリサーバから SMTP サーバに送信する
- ◆ SNMP トラップとして、メッセージをプライマリサーバからリモートマシンまたはローカルマシンに送信する
- ◆ UDP パケットとして、メッセージを UDP 宛先に送信する
- ◆ ZENworks データベースにメッセージを書き込む
- ◆ ZENworks データベースからデータベースエントリを自動的にパージする
- ◆ ZENworks データベースのメッセージを自動的に確認する

## 28.2 メッセージ重大度

メッセージとは、さまざまなコンポーネントやモジュールによって生成されるイベントのことです。これらのイベントには、エラー、警告、ユーザに対する情報、モジュールをデバッグするためのデバッグステートメントなどが含まれます。

メッセージは、次の重大度レベルに基づいて分類されます。

**エラー:** ユーザエラーまたはシステムエラーのため、アクションを完了できないことを示します。これらのメッセージは重大であり、管理者からの即時の注意を必要とします。

**警告:** 例外状況を示します。エラーではないものの、これが原因で後で問題が発生する可能性があります。これらのメッセージは、管理者からの即時の注意を必要としません。

**情報：**管理者にとって重要であり有益である、製品またはシステムで発生した何らかの事象に関するフィードバックです。

**デバッグ：**発生する可能性のある問題をトラブルシューティングおよび解決するためのデバッグ情報を提供します。デバッグメッセージは、ローカルファイルにのみ保存されます。

## 28.3 メッセージ形式

メッセージは、出力ターゲットに基づいてさまざまな形式でログされます。メッセージ形式の詳細については、[283 ページのセクション 30.1「メッセージ形式の理解」](#)を参照してください。

次のセクションでは、Novell® ZENworks® 10 Configuration Management の Message Logger コンポーネントを設定する方法について説明します。

- 277 ページのセクション 29.1 「ゾーンレベルでの Message Logger の設定」
- 281 ページのセクション 29.2 「フォルダレベルでの Message Logger の設定」
- 281 ページのセクション 29.3 「デバイスレベルでの Message Logger の設定」
- 282 ページのセクション 29.4 「デバッグメッセージの有効化」

## 29.1 ゾーンレベルでの Message Logger の設定

次のセクションでは、メッセージログを有効にするために管理ゾーンで設定を行う場合に役立つ情報について説明します。

- 277 ページのセクション 29.1.1 「ローカルデバイスのログ」
- 278 ページのセクション 29.1.2 「集中型のメッセージログ」


### 29.1.1 ローカルデバイスのログ

ZENworks コントロールセンターの [ローカルデバイスのログ] ページでは、ローカルドライブおよび管理対象デバイスのシステムログファイルへのメッセージログを設定できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] をクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで、[デバイス管理] をクリックして、[ローカルデバイスのログ] をクリックします。
- 3 [ローカルファイル] パネルで、次のオプションを設定します。

**重大度が次の場合は、メッセージをローカルファイルにログします：**次の中から1つを選択します。

- **エラー：**重大度が「エラー」のメッセージを保存します。
- **警告とそれ以上：**重大度が「警告」と「エラー」のメッセージを保存します。
- **情報とそれ以上：**重大度が「情報」、「警告」、および「エラー」のメッセージを保存します。
- **デバッグとそれ以上：**重大度が「デバッグ」、「情報」、「警告」、および「エラー」のメッセージを保存します。

個別のデバイスで ZENworks® Adaptive Agent の問題をトラブルシューティングする必要がある場合、追加の情報もログ記録されるようにするため重大度の設定を変更できます。デバイス上で、通知領域にある  アイコンをダブルクリックし、左のナビゲーションペインの [ログ] をクリックして、[重大度が次の場合にメッセージを記録] ドロップダウンリストからオプションを選択します。

**サイズによるローリング:** ファイルサイズに基づいて、現在のログファイルを閉じて新しいファイルを開始します。

- ◆ **ファイルサイズを制限:** ログファイルの最大サイズをキロバイト (KB) またはメガバイト (MB) で指定します。ファイルのサイズが指定した制限に達すると現在のログファイルが閉じられ、新しいファイルが開始されます。
- ◆ **バックアップファイルの数:** サイズ制限に達したために閉じたファイルは、一定の数だけバックアップとして保管しておくことができます。その数を指定します。バックアップファイルの最大数は 13 です。

**日付によるローリング:** 次のスケジュールに基づいて、現在のログファイルを閉じて新しいファイルを開始します。

- ◆ **日次パターン:** 毎日新しいファイルを開始します。
- ◆ **月次パターン:** 毎月新しいファイルを開始します。

Windows 管理対象デバイス上のローカルファイルとして、次のファイルが含まれます。

- ◆ zmd-messages.log(\novell\zenworks\logs\localstore 内)
- ◆ loader-messages.log (\novell\zenworks\logs 内)
- ◆ services-messages.log(\novell\zenworks\logs 内)

Linux 管理対象デバイス上のローカルファイルとして、次のファイルが含まれます。

- ◆ loader-messages.log( /var/opt/novell/log/zenworks 内)
- ◆ services-messages.log( /var/opt/novell/log/zenworks 内)

#### 4 [システムログ] パネルで、次のオプションを設定します。

**重大度が次の場合は、メッセージをローカルシステムに送信:** 次のの中から 1 つを選択します。

- ◆ **エラー:** 重大度が「エラー」のメッセージを保存します。
- ◆ **警告とそれ以上:** 重大度が「警告」と「エラー」のメッセージを保存します。
- ◆ **情報とそれ以上:** 重大度が「情報」、「警告」、および「エラー」のメッセージを保存します。

この設定では、ローカルシステムログに追加するメッセージタイプを決定できます。ローカルシステムログは、\var\log\messages ディレクトリ (Linux デバイス上) および zenworks/logs/centralstore ディレクトリ (Windows デバイス上) です。

このシステムログディレクトリに追加されたメッセージは、ZENworks サーバに送信され、ZENworks コントロールセンターの [環境設定] > [システム情報] ページか、またはサーバやワークステーションの [概要] ページで表示されます。

## 29.1.2 集中型のメッセージログ

ZENworks コントロールセンターの [集中型のメッセージログ] ページでは、プライマリサーバによって実行されるメッセージログに関連する設定を行うことができます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] をクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで、[イベントとメッセージング] をクリックして、[集中型のメッセージログ] をクリックします。
- 3 [メッセージの自動クリーンアップ] パネルで、自動的に承認する、またはログ済みのメッセージを ZENworks サーバから削除するように設定します。

**優先される保守サーバ:** データベースからログされたメッセージを承認または削除するために、メッセージクリーンアップアクションが実行される優先サーバの IP アドレスを指定します。

**情報:** 情報メッセージに対して次の設定を行うことができます。

- ◆ **指定期日が過ぎたら自動承認する:** 指定する日数より古い記録された情報メッセージを自動的に承認できます。たとえば、30 日と指定すると、メッセージのクリーンアップアクティビティが実行されるようにスケジュール設定している場合、現在の日付より 30 日前までにログ記録されたすべての情報メッセージが承認されます。0 を指定すると、今日までの情報メッセージが承認されます。デフォルトでは、60 日より古いすべての情報メッセージが自動的に承認されます。
- ◆ **[ ] 日より古い場合自動的に削除する:** 指定する日数より古い記録された情報メッセージを自動的に削除できます。たとえば、30 日と指定すると、メッセージのクリーンアップアクティビティが実行されるようにスケジュール設定している場合、現在の日付より 30 日前までにログ記録されたすべての情報メッセージが削除されます。0 を指定すると、今日までの情報メッセージが削除されます。デフォルトでは、60 日より古いすべての情報メッセージが自動的に削除されます。

自動承認の日付と自動削除の日付を指定するときには、自動承認の日数は、自動削除の日数より常に少なくする必要があります。

**警告:** 警告メッセージに対して次の設定を行うことができます。

- ◆ **指定期日が過ぎたら自動承認する:** 指定する日数より古い記録された警告メッセージを自動的に承認できます。たとえば、30 日と指定すると、メッセージのクリーンアップアクティビティが実行されるようにスケジュール設定している場合、現在の日付より 30 日前までにログ記録されたすべての警告メッセージが承認されます。0 を指定すると、今日までの警告メッセージが承認されます。デフォルトでは、60 日より古いすべての警告メッセージが自動的に承認されます。
- ◆ **[ ] 日より古い場合自動的に削除する:** 指定する日数より古い記録された警告メッセージを自動的に削除できます。たとえば、30 日と指定すると、メッセージのクリーンアップアクティビティが実行されるようにスケジュール設定している場合、現在の日付より 30 日前までにログ記録されたすべての警告メッセージが削除されます。0 を指定すると、今日までの警告メッセージが削除されます。デフォルトでは、60 日より古いすべての警告メッセージが自動的に削除されます。

自動承認の日付と自動削除の日付を指定するときには、自動承認の日数は、自動削除の日数より常に少なくする必要があります。

**エラー:** エラーメッセージに対して次の設定を行うことができます。

- ◆ **指定期日が過ぎたら自動承認する:** 指定する日数より古い記録されたエラーメッセージを自動的に承認できます。たとえば、30 日と指定すると、メッセージのクリーンアップアクティビティが実行されるようにスケジュール設定している場合、現在の日付より 30 日前までにログ記録されたすべてのエラーメッセージが承認されます。0 を指定すると、今日までのエラーメッセージが承認されます。デフォルトでは、60 日より古いすべてのエラーメッセージが自動的に承認されます。
- ◆ **[ ] 日より古い場合自動的に削除する:** 指定する日数より古い記録されたエラーメッセージを自動的に削除できます。たとえば、30 日と指定すると、メッセージのクリーンアップアクティビティが実行されるようにスケジュール設定している場合、現在の日付より 30 日前までにログ記録されたすべてのエラーメッセージが削除されます。0 を指定すると、今日までのエラーメッセージが削除されます。デフォルトでは、60 日より古いすべてのエラーメッセージが自動的に削除されます。

自動承認の日付と自動削除の日付を指定するときには、自動承認の日数は、自動削除の日数より常に少なくする必要があります。

**メッセージクリーンアップを実行する曜日と時刻を選択する：**メッセージクリーンアップアクションを実行する曜日と時刻を指定できます。管理者はメッセージクリーンアップアクションの日次スケジュールを設定できます。

**協定世界時 (UTC) の使用：**指定した時間を UTC (GMT) に変換できます。デフォルトでは、このオプションは選択されています。

- 4 [電子メール通知] パネルで、電子メールを使用して管理者にエラーメッセージを送信するための設定を行います。

**重大度が次の場合は、電子メール経由でログメッセージを送信：**電子メールを使用したログメッセージの送信をトリガするメッセージの重大度を選択できます。

**送信者：**送信者の電子メールアドレスを指定します。

**宛先：**受信者の電子メールアドレスを指定します。カンマ (,) で区切れば、複数の電子メールアドレスを指定できます。

**件名：**プライマリサーバから電子メールを送信する際に含まれる件名を指定します。マクロの値を使用して、[件名] フィールドをカスタマイズできます。[件名] フィールドのカスタマイズに関する詳細については、[284 ページのセクション 30.1.2 「電子メール形式」](#) を参照してください。

- 5 [SNMP トラップ] パネルで、ログメッセージを送信する ZENworks サーバの SNMP トラップを設定します。

**重要度が次の場合に SNMP トラップとして送信：**ログメッセージの重大度が「エラー」の場合、SNMP トラップを送信します。

**トラップターゲット：**SNMP サーバの IP アドレスまたは DNS 名を指定します。

**ポート：**この操作用に設定された SNMP サーバのポート番号を指定します。デフォルトのポート番号は 162 です。

**コミュニティ文字列：**送信される SNMP トラップの接続文字列を指定します。

- 6 [UDP 転送者] パネルで、UDP サービスを通じてログメッセージを送信するための設定を行います。次の表では、使用できるオプションに関する情報について説明しています。

**UDP 経由でのメッセージ送信：**ログされたメッセージの重大度が「エラー」の場合に、UDP の宛先にメッセージを送信します。

**UDP の宛先：**[追加]、[編集]、および [削除] オプションを使用して、次の作業を実行できます。

◆ サーバの追加

1. [追加] をクリックして、[UDP の宛先アドレスの追加] ダイアログボックスを表示します。
2. この操作用に設定されたサーバの名前と UDP ポート番号を指定します。
3. [OK] をクリックします。

◆ サーバの削除

1. サーバ (複数可) の横にあるチェックボックスを選択します。
2. [削除] をクリックします。

◆ サーバ詳細の編集

1. サーバの横にあるチェックボックスを選択します。



2. [編集] をクリックして、[UDP の宛先の編集] ダイアログボックスを表示します。
3. 目的に応じて設定を変更し、[OK] をクリックします。

## 29.2 フォルダレベルでの Message Logger の設定

デフォルトでは、ゾーンレベルで行った Message Logger 設定が、すべての管理対象デバイスに適用されます。ただし、1つのフォルダ内のすべてのデバイスに対して、[ローカルデバイスのログ] 設定を変更できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] をクリックします。
- 2 Message Logger の設定を行う [フォルダ(詳細)] オプションをクリックします。
- 3 [設定] をクリックし、[デバイス管理] > [ローカルデバイスのログ] をクリックします。
- 4 [上書き] をクリックします。
- 5 必要に応じて、ログ設定を編集します。
- 6 変更内容を適用するには、[適用] をクリックします。  
または  
ゾーンレベルで設定された [ローカルデバイスのログ] 設定に戻すには、[元に戻す] をクリックします。
- 7 [OK] をクリックします。

## 29.3 デバイスレベルでの Message Logger の設定

デフォルトでは、ゾーンレベルで行った Message Logger 設定が、すべての管理対象デバイスに適用されます。ただし、管理対象デバイスに対する [ローカルデバイスのログ] の設定は変更できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] をクリックします。
- 2 [サーバ] または [ワークステーション] をクリックして管理対象デバイスのリストを表示します。
- 3 Message Logger 設定を行うデバイスをクリックします。
- 4 [設定] をクリックし、[デバイス管理] > [ローカルデバイスのログ] をクリックします。
- 5 [上書き] をクリックします。
- 6 必要に応じて、ログ設定を編集します。
- 7 変更内容を適用するには、[適用] をクリックします。  
または  
ゾーンレベルで設定された [ローカルデバイスのログ] 設定に戻すには、[元に戻す] をクリックします。
- 8 [OK] をクリックします。

## 29.4 デバッグメッセージの有効化

すべてのコンポーネントに対してデバッグメッセージのログを有効にするには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] をクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで、[デバイス管理] をクリックして、[ローカルデバイスのログ] をクリックします。
- 3 [ローカルファイル] パネルで、[重大度が次の場合は、メッセージをローカルファイルにログします] オプションを選択して、重大度として [デバッグとそれ以上] を選択します。
- 4 [適用] をクリックし、[OK] をクリックします。

Message Logger コンポーネントを使用すると、Novell® ZENworks® 10 Configuration Management の他のコンポーネントによってログされたメッセージを管理できます。

- ◆ 283 ページのセクション 30.1 「メッセージ形式の理解」
- ◆ 286 ページのセクション 30.2 「メッセージステータスの表示」
- ◆ 287 ページのセクション 30.3 「メッセージの表示」
- ◆ 289 ページのセクション 30.4 「メッセージの承認」
- ◆ 291 ページのセクション 30.5 「メッセージの削除」
- ◆ 293 ページのセクション 30.6 「事前定義されたレポートの表示」

## 30.1 メッセージ形式の理解

- ◆ 283 ページのセクション 30.1.1 「ローカルログファイル形式」
- ◆ 284 ページのセクション 30.1.2 「電子メール形式」
- ◆ 284 ページのセクション 30.1.3 「SNMP メッセージ形式」
- ◆ 285 ページのセクション 30.1.4 「UDP ペイロード形式」

メッセージは、ローカルログ、電子メール通知、SNMP トラップ、および UDP 通知など、出力ターゲットに基づくさまざまな形式でログされます。

すべてのエラーメッセージに、エラーの生成対象であるコンポーネント名がログされます。エラーをトラブルシューティングするには、そのコンポーネントのリファレンスガイドを参照してください。

**例 1:** ポリシー管理に関連するエラーです。

```
[DEBUG] [7/22/2007 3:42:45 PM] [] [PolicyManager] [] [Name = RM_dev, Guid = 271414163524d000190dbc6fa94272aa, Type = remote management policy, Version = 2] [] [].
```

このエラーをトラブルシューティングするには、『*ZENworks 10 Configuration Management ポリシー管理リファレンス*』を参照してください。

**例 2:** リモート管理に関連するエラーです。

```
[ERROR] [15-07-2007 12:44:16] [] [Remote Management] [RemoteManagement.VNCEVENT_CANNOT_OPEN_EVENT] [Unable to open the <ZRMUserLoginEvent> event] [] [].
```

このエラーをトラブルシューティングするには、『*ZENworks 10 Configuration Management リモート管理リファレンス*』を参照してください。

### 30.1.1 ローカルログファイル形式

メッセージは管理対象デバイスおよび ZENworks サーバに次の形式でログ記録されます。

[severity] [loggingTime] [userGUID] [componentName] [MessageID] [MessageString] [additionalInfo] [RelatedGUID].

たとえば、[DEBUG] [1/22/2007 12:09:15 PM] [] [ZMD] [] [refreshing QuickTaskRefresh(GeneralRefresh)] [] [] です。

### 30.1.2 電子メール形式

電子メールメッセージは、メッセージヘッダとメッセージ本文で構成されます。

- ◆ 284 ページの「メッセージヘッダ」
- ◆ 284 ページの「メッセージ本文」

#### メッセージヘッダ

電子メールの件名フィールドは、キーワード代替マクロを使用して、必要に応じてカスタマイズできます。

マクロ	値
%s	メッセージの重大度です。
%c	コンポーネント名です。
%d	メッセージが生成されるデバイスの ID です。
%t	メッセージ生成の時刻です。
%a	メッセージが生成されるデバイスの別名です。

たとえば、件名の行に「ERROR occurred on device Testifies at 4/1/07 5:31:01 PM」と表示する場合は、[件名] フィールドに「%s occurred on device %a at %t」と入力します。

#### メッセージ本文

メッセージ本文は次のフィールドで構成されます。

- ◆ デバイスの別名：メッセージが生成されるデバイスの名前です。
- ◆ デバイス IP アドレス：メッセージが生成されるデバイスの IP アドレスです。
- ◆ エラー：[ 日付 ] コンポーネント名 メッセージ ID ローカライズ済み文字列。
- ◆ 追加情報：( オプション ) 追加情報です。

### 30.1.3 SNMP メッセージ形式

SNMP メッセージは、次の 2 つの部分で構成されます。

- ◆ 284 ページの「SNMP メッセージヘッダ」
- ◆ 285 ページの「プロトコルデータユニット (PDU)」

#### SNMP メッセージヘッダ

ヘッダには次のフィールドが含まれています。

**バージョン番号**：使用される SNMP のバージョンを指定します。ZENworks 10 Configuration Management では SNMPv 1 を使用します。

**コミュニティ文字列**：ネットワーク管理システム (NMS) グループに対するアクセス環境を定義します。

### プロトコルデータユニット (PDU)

PDU には次のフィールドが含まれています。

**エンタープライズ**：トラップを生成する管理対象オブジェクトのタイプを識別します。ZENworks 10 Configuration Management では、1.3.6.1.4.1.23.2.80.100 を使用します。

**エージェントアドレス**：トラップが生成されたマシンの IP アドレスを提供します。

**汎用トラップタイプ**：整数値 6 が含まれます。タイプ 6 は、エンタープライズ固有のトラップタイプで、SNMP には標準の解釈がありません。トラップの解釈は、Message Logger MIB によって定義されている特定のトラップタイプフィールドの値に基づいています。

**固有のトラップコード**：ZENworks 10 Configuration Management で生成されたエンタープライズ固有のトラップの場合、特定のトラップタイプのフィールド値は、次のとおりです。

- 重大度レベル MessageLogger.ERROR の場合、特定のトラップは 1 です。
- 重大度レベル MessageLogger.WARN の場合、特定のトラップは 2 です。
- 重大度レベル MessageLogger.INFO の場合、特定のトラップは 3 です。

**タイムスタンプ**：トラップが発生した時間を示すタイムスタンプです。

**変数バインディング**：トラップに関連する追加情報を提供します。このフィールドは、次の名前 / 値のペアで構成されます。

- トラップ ID 1.3.6.1.4.1.23.2.80.100.0.1 の場合、値はデバイス GUID です。
- トラップ ID 1.3.6.1.4.1.23.2.80.100.0.2 の場合、値はデバイス名です。
- トラップ ID 1.3.6.1.4.1.23.2.80.100.0.3 の場合、値はコンポーネント名です。
- トラップ ID 1.3.6.1.4.1.23.2.80.100.0.4 の場合、値はメッセージがログされた時刻です。
- トラップ ID 1.3.6.1.4.1.23.2.80.100.0.5 の場合、値はメッセージ ID です。
- トラップ ID 1.3.6.1.4.1.23.2.80.100.0.6 の場合、値は考えられる原因です。

## 30.1.4 UDP ペイロード形式

ペイロードは、各要素に対する \0 または 0 x 00 (16 進数) など、null で終了する区切り文字を持つバイト配列です。各要素のデータは、UTF-8 エンコード文字列で表示され、次のように説明されます。

- 最初の要素は、ZENworks のバージョン情報です。たとえば、10 です。
- 2 番目の要素は、メッセージの重大度の値です。重大度の値は、「情報」メッセージは 4、「警告」メッセージは 6、「デバッグ」メッセージは 8 です。
- 3 番目の要素は、メッセージ日付です。日付はローカル固有のものではなく、UTF-8 文字列で表示されます。たとえば、09-Mar-2008 14:15:44 などです。
- 4 番目の要素は、ユーザ ID です。

- 5 番目の要素は、コンポーネント名です。
- 6 番目の要素は、非ローカライズメッセージの ID です。
- 7 番目の要素は、ローカライズメッセージの文字列です。
- 8 番目の要素は、追加の情報です。
- 9 番目の要素は、推定される原因の URL です。
- 10 番目の要素は、カンマで区切られた関連 GUID オブジェクトです。

注：要素にデータがない場合は、\0\0 として表示されます。

## 30.2 メッセージステータスの表示

ZENworks コントロールセンターでは、ホームページの次のパネルで、ログされたメッセージのステータスを表示できます。

- 286 ページのセクション 30.2.1 「メッセージ概要」
- 287 ページのセクション 30.2.2 「デバイスホットリスト」




### 30.2.1 メッセージ概要

[メッセージ概要] パネルには、管理ゾーンの主要オブジェクトで生成された致命的メッセージ、警告メッセージ、および通常メッセージの数が表示されます。




図 30-1 メッセージ概要

メッセージ概要				
				合計
 サーバ	3	0	5	8
 ワークステーション	2	1	1	11
 ポリシー	3	0	17	20
 バンドル	2	0	5	7

[メッセージ概要] パネルでは、次を実行できます。

- root フォルダを表示するオブジェクトタイプをクリックします。たとえば、[サーバ] をクリックして、[サーバ] のルートフォルダを表示します。
- 任意のオブジェクトタイプで、いずれかのステータスカラム (  ) の数字をクリックすると、現在そのステータスであるオブジェクトがすべて一覧表示されます。たとえば、通常ステータスのサーバのリストを表示するには、[サーバ] のカラムの数字をクリックします。
- 任意のオブジェクトタイプで、[合計] カラムの数字をクリックすると、重大、警告、または通常のメッセージタイプを持つオブジェクトがすべて表示されます。たとえば、[サーバ] の合計数をクリックすると、メッセージがログされているすべてのサーバが一覧表示されます。

## 30.2.2 デバイスホットリスト




[デバイスホットリスト] では、不適合  ステータスを持つか、致命的  または警告  のメッセージを生成したデバイスのリストが表示されます。適合問題を解決し、メッセージを承認するまで、デバイスはホットリストに残ります。このリストは、デバイスに対して注意が必要である問題の概要として使用できます。

デバイスホットリストを表示するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[ホーム] タブをクリックします。



デバイスホットリスト				
				タイプ 項目
3	45	22		<a href="#">blr-nrm-r6a</a>
2	28	27		<a href="#">blr-nrm-r9a</a>
2	25	23		<a href="#">blr-nrm-r5v2</a>
2	0	0		<a href="#">blr-nrm-r3f</a>
1	52	1		<a href="#">blr-nrm-r11d</a>

- ◆  このカラムには、エラーが発生したためにデバイスに適用できなかったバンドルまたはポリシーの数が表示されます。エラーおよび警告のメッセージをレビューして適合問題を検出する必要があります。
- ◆  このカラムには、デバイスに関して生成された未承認のエラーメッセージの数が表示されます。エラーは失敗した操作のことで、ZENworks Adaptive Agent はデバイスで操作を完了できません。
- ◆  このカラムには、デバイスに関して生成された未承認の警告メッセージの数が表示されます。警告とは問題のあるアクションです。問題によっては、結果的に ZENworks Adaptive Agent がデバイスでアクションを完了できないことがあります。

- 2 デバイスのメッセージログを表示するには、デバイスをクリックします。

## 30.3 メッセージの表示

ZENworks コントロールセンターでは、ログされたメッセージを次のように表示できます。

- ◆ 287 ページのセクション 30.3.1 「メッセージログ」
- ◆ 288 ページのセクション 30.3.2 「システムメッセージログ」

### 30.3.1 メッセージログ



[メッセージログ] には、オブジェクトに関して生成されたすべての未承認メッセージが表示されます。

メッセージログを表示するには、次の手順に従います。




- 1 ZENworks コントロールセンターで、ホームページの [デバイスホットリスト] をクリックして、メッセージログを表示するデバイスをクリックします。

[デバイス] メニューを使用して、ログを表示することもできます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] をクリックします。
- 2 [サーバ] または [ワークステーション] をクリックして管理対象デバイスのリストを表示します。
- 3 デバイスの名前をクリックして、[概要] タブをクリックして表示します。

メッセージログ		詳細
ステータス	メッセージ	日付
	バンドル「[NULL]」が見つかりませんでした。	5/20
	バンドル 9886d4f0e97926cce56949d180c682ac をセッションに追加できませんでした。	5/20
	アクションを実行できません。タイプ File Bundle のバンドルは無効になっています。	5/19
	アクションを実行できません。タイプ Patch Bundle のバンドルは無効になっています。	5/19
	バンドル「[NULL]」が見つかりませんでした。	5/19
1 - 5/9		5 項目の表示

**ステータス:** メッセージのタイプを示すアイコンを表示します。

-  重大メッセージ
-  警告
-  通常

**メッセージ:** 発生したイベントの簡単な説明が表示されます。

**日付:** イベントが発生した日時が表示されます。

- 4 詳細ビューのログメッセージを表示するには、[メモリログ] パネルの右隅にある [詳細] をクリックします。

メッセージログのメッセージを承認または削除できます。メッセージの承認の詳細については、[289 ページのセクション 30.4 「メッセージの承認」](#) を参照してください。メッセージの削除の詳細については、[291 ページのセクション 30.5 「メッセージの削除」](#) を参照してください。




## 30.3.2 システムメッセージログ

[システムメッセージログ] パネルには、管理ゾーンの ZENworks Server および管理対象デバイスによって生成された未承認メッセージが表示されます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] をクリックします。
- 2 [システム情報] をクリックして、システムメッセージログを表示します。

システムメッセージログ				詳細
ステータス	メッセージ	日付	ソース	
	デバイス not12d9ja が正常に登録されました。	18:15	not12d9ja	
	ホスト: NO11200JA を登録しようとする際、要求に CPU 情報がなかったため登録ルールが失敗しました。	18:15	nov-fr-ddsfr	
	ホスト: TC-XPSP3 を登録しようとする際、要求に CPU 情報がなかったため登録ルールが失敗しました。	4/2	nov-fr-ddsfr	
	デバイス not12-spl023 が正常に登録されました。	5/20	not12-spl023	
	バンドル「[NULL]」が見つかりませんでした。	5/20	nov-fr-ddsfr	
1 - 5/19		5 項目の表示		

**ステータス:** メッセージのタイプを示すアイコンを表示します。

-  重大メッセージ
-  警告
-  通常



**メッセージ:** 発生したイベントの簡単な説明が表示されます。

**日付:** イベントが発生した日時が表示されます。

- 3 詳細ビューのログメッセージを表示するには、[システムメモリログ] パネルの右隅にある **[詳細]** をクリックします。

システムメッセージログからのメッセージを承認または削除できます。メッセージの承認の詳細については、**289 ページのセクション 30.4「メッセージの承認」**を参照してください。メッセージの削除の詳細については、**291 ページのセクション 30.5「メッセージの削除」**を参照してください。

## 30.4 メッセージの承認

承認済みメッセージとは、レビュー済みであり、承認済み (✓) というマークの付いたメッセージです。

- ◆ **289 ページのセクション 30.4.1「メッセージの承認」**
- ◆ **290 ページのセクション 30.4.2「複数メッセージの承認」**
- ◆ **290 ページのセクション 30.4.3「指定の時刻にログされたメッセージの承認」**

### 30.4.1 メッセージの承認

- 1 [メッセージログ] パネルまたは [システムメッセージログ] パネルで、承認するメッセージをクリックします。
- 2 [メッセージ詳細情報] ダイアログボックスで、**[承認]** オプションを選択して、**[OK]** をクリックします。



承認済みメッセージが、**ステップ 1** で選択したパネルに基づいて、[メッセージログ] パネルまたは [システムメッセージログ] パネルから削除されます。

承認済みのメッセージは、これらのログの **[詳細]** ビューにチェックマーク (✓) 付きで引き続き一覧表示されます。

## 30.4.2 複数メッセージの承認

- 1 [メッセージログ] パネルまたは [システムメッセージログ] パネルで、パネルの右隅にある [詳細] をクリックします。
- 2 承認するメッセージを選択し、[承認] をクリックします。

承認 削除				
<input type="checkbox"/>	ステータス	メッセージ	日付	▼
<input type="checkbox"/>		05a067083d15f0944eacbd1f154e486b([NULL];HandlerNotFound;Ni	09/05/20 18:24:27	✓
<input type="checkbox"/>		ハンドラ「[NULL]」が見つかりませんでした。	09/05/20 18:24:26	✓
<input type="checkbox"/>		バンドル 9886d4f0e97926cce56949d180c682ac をセッションに追加	09/05/20 18:17:03	
<input type="checkbox"/>		バンドル 362015fa0fa84753acc8bbccd173f9ef をセッションに追加で	09/05/20 18:17:03	
<input type="checkbox"/>		アクションを実行できません。タイプ File Bundle のバンドルは無効に	09/05/19 23:01:51	
1 - 5/13			5 ▼ 項目の表示	

承認済みメッセージは、チェックマーク (✓) でマークが付けられます。

## 30.4.3 指定の時刻にログされたメッセージの承認

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] をクリックします。
- 2 [設定タスク] で、[メッセージクリーンアップ] をクリックして表示します。

メッセージクリーンアップ

このダイアログにより、特定の期間にメッセージログに書き込まれたすべてのメッセージを承認または永久に削除することができます。

アクション:

☒ 承認  
☐ 永久に削除

日付の範囲:

開始日: 09/06/03  
終了日: 09/06/03

フィルタ:

☒ なし  
☐ デバイス:

OK

キャンセル

- 3 [メッセージクリーンアップ] ダイアログボックスで、[承認] を選択します。
- 4 [日付の範囲] オプションで、[開始日] と [終了日] を選択します。
- 5 [フィルタ] オプションを選択します。  
なし: 選択した日付範囲のメッセージがすべてのデバイスからクリーンアップされます。  
デバイス: 選択した日付範囲のメッセージが選択したデバイスからクリーンアップされます。
- 6 [OK] をクリックします。

メッセージクリーンアップアクションが開始され、クリーンアップアクションの完了後にシステムメッセージがログされます。システムログの表示の詳細については、[288 ページのセクション 30.3.2「システムメッセージログ」](#)を参照してください。

## 30.5 メッセージの削除

メッセージを削除すると、ZENworks システムからメッセージが完全に削除されます。

- [291 ページのセクション 30.5.1「メッセージの削除」](#)
- [291 ページのセクション 30.5.2「複数メッセージの削除」](#)
- [292 ページのセクション 30.5.3「指定の時刻にログされたメッセージの削除」](#)

### 30.5.1 メッセージの削除

- 1 [メッセージログ] パネルまたは [システムメッセージログ] パネルで、削除するメッセージをクリックします。
- 2 [メッセージ詳細情報] ダイアログボックスで、[削除] オプションを選択して、[OK] をクリックします。



### 30.5.2 複数メッセージの削除

- 1 [メッセージログ] パネルまたは [システムメッセージログ] パネルで、パネルの右隅にある [詳細] をクリックします。

承認 削除				
<input type="checkbox"/>	ステータス	メッセージ	日付	✓
<input type="checkbox"/>		05a067083d15f0944eacbd1f154e486b([NULL]);HandlerNotFound;N	09/05/20 18:24:27	✓
<input type="checkbox"/>		ハンドラ「[NULL]」が見つかりませんでした。	09/05/20 18:24:26	✓
<input type="checkbox"/>		バンドル 9886d4f0e97926cce56949d180c682ac をセッションに追加	09/05/20 18:17:03	
<input type="checkbox"/>		バンドル 362015fa0fa84753acc8bbccd173f9ef をセッションに追加で	09/05/20 18:17:03	
<input type="checkbox"/>		アクションを実行できません。タイプ File Bundle のバンドルは無効に	09/05/19 23:01:51	
1 - 5/13			5 ▼ 項目の表示	

- 2 削除するメッセージを選択し、[削除] をクリックします。

### 30.5.3 指定の時刻にログされたメッセージの削除

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] をクリックします。
- 2 [設定タスク] で、[メッセージクリーンアップ] をクリックします。

メッセージクリーンアップ

このダイアログにより、特定の期間にメッセージログに書き込まれたすべてのメッセージを承認または永久に削除することができます。

アクション:

☒ 承認  
☐ 永久に削除

日付の範囲:

開始日: 09/06/03  
終了日: 09/06/03

フィルタ:

☒ なし  
☐ デバイス:

OK キャンセル

- 3 [メッセージクリーンアップ] ダイアログボックスで、[永久に削除] を選択します。
- 4 [日付の範囲] オプションで、[開始日] と [終了日] を選択します。
- 5 [フィルタ] オプションを選択します。

**なし:** 選択した日付範囲のメッセージがすべてのデバイスからクリーンアップされます。

**デバイス:** 選択した日付範囲のメッセージが選択したデバイスからクリーンアップされます。

- 6 [OK] をクリックします。
- 7 [削除の確認] ダイアログボックスで、[OK] をクリックしてメッセージを削除します。

クリーンアップアクションの完了後にシステムメッセージが表示されます。システムログの表示の詳細については、288 ページのセクション 30.3.2 「システムメッセージログ」を参照してください。

## 30.6 事前定義されたレポートの表示

事前定義されたレポートを見るには、ZENworks レポーティングサーバをインストールしておく必要があります。ZENworks レポーティングサーバのインストール方法については、『*ZENworks 10 Configuration Management レポーティングサーバインストールガイド*』を参照してください。

メッセージの事前定義レポートを表示するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[レポート] タブをクリックします。
- 2 ZENworks レポーティングサーバの [レポーティング] パネルで、[ZENworks レポーティングサーバ InfoView] をクリックして ZENworks レポーティングサーバ InfoView を起動します。
- 3 [Novell ZENworks Reports] フォルダ > [Predefined Reports] > [ZENworks System] フォルダの順にナビゲートします。
- 4 メッセージに関する次の事前定義レポートが含まれています。

**ZENworks メッセージ:** すべての ZENworks システムメッセージのログ時刻や説明など、メッセージの詳細を表示します。

レポートの作成と管理の詳細は、『*ZENworks 10 Configuration Management システムレポーティングリファレンス*』を参照してください。



# ZENworks コントロールセンターの 命名規則

# A

ZENworks® コントロールセンター内のオブジェクト (フォルダ、バンドル、グループ、登録キーなど) に名前を付ける場合は、次の命名規則に従うようにしてください:

- 名前はフォルダ内で一意である必要があります。
- ZENworks データベースで使用しているデータベースによっては、名前で大文字と小文字を区別しない場合があります。ZENworks 10 Configuration Management に含まれている組み込みデータベースでは、大文字小文字を区別しません。したがって、Folder 1 と FOLDER 1 は、同じ名前になるので、同じフォルダ内で使用できません。大文字と小文字を区別する外部データベースを使用している場合、Folder 1 と FOLDER 1 は別個となります。
- 空白を使用する場合、コマンドラインに名前を入力するには、引用符で囲む必要があります。たとえば、zman ユーティリティで入力するときには、reg key 1 を引用符で囲む必要があります (“reg key 1”)
- 次の文字は無効なので使用できません。 \ \* ? : " ' < > | ` % ~

